

2018 (平成30) 年度 入学生用シラバス目次

科目区分	授業コード	科目名称	担当教員	配当年次	期間	必修・選択	ページ	
基礎科目	専門学修の基礎	ENA0101	基礎ゼミナール	准教授, 講師, 助教全員	1	前	必	5
		ENA0201	人間環境学	城田純平	1	前	必	7
		ENA0301	医療キャリアの基礎	三並めぐる, 門脇千恵, 藤本千里, 田中正子, 大西ゆかり, 羽藤典子, 武海栄	1	前	必	10
	コミュニケーション基礎	ENB0101, ENB0102	英語Ⅰ	松浦淳子	1	前	必	12
		ENB0201, ENB0202	英語Ⅱ	高久保文恵	1	前	必	14
		ENB0301, ENB0302	英語Ⅲ	松浦淳子	1	後	必	16
		ENB0401, ENB0402	英語Ⅳ	高久保文恵	1	後	必	18
		ENB0501	コンピュータ基礎・情報処理法	西川千登世, 上西孝明	1	前	必	20
	人間と生活の理解	ENC0101	日本国憲法	中曾久雄	1	前	選	22
		ENC0201	愛媛を学ぶ	森賀盾雄, 八木健	1	前	選	24
		ENC0301	人間関係論	富田英司	1	後	選	26
		ENC0401	教育心理学	富田英司	1	前	選	28
		ENC0501	フィットネススポーツ	佐野和幸	1	前	選	30
		ENC0601	体育実技	田中雅人	1	後	選	32
		ENC0701	社会・環境と健康	岡靖哲	1	後	選	34
		ENC0801	家族社会学	岡多枝子	1	後	選	36
		ENC0901	生命倫理学	野元正弘	1	前	選	38
		ENC1001	社会福祉学	岡多枝子	1	後	必	40
		ENC1101	教育社会学	西川千登世	1	後	選	42
		ENC1201	社会保障論	岡多枝子	1	前	選	44
		ENC1301	哲学	森川孝吉	1	前	選	46
		ENC1401	芸術の世界	菅 春二	1	前	選	48
		ENC1501	日本の歴史と文化	山内譲	1	後	選	50
		ENC1601	経営学の基礎	森賀盾雄	1	前	選	52
専門基礎科目	人体の構造と機能	END0101	解剖生理学ⅠA	昆和典	1	前	必	54
		END0201	解剖生理学ⅡA	本田和男	1	前	必	56
		END0301	解剖生理学ⅠB	本田和男	1	後	必	58
		END0401	解剖生理学ⅡB	昆和典	1	後	必	60
		END0501	微生物学	加納誠	1	後	必	62
		END0601	生化学	東山繁樹	1	後	必	64
		END0701	栄養学	藤井文子	2	前	必	66
	疾病の治療と回復促進	ENE0101	病理学	本田和男	2	前	必	68
		ENE0201	疾病・治療論Ⅰ	本田和男, 檜垣實男	2	前	必	70
		ENE0301	疾病・治療論Ⅱ	高田清式, 武内八郎	2	前	必	73
		ENE0401	疾病・治療論Ⅲ	石井榮一, 杉山隆	2	後	必	75
		ENE0501	老年疾病治療論	小原克彦	3	前	選	77
		ENE0601	薬理学	吉村裕之	2	後	必	79

科目区分		授業コード	科目名称	担当教員	配当年次	期間	必修・選択	ページ
専門基礎科目	健康と生活支援	ENF0101	統計学	吉村裕之	1	後	必	81
		ENF0201	疫学	中村哲	2	後	必	83
		ENF0301	保健看護情報学	清水弥生, 相原宏紀	3	前	必	85
		ENF0401	公衆衛生学	中村哲	1	後	必	87
		ENF0501	保健医療福祉行政論	宮内清子	3	前	必	89
		ENF0601	臨床心理学	岩村 聰	2	後	選	91
		ENF0701	カウンセリング	岩村 聰	3	前	選	93
		ENF0801	チームケア論	小西美智子	4	後	必	95
		ENF0901	医療リスクマネジメント論	村上早苗	3	前	必	97
		ENF1001	人権擁護と成年後見制度	菅野慎二	3	前	選	100
		ENF1101	医療経営論	中橋恒, 一井美哉子	4	後	選	102
基礎看護学	基礎看護学	ENG0101	看護学概論Ⅰ	河野保子	1	前	必	105
		ENG0201	看護学概論Ⅱ	奥田泰子, 門脇千恵, 三並めぐる, アダラー・コリンズ慈観, 宮崎博子, 井上仁美, 田中正子, 上西孝明	1	前	必	107
		ENG0301	看護学概論Ⅲ	河野保子	4	後	必	109
		ENG0401	生活援助方法論	中島紀子, 坂口京子	1	後	必	111
		ENG0501	生活援助方法演習	中島紀子, 坂口京子	1	後	必	113
		ENG0601	診療援助方法論	中島紀子, 坂口京子	2	前	必	116
		ENG0701	診療援助方法演習	中島紀子, 坂口京子	2	前	必	118
		ENG0801	看護コミュニケーション論	中島紀子	1	後	必	121
		ENG0901	看護倫理	河野保子	4	後	必	123
		ENH0101	看護管理学	武海栄	3	前	必	125
		ENH0201	組織とリーダーシップ論	武海栄	4	後	選	127
専門科目	発達看護学	ENI0101	小児看護学概論	三並めぐる	2	前	必	129
		ENI0201	小児看護援助論Ⅰ	三並めぐる, 羽藤典子	2	後	必	131
		ENI0301	小児看護援助論Ⅱ	三並めぐる, 羽藤典子	3	前	必	133
		ENI0401	小児看護援助論Ⅲ	三並めぐる, 羽藤典子	4	前	選必	136
		ENI0501	小児看護技術論	三並めぐる, 羽藤典子	4	前	選必	138
		ENI0601	小児看護学外演習	三並めぐる, 羽藤典子	4	前	選必	140
		ENI0701	小児看護演習	三並めぐる, 羽藤典子	4	後	選必	142
母性看護学	母性看護学	ENJ0101	母性看護学概論	門脇千恵	2	前	必	144
		ENJ0201	母性看護援助論Ⅰ	門脇千恵, 武海栄	2	後	必	146
		ENJ0301	母性看護援助論Ⅱ	門脇千恵, 武海栄	3	前	必	148
成人・高齢者看護学	成人看護学	ENK0101	成人看護学概論	大西ゆかり, 上西孝明	2	前	必	150
		ENK0201	急性期看護援助論Ⅰ	本田和男, 大坪かなえ, 上西孝明	2	後	必	152
		ENK0301	急性期看護援助論Ⅱ	本田和男, 大坪かなえ, 上西孝明	3	前	必	154
		ENK0401	慢性期看護援助論Ⅰ	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美	2	後	必	156
		ENK0501	慢性期看護援助論Ⅱ	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美	3	前	必	158
		ENK0601	がん看護援助論	大西ゆかり, アダラー・コリンズ慈観, 山本千恵美	4	前	選必	160
		ENK0701	がん看護技術論	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美	4	前	選必	162
		ENK0801	がん看護学外演習	大西ゆかり, アダラー・コリンズ慈観, 村上早苗, 山本千恵美	4	前	選必	164
		ENK0901	がん看護演習	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美	4	後	選必	166

科目区分		授業コード	科目名称	担当教員	配当年次	期間	必修・選択	ページ
専門科目	成人・高齢者看護学	ENL0101	高齢者看護学概論	奥田泰子	2	前	必	168
		ENL0201	高齢者看護援助論Ⅰ	棚崎由紀子, 真鍋瑞穂	2	後	必	170
		ENL0301	高齢者看護援助論Ⅱ	棚崎由紀子, 真鍋瑞穂	3	前	必	172
		ENL0401	認知症看護援助論	奥田泰子	4	前	選必	174
		ENL0501	認知症看護技術論	棚崎由紀子, 真鍋瑞穂	4	前	選必	176
		ENL0601	認知症看護学外演習	奥田泰子, 棚崎由紀子, 真鍋瑞穂	4	前	選必	178
		ENL0701	認知症看護演習	奥田泰子, 棚崎由紀子, 真鍋瑞穂	4	後	選必	180
	在宅看護学	ENM0101	在宅看護学概論	田中正子, 永井康徳	2	前	必	182
		ENM0201	在宅看護援助論Ⅰ	田中正子, 村岡由佳里	2	後	必	184
		ENM0301	在宅看護援助論Ⅱ	田中正子, 村岡由佳里	3	前	必	186
		ENM0401	終末期看護学	田中正子, 村岡由佳里	3	前	必	188
		ENM0501	在宅・終末期看護援助論	田中正子, 村岡由佳里	4	前	選必	190
		ENM0601	在宅・終末期看護技術論	田中正子, 村岡由佳里	4	前	選必	192
		ENM0701	在宅・終末期看護学外演習	田中正子, 村岡由佳里	4	前	選必	194
		ENM0801	在宅・終末期看護演習	田中正子, 村岡由佳里	4	後	選必	196
地域看護学	地域看護学	ENN0101	地域看護・公衆衛生看護学概論	宮崎博子	2	前	必	198
		ENN0201	公衆衛生看護援助論Ⅰ	宮崎博子, 岡多枝子, 藤本千里, 日川幸江	2	後	選必	200
		ENN0301	公衆衛生看護援助論Ⅱ	岡多枝子, 藤本千里, 日川幸江	3	前	選必	203
		ENN0401	公衆衛生看護援助論Ⅲ	宮崎博子, 藤本千里, 日川幸江	4	前	選必	205
		ENN0501	公衆衛生看護援助論Ⅳ	宮崎博子	4	後	選必	207
		ENN0601	学校保健	岡多枝子, 矢野美恵子	2	後	選	209
		ENN0701	養護概説	岡多枝子	3	前	選	211
		ENN0801	健康相談活動論	岡多枝子, 矢野美恵子	3	前	選	213
	国際看護学	ENO0101	国際看護学Ⅰ	アダラー・コリンズ慈観	1	後	必	215
		ENO0201	国際看護学Ⅱ	アダラー・コリンズ慈観	2	前	必	219
		ENO0301	国際看護学Ⅲ	アダラー・コリンズ慈観	3	前	選	223
		ENO0401	国際看護学Ⅳ	アダラー・コリンズ慈観	4	後	選	227
		ENO0501	国際看護学海外研修	アダラー・コリンズ慈観	2	前	選	230
統合看護	精神看護学	ENP0101	精神保健看護学概論	井上仁美	2	前	必	232
		ENP0201	精神看護援助論Ⅰ	井上仁美, 別宮直子	2	後	必	234
		ENP0301	精神看護援助論Ⅱ	井上仁美, 別宮直子	3	前	必	236
	統合看護	ENQ0101	家族看護論	金子省子	2	後	必	238
		ENQ0201	看護過程	棚崎由紀子, 井上仁美, 中島紀子, 羽藤典子, 上西孝明	2	前	必	240
		ENQ0301	ヘルスアセスメントⅠ	坂口京子, 大坪かなえ, 上西孝明, 山本千恵美	2	後	必	242
		ENQ0401	ヘルスアセスメントⅡ	坂口京子, 大坪かなえ, 上西孝明, 山本千恵美	4	後	必	245
		ENQ0501	看護教育論	河野保子	4	後	選	248
		ENQ0601	災害看護学	松井豊、中島紀子	2	後	必	250
		ENQ0701	緩和ケア・ターミナル看護論	宮脇聰子	4	後	選	252
	統合看護	ENQ0801	ストレスマネジメント論	小西美智子	4	後	選	254
		ENQ0901	研究方法論	奥田泰子, 三並めぐる, 井上仁美, 田中正子, 棚崎由紀子, 羽藤典子, 中島紀子	3	前	必	256
		ENQ1001	看護研究	専任教員全員	4	通	必	258

科目区分		授業コード	科目名称	担当教員	配当年次	期間	必修・選択	ページ
専門科目	臨地実習	ENR0101	基礎看護学実習Ⅰ	中島紀子, 坂口京子	1	前	必	260
		ENR0201	基礎看護学実習Ⅱ	中島紀子, 坂口京子	2	後	必	262
		ENR0301	小児看護学実習	三並めぐる, 羽藤典子	3	後	必	264
		ENR0401	母性看護学実習	門脇千恵, 武海栄	3	後	必	266
		ENR0501	精神看護学実習	井上仁美, 別宮直子	4	前	必	268
		ENR0601	急性期看護学実習	大坪かなえ, 上西孝明	3	後	必	270
		ENR0701	慢性期看護学実習	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美	3	後	必	272
		ENR0801	在宅高齢者看護学実習	奥田泰子, 棚崎由紀子, 真鍋瑞穂	2	前	必	274
		ENR0901	高齢者看護学実習	奥田泰子, 棚崎由紀子, 真鍋瑞穂	3	後	必	276
		ENR1001	在宅看護学実習	田中正子, 村岡由佳里	4	前	必	278
		ENR1101	公衆衛生看護学実習Ⅰ	宮崎博子, 藤本千里, 日川幸江	4	前	選必	280
		ENR1201	公衆衛生看護学実習Ⅱ	宮崎博子, 藤本千里, 日川幸江	4	後	選必	282
		ENR1301	統合実習	専任教員全員	4	前	必	284

授業コード	ENA0101			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○					
科目区分	基礎科目－専門学修の基礎				広い視野と倫理観	○					
授業科目名	基礎ゼミナール	選択・必修	必修		知識・技術						
配当学年/学期	1年/ 前期	単位数	1		判断力						
担当教員	准教授, 講師, 助教全員				探求心	○					
講義目的											
1. 初年次教育としてアカデミックスキルの必要性を理解できる。 2. 大学で学ぶために必要なスキルを学び、効果的な学修方法を身につける。 3. 少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発する。											
授業内容											
よりよい学生生活を送るために必要なスキルとは何か、これまでの学習とは違った大学で学ぶために必要なスキルとは何かを理解し、効果的な学修へとつなげ、ポートフォリオなどを用いて、4年間の学びを蓄積する。受講方法、ノート・テイキング、クリティカル・リーディング、アカデミック・ライティングといったスキルを学ぶとともに、パソコンの使い方、文献検索の方法、プレゼンテーションの方法を学び、これらのスキルを使いグループワークでまとめたものをプレゼンテーションすることでアカデミックスキルを修得する。											
授業計画及び学習課題											
回	標 題	学習課題									
1	オリエンテーション 大学生活への導入と4年間の学び (中島)	大学で学ぶために必要なスキルとは何か、どのように学ぶのか理解することができる。また、ポートフォリオの活用について理解できる。									
2	大学生としてのマナー (田中)	大学生としての受講マナー等について理解することができる。									
3	ノート・テイキング (大西)	大学でのノートの取り方の必要性や方法を理解することができる。									
4	パソコンの使い方 (上西)	Windowsの基本操作(トラブルシューティングを含む)を理解し、電子メールの設定・送受信ができる。									
5	クリティカル・シンキング クリティカル・リーディング (棚崎, 日川)	クリティカル・シンキングの意味やクリティカル・リーディングの手法(文章の要約など)を理解することができる。									
6	グループワークの進め方 (棚崎, 日川)	グループワークの役割を理解し、実践することができる。									
7	グループワーク (棚崎, 日川)	グループメンバーとしての役割を果たすことができる。									
8	文献検索 (羽藤)	これまでに学んだスキルを使い、テーマに沿った文献検索を行うことができる。									
9	アカデミック・ライティング① (中島)	アカデミック・ライティング(レポートの書き方)を理解することができる。									
10	アカデミック・ライティング② <グループワーク> (中島)	グループワークを通して、レポートの書き方の理解を深め、レポートを書くことができる。									
11	プレゼンテーションの方法 (上西)	プレゼンテーションの方法やPowerPointを用いた資料作成の要点について理解することができる。									
12	医療・保健・看護に関連するテーマの決定 グループワーク①	興味・関心のあるテーマを決定し、グループで調べて話し合うことができる。									
13	グループワーク②	グループでディスカッションしながら、決定したテーマについてまとめることができる。									
14	グループワーク③	グループでのまとめを発表できるよう、プレゼンテーションの準備ができる。									

15	グループワークの発表	グループでの発表を通し、学びを共有することができる。					
留意事項（履修条件等）							
グループワークには積極的に参加すること。 課題がある場合には事前に自己学習して講義にのぞむこと。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。							
授業時間外の学修（事前・事後学習）							
科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。 事前学習：講義までにシラバスを読み、毎回の講義内容を確認してください。 事後学習：講義内で提示された課題についてはしっかりと事前事後学習をして、期限内に必ず提出するようにしてください。							
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）							
本科目は、オムニバス授業です。各教員のオフィスアワーの時間と場所に従ってください。							
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）							
講義内でレジュメ配布							
最終到達目標							
大学で学ぶために必要なアカデミックスキルを身につけ、実践することができる。							
評価方法及び評価基準							
個人レポート 30% グループワーク 60% 演習及びグループワークへの参加状況及び態度 10%を総合して 100 点満点で評価します。							
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)							
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)							
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)							
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)							
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)							
学生へのメッセージ							
大学での学びは、これまで学んできた学習方法と異なり、自ら積極的に講義に参加していかなければ単位の修得につながりません。本科目では、今後 4 年間を通して大学で学修するために必要なスキルを学びますので、グループワークを含め積極的に参加してください。							

授業コード	ENAO201	ディプロマポリシーに定める養成する能力	○	
科目区分	基礎科目—専門学修の基礎		○	
授業科目名	人間環境学		知識・技術	
配当学年/学期	1年/ 前期		判断力	
担当教員	城田純平		○	
講義目的				
人間環境大学の建学の精神である人間環境学について、その学問の起りと理念を理解することが本講義の目的である。また同時に、受講生各自が看護学部での専門的な学びを、人間環境学という理念のもとに捉えられるようになることを狙う。				
授業内容				
<p>「人間環境学」という建学の理念のもとに目指されているのは、〈知の全体性を取り戻すこと〉に他ならない。学問の個別専門化が進む中で、学問はその全体的な〈まとまり〉を失い、私たち一人ひとりの生との具体的な〈つながり〉を欠きつつある。では、私たちはこの危機的状況をいかにして打ち破ることができるのか。人間環境学の理念は、こうした鋭い問題意識のもとに建立されたものである。そのため、「人間と環境」と言われるときの「環境」には、自然環境という、狭い意味での環境にとどまらず、精神環境、歴史環境、文化環境、社会環境など、私たち人間を取り巻くあらゆるもののが含まれている（「environment」とは元々「取り巻くもの」を意味している）。他方で、ここでの「人間」とは、（西洋近代において前提とされたような）孤立的な個人のことではなく、むしろ共同体の中で他者と共に生きる存在を意味しており、また同時に、それは単に精神的存在であるだけでなく身体的存在でもある。そして、このようにして「人間」と「環境」それぞれについての知の全体的な〈まとまり〉を保った上で、私たち「人間」と「環境」との間の生きた〈つながり〉——すなわち「人間と環境」の「と」——これを追究し、恢復（かいふく）するのが、人間環境学である。本講義では、この理念が指示すところに従って、私たち一人ひとりが「生きる」ということ、すなわち人間の「生」という根本現象——ここにはいつも既に環境との関わりが見られるわけであるが——に焦点を合わせることで、知の〈まとまり〉と〈つながり〉を維持しつつ、看護学・心理学・環境科学という、人間環境大学の各学部・学科の柱となっている領域へと向かって議論を展開していく。</p> <p>具体的には、第一回・第二回で人間環境学への導入を行った後に、第三回から第五回にかけては私たちの生と自然環境との関わりについて、第七回から第十回にかけては他者の生への関わりについて、第十二回から第十四回にかけては心と身体の問題について考えていく。なお、第六回・第十一回・第十五回はそれぞれ、それまでの内容を復習し、まとめるためのコマとする。</p>				
授業計画及び学習課題				
回	標 題	学習課題		
1	人間環境学概論	予習：人間環境大学のホームページの「学長あいさつ」と、本科目シラバスの〈科目の概要〉を読む。 復習：今回の教材として配布された資料を熟読し、人間環境学のポイントを理解する。		
2	私たちの「生」から始める人間環境学	予習：今回のコマシラバスを読んでおく。また、今回の教材を第一回講義の終わりに配布するので、これについても一読する。 復習：今回の講義のポイントを復習し、各点について3分程度で説明できるようにする。		
3	私たちの「生」の二重性—人間的な「生」（ビオス）と生物的な「生」（ゾーエ）—	予習：今回の教材プリントをあらかじめ読んでおく。 復習：今回取り上げるプラトンとニーチェの考えが、互いにどのように異なっていたかを説明できるようにする。		
4	私たちの「生」は「環境」とどのように関わっているのか？—動物との比較から—	予習：今回の教材プリントをあらかじめ読んでおく。 復習：シェーラーの議論を復習し、人間の「世界開放性」とはどのようなことを表しているのか、3分程度で説明できるようにする。		

5	人間が環境を守ることの「なぜ」と「どのように」—社会環境との関わりの中で—	予習：高等学校の「公民」で学んだ「環境税」、「排出権取引」について復習しておく。 復習：ヨナスとルーマンの議論を復習し、それぞれを説明できるようにしておく
6	復習コマ(1)—日本と西洋における「人間環境」の捉え方の違いを視野に入れて—	予習：第三回・第四回で学んだシェーラーの人間観が、第三回の前半で検討した古代ギリシアの人間観とどのような関係にあったのかを整理しておく。 復習：丸山の議論を復習し、西洋と日本における自然観の相違を押さえる。
7	私たちの「生」の本質としてのケア—他者への「ケア」とはどのようなことか?—	予習：教材を読み、〈自己実現のために相手の成長をたすけること〉と、〈相手の成長をたすけることによって自己実現すること〉との違いを考える。 復習：「他者へのケア」と「自己へのケア」が本質的につながっている、というポイントを復習しておく。
8	他者の「生」と「環境」—二人称の生と三人称の生—	予習：第二回講義の復習課題に再度取り組んだ上で、配布プリントを熟読しておく。 復習：他者の生への「同行」とは何を意味するのか、説明できるようにしておく。
9	他者の「生」の終わりへの眼差し—「脳死」の問題を例として—	予習：「脳死」についてインターネットで調べてまとめておく。 復習：人の「死」を見る二つの視点（二人称の視点・三人称の視点）の違いを説明できるようにする。
10	他者の「生」の始まりへの眼差し—「人工妊娠中絶」の問題を例として—	予習：「母体保護法」における「人工妊娠中絶」に関する規定をインターネットで調べておく。 復習：二人称の視点から見る場合と、三人称の視点から見る場合では、人の生はいつから始まるかという問題について、どのような異なった考えが成立するか、ミニレポート（600字程度）を作成する。
11	復習コマ(2)—時間性の観点から—	予習：自分自身のこれまでの人生において重要な出来事を5つピックアップし、なぜそれが重要だと考えられたのか、未来の自分自身の在り方という視点から説明できるようにする。 復習：第七回から第十回の復習課題に再度取り組む。
12	「生」の学としての「プシュケーの学」—古代ギリシアにおける「プシュケー」（魂）と「ソーマ」（身体）—	予習：第三回の講義の内容を振り返っておく。 復習：プシュケー（魂）とソーマ（身体）との関係が、プラトンとアリストテレスにおいてどのように異なったのかという点を中心に復習しておく。
13	私たちの「心」と「身体」はどのように関わっているのか?—「心身問題」—	予習：私たちの日常生活における「心」と「身体」が関わり合っている例を三つ以上考えておく。 復習：日常における「心」と「身体」との関わりを具体例として「心身問題」について説明できるようにしておく。
14	「生きた身体」—私たちの「生」の現場へ戻る—	予習：自分の生活の中で「からだで憶えている」と思うこと（例えば、「車の運転」、「ピアノの演奏」、「目をつぶっていても目覚まし時計をとめられる」など）を5つ以上ピックアップしておく。 復習：デカルトとメルロ＝ポンティの「身体」の捉え方の違いを説明できるようにしておくと共に、第十二回・第十三回の復習課題にも再度取り組み、「心」と「身体」についての問題を総復習する。

15	まとめ	予習：シラバスの〈科目的概要〉欄と第一回講義の欄を再読し、人間環境学の理念を再度正確に押さえるために、第一回講義の復習課題にもう一度取り組む。 復習：期末試験に備えて、全ての回の内容をよく復習しておく。
留意事項（履修条件等）		
<p>講義内は私語厳禁ですが、自由な質疑応答の時間も設けますので、積極的に発言してください。</p> <p>なお、確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（事前学習・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。</p> <p>事前学習：各回に教材として使用するプリントをあらかじめ配布しておくので、それを熟読しておくと共に、各回の課題欄に具体的に記載してある予習課題にも取り組む。具体的な予習の方法については授業内で指示する。</p> <p>事後学習：各回の復習欄を参考にして、その回のポイントを 3 分程度で説明できるようにしておく。また、適宜ミニレポートを課すことがある。具体的な復習の方法については授業内で指示する。</p>		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
<p>教科書：なし（講義内でプリントを配布）。</p> <p>参考書：マルティン・ハイデガー『存在と時間 I』（原佑・渡邊二郎訳、中公クラシックス、2003 年）、パトリシア・ベナー、ジュディス・ルーベル『現象学的人間論と看護』（医学書院、1999 年）など。他の文献は講義内で指示。</p>		
最終到達目標		
<p>人間環境大学の建学の精神である人間環境学について、学問の起こりと理念を理解することができる。看護学部での専門的な学びを、人間環境学という理念のもとに捉えられるようになる。</p>		
評価方法及び評価基準		
<p>論述試験 100%</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</p> </div>		
学生へのメッセージ		
<p>自ら学ぶ姿勢を強く求めます。</p>		

授業コード	ENA0301	<div style="display: inline-block; transform: rotate(-90deg);">ディプロマポリシーに 定める養成する能力</div>	豊かな人間性	○		
科目区分	基礎科目—専門学修の基礎		広い視野と倫理観	○		
授業科目名	医療キャリアの基礎	選択・必修	知識・技術	○		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	判断力			
担当教員	三並めぐる, 門脇千恵, 藤本千里, 田中正子, 大西ゆかり, 羽藤典子, 武海栄		探求心	○		
講義目的						
<p>看護は実践の科学であり、看護を支える基盤が看護学である。看護学は諸科学の知識を活用し、看護の哲学を中心とし看護の現象を説明する学問として体系化されていることを学ぶ。そして将来の医療キャリア形成のために必要な考え方や看護職の基本的な仕事内容を理解するとともに、医療職業人として必要な接遇について基本的な態度を身につける。これらの学びを通し、自身の将来を見据えたキャリア形成について具体的な目標を描くことができる。</p>						
授業内容						
<p>本授業では、将来、医療職として成長していくための生涯プロセスの在り方を理解し、看護師、保健師、助産師、養護教諭になるための道筋や教育の仕組みを理解する。さらに、具体的な看護職の活動内容を学び、大学入学後早期より自分自身のキャリア設計を描くことができる。また、看護職として必要な接遇やマナーを理解し意識して行動できるようにする。</p>						
授業計画及び学習課題						
回	標 題	学習課題				
1	医療キャリアの基礎の授業概要説明（三並） 看護の学問体系について（大西）	<p>授業の目的と内容、流れを理解し、説明できる。 看護学を支える諸科学、看護学を構成する主要な概念について理解し、大学で看護学を学ぶ意義について説明することができる。</p>				
2	看護専門職者と生涯学習について（大西）	<p>看護専門職者として、看護学とは何か、看護学の価値と自律性、生涯学習の重要性について理解することができる。</p>				
3	看護師の仕事とは（武海）	<p>看護師の仕事について理解でき、医療職として基本的な態度を身につけることができる。</p>				
4	助産師の仕事とは（門脇） ・助産師の免許取得について ・助産師としての責任について ・働く場（病院、開業、地域での活動）	<p>助産師の免許取得について理解し、説明できる。 助産師は母子二人の生命について責任を持っていることを理解することができる。 助産師の仕事の内容、および働く場所や地域での実践活動について理解することができる。</p>				
5	保健師の仕事とは（藤本）	<p>歴史、現状等から目的、内容、活動範囲等を理解することができる。</p>				
6	養護教諭の仕事とは（三並）	<p>学校教育法に規定されている「養護をつかさどる」養護教諭が、児童生徒等の健康の保持増進をどのように進めているか、学校保健と養護教諭について保健教育、健康管理、組織活動の3点から理解することができる。</p>				
7	看護職に必要なマナー・接遇（羽藤）	<p>看護職に必要なマナー・接遇について学び実践できる。</p>				
8	自分のキャリア設計についての演習（田中）	<p>自分の将来を見据えたキャリアデザインを描くことができる。</p>				

留意事項（履修条件等）
<p>常に次回の講義内容を事前に予習し、授業に臨むこと。授業で学んだ内容は、さらに関連事項を図書などで調べておくこと。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>
授業時間外の学修（事前・事後学習）
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習（1～2 時間）：事前に配布される資料をもとに次回の授業内容の予習と指示された課題を行う。</p> <p>事後学習（1～2 時間）：講義中に指示した課題について、レポートの提出を行う。</p>
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
<p>本科目は、オムニバス授業です。各教員のオフィスアワーの時間と場所に従ってください。</p>
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
<p>教科書：なし 必要時講義内でレジメ配布</p>
参考書：
<p>『ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理第3版』：村島さい子他、メディカ出版、2,808円、 2013年 ISBN 978-4-8404-4142-1</p>
最終到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 4年間で看護を学ぶ意味と医療専門職者としてのキャリア形成に必要な考え方や看護師の基本的仕事内容を理解し、今後の学習につなげることができる。 医療専門職者として必要な接遇を身につけ、キャリア形成について具体的な目標を描くことができる。 自分のキャリアイメージ「なりたい私像」が描ける。
評価方法及び評価基準
<p>期末試験 70% 演習のまとめ 10%。課題の提出 20%。など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass） D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）</p> </div>
学生へのメッセージ
<p>看護学生として学問体系の中で看護学を学ぶ意味を考える基盤となる科目です。医療専門職業人としてのキャリア形成に向けて具体的なイメージを膨らませられるよう、毎時間事前学習事後学習を継続して取組んで下さい。看護職者のマナーも身につけ、それを学生生活にも活かしながら自分のキャリア設計ができるようにしましょう。</p>

授業コード	ENB0101, ENB0102			ディプロマポーリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—コミュニケーションの基礎				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	英語 I	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/ 前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	松浦淳子				探求心	○	
講義目的	<p>・『英語 I』は看護業務や看護技術の基本的な概念として様々な医療情報を、患者や看護師、医師や医療スタッフとの間で「英語」や「日本語」による効果的、且つ効率的にコミュニケーションを図るための「運用力」を習得することを目的とする。</p> <p>・本コースは医療現場で「すぐに使える」実践的な英語表現や語彙を習得し、医療現場で必要な異文化理解を深め、各医療接觸現場における人材の多様化に合わせ、「日本語非母語話者の患者」や『EPA外国人看護師』との間で、『リング・フランカ』としての英語によるコミュニケーションを円滑に進めるための「ストラテジー」も育成する。</p>						
授業内容	<p>「A I が地方都市の医療現場にもやってくる!」「A I 化」が加速すれば看護師の業務も変化する。その存在感を増す A I と共に生きるためにには「役割分担」と「最適化」が必須!「生身の看護師にしかできない特別なスキル(能力)」、つまり「感性(感情の変化)」を見た目や触診から得られる「察知(微妙なニュアンスの把握)」「発想(経験に依拠した診断)」「勘(直観的推量)」を強化する。特に、患者と対峙する看護師にとって重要な「対人コミュニケーション能力(他者・患者との関わり)」を鍛錬するため、言語媒体である「英語」や「日本語」による最先端の情報を共有しつつ「真の人間力」を向上させていく。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	Introduction, Course organization, Roster, Syllabus, and more (シラバス&スケジュールの説明等)／「動画」による問題提議&Discussion／基本的な医療英語語彙	A I が活躍する医療現場の現状を把握／複言語的看護師の役割と職務とは?／病院の組織や仕組みの部門名称の把握&認識／「ケア」VS「ケアリング」相違点を認識する					
2	Human Body Parts (身体部位) & Respiratory & Digestive system (呼吸器系 & 消化器系の部位)	医療現場における基本的な英語の器官部位に関する語彙を認識可能にする					
3	語彙「病気」の類義語における相違点と使い分け／Classification of Pain (「痛みの表現」)の把握	患者による痛みの具体的な表現を把握・認識する／外来&入院患者と看護師のモデル対話					
4	Describing Medical Symptoms & Health Problems (様々な症状の表現)／Difference-cold-or-flu／Various Headache Symptoms	患者による様々な「症状」英語語彙を認識する／「風邪」と「インフルエンザ」の相違点を把握・認識する／様々な「頭痛」症状に関する英語語彙の理解					
5	Stethoscopes (聴診器) & Lung Auscultations—Using a stethoscope, nurse may hear various types of breathing sounds 「呼吸音」 & 「ラ音」(肺副雜音)	「聴診器」による「肺音」の聞き分けと基本的な定義の認識／捻髪音(fine crackles)と水泡音(coarse crackles)の違い／「聴診器」を用いて肺音を聞く際のモデル対話					
6	Body Temperature (体温測定)／Various types of Thermometer (体温計の種類)／Measurement methods and specific precautions (体温測定部位&注意点)	The signs and symptoms of fever (発熱の徴候&症状)／Measuring Temperature Using various types of Thermometer (体温測定のモデル対話)					
7	Sites For Taking Pulse (脈拍の測定部位)／Factors Affecting Pulse (脈拍に影響する要因とは)	What is Pulse? (「脈拍」測定の重要性とは)／Measuring a Radial Pulse (wrist) (「橈骨動脈」の脈拍測定におけるモデル対話)					
8	Measuring Blood Pressure (血圧測定) & Circulatory System (循環器系の部位)／Definition of Hypertension & Hypotension／Blood Pressure Stages	Systolic pressure & Diastolic pressure 相違点／New Hypertension Guidelines／Sphygmomanometers (血圧計)／artery and vein (様々な動脈と静脈)／血圧測定のモデル対話					
9	What is blood (「血液」の構成要素)／What is Vital Signs (「バイタルサイン」とは)	Taking respirations, pulse, temperature, blood pressure (バイタル測定のモデル対話)					
10	Cardiovascular System (「心臓血管系」)／What is blood test (「血液検査」とは)	Some of the most common blood tests (一般的な血液検査)／heart and blood & circulatory system (心臓血管)の認識					
11	How to Draw Blood (採血)／Equipment Necessary to Perform a Routine Venipuncture	Locate the vein／Needles & Syringes & collection tubes (採血の機具の認識)／採血時のモデル対話					
12	Final Exam Study Guide (期末試験要項&注意点の説明) Part 1: Group Skit presentation & Part 2: Multiple-Choice paper-based Final Exam on a regular class schedule	Final Exam—Part 1 : Group Skit presentation on Live Each group: fill out Sign-up Sheet & 台本の『くじ引き』実施 各グループで「スキット台本」の役割分担等々の打合せ開始					
13	Each Group Work for Final Exam Part 1: グループ別の期末試験パート1のための準備等々	Preparation for Final Exam Part 1 (各グループで「スキット」の準備、並びに、各自練習&リハーサル等々の準備を継続)					
14	Group Skit Presentation Part 1 On a real stage (本番実施第1日目) 3~4 グループ	Evaluation: Group Skit Presentation 各グループの「実演」をライブで評価					
15	Group Skit Presentation Part 1 On a real stage (本番実施第2日目) 3~4 グループ	Evaluation: Group Skit Presentation 各グループの「実演」をライブで評価					

留意事項（履修条件等）
<p>◆Note: Lecture Schedule (The schedule listed on this page is tentative and may change during the term!!!) (「講義スケジュール」の内容は「試案」であるため、今後一部変更もあり得る！)</p> <p>◆Note: Final Evaluation Grading—— The percentage figures given above are used only as "guidelines." Final grades will be adjusted taking into various considerations, including attendance, class participation, and outstanding progress during the semester. When a participant is observed NOT eagerly participating in class activities, some points (1~20%) will be subtracted from one's final score. (上記の成績評定はあくまでもガイドラインであり、最終的な成績評定は総合評価とし様々な評定点を考慮し決定する。尚、講義中、練習活動の参加に積極性が観られない場合には最終成績評定から減点《1~20%》されることもあるので要注意！)</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>
授業時間外の学修（事前・事後学習）
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>■事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の「配布プリント」等々を必ず持参し、また、その内容を「精緻化リハーサル」し、効果的に復習しておくこと <p>■事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の「配布プリント」内容を復習し、各自の『ポートフォリオ』に保存しておくこと ・各グループのメンバーで、相互的に学習内容を共有し、意識化し、協働学習を実践しておくこと
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正式な Office Hours は設定されていないが、「講義前」や「講義後」の時間帯を利用することを推奨！ ・Contact: E-mail: joycemsayohime@beetle.ocn.ne.jp (Email によるコンタクトも可能)
教材（題名、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
<p>■教科書：・No Required text. (本授業では特定の教科書は使用しない) ★「辞書」「電子辞書」「スマホ」等々を持参すること！</p> <p>・Study materials are provided as files (MSWord/PowerPoint format) by the projector in class. (使用教材の内容はプロジェクターによる投影で行なう)</p> <p>・Supplemented by additional handouts, visual materials, and videos. (補足資料として、配布プリントや動画等の視聴覚教材を用いる場合あり)</p> <p>■参考書： ★『Google 検索エンジン』&『Weblio 翻訳機能』等々を活用するなど、様々な「IT 媒体」を駆使し課題を遂行すること</p>
最終到達目標
<p>The course provides a great opportunity to become familiar with the use of basic medical terminology. The course will help learners to enhance their critical thinking skills and metacognitive abilities (to think how and why) through English language to deepen their understanding of the value of "humanistic" caring for others! The learners are expected to know that empathy (to feel what other people feel) is recognized as a central and crucial component of medical and nursing practice.</p> <p>本コースは、基礎的な医療英語の理解力や表現力を育成することに重点をおく。その上で、本コースは英語という言語媒体を通し、批判的思考力やメタ認知力を向上させ、看護師のヒューマンケアリングに対する理解を深める。看護師という医療業務に携わる者にとって、他者／患者に対する共感性（他者の痛みを感じる）の認識がいかに重要かを認識していくものとする。</p>
評価方法及び評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・Final Exam : The final exam is divided into two parts: Part 1 & Part 2 —Total Score — 45% ——★Part 1 is an in-class group skit presentation on live 各グループによる「実演」試験 ——★Part 2 is an Open-Book Exam (multiple choice questions) 各グループによる「多項選択式の筆記問題」試験 ※ただし、「筆記試験」には「スマホ・PC」等々の電子媒体は使用不可！ ・Quiz, Homework, Group Work Reports, etc. (小テスト／宿題／グループレポート等々) — 30% ・Performance/Participation/Diligent Attitude in class (授業態度／積極的授業参加／真面目な姿勢) — 10% ・Attendance (出席状況) — 15% <p>※状況に応じ Extra Credit/Bonus Points あり！</p>
<p>●Evaluation Grading: Letter Grade: (成績評定) (学則第 34 条)</p> <p>S(100-90): Excellent A(89-80): Very Good B(79-70): Good C(69-60): Pass D(Below 59): Failure</p>
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・「出席数」が「最終評価」に影響するため、できるだけ講義には毎回「出席」するよう努めること ・講義中の「態度」や「姿勢」が「最終評価」にかなり影響するため、主体的に受講すること ・講義中は様々な「動画」を活用するため、その「動画」再生中は、再生後のディスカッションができるよう真剣に観ること ・各グループメンバーは、チームの一員として、お互いの協働学習を促進させ、主体的・対話的な「深い学び」を実践すること ・『宿題』に関し、必ずグループメンバー「全員」で課題を遂行すること（『他力本願』的な行為は禁止！） <p>★課題遂行のため活用した資料や情報は全て、「引用文献」や「参考文献」として宿題提出用紙に必ず明記しておくこと</p> <p>★たとえ「他のグループメンバー」と共に協力し合って遂行した場合にも、正直にそのグループ番号を必ず明記しておくこと</p> <p>・他の科目における医療専門知識を学習した際には、常にその既存知識と本コースの学習内容とを融合させる『Deep Active-Learning (ディープ・アクティブラーニング)』を実践し、脳内に「概念スキーマ」の理解構築・再構築を活性化・促進化させていくこと</p>

授業コード	ENB0201, ENB0202			デ イ イ メ の る 養 成 す る 能 力 イ ン シ ー に 定	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—コミュニケーションの基礎				広い視野と倫理観		
授業科目名	英語Ⅱ	選択・必須	必修		知識・技術		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力		
担当教員	高久保 文恵				探求心		

講義目的

1. 英語の「読む・書く・聴く・話す」の4技能のうち、「聴く」「読む」を中心にして「書く」「話す」をバランス良く取り入れ、将来の医療現場で役立つ英語スキルの向上を図る。
2. このコースでは、代替医療（Alternative medicine）に関係した英語教材を使用し、リスニング能力とリーディング能力の向上を目指す。
3. 世界の代替医療にふれて外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、代替医療に関する自分の経験や意見を英語で発信するコミュニケーション能力の向上も目的とする。

授業内容

- ・BBCのNatural Remediesについての美しいDVDやその他のDVDなどを教材に、映像の助けをかりながらリスニング能力を向上させる。
- ・代替医療について、英語の語彙力向上と内容理解を図る。
- ・発音、リズム、イントネーションなどにも注意を払い、聞き取れるだけではなく自分の発話も向上させる。
- ・世界の代替医療の読み物を読み、外国の文化や社会に対する認識を深める。
- ・代替医療に関する自分の経験や意見を英語で表現し、発信する能力を向上させる。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、学習の進め方、評価法などについて理解し、これから学習のポイントを理解できる。
2	Animal Therapy I	アニマルセラピーに関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。
3	Animal Therapy II	リスニング力、リーディング力を向上させ、アニマルセラピーのDVDなどから聞き取りや読み取りができる。
4	Animal Therapy III	アニマルセラピーに関し、意見、経験などを英語で発信できる。
5	Herbal Medicine I	薬草療法に関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。
6	Herbal Medicine II	リスニング力、リーディング力を向上させ、薬草療法のDVDなどから聞き取りや読み取りができる。
7	Herbal Medicine III	薬草療法に関し、意見、経験などを英語で発信できる。
8	Healing Touch I	ヒーリングタッチに関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。
9	Healing Touch II	リスニング力、リーディング力を向上させ、ヒーリングタッチのDVDなどから聞き取りや読み取りができる。
10	Healing Touch III	ヒーリングタッチに関し、意見、経験などを英語で発信できる。
11	Yoga and Meditation I	ヨガと瞑想に関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。
12	Yoga and Meditation II	リスニング力、リーディング力を向上させ、ヨガと瞑想のDVDなどから聞き取りや読み取りができる。

13	Review	第2～12回の語彙・用法、英語表現、内容などを復習し、応用できる。
14	まとめ I	習得したスキルと学習した内容を基盤に、自分の意見を持つことができる。
15	まとめ II	習得したスキルと学習した内容を基盤に、自分の意見を英語で発信できる。

留意事項（履修条件等）

- ・辞書（電子辞書を含む）は、毎回必ず授業に持参すること。
- ・英語をできるだけ吸収し発信しようとする姿勢を高く評価する。これらの姿勢を持って授業に臨むこと。
- 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。

事前学習：

- ・わからない単語や表現は、辞書などであらかじめ調べてから授業に臨むこと。
- ・予習の目的で課された宿題や課題は必ず行い、忘れずに授業に持ってくること。

事後学習：

- ・授業中の活動をもとにした提出物や課題は、学習内容を復習しながらしっかりと仕上げ、締め切りまでに忘れずに提出すること。
- ・試験には準備して臨むこと。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

授業時間の前後

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

- ・授業中にプリントを配布する。
- ・授業ではDVD、CDなどの視聴覚教材をできるだけ使用する。

最終到達目標

- ・代替医療について英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。
- ・代替医療について、英語のDVDなどから聞き取りや読み取りができる。
- ・より良い英語発音、リズム、イントネーションで発話できる。
- ・外国の文化や社会、特に代替医療に対しより深い認識を持つことができる。
- ・代替医療に関する経験や意見を英語で発信し、コミュニケーションできる。

評価方法及び評価基準

- ・授業：30%（出欠、授業態度、積極的授業参加、提出物などによる総合評価）
- ・終講時筆記試験：30%
- ・終講時実技試験：40%

など配点得点を合計100点満点として評価する。

成績評価基準（学則第34条）

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| S(100～90点) : | 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89～80点) : | 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79～70点) : | 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69～60点) : | 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59点以下) : | Cのレベルに達していない (Failure) |

学生へのメッセージ

- ・授業はペア・ワーク、グループ・ワークを中心に進めるので、それらに積極的に参加すること。
- ・宿題、予習、復習は自分の英語力向上のためなので、必ずやっておくこと。
- ・独創性を大切にすること。人マネや何かをそのままコピーした英語ではないこと。

授業コード	ENB0301, ENB0302			定める 能力 デイブロ マボリシ ーに よる養成 する能 力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—コミュニケーションの基礎				広い視野と 倫理観	○	
授業科目名	英語Ⅲ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/ 後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	松浦淳子				探求心	○	
講義目的							
<ul style="list-style-type: none"> ・『英語 III』は看護業務や看護技術に関する様々な医療関連書類・文書に記述されている内容概念を把握する能力を向上させる。 ・本コースは基本的な医療専門用語を中心に、外来患者用「問診票」等の医療関係書類、主に「History and Physical (H&P) Report」、カルテ、退院時要約、医療検査／健康診断書、経過記録書等々の記載内容を正確に且つ迅速に解釈するための推論力や判断力を促進させる。 ★本コース受講にあたり、前期コース（『英語 I』）で習得した知識や技術を最大限に応用することとする！ 							
授業内容							
<p>・看護師の職務は「看護師の意思決定が患者の生命に影響を及ぼす」ことになる。患者への安全性・安心性は、看護師の「医療リタラー」能力を向上させ、「コミュニケーションエラー」を防止することにより保持される。しかし、「読む」という行為は単に「字面を追う」・「ラベル」表示の語彙認識を行なうことではなく、それ以上の「行間に読む／含意を読み取る」ような「読解力」が要求されることを認識させていく。そこで「チーム医療」を念頭に、更には医療上の緊急事態における対応も含め、医療現場のパフォーマンスを改善し、より安全なケアを提供するために考案された『SBAR/ISBAR/ISBARC/』『TeamSTEPPS framework』『Handoff／Handover/I PASS THE BATON』等々を理解・認識した上で、様々な事例を活用し、医療文書の記入を実践することとする。</p>							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	Introduction, Course organization, Roster, Syllabus, and more (シラバス＆スケジュールの説明等)／「動画」による問題提議（看護師数の世界的規模減少等々）& Discussion	ICN (International Council of Nurses) International Nurses Day 2018 (「ICN」が2018年に提言するゴールとは何か)に関しディスカッションし、そのレポートを提出					
2	Review MEDICAL English Vocabularies through pictures—three sections (医療語彙の復習) Video: Empathy—The Human Connection to Patient Care & What is “I am the patient experience”?	What is empathic and compassionate care in nursing? (「ナースコードを鳴らさない看護」とは?) ディスカッション&レポート Why is every patient deserves to be treated with empathy, dignity and respect? (看護師としての人間的必須要素とは?)					
3	What Are Epidemics, Pandemics, and Outbreaks? (相違点とは?)／medical questionnaire form—INTERNAL MEDICINE (「内科」『問診表』) 日本語翻訳	Medical article: Pandemic or Epidemic or Endemic? (日本語翻訳) Vocabulary on General Internal Medicine outpatient Questionnaire (内科問診票に記載された用語の日本語翻訳)					
4	medical English vocabulary training—three sections What is the difference between Acute and Chronic? List of Chronic Diseases (慢性疾患の定義)	Illness and Ailment & Treatment List (様々な病気＆治療方法のリストの日本語翻訳)／difference between fluid and liquid (「流体」「液体」の相違点を認識)					
5	Intravenous (IV) infusion 「点滴」用の器具 Order of Draw & Common Blood Collection Tubes (血液真空採血管のキャップカラーの弁別理解)	Coagulation (血液凝固作用)／anticoagulants (抗凝固薬／血液凝固阻止剤)／Non-additive (添加物なし)／Additives (添加物入り) 等々の血液検査・血液培養検査の認識					
6	Common vocabulary used in nursing 看護医療用語 Procedure Checklist: Admitting a Patient to a Nursing Unit (入院患者のための受入手順のチェックリスト)	DNR/ catheter/ administer/drain fluids/saturation 等々の用語認識 How to Admit a Patient to the Hospital—13 Steps for Admission (入院患者の受入時の文書 13 項目を理解し日本語翻訳)					
7	What is History and Physical (H&P) Report?—病歴聴取&身体診察／身体所見	『H&P Report』内の記入項目の用語認識＆日本語翻訳 Medical Reports (事例) 日本語翻訳＆『H&P Report』へ記載					
8	HOSPITAL ADMISSION CHECKLIST 「入院受入用チェックリスト」本格的な文書で記入実践	Patient medical information (患者情報・事例の日本語翻訳) ADMISSION CHECKLIST (入院受入書の日本語翻訳)					
9	What is 「SBAR/ISBAR/ISBARC」?／What is TeamSTEPPS & "I PASS THE BATON"?	SBAR/ISBAR/ISBARC/ TeamSTEPPS & "I PASS THE BATON" における文書内容の認識＆テンプレートによる事例の記入実践					
10	The Top 10 Deadliest Diseases in the world & Top 10 Chronic Conditions in Adults 65+	CAD/Stroke/ Respiratory illness /Cancer/Hypertension /High cholesterol/ CKD/ Diabetes/ COPD 等々の用語定義の認識					
11	What is Triage? (『トリアージ』とは?)	Triage color-coding systems & triage process の認識					
12	Final Exam Study Guide (期末試験要項＆注意点の説明) Part 1: Group medical research presentation & Part 2: Multiple-Choice Final Exam on a regular class schedule	Final Exam—Part 1 : Group medical research presentation Each group: fill out Sign-up Sheet & プレゼン・テーマの『くじ引き』実施＆打合せ等々の準備開始					
13	Each Group Work for Final Exam Part 1: グループ別の期末試験パート1のための準備等々	Preparation for Final Exam Part 1 (各グループメンバーでプレゼン資料の準備継続、並びに、各自練習＆リハーサル)					
14	Group medical research Presentation Part 1 On a real stage (本番発表第1日目) 3~4 グループ	Evaluation: Group medical research Presentation 各グループの「PPT プレゼン」をライブで評価					
15	Group medical research Presentation Part 1 On a real stage (本番発表第2日目) 3~4 グループ	Evaluation: Group medical research Presentation 各グループの「PPT プレゼン」をライブで評価					

留意事項（履修条件等）
<p>◆Note: Lecture Schedule (The schedule listed on this page is tentative and may change during the term!!!) (「講義スケジュール」の内容は「試案」であるため、今後一部変更もあり得る！)</p> <p>◆Note: Final Evaluation Grading—— The percentage figures given above are used only as “guidelines.” Final grades will be adjusted taking into various considerations, including attendance, class participation, and outstanding progress during the semester. When a participant is observed NOT eagerly participating in class activities, some points (1~20%) will be subtracted from one's final score. (上記の成績評定はあくまでもガイドラインであり、最終的な成績評定は総合評価とし様々な評定点を考慮し決定する。尚、講義中、練習活動の参加に積極性が観られない場合には最終成績評定から減点《1~20%》されることもあるので要注意！)</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>
授業時間外の学修（事前・事後学習）
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>■事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の「配布プリント」等々を必ず持参し、また、その内容を「精緻化リハーサル」し、効果的に復習しておくこと <p>■事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の「配布プリント」内容を復習し、その知識を体系化し、各自の『ポートフォリオ』に保存しておくこと ・各グループのメンバーで、相互的に学習内容を共有し、意識化し、協働学習を実践しておくこと
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正式な Office Hours は設定されていないが、「講義前」や「講義後」の時間帯を利用することを推奨！ ・Contact: E-mail: joycemsayohime@beetle.ocn.ne.jp (Emailによるコンタクトも可能)
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
<p>■教科書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No Required text. (本授業では特定の教科書は使用しない) ★「辞書」「電子辞書」「スマホ」等々を持参すること！ ・Study materials are provided as files (MSWord/PowerPoint format) by the projector in class. (使用教材の内容はプロジェクターによる投影で行なう) ・Supplemented by additional handouts, visual materials, and videos. (補足資料として、配布プリントや動画等の視聴覚教材を用いる場合あり) <p>■参考書：</p> <p>★『Google 検索エンジン』 & 『Weblio 翻訳機能』等々を活用するなど、様々な「IT 媒体」を駆使し課題を遂行すること</p>
最終到達目標
<p>・「医療事故」「コミュニケーションエラー」は「なぜ」発生するのか？ その「要因」を分析し「解決策」を認識し「防止策」を実践可能にする。医療現場における通常業務上の「Human Error」要因は、看護技術（テクニカルスキル）よりも『ノンテクニカルスキル』に起因する。その「エラー防止策」としては『社会人基礎力』強化。「テクニカルスキルを補い完全なものとする認知的且つ社会的『人間力』、メタ認知能力』や「安全且つ効率的なタスク遂行に寄与する状況判断認識スキル」を向上させ、様々な『ストラテジー』を認識し実践可能にする。また、医療現場の緊急事態においても「Code Blue コード・ブルー」「STAT Call スタットコール」「Triage トリアージ」「Cold Black コード・ブラック」等々を認識し、適切で迅速な対応が実践できるよう基本的知識を習得する。</p>
評価方法及び評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・Final Exam : The final exam is divided into two parts: Part 1 & Part 2 —Total Score — 45% ——★Part 1 is an in-class group medical research presentation on live 各グループによる「プレゼン」試験 ——★Part 2 is an Open-Book Exam (multiple choice questions) 各グループによる「多項選択式の筆記問題」試験 ※ただし、「筆記試験」には「スマホ・PC」等々の電子媒体は使用不可！ ・Quiz, Homework, Group Work Reports, etc. (小テスト／宿題／グループレポート等々) — 30% ・Performance/Participation/Diligent Attitude in class (授業態度／積極的授業参加／真面目な姿勢) — 10% ・Attendance (出席状況) — 15% <p>※状況に応じ Extra Credit/Bonus Points あり！</p>
<p>●Evaluation Grading: Letter Grade: (成績評定) (学則第 34 条)</p> <p>S (100-90): Excellent A(89-80): Very Good B(79-70): Good C(69-60): Pass D (Below 59): Failure</p>
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・「出席数」が「最終評価」に影響するため、できるだけ講義には毎回「出席」するよう努めること ・講義中の「態度」や「姿勢」が「最終評価」にかなり影響するため、主体的に受講すること ・講義中は様々な「動画」を活用するため、その「動画」再生中は、再生後のディスカッションができるよう真剣に観ること ・各グループメンバーは、チームの一員として、お互いの協働学習を促進させ、主体的・対話的な「深い学び」を実践すること ・『宿題』に関し、必ずグループメンバー「全員」で課題を遂行すること（『他力本願』的な行為は禁止！） <p>★課題遂行のため活用した資料や情報は全て、「引用文献」や「参照文献」として宿題提出用紙に必ず明記しておくこと</p> <p>★たとえ「他のグループメンバー」と共に協力し合って遂行した場合にも、正直にそのグループ番号を必ず明記しておくこと</p> <p>・他の科目における医療専門知識を学習した際には、常にその既存知識と本コースの学習内容とを融合させる『Deep Active-Learning (ディープ・アクティブラーニング)』を実践し、脳内に「概念スキーマ」の理解構築・再構築を活性化・促進化させていくこと</p>

授業コード	ENB0401, ENB0402			デイプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—コミュニケーションの基礎				広い視野と倫理観		
授業科目名	英語IV	選択・必修	必修		知識・技術		
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力		
担当教員	高久保 文恵				探求心		

講義目的

1. 英語の「読む・書く・聴く・話す」の4技能のうち、主に「読む」、「聴く」、「話す」に焦点を当て、将来の医療現場で役立つ英語スキルの向上を図る。
2. 様々な医療場面での患者および患者を取り巻く人々の言動、表情、感情、心情などを、英語表現から読み取る感性を養い磨くと共に、そのための基礎的な英語読解スキルを習得する。
3. また、それらを基礎として外国の文化や社会に対する認識を深めながら、医療現場で生きた英語を発信することができる力を育む。

授業内容

テキストは「The Dramas of Hospital Life: ある看護師のみた病院生活のドラマ」を選んだ。これは看護師として長年カナダの病院に勤務した著者の、様々な経験の記録を原著とする。これを用い、以下の内容を授業で扱う。

- ・症状、処置に関する語彙・用法、英語表現を習得する。
- ・医療場面での患者および患者を取り巻く人々の言動、表情、感情、心情などを、英語表現から読み取る感性を養い磨くと共に、そのための基礎的な英語読解スキルを習得する。
- ・上記を駆使して、生きた英語を発信する練習をする。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	イントロダクション	・授業の概要、学習の進め方、評価法などについて理解し、これから学習のポイントを理解できる。
2	Tribulations of a Student Nurse I : 看護学生の試練	・看護学生の病院実習の様子についての語彙、英語表現を理解できる。
3	Tribulations of a Student Nurse II	・英語で表現された看護学生の病院実習の内容、看護学生及び学生を指導する著者の心理を読み取ることができる。
4	Emergency Ward I : 救命病棟	・救命病棟での看護師の仕事についての語彙、英語表現を理解できる。
5	Emergency Ward II	・英語で表現された救命病棟での看護師の仕事の内容や登場人物の心理を読み取ることができる。
6	Thrown from a Window I : 窓から投げ落とされた女性	・骨折した麻薬常用女性患者と看護師である著者のやり取りの語彙、英語表現を理解できる。
7	Thrown from a Window II	・2人の会話から、状況や心理を読み取ることができる。
8	An Alzheimer's Patient I : アルツハイマー病	・アルツハイマー病患者と看護師である著者のやり取りの語彙、英語表現を理解できる。
9	An Alzheimer's Patient II	・2人の会話から、状況や心理を読み取ることができる。
10	Brain Damage I : 脳損傷の男性	・自動車事故で脳損傷を受けた患者と看護師である著者のやり取りの語彙、英語表現を理解できる。
11	Brain Damage II	・2人の会話から、状況や心理を読み取ることができる。
12	Psychotherapy : 心理療法	・心理療法の英語の読み物やDVDなどを見て、療法、患者の心理などに関する英語表現を理解できる。
13	Review (第2~13回)	第2~13回の語彙・用法、英語表現、内容などを復習し、応用できる。

14	まとめ I	習得したスキルと学習した内容を基盤に、自分の意見を持つことができる。
15	まとめ II	・習得したスキルと学習した内容を基盤に、英語を発信できる。
留意事項（履修条件等）		
<ul style="list-style-type: none"> ・辞書（電子辞書を含む）は、必ず毎回授業に持参すること。 ・英語をできるだけ吸収し発信しようとする姿勢を高く評価する。これらの姿勢を持って授業に臨むこと。 		
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。</p> <p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り扱う部分は必ず授業前に予習し、わからない単語や表現は辞書などで調べてから授業に臨むこと。 ・予習の目的で課された宿題や課題は必ず行い、忘れずに授業に持ってくること。 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動をもとにした提出物や課題は、学習内容を復習しながらしっかりと仕上げ、締め切りまでに忘れずに提出すること。 ・試験には準備して臨むこと。 		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
授業時間の前後		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
教科書：『The Dramas of Hospital Life』：Henry Meyer 著、田中 芳文 編著、三修社、2010 年（ISBN 978-4-384-33373-2）		
最終到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の場面での英文や英語表現から、看護師として特に患者の言動、表情、感情、心情などを読み取れる感性とスキルを持つことができる。 ・上記を基盤にして、生きた英語を発信することができる。 		
評価方法及び評価基準		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業：30%（出欠、授業態度、積極的授業参加、提出物などによる総合評価） ・終講時筆記試験：30% ・終講時実技試験：40% <p>など配点得点を合計 100 点満点として評価する。</p>		
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）</p> <p>A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）</p> <p>B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）</p> <p>C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）</p> <p>D(59 点以下)：C のレベルに達していない（Failure）</p>		
学生へのメッセージ		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業はペア・ワーク、グループ・ワークを中心に進めるので、それらに積極的に参加すること。 ・宿題、予習、復習は自分の英語力向上のためなので、必ずやっておくこと。 ・独創性を大切にすること。人マネや何かをそのままコピーした英語ではないこと。 		

授業コード	ENB0501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○					
科目区分	基礎科目—コミュニケーションの基礎				広い視野と倫理観						
授業科目名	コンピュータ基礎・情報処理法	選択・必修	必修		知識・技術						
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力						
担当教員	西川千登世, 上西孝明				探求心						
講義目的											
<p>近年はコンピュータなしの生活は考えられないぐらい情報機器に囲まれている情報化社会となっています。身近な生活はもちろん、職業生活においてもコンピュータの活用は必須です。このような情報化社会の中で、コンピュータを効果的かつ効率的に、また安全に使うことが求められています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目では、情報リテラシーを身につけた上で、パソコンおよび汎用ソフトの基本的な操作を理解し、情報を適切に活用するスキルを身につけること 2. レポートや発表資料などの作成に必要な実践的なスキルを身につけること <p>以上を目的とします。</p>											
授業内容											
<p>実際にパソコン(Windows)を利用し、汎用ソフト(Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint)の使用方法を学び、学生および社会人として必要最低限のPC操作を網羅的に学習します。</p> <p>具体的には、Wordを用いたレポート作成、Excelを用いたデータの集計、PowerPointを用いたプレゼンテーションの作成などについて演習を行います。また、インターネットを使った情報収集などで注意すべきセキュリティと情報モラルを理解し、安全にコンピュータを利用するための知識を身につけることを目指します。</p>											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1	授業オリエンテーション	本科目を受講する上での授業内容・受講上の注意点・機器の利用等について理解することができる。									
2	コンピュータの基礎知識①情報倫理	情報モラルや情報セキュリティといったネット社会で必要な情報倫理を身につけることができる。									
3	コンピュータの基礎知識②Windowsの基本操作	Windowsの基本的な操作をマスターすることができる。									
4	文書作成ソフト(Word)を使う① 基本文書の作成	Wordを用いた文書作成についての基本操作について学習することができる。									
5	文書作成ソフト(Word)を使う② 表現力をアップする	文書の編集や図表の挿入などより表現力のある文書作成スキルをマスターすることができる。									
6	文書作成ソフト(Word)を使う③ 演習：レポートの作成	課題文書をもとにWordを用いてレポートを作成することができる。									
7	表計算ソフト(Excel)を使う① 表の作成	Excelの基本操作と表の作成について学習することができる。									
8	表計算ソフト(Excel)を使う② データの活用	グラフの作成や関数、データベース機能について学習することができる。									
9	表計算ソフト(Excel)を使う③ 演習：集計表の作成	課題データをもとに集計表を作成することができる。									
10	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を使う①PowerPointの基本操作	PowerPointの特長と基本操作について学びプレゼンテーションについて学習することができる。									
11	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を使う②機能の活用	オブジェクトの挿入やアニメーションなどの効果について活用できるスキルをマスターすることができる。									
12	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を使う③演習：プレゼンテーションの作成	課題テーマをもとにプレゼンテーションを作成することができる。									
13	情報処理演習①	課題データをもとにソフト(Word・Excel・PowerPoint)を活用し、資料を作成することができる。									

14	情報処理演習②	課題データをもとにソフト(Word・Excel・Power Point)を活用し、資料を作成することができる。					
15	情報処理演習③発表	作成した資料をもとに発表することができる。					
留意事項（履修条件等）							
<p>初回授業において、授業内容・評価方法等について詳細な注意事項をお伝えしますので、やむを得ず欠席する場合には、必ず後日確認すること。</p> <p>また、学習した知識を活用するためにも積極的に授業に参加してください。</p> <p>※ 習熟状況や進捗状況に応じて授業内容を変更することがあります。</p>							
<p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>							
授業時間外の学修（事前・事後学習）							
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習：</p> <p>教科書を読むこと、また、パソコン操作を積極的に行ってください。</p> <p>事後学習：</p> <p>課題がでますので、しっかり課題に取り組むこと、また、授業内容についてしっかり振り返り、復習するよう心掛けてください。</p>							
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）							
<p>授業前後の時間</p> <p>教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）</p> <p>教科書：『情報リテラシー 改訂版』；FOM 出版 (ISBN 978-4-86510-244-4)</p> <p>資料・参考図書等については授業内で適宜配布・紹介します</p>							
最終到達目標							
<p>パソコンおよび汎用ソフトの基本的な操作を理解し、情報を適切に活用するスキルを身につけること、また、レポートや発表資料などの作成に必要な実践的なスキルを身につけること</p>							
評価方法及び評価基準							
<p>最終レポート 50%</p> <p>平常点 50%※ 配点得点を合計 100 点満点として評価する。</p> <p>※平常点内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題（提出状況・内容評価） ・授業への参加態度・出席率 							
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)							
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)							
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)							
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)							
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)							
学生へのメッセージ							
<p>実践的な授業です。受け身ではなく、積極的に受講してください。特に、パソコンのスキルについては、使った分だけ身に付きます。指示されたことを行うだけでなく、考え方を持つ応用力を持って受講することでさらなるスキルアップにつながります。楽しみながらも頑張って学んでほしいと思っています。</p>							

授業コード	ENC0101			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	○						
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と 倫理観							
授業科目名	日本国憲法	選択・必修	選択		知識・技術							
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力							
担当教員	中曾久雄				探求心							
講義目的												
<ol style="list-style-type: none"> 憲法の歴史的背景、人権保障、権力分立といった憲法の基本的・基礎的諸概念を正確に理解できる。 人権については、憲法の主要判例を手掛かりに、人権の内容、保障範囲を正確に理解できる 統治機構については、各国家機関の役割、さらに、各機関の抱える現代的諸問題を正確に理解できる。 												
授業内容												
日本国憲法を、歴史、国際的人権動向、人権論の動向を柱に理解する。具体的には、日本国憲法を、近代人権成立の過程と大日本帝国憲法との対比により明らかにしたうえで、個別の人権について、判例と国際的な人権動向に基づき学ぶ。統治機構については、日本国憲法が採用している三権分立と内閣、司法、国会という各機構の意義と問題として指摘されている内容を、判例を中心に理解する。個別の人権の中では、教育人権と福祉人権について詳述し、発問と討議により受講生が考察できることを目的とする。												
授業計画及び学習課題												
回	内容	学習課題										
1	憲法の基本概念	憲法の基本概念、憲法の思考枠組みを理解できる										
2	憲法史	憲法の歴史的背景、展開を正確に理解できる										
3	人権の基本概念	人権の基本的概念、人権と公共の福祉、人権の国際動向を理解できる										
4	人権の私人間効力	人権の私人間効力の問題を正確に理解できる										
5	幸福追求権	幸福追求権の保障範囲、射程を正確に理解できる										
6	平等権	平等権の構造、平等権の審査を正確に理解できる										
7	精神的自由権① (思想良心の自由・信教の自由)	思想良心の自由の意義・射程、信教の自由と政教分離を理解できる										
8	精神的自由権②(表現の自由)	表現の自由の構造、基本的諸問題を理解できる										
9	経済的自由権	経済的自由権、社会権の意義・射程を理解できる										
10	社会権	社会権、さらに教育や福祉に関わる人権を理解できる										
11	国務請求権	国務請求権の意義、種類を理解できる										
12	国会と立法権	国会の構造、立法権の意義を理解できる										
13	内閣と行政権	行政の構造、行政権、議院内閣制を理解できる										
14	裁判所と司法権	裁判所の構造、司法権の意義を理解できる										
15	憲法改正・地方自治	憲法改正、地方自治の現代的問題を理解できる										
留意事項（履修条件等）												
<p>学習課題を積極的に予習すること。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>												

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習：予め配布した資料を通読すること。

事後学習：講義で説明した内容をまとめ直すこと。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

授業時間の前後

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

参考書：『ベーシックテキスト憲法 第3版』；君塚正臣編、法律文化社、2017年、2,700円+税
(ISBN 978-4-589-03849-4)

最終到達目標

憲法の基本的概念、さらには、憲法の具体的問題を自分なりに考察できるようになる。

評価方法及び評価基準

筆記試験（90%）、出席および授業への参加度（10%）の総合得点で100点満点とし、60点以上を合格とする。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

興味を持って勉強していただければ幸いです。

授業コード	ENC0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	愛媛を学ぶ	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	森賀盾雄, 八木健				探求心	○	
講義目的							
1.	「俳句王国」とも称される愛媛の俳句文芸の歴史を学ぶこと。俳句とはなにかを知り、俳句の作り方を学ぶこと。						
2.	愛媛県という地域を、文化、歴史、産業、風土、文学、観光資源など多様な切り口から学ぶ。						
3.	本学部に学ぶ学生一人一人が愛媛県についての総合的な理解を深め、特に「おせったい」の文化と精神、人と人とのつながりの大切さを会得する。						
4.	多くの島嶼部と山間部地域を含む愛媛県は、非常に多様性に富む地域である。その愛媛県について様々な側面から学ぶことで、将来看護職として従事する際に、保健医療や健康面を通じた地域貢献、地域連携につながるような知見や知識を、本講義を通じて涵養する。						
授業内容							
1.	俳諧の連歌から俳句への歴史を学ぶ。子規山脈と称される愛媛の俳人群像を概観する。						
2.	俳句の基本を学ぶ 俳句の実作 俳句会の体験。						
3.	グローバル・ローカル両側面から愛媛の地域を多様な視点で取り上げて考察することにより、地域に生きる楽しさ・困難さ・よろこび・課題を学ぶ。						
4.	地域概念から、愛媛県の歴史・産業・風土・文化を取り上げ、地域で暮らすとはこうした多様な具体性の中で生きるということを学ぶ。						
5.	「四国遍路」「保健・医療・看護の本県先進事例」を取り上げて、我が国の「おせったい文化から地域に根差す」包括ケアの思想を学ぶ。また地域で活躍する具体的人材に学ぶことにより「地域で主体的に地域課題に取り組む」意味を考察する。						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	愛媛は俳句王国 なぜでしょう 俳句をつくります あなたも今日から「俳人」です (八木)	★子規山脈の俳人の俳句鑑賞し愛媛の俳句の歴史を知る。 ★季語とはなにかなど俳句の基本を学ぶ ★俳句を作ります。 誰でも簡単に俳人になれます					
2	俳句をアート表現してみましょう 作った俳句を絵にしてみましょう (八木)	★俳句を声に出して読んでみましょう ★作った俳句をアートで表現してみましょう					
3	俳句の楽しさは 俳句を語ることです 話し方もあまくなる (八木)	★句会を楽しみましょう ★俳句を非評し自慢しあうのも楽しいですね					
4	地域とは (森賀)	制度的に決められた地域と、それとは別に伸縮自在の地域という概念を理解できる。					
5	愛媛とは (森賀)	愛媛県を地理的に概観しながら、四国・日本の中での各種のジャンルでのウェイト・意義を考察することにより、地域に暮らす意義が理解できる。					
6	愛媛県の歴史 (森賀)	愛媛県の過去の主な出来事の考察を通して、現在・未来のために地域の歴史を学ぶことの意義が理解できる。					
7	愛媛県の産業Ⅰ農林水産業 (森賀)	愛媛県の農林水産業を具体的実例とデータを通して考察することにより、大地と人の営みの意義が理解できる。					
8	愛媛県の産業Ⅱ商工業 (森賀)	愛媛県の商工業を具体的実例とデータを通して考察することにより、二次・三次産業と地域の暮らしの関係性が理解できる。					
9	愛媛県の産業Ⅲ観光 (森賀)	観光的側面から実例を交えて愛媛県を考察することにより、地域の魅力の源を理解することができる。					
10	愛媛の道と四国遍路 (森賀)	道路が運ぶ四国遍路の起源から今日に至る「おもてなし文化」を考察することにより、旅と生活者の営みから「ケアの思想」					

		を理解できる。
11	保健・看護・医療の愛媛の先進事例 (森賀)	稻葉峯雄の「草の根に生きる」・美須賀病院の「てあ～て」・在宅医療の「ゆうの森」など愛媛の先進事例を通して、地域で人々と共に生きる方向性と意義が理解できる。
12	江戸・東京のなかの愛媛 (森賀)	日本の中央である東京の中の愛媛・伊予のゆかりをおさえることで閉鎖的な地域観ではなく、関係性の中の地域が理解できる。
13	地域再生に挑む愛媛の人たち I (森賀)	地域再生で頑張る人たちの考察を通して、地域に生きる覚悟と使命が理解できる。
14	地域再生に挑む愛媛の人たち II (森賀)	地域再生で頑張る人たちの考察を通して、地域に生きる覚悟と使命が理解できる。
15	地域再生に挑む愛媛の人たちIII (森賀)	地域再生で頑張る人たちの考察を通して、地域に生きる覚悟と使命が理解できる。
留意事項（履修条件等）		
時間厳守、授業中はスマホ・私語・飲食厳禁。分からぬことがあれば積極的に質問すること。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習：テキストの指定した箇所・配布資料によく目を通しておくこと。授業時間に次回までの課題を示しますので、きちんと学習すること。 事後学習：授業で学んだことをよく復習すること。復習できているか小テストで確認します。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
授業時間の前後		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
教科書：句碑マップ 無償にて配布します 教科書：『地域からの未来創生』；望月照彦・森賀盾雄編著、学文社、2,160 円 (ISBN 978-4-7620-2570-9) あとは適宜作成配布して行います。		
最終到達目標		
俳句を理解し俳句を詠むことができる 愛媛という地域の学習を通じて「地域に生きるとは」どのような意義・課題があり、その使命があるかを理解することができる。		
評価方法及び評価基準		
俳句の作品提出と評価 試験 50%、レポート 30%、受講態度 20%など配点得点を合計 100 点満点として評価する。 (八木先生が 3 コマ受け持ちますが、100 点満点で採点いただき試験の 10%分で繰り入れます。)		
成績評価基準（学則第 34 条）		
S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)		
学生へのメッセージ		
私たちの住む日本は豊かな自然環境が私たちの感性、人間性を育んでくれます。地域を愛し、地域に住む人々を愛することによって貴方も愛されて、豊かな人生を送ることができます。本授業を通じて地域で生きていくことの意義を楽ししく学びましょう。		

授業コード	ENC0301			める養成する能力 デイプロマポリシーに定	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と倫理観		
授業科目名	人間関係論	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力		
担当教員	富田英司				探求心		

講義目的

人は、日々誰かと関わりあいながら生活をしている。そのような日常生活における人間関係は、私たちのこころを安定させたり、成長させたりする一方、コミュニケーションそのものがストレスになったりもする。授業では以下のことを学ぶ。

1. 人間関係のプロセスや特徴について理解し、社会における自己と他者の関わりのメカニズムなどを学ぶ。
2. 医療場面や援助場面において、人とのコミュニケーションが果たす役割や相互作用などについて把握する。

授業内容

人間関係の基本的なプロセスやメカニズムについて学習し、私たちの日常生活や支援のための人間関係に関するコミュニケーションについて理解する。

また、対人援助職を目指す者として、様々な場面での援助的コミュニケーションについて体験などを通して学習し、他者と関わるために必要な技法などを把握する。さらに、円滑な人間関係を築くために必要なコミュニケーションとはどのようなものなのかを理解する。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	愛着の機能	人ととの付き合い方のタイプが生まれた当初の主要な養育者の関わり方によって決まることを学ぶことができる。
2	コミュニケーションの男女差	男女によってコミュニケーションの方法が異なることを人間の進化の過程から理解することができる。
3	攻撃のコミュニケーション	世の中にはある一定の割合で、他者を自分の意のままに操ることに長けた人格障害者が存在する。その存在について学び、利用されない方法を学ぶことができる。
4	ダブルバインド	問題のあるコミュニケーションのパターンの1つとしてダブルバインドが知られており、その働きについて理解することができる。
5	偏見の基本的なしきみ	偏見はしばしば問題を引き起こすが、人はなぜ偏見を持つのかその基本的なしきみを理解することができる。
6	偏見を測る	偏見は実は意識に上るものだけではなく、本人さえも気づかないこともある。そのような隠れた偏見を測る方法を体験しながら理解することができる。
7	差別を防ぐには	偏見が差別に繋がらないようにする方法について学ぶことができる。
8	中間まとめ	これまでの内容の理解を確認して、いくつかのテーマについてディスカッションすることができる。
9	コミュニケーションと発達の個人差	アスペルガー症候群の示す中心的な認知機能の特徴とコミュニケーションの特徴との関係を理解することができる。
10	コミュニケーションの文化差	コミュニケーションに関して、文化的な差のいくつかを具体的に理解することができる。

11	支援のコミュニケーション	誰かを助けようとするがなぜ軋轢を生み出したり、相手を弱い立場に追い込んだりしやすいのか理解することができる。
12	看護コミュニケーション能力の発達過程	看護師がその業務を通してどのように典型的に発達するのかを理解することができる。
13	授業内容と日常のコミュニケーションを結びつける	受講生が関心のあるコミュニケーション事象を取り上げ、これまで講義で扱った理論等と結びつけて理解することができる。
14	グループワークによる発表準備	第13回の内容について、プレゼンテーションのための準備をおこなうことができる。
15	プレゼンテーション（口頭試験）	第12回及び第13回の内容を踏まえて口頭発表をおこなうことができる。
留意事項（履修条件等）		
人間関係について、日常生活の身近なできごとから、職業的に必要な知識まで幅広く学ぶ授業です。日々の生活での人との関わり方と関連させながら授業を受けてください。		
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（事前学習・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。		
事前学習：前の時間に関連の文献や資料を紹介するので、それを熟読した上で授業に臨んでください。		
事後学習：授業で配布した資料に基づいて、授業を振り返り、理解を深めてください。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
授業時間の前後		
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）		
資料はオンラインで配布します。携帯端末やノートパソコンを授業中にご活用ください。		
参考書『身近な人の「攻撃」がスーッとなくなる本』 2012年 水島広子（著） 大和出版 ISBN-13: 978-4804762012		
『ステレオタイプの社会心理学—偏見の解消に向けて』 2002年 上瀬由美子（著） サイエンス社 ISBN 978-4781910055		
『精神の生態学』 2000年 グレゴリー・ベイトソン（著） 新思索社 ISBN 978-4783511755		
最終到達目標		
コミュニケーションの個人差を様々な面から理解し、他者との円滑な人間関係を実践することができる。 対人援助職に必要な人間関係を理解することができる。		
評価方法及び評価基準		
最終発表20%、最終発表の準備に対する貢献20%、授業での質問や議論への参加30%、提出物30%など配点得点を合計100点満点にして評価する。		
成績評価基準（学則第34条） S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)		
学生へのメッセージ		
授業中に日常生活と照らし合わせながら、理解することにつとめ、できるだけ授業中に質問やコメントをおこなうようことを期待します。自分の関心が強いテーマを見つけ、それを中心に学びを広げてください。		

授業コード	ENC0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と倫理観		
授業科目名	教育心理学	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力		
担当教員	富田 英司				探求心		
講義目的							
教育心理学は非常に幅の広い学問分野であるが、この講義では、その中でも特に人がどのように知的に成長し、学ぶことができるのか、様々な現代の諸理論を通して、最新の知見を学ぶ。							
授業内容							
この授業は教育心理学の中心的なトピックとして、知能の獲得過程に関する領域、人の学習過程の特徴に関する領域、学習への動機づけに関する領域の3部で構成されています。受講生は、これら3領域についてそれぞれ複数の研究を理解することを通して、学校における学びに留まらず、人の本的な学びに対する理解を広く深く掘り下げることができる。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	オリエンテーション	教育心理学の歴史や領域について理解できる。					
2	知能の獲得過程①:スキャフォールディング	母子の相互作用のあり方から人の学びの原理について理解できる。					
3	知能の獲得過程②:ヴィゴツキーの概念発達理論	概念的な発達がどのように進むのか、ヴィゴツキーの理論から理解できる。					
4	知能の獲得過程③:文化と思考	文化的な実践がどのように思考の発達と関係するか理解できる。					
5	知能の獲得過程④:話し合いと人の学び	話し合いをとおして人がどのように発達するか理解できる。					
6	知能の獲得過程⑤:メタ認知とその発達	メタ認知がどのように発達するか理解できる。					
7	人はどう学ぶか①:人は教えられたことを学ぶことができるか?	人の基本的な学びの方法は教わることではなくて、自分から学ぶことであることを理解できる。					
8	人はどう学ぶか②:人の学びは常にコミュニティへの参加を通して進む	人の学びは知識の獲得ではなく、所属集団内のアイデンティティ変容過程の副産物として生じることを理解できる。					
9	人はどう学ぶか③:人の学びは常に常に協働プロジェクトを通して学ぶ	人の成長は現実の問題に対して、他者と共同し、理論的な学びを通してはじめて生じることを理解できる。					
10	人はどう学ぶか④:人の学びは様々な場所と機会を結びつけながら進む	趣味の世界を発展させる過程から、人の学びの特性を理解できる。					
11	人はいつ学びたくなるのか①:動機づけの古典的な理論	期待理論などの古典的な動機づけの理論について学ぶ。					
12	人はいつ学びたくなるのか②:自己決定理論	現在、広く支持されている最新の動機づけ理論について学ぶ。					
13	人はいつ学びたくなるのか③:評価のあり方の影響	評価の方法を変えることでどのように動機づけが変わるか理解できる。					
14	人はいつ学びたくなるのか④:人の興味はどのように発達するのか	興味に基づいた学習の展開過程で人がどのように動機づけを高めていくか理解できる。					
15	まとめ	これまでの学習内容を総合して、人の学びにおける特徴について理解することができる。					

留意事項（履修条件等）
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。
授業時間外の学修（事前・事後学習）
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（事前学習・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。
事前学習：前の時間に関連の文献や資料を紹介するので、それを熟読した上で授業に臨んでください。
事後学習：授業で配布した資料に基づいて、授業を振り返り、理解を深めてください。
オフィスアワー
授業時間の前後に質問を受け付けて対応します。 E メール (tomida@ehime-u.ac.jp) でも対応可能です。
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
資料はオンラインで配布します。携帯端末やノートパソコンを授業中にご活用ください。
参考書
<ul style="list-style-type: none"> ● 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』 1993 年 ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウェンガー（著） 産業図書 ISBN-13: 978-4782800843 ● 『人を伸ばす力』 1999 年 エドワード・デシ、リチャード・フラスト、（著） 新曜社 ISBN-13: 978-4788506794
最終到達目標
人がどのように学ぶのか、教育心理学の諸理論ではどのように考えられているか、専門的な概念を用いて説明することができる。
評価方法及び評価基準
期末試験 60%、小レポートおよび授業への参加状況 40%など配点得点を合計 100 点満点として評価する。
成績評価基準（学則第 34 条） <p>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
授業中に日常生活と照らし合わせながら、理解することにつとめ、できるだけ授業中に質問やコメントをおこなうようことを期待します。自分の関心が強いテーマを見つけ、それを中心に学びを広げてください。

授業コード	ENC0501			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と 倫理観		
授業科目名	フィットネススポーツ	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力		
担当教員	佐野 和幸				探求心		
講義目的							

運動は体力を向上させるだけでなく、健康維持及び成人病対策に有効である。また、運動をすることによりストレスを解消すると共に、ストレスマネジメントを学ぶことで、自己管理能力の向上を促し、生涯スポーツに進展する実践力を身につける。授業では、ダンス及びダンス系フィットネスの効果を活用しながら、他者と協力するグループワークで、社会人基礎力に必要なアクション・シンキング・チームワークの3要素を理解すると共に、自己効力感やコミュニケーション能力の向上を目的とする。

授業内容

ダンス及びキックスを通して体力の向上を図ると共に、自己の心と体と向き合いながら他者と協力して課題を達成することによりコミュニケーション能力の向上を図る。

具体的には、リズムダンスⅠでは、音楽に合わせて踊ることに挑戦し他者と交流しながら課題を克服する方法を考え実践する。また、キックスでは体力向上やストレス解消だけでなく、真剣に相手と向き合う姿勢を学ぶ。さらに、リズムダンスⅡでは、他者と共に一つのダンス作品を組み立てることで、協力しながら体を動かし一つの物事を達成していく過程を学ぶ。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	社会人基礎力について/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/レクリエーションダンス	体力向上、健康維持及びストレスマネジメントの観点から運動の必要性を理解し、自己の運動に対する意識を高めることができる。 体ほぐし運動やレクリエーションダンスを通して体を動かすこととの効果を実感できる。
2	ウォームアップ/ストレッチ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク//リズムダンスⅠ(振付①)	ウォームアップやストレッチを行うことで、自己の体の特性や課題を発見し、課題克服に向けて意識を高めることができる。 振付を覚えて踊るという課題に向き合い、失敗しても粘り強く、自らの力で挑戦することができる。
3	ウォームアップ/筋肉・体幹トレーニング/体ほぐし運動/コミュニケーションワークリズムダンスⅠ(振付②)	自己の体を維持、向上させていくために必要な筋肉とその特性を理解できる。 振付を覚えて音楽に合わせて踊ることに挑戦し、自己の課題と向き合いながら、生き生きと踊ることができる。
4	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅠ(振付③)	他者と共に振付を覚えて踊り、人と協力する向き合い、チームの課題を共有し、課題解決に向けて取り組むことができる。
5	ダンス、ミニツツテストⅠ	リズムダンスⅠの内容に全力で取り組み、他者と協力して課題を乗り越えることができる。
6	体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/キックス	キックスにおける体の使い方及び基本の動き①(ストレート、フック、アッパー、ガード)について理解し実践することができ、相手としっかり向き合うことができる。
7	ウォームアップ/ストレッチ/筋肉・体幹トレーニング/キックス	キックスにおける基本の動き②(膝蹴り、前蹴り、回し蹴り)について理解し実践することができ、相手としっかり向き合うことができる。 キックスにおける基本の動き①②を、音楽に合わせて全力で実践することができる。
8	キックス	キックスにおける基本の動きの組み合わせを理解し実践でき、相手としっかり向き合うことができる。
9	ウォームアップ/キックス、ミニツツテストⅡ	音楽に合わせて組み合わせの動きを行い、キックスを通して他者と真剣に向き合うことができる。

10	体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ	6~8人のグループで行うリズムダンスを他者と協力し踊ることができる。自ら積極的にダンスに取り組み、失敗しても前に一步踏み出し、仲間と共に全力で踊ることができる。
11	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ	自己の課題とグループの課題に向き合い、自ら発信し他者に働きかけながら取り組むことができる。
12	リズムダンスⅡ	グループで課題について議論し、成果発表に向けての大まかなダンスの内容を組み立てることができる。自らが情報を発信すると共に、仲間の意見を聞きながら、内容を組み立てることができる。
13	ウォームアップ/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ	課題に対してグループで議論することで、独創的な発想を生み出し、人と同じではなく自分達ならではの要素を取り入れたダンスを組み立てることができる。
14	リズムダンスⅡ	グループで課題の内容を深め、ひと流れで踊ることができる。一人一人が生き生きと踊り、ダンスを通して体を動かすことの大切さを実感することができる。
15	まとめとミニッツテストⅢ	成果発表。ダンスを通して発見した課題に向き合い、グループで協力しダンス作品を発表することができる。

留意事項（履修条件等）

- ・動きやすい恰好で上履き用のシューズを持ってきてください。
- ・必ず汗をかくので水分も忘れず持ってきてください。
- ・全講義終了後にレポート提出があり評価の対象とします。
- ・確認テストのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

- ・科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。
- ・事前学習：ダンス及びダンス系フィットネスを使い、体力の向上とコミュニケーション能力の向上を行っていくにあたり、自身の体力や内面的な課題を知っておくことが明確な課題達成に繋がっていきます。
- ・事後学習：ミニッツテストが3回あります。課題は各講義で段階的に伝えていきます。講義中に与えられた課題に対して内容を理解し、課題達成には何が必要か考えて実践できる準備を心掛けてください。また、体ほぐし運動やストレッチ等も講義内で行っていくので、日々の生活で体を動かすことを意識し、生涯スポーツにも繋げてもらいたいです。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

授業時間の前後

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

テコンドー用ミット

最終到達目標

運動の必要性を理解し、自己の課題と向き合うと共に他者と協力し課題を乗り越えることができる。

評価方法及び評価基準

授業への取り組み及び態度 50% ミニッツテスト 30% レポート 20%など配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準（学則第34条）

- | |
|--|
| S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure) |

学生へのメッセージ

上手く踊れる必要はありませんが、課題に対して全力で取り組む姿勢が必要です。また、他者とのコミュニケーションを自らとるように心掛けて臨んでください。

授業コード	ENC0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と倫理観		
授業科目名	体育実技	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力		
担当教員	田中雅人				探求心		
講義目的							
1) 自己の健康や体力を保持増進させるための目的や方法を説明できる. 2) 健康や体力を保持増進させ、スポーツに親しむための具体的な運動方法を実践できる. 3) スポーツの楽しさを体感し、仲間とコミュニケーションをとりながら、主体的に取り組むことができる.							
授業内容	<p>体力測定を行い、自己の体力について理解したのち、体力を保持増進させるための方法について学習する。また、ストレッチングの方法を学習し、スポーツ活動によるケガの予防について理解する。</p> <p>フライングディスク、ネット型ボールゲーム、ゴール型ボールゲームに必要な用具やボールの操作を学習するとともに、各スポーツのルールについて理解する。また、学習した基本的な技能を用い、仲間とコミュニケーションをとりながらゲームが展開できることを目指す。</p> <p>健康や体力を保持増進させるための目的や方法を理解し、今後のライフプランを作成することで、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣を身に付ける。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	ストレッチング 体力測定	1) ストレッチングの方法を説明できる. 2) 体力を測定する方法を説明できる.					
2	ゲーム (1) アルティメット	1) フライングディスクの操作に慣れる. 2) フライングディスクを使ったゲームを展開できる.					
3	ゲーム (1) アルティメット	1) アルティメットのルールを説明できる. 2) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる.					
4	ゲーム (1) アルティメット	1) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる. 2) 仲間と連携した動きでゲームを展開できる.					
5	ゲーム (2) バドミントン	1) ラケットの操作に慣れる. 2) バドミントンのルールを説明できる.					
6	ゲーム (2) バドミントン	1) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる. 2) 仲間と連携した動きでゲームを展開できる.					
7	ゲーム (2) バドミントン	1) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる. 2) 仲間と連携した動きでゲームを展開できる.					
8	ゲーム (2) バドミントン	1) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる. 2) 仲間と連携した動きでゲームを展開できる.					
9	ゲーム (2) バドミントン	1) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる. 2) 仲間と連携した動きでゲームを展開できる.					
10	ゲーム (3) インディアカ	1) インディアカのルールを説明できる. 2) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる.					
11	ゲーム (4) ソフトバレーボール	1) ソフトバレーボールのルールを説明できる. 2) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる.					
12	ゲーム (4) ソフトバレーボール	1) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる. 2) 仲間と連携した動きでゲームを展開できる.					
13	ゲーム (5) バスケットボール	1) バスケットボールのルールを説明できる. 2) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる.					

14	ゲーム（5） バスケットボール	1) 基本的な技能を使ってゲームを展開できる。 2) 仲間と連携した動きでゲームを展開できる。
15	理論：スポーツと健康	1) 健康や体力を保持増進させるための方法を説明できる。 2) 健康や体力の保持増進に留意したライフプランを作成できる。
留意事項（履修条件等）		
運動に適したウェア、シューズを使用し、ケガ防止のため装飾品等は身に付けない。 筆記用具を準備する。		
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。		
事前学習：必要に応じて配付する資料を用いて、ゲームのルールや学習方法を理解する。		
事後学習：学習したストレッチングやトレーニングの方法を用いて、体力の保持増進に努める。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
メールアドレス：m-tanaka@ehime-u.ac.jp		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
教科書： なし		
最終到達目標		
スポーツの楽しさを体感するとともに、健康や体力を保持増進させるための運動を実践できる。		
評価方法及び評価基準		
学習態度の観察（50%）、実践スキルの観察（30%）、レポート（20%）など配点得点を合計 100 点満点として評価する。		
成績評価基準（学則第34条） S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)		
学生へのメッセージ		
QOL（生活の質・人生の質）を高める手段のひとつとして、スポーツは重要な役割を担っています。また、スポーツは、自発的で自由な活動です。生涯に渡って幸福で豊かな生活を送るために、スポーツを楽しむ習慣を身に付けて欲しいと思います。		

授業コード	ENC0701			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と倫理観		
授業科目名	社会・環境と健康	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力		
担当教員	岡 靖哲				探求心		
講義目的	<p>人間の社会的側面についての基本的な理解を通じて、生活基盤、ライフスタイルの変化にともなう健康への影響について学習する。ライフステージごとの家族・健康の課題を理解し、国際的な社会・医療の動向とも対比しながら、日本人が取り組むべき、健康を増進するためのアプローチについて学習する。</p>						
授業内容	<p>① 現代社会の特徴と、健康・QOL・ライフスタイル・生活習慣病の関連について学ぶ。</p> <p>② ライフステージ別の家族・健康の課題について学習する。</p> <p>③ 社会・健康・医療の国際的動向の理解を通じて、我が国の健康・医療をめぐる問題点を考える。</p> <p>④ 健康を増進するための科学的進歩と、最新医療の貢献と問題点について学習する。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	現代社会の特徴：社会変動と健康	社会の24時間化の影響を理解できる					
2	個人の生活構造とライフスタイル	個人の生活時間・ライフスタイルを理解できる					
3	ライフスタイルと健康・疾病	生活習慣病の背景にある生活習慣を理解できる					
4	ライフステージ別の家族・健康の課題（1）	乳幼児期から児童期の家族・健康を理解できる					
5	ライフステージ別の家族・健康の課題（2）	青年期の家族・健康を理解できる					
6	ライフステージ別の家族・健康の課題（3）	成人期の家族・健康を理解できる					
7	ライフステージ別の家族・健康の課題（4）	老年期の家族・健康を理解できる					
8	人間にとっての集団・組織	社会の集団・病院組織の機能を理解できる					
9	個人・集団における協業と対立	医療現場におけるコンフリクトを理解できる					
10	地域社会とコミュニティ	健康をサポートするネットワークを理解できる					
11	社会・健康のグローバリゼーション（1）	国際社会の多様性と健康の関わりを理解できる					
12	社会・健康のグローバリゼーション（2）	医療システムの多様性を理解できる					
13	社会・健康のグローバリゼーション（3）	先進国と途上国の医療の違いを理解できる					
14	生命倫理	生殖医療・再生医療・遺伝学を理解できる					
15	ヘルスプロモーションとメンタルヘルス	健康行動と科学との関連を理解できる					

留意事項（履修条件等）
科目的単位を修得するにあたり、授業終了時のミニレポート（5分）はその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行います。
授業時間外の学修（事前・事後学習）
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。
事前学習：テキストに目を通して事前に概要を把握するとともに、事前に提示する課題がある場合は事前に学習して講義に臨んでください。
事後学習：課題レポートがある場合は次回の授業までに提出してください。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
授業時間の前後
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：『ナーシング・グラフィカ 健康と社会・生活 健康支援と社会保障①』：平野かよ子、メディカ出版、2016年、2600 円税 (ISBN 978-4-8404-4912-0)
最終到達目標
現代社会における健康をめぐる課題を理解し、健康を増進するために看護が果たせる役割について考えることができることを目標とします。生活基盤、ライフスタイルの変化にともなう健康への影響について学習するとともに、ライフステージごとの家族・健康の課題を理解し、国際的な社会・医療の動向とも対比しながら、日本人が取り組むべき、健康を増進するためのアプローチについて理解できることを目指します。
評価方法及び評価基準
筆記試験 (60%)、出席・課題・小テストおよび授業への参加度 (40%) など配点得点を合計 100 点満点として評価する。
成績評価基準（学則第 34 条） <p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
将来に看護師として仕事をするうえで、知りたい社会、集団、環境、ライフスタイルといった背景と、健康・医療についての基礎的な知識を学びます。国際社会とのかかわりも増えてくることから、社会・健康の国際化（グローバリゼーション）についても解説します。授業では、ビデオや動画も交えて、最新の社会・健康の動向を学びます。

授業コード	ENC0801			定める 能力 ディプロマ ポリシーに よる 育成する 能力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と 倫理観	○	
授業科目名	家族社会学	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	岡 多枝子				探求心	○	

講義目的

家族は社会を構成する基本単位であり、家族社会学を修めることは成員である学生にとって当事者研究としても意義がある。本講義の目的は、家族の成立と変遷を概観して家族の形態や機能、役割を理解するとともに、今日の多様化する家族が抱える生活・健康課題に保健・医療専門職としてどのように関わっていくか、アクティブラーニングを通して主体的・対話的に学び深く考察することである。

授業内容

授業は以下の内容から構成し、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。

1. 近代家族の成立(家族の形態・機能・役割、産業・人口・経済の変化と家族)
2. 多様化する家族の生活・健康課題(結婚・妊娠・出産・子育て・就業)
3. 生活・健康課題の援助(ジェンダー・セクシュアリティ・貧困・疾病・障害・高齢化・グローバル化と社会的孤立・社会的包摂)
4. アクティブラーニング活動とグループ KJ 法

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	オリエンテーション：家族社会学の概念と本 科目の目的・内容・方法・評価	家族社会学の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定 する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案することができる。
2	1. 近代家族の成立(家族の社会的役割や 機能・形態)	家族の社会的役割や機能・形態に関して、教科書や図書館の文献資 料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
3	1. 近代家族の成立(産業・人口・経済の変 化と家族)	産業・人口・経済の変化と家族に関して、教科書や図書館の文献資 料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
4	1. 近代家族の成立(単元の総括と小テスト ①)	近代家族の成立に関するグループ発表と全体討論を行い、社会的背 景との関係や機能を考察し、学習課題を小テストで確認する能够。
5	2. 多様化する家族(結婚・妊娠・出産・子育 て・就業)	結婚・妊娠・出産・子育てに関して、教科書や図書館の文献資 料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
6	2. 多様化する家族(就業・男女雇用均等 法・新たな制度)	就業・男女雇用均等法・新たな制度に関して、教科書や図書館の文献資 料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
7	2. 多様化する家族(単元の総括と小テスト ②)	多様化する家族に関するグループ発表と全体討論を行い、社会的背 景との関係や機能を考察し、学習課題を小テストで確認する能够。
8	3. 生活・健康課題の援助(ジェンダー・セク シュアリティ)	ジェンダー・セクシュアリティに関して、教科書や図書館の文献資 料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
9	3. 生活・健康課題の援助(貧困・疾病・障 害・高齢化・国際化・社会的包摂)	貧困・疾病・障害・高齢化・国際化・社会的包摂に関して、教科書や図書 館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。
10	3. 生活・健康課題の援助(単元の総括と小 テスト③)	生活・健康課題に関するグループ発表と全体討論を行い、社会的背 景との関係や機能を考察し、学習課題を小テストで確認する能够。
11	4. アクティブラーニング活動(計画の立案と 準備)	近代家族の成立、多様化する家族、生活・健康課題の援助に関するア クティブラーニング活動の計画立案と準備を行うことができる。
12	4. アクティブラーニング活動(計画の実施)	近代家族の成立、多様化する家族、生活・健康課題の援助に関するア クティブラーニング活動を行うことができる。
13	4. グループ KJ 法の実施(第 1 段階)	家族社会学の学習成果をもとに、グループで協力して狭義の KJ 法(ラ ベル作成・統合・図解作成)を行うことができる。

14	4. グループ KJ 法の実施(第2段階)	家族社会学の発表資料 KJ 法図解をもとにグループで叙述化とプレゼンテーションを行い、全体で学習課題の発展と深化を共有することができる。										
15	総括:家族社会学の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外での学びの成果を発表し自己評価・グループ評価を行うとともに、保健・医療専門職として適切な家族支援のあり方を考えることができる。										
留意事項（履修条件等）												
家族社会学は看護教育を支える基礎科目であり、保健師コースの選択必修科目であるため、家族を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うなど主体的な学修が求められる。確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目の単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。												
事前学習（毎回 2 時間）：												
教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出してください。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、隨時、科目担当教員と相談の上で進める。												
事後学習（毎回 2 時間）：												
個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
時間：火・木曜日の昼休みと放課後												
場所：研究室 714												
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）												
教科書：『問い合わせはじめる家族社会学—多様化する家族の包摂に向けて—』；有斐閣ストゥディア、岩間暁子、大和礼子、田間保子、2015 (ISBN 978-4-641-15016-4) 1800 円+税												
教具：リフレクションシート（400 円）												
※この教具は他科目と共通のため 1 冊購入すれば良い（教科書販売と同時）。												
最終到達目標												
看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、家族の成立と役割や諸課題を理解した上で、家族が抱える生活・健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、家族社会学に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。												
評価方法及び評価基準												
期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト（3 回）を実施する。評価の比率は、期末試験成績（60%）、小テスト（20%）、発表を含む学習活動（20%）で総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。												
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) :</td> <td>学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) :</td> <td>学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) :</td> <td>C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) :	C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)											
A(89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)											
B(79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)											
C(69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)											
D(59 点以下) :	C のレベルに達していない (Failure)											
学生へのメッセージ												
<p>① 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出してください。</p> <p>② シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。</p> <p>③ リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。</p>												

授業コード	ENC0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目一人間と生活の理解				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	生命倫理学	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力		
担当教員	野元 正弘				探求心		
講義目的							
1.	医療の現場で倫理的問題の起こる場面を理解できる。						
2.	インフォームド・コンセントの歴史と現状を説明できる。						
3.	生命倫理学の原理原則について説明できる。						
4.	出生をめぐる倫理問題を理解し、生殖補助医療、出生前診断等について説明できる。						
5.	さまざまな形の死を理解し、脳死は人の死かという質問に答えられる。						
6.	尊厳死、安楽死、緩和ケアの用語を十分説明できる。						
授業内容							
20世紀後半から今日に至る医療技術の進歩は、医療の現場においてさまざまな倫理的問題を提起してきた。医療に従事する看護師は生命倫理についてその概略を心得ておく必要がある。具体的には、脳死、臓器移植、生殖補助医療、緩和ケア、尊厳死、安楽死など医学的内容を理解するとともに、どこに倫理的問題が存在するのかを明らかにできなくてはならない。その場合、共通の課題として医療におけるインフォームド・コンセントの重要性とその実態について理解を深めておく。脳死判定、脳死症例の家族の悩み、臓器提供における本人の意思、生体移植における臓器提供者の立場、体外受精に伴う親子関係、人生の最終段階の医療体制と患者の意思などは、倫理的問題と関係することが多い。生命倫理が問われるような問題では、当事者はもとよりその親しい周辺の人々にもいろいろな悩みや葛藤が見られるので、この講義では看護学的アプローチによる支援の可能性を考察する。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	生命倫理学とは何か	①生命に関する新たな倫理的問題を理解できる。 ②生命倫理学に関する生物学的知識を理解できる。					
2	生命倫理学の今日的課題	①生命医学倫理における四原則を理解できる。 ②四原則に当てはまらない生命倫理を理解できる。					
3	医療現場での生命倫理学的問題と医療従事者の持つべき人間性	② 健康、疾患、病気について理解できる。 ②医療現場での医療者と患者の関係、医療従事者の持つべき人間性を理解できる。					
4	インフォームド・コンセント	①インフォームド・コンセントについて理解できる。 ②同意能力のない患者に対するインフォームド・コンセントについて理解できる。					
5	医療現場における守秘義務と個人情報保護	①患者の守秘義務の重要性が理解できる。 ②守秘義務の例外について考察できる。					
6	医学研究と生命倫理	① 臨床研究の目的と方法を理解できる。 ② ヘルシンキ宣言の内容と目的を理解できる。					
7	人工妊娠中絶と出生前診断	①人工妊娠中絶の倫理的問題を理解できる。 ②出生前診断の倫理的問題を理解できる。					
8	生殖補助医療	①生殖補助医療の現状を理解できる。 ②生殖補助医療の倫理的問題を理解できる。					
9	新生児医療	①新生児医療の現状を理解できる。 ②出生をめぐる生命倫理学的問題を理解できる。					
10	死の定義	①さまざまな死の基準を理解できる。 ②死の定義の倫理的問題が理解できる。					

11	脳死に関する倫理的考察	①脳死とはどのような状態か理解できる。 ②脳死の判定基準を理解できる。
12	臓器移植	①さまざまな臓器移植を理解できる。 ②臓器移植の倫理的問題が理解できる。
13	患者のQOLと医療における患者の権利	①患者のQOLが問題となる倫理学的領域を理解できる。 ②患者の権利に関する倫理学的問題を理解できる。
14	終末期医療	①終末期医療をめぐる倫理学的問題が理解できる。 ②延命治療の中止・継続に関する倫理学的問題を理解できる。
15	安楽死を尊厳死	①安楽死に関する倫理学的問題が理解できる。 ②尊厳死に関する倫理学的問題が理解できる。

留意事項（履修条件等）

生命倫理では職業として医療に従事する時に要求される倫理的事項を取り上げる。高校で倫理の授業がなかった人、倫理の授業を受けたがつまらなかった人も、是非この講義を通じて生命倫理を理解していただきたい。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。教材に示した参考書を少なくとも 1 冊は読んでくる。

事前学習：教科書および参考書を用いて、講義内容の予習を 1 時間程度を目安に行う。

事後学習：講義プリント、講義時にとったノートおよび教科書、参考書を用いて、1 時間程度の復習を行う。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

授業時間の前後

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書は特に指定しないが、参考書として以下のものを利用する。

「生命倫理と医療倫理」 伏木信次、樋則章、霜田求 編、金芳堂、2600 円 (ISBN 978-4-7653-1598-2)

「生命倫理学入門」 今井道夫著、産業図書、2400 円、(ISBN 978-4-7828-0213-7)

「看護のための生命倫理」 小林亜津子著、ナカニシア出版、2400 円 (ISBN 978-4-7795-0479-2)

「本当にわかる倫理学」 田上孝一著、日本実業出版社、1500 円 (ISBN 978-4-534-04774-8)

「もう一度読む山川倫理」 小寺聰 編、山川出版社、1500 円 (ISBN 978-4-634-59071-7)

最終到達目標

臨床現場で遭遇する生命倫理学的問題を持つ症例について合理的（筋道立てて）に考えることができる。
医療に関するあらゆる生命倫理学的問題に適切に対応できる。

評価方法及び評価基準

筆記試験あるいはレポート(85%)、出席および授業への参加度(15%)の総合得点とし、60 点以上を合格とする。
配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

生命倫理では、職業として医療に従事するときに遭遇する必須の内容を取り上げる。看護師としての豊かな人間性、課題を解決できる実力をつけてほしい。

授業コード	ENC1001			定める養成する能力 デイサービスセンターに デイプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と 倫理観	○	
授業科目名	社会福祉学	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	岡 多枝子				探求心	○	
講義目的	<p>今日、保健・医療・福祉は再編成されて保健所と福祉事務所が「保健福祉センター」に統合され、病院が「在宅介護支援センター」や「デイサービスセンター」を設置するなど、看護職が患者の生活への総合ケアマネジメントの視点が求められる。本講義の目的は、「生活と福祉」、「社会福祉の歴史と援助技術」、「福祉制度や施策」を理解するとともに、生活・健康課題に保健・医療専門職としてどう関わっていくかアクティブラーニングを通して主体的・対話的に深く学び考察することである。</p>						
授業内容	<p>授業は以下の内容から構成し、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。</p> <p>1.「生活と福祉(保健・福祉・医療の連携、社会福祉の定義、グループリーダー)」 2.「社会福祉の歴史と援助技術(近代国家と社会福祉の潮流、高度経済成長と福祉政策、ソーシャルワークとケアマネジメント)」 3.「福祉制度と施策(福祉6法、社会福祉基礎構造改革と社会福祉法)」 4. アクティブラーニング活動とグループ KJ 法</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	オリエンテーション:社会福祉学の概念と本 科目の目的・内容・方法・評価	社会福祉学の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案することができる。					
2	1. 生活と福祉(保健・福祉・医療の連携、社 会福祉の定義)	保健・福祉・医療の連携、社会福祉の定義に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
3	1. 生活と福祉(ライフスタイル、グループリ ーダー)	ライフスタイル、グループリーダーに関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
4	1. 生活と福祉(単元の総括と小テスト①)	生活と福祉に関するグループ発表と全体討論を行い、看護職者に求められる社会福祉の視点を考察し学習課題を小テストで確認することができる。					
5	2. 社会福祉の歴史と援助技術(近代国家と 社会福祉の潮流)	近代国家と社会福祉の潮流に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
6	2. 社会福祉の歴史と援助技術(高度経済成 長と福祉政策、SW とケアマネジメント)	高度経済成長と福祉政策、SW とケアマネジメントに関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
7	2. 社会福祉の歴史と援助技術(単元の総 括と小テスト②)	社会福祉の歴史と援助技術に関するグループ発表・全体討論・看護職者に求められる視点の考察・小テストによる課題の確認を行う。					
8	3. 福祉制度と施策(福祉6法)	福祉6法に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
9	3. 福祉制度と施策(社会福祉基礎構造改革 と社会福祉法)	社会福祉基礎構造改革と社会福祉法に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
10	3. 福祉制度と施策(単元の総括と小テスト ③)	福祉制度と施策に関するグループ発表と全体討論を行い、専門職連携のあり方を考察するとともに、学習課題を小テストで確認することができる。					
11	4. アクティブラーニング活動(計画の立案と 準備)	生活と福祉、社会福祉の歴史と援助技術、福祉制度と施策に関するアクティブラーニング活動の計画立案と準備を行うことができる。					
12	4. アクティブラーニング活動(計画の実施)	生活と福祉、社会福祉の歴史と援助技術、福祉制度と施策に関するアクティブラーニング活動を行うことができる。					
13	4. グループ KJ 法の実施(第1段階)	社会福祉学の学習成果をもとに、グループで協力して狭義の KJ 法(ラベル作成・統合・図解作成)を行うことができる。					

14	4. グループ KJ 法の実施(第2段階)	社会福祉学の発表資料 KJ 法図解をもとにグループで叙述化とプレゼンテーションを行い、全体で学習課題の発展と深化を共有することができる。
15	総括:社会福祉学の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外での学びの成果を発表し自己評価・グループ評価を行うとともに、保健・医療・福祉の専門職連携のあり方を考えることができる。
留意事項（履修条件等）		
社会福祉学は看護教育を支える基礎科目であるため、社会福祉を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うなど主体的な学修が求められる。確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目的単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。		
事前学習（毎回 2 時間）：		
教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、随時、科目担当教員と相談の上で進める。		
事後学習（毎回 2 時間）：		
個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
時間：火・木曜日の昼休みと放課後		
場所：研究室 714		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
教科書：『新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③社会福祉 第 10 版』；メディカルフレンド社、山崎泰彦、鈴木眞理子（ISBN 978-4-8392-3318-1）※前期の社会保障論の履修生は購入の必要なし。		
教具：リフレクションシート（400 円）		
※この教具は他科目と共通のため 1 冊購入すれば良い（教科書販売と同時）。		
最終到達目標		
看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、社会福祉の概念と役割や諸課題を理解した上で、家族が抱える生活・健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、社会福祉学に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。		
評価方法及び評価基準		
期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト（3 回）を実施する。評価の比率は、期末試験成績（60%）、小テスト（20%）、発表を含む学習活動（20%）で総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。		
成績評価基準（学則第 34 条）		
S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）		
A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）		
B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）		
C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）		
D(59 点以下)：C のレベルに達していない（Failure）		
学生へのメッセージ		
① 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。 ② シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。 ③ リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。		

授業コード	ENC1101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	○					
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と倫理観					
授業科目名	教育社会学	選択・必修	選択		知識・技術					
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力					
担当教員	西川千登世				探求心					
講義目的										
<p>教育とは、学校教育だけでなく、社会と密接に関連しています。個人は、社会との相互作用の中で、様々な影響を受けながら社会化していきますが、社会が急激に変容していく現代社会においては、社会事象を理解するとともに、教育とは何か、学びとは何かということを考える必要があります。本科目では、社会問題や社会病理に対する知見を深め、その影響（教育現象）について理解し、自ら考えることのできる力を養うことを目的とします。</p>										
授業内容										
<p>現代社会に起きている社会問題や社会病理といった社会事象を学びながら、個人に与える影響（教育現象）について理解を深めるとともに、グループワークを通じて、問題解決の方法を探求していきます。</p> <p>具体的には、乳児期や幼児期、学童期、青年期、老年期といった各ライフステージにおける社会的事象を取り上げ、知見を深めるとともに、グループワークやディスカッションおよび発表を通じて、自ら考える力（クリティカルシンキング）を養うことを目指します。</p>										
授業計画及び学習課題										
回	標 題	学習課題								
1	授業オリエンテーション	本科目を受講するまでの授業内容・受講上の注意点等についてのガイダンスを行うことができる。								
2	社会の理解	社会の枠組み、近年の社会変化、社会との相互作用における教育との関連について学ぶことができる。								
3	ワーク①社会問題について考える	グループワーク：現代社会の事象（問題）について考えることができる。								
4	子どもの教育①家族と子育て	家族の在り方や子育てに起きている問題について理解を深めることができる。								
5	子どもの教育②学校問題	いじめや不登校など学校で起きている問題について理解を深めることができる。								
6	ワーク②子どもの問題について考える	グループワーク：現代社会の事象（問題）について考え、問題解決に向けたディスカッションを行うことができる。								
7	青少年の生活①職業生活	就職・離職等を含めた職業生活に関する問題について理解を深めることができる。								
8	青少年の生活②結婚生活	恋愛や結婚、男女共同参画を含めた問題について理解を深めることができる。								
9	ワーク③青少年の問題について考える	グループワーク：現代社会の事象（問題）について考え、問題解決に向けたディスカッションを行うことができる。								
10	マイノリティの理解①ジェンダー	ジェンダーに関する知識と問題について理解を深めることができる。								
11	マイノリティの理解②逸脱行動	非行、薬物、差別などの問題について理解を深めることができる。								
12	ワーク④マイノリティの問題について考える	グループワーク：現代社会の事象（問題）について考え、問題解決に向けたディスカッションを行うことができる。								
13	高齢期の学習：生涯学習社会	生涯学習社会についての知識と高齢期の問題について理解を深めることができる。								

14	メディアと教育	マス・コミュニケーションだけでなく、電子メディアの発達が与える影響や問題について理解を深めることができる。
15	ワーク⑤教育について考える	グループワーク：これまでに学んだ知見を活かし、教育の問題についてディスカッションを行うことができる。

留意事項（履修条件等）

初回授業において、授業内容・評価方法等について詳細な注意事項をお伝えしますので、やむを得ず欠席する場合には、必ず後日確認すること。また、学習した知識を活用するためにも積極的に授業に参加してください。

※受講生の興味関心や進捗状況に応じて授業内容を変更することができます。

グループワークや課題のフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：社会の様々な問題について興味関心を持ってください。具体的には、新聞を読む、書籍を読むなどして現代社会の現象について知識を得るような学習を心掛けてください。

事後学習：課題が出来ますので、しっかり課題に取り組むこと、また、授業内容についてしっかり振り返り、復習するよう心掛けてください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

授業時間の前後

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：指定はしませんが、必要に応じて参考図書等を購入することをお勧めします。

資料・参考図書等については授業内で適宜配布・紹介します。

最終到達目標

社会問題や社会病理に対する知見を深め、教育現象について理解し、自ら考えることのできる力を養うこと、また、論理的に考える力を身に付けること

評価方法及び評価基準

最終レポート 60%

授業への参加態度※ 40% 配点得点を合計 100 点満点として評価する。

※評価内容

- ・ワークへの積極的な参加
- ・授業に臨む姿勢および出席率

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

知識を学ぶことだけが授業ではありませんので、様々な視点で考えること、積極的に授業で発言することなど主体的に参加してください。受講生の皆さんの興味・関心に応じて、授業内容を変更することができますので、問題意識をもって受講されることを望みます。

授業コード	ENC1201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	社会保障論	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	岡 多枝子				探求心	○	
講義目的							
社会保障は救貧や防貧にとどまらず、国民生活の保障と生活の安定を図る視点が求められている。本講義の目的は、「社会保障の概念・歴史・制度体系」、「社会保険制度」、「社会保障制度の動向」を理解するとともに、今日の多様化する生活・健康課題に保健・医療専門職としてどのように関わっていくか、アクティブラーニングを通して主体的・対話的に深く学び考察することである。							
授業内容							
授業は以下の内容から構成し、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。1. 社会保障の概念・歴史・制度体系(社会保障概念の形成・社会保障の定義と歴史・制度の分類と目的・方法)」2. 日本の社会保険制度(医療保険・介護保険・年金保険・雇用保険・労災保険・高齢者医療制度・診療報酬制度)」3. 社会保障制度の動向(少子高齢社会・社会保障制度改革・マイナンバー制度)」4. アクティブラーニング活動とグループKJ法							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	オリエンテーション:社会福祉学の概念と本科目の目的・内容・方法・評価	社会保障の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案することができる。					
2	1. 社会保障の概念・歴史・制度体系(社会保障概念の形成・社会保障の定義と歴史)	社会保障概念の形成・社会保障の定義と歴史に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
3	1. 社会保障の概念・歴史・制度体系(制度の分類と目的・方法)	定義と歴史・制度の分類と目的・方法に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
4	1. 社会保障の概念・歴史・制度体系(単元の総括と小テスト①)	社会保障の概念・歴史・制度体系に関するグループ発表と全体討論、社会保障の概念を考察し、学習課題を小テストで確認することができる。					
5	2. 日本の社会保険制度(医療保険・介護保険・年金保険・雇用保険・労災保険)	医療保険・介護保険・年金保険・雇用保険・労災保険に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
6	2. 日本の社会保険制度(高齢者医療制度・診療報酬制度)	高齢者医療制度・診療報酬制度に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
7	2. 社会保険制度(単元の総括と小テスト②)	社会保険制度に関するグループ発表と全体討論を行い、社会的背景との関係や機能を考察し、学習課題を小テストで確認することができる。					
8	3. 社会保障制度の動向(少子高齢社会)	少子高齢社会・核家族化に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
9	3. 社会保障制度の動向(少子高齢社会・社会保障制度改革・マイナンバー制度)	社会保障制度改革・マイナンバー制度に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
10	3. 社会保障制度の動向(単元の総括と小テスト③)	社会保障制度の動向に関するグループ発表、全体討論と考察を行い、小テストによって学習課題を確認することができる。					
11	4. アクティブラーニング活動(計画の立案と準備)	社会保障の概念・歴史・制度体系、社会保険制度、社会保障制度の動向に関するアクティブラーニング活動の計画立案と準備を行うことができる。					
12	4. アクティブラーニング活動(計画の実施)	社会保障の概念・歴史・制度体系、社会保険制度、社会保障制度の動向に関するアクティブラーニング活動の計画立案と準備を行うことができる。					
13	4. グループKJ法の実施(第1段階)	社会保障論の学習成果をもとに、グループで協力して狭義のKJ法(レベル作成・統合・図解作成)を行うことができる。					
14	4. グループKJ法の実施(第2段階)	社会保障論の発表資料KJ法図解をもとにグループで叙述化とプレゼンテーションを行い、全体で学習課題の発展と深化を共有することができる。					

		る。										
15	総括社会保障論の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外での学びの成果を発表し自己評価・グループ評価を行うとともに、保健・医療専門職としての社会保障への視点を説明できることができる。										
留意事項（履修条件等）												
社会保障論は保健師コースの選択必修科目であるため、社会保障を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うなど主体的な学修が求められる。確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目の単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。												
事前学習（毎回 2 時間）：												
教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、随時、科目担当教員と相談の上で進める。												
事後学習（毎回 2 時間）：												
個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
時間：火・木曜日の昼休みと放課後												
場所：研究室 714												
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）												
教科書：『新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③社会福祉』；メディカルフレンド社、山崎泰彦、鈴木眞理子（ISBN 978-4-8392-3318-1）2000 円+税												
教具：リフレクションシート（400 円）												
※この教具は他科目と共通のため 1 冊購入すれば良い（教科書販売と同時）。												
最終到達目標												
看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、社会保障の機能と役割や諸課題を理解した上で、生活・健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、社会保障論に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。												
評価方法及び評価基準												
期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト（3 回）を実施する。評価の比率は、期末試験成績（60%）、小テスト（20%）、発表を含む学習活動（20%）で総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。												
成績評価基準（学則第 34 条） <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>S(100~90 点) :</td> <td>学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) :</td> <td>学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) :</td> <td>C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) :	C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)											
A(89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)											
B(79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)											
C(69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)											
D(59 点以下) :	C のレベルに達していない (Failure)											
学生へのメッセージ												
① 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。 ② シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。 ③ リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。												

授業コード	ENC1301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに ○	
科目区分	基礎科目一人間と生活の理解				
授業科目名	哲学	選択・必修	選択		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		
担当教員	森川 孝吉				
講義目的					
医療のあり方が患者の意思を尊重するものへと変貌しつつある、そうした時代に医療に携わるものが患者と人間として共有できるものは何か?を、考慮することを迫られている。そうした観点から現代人として日々突き当たる諸問題に真正面から向かい合い、反省的思考ができる資質を形成することを目指す。					
授業内容					
共感、人間的愛、人間的自由、正義といったテーマを深めていく。これらは誰もが関心を持つ一方、古今東西で絶えず思考され、論じられてきたテーマでもある。古典的文献における代表的主張を踏まえながら、現代的テーマとして再構築していく。					
授業計画及び学習課題					
回	標 題	学習課題			
1	他者への関心 共感(1) 共感の本質	単一の源泉をもつ感情の伝染による共感と、二つの源泉（当事者を取り巻く事情と想像力）を持つ共感の区別を把握し、前者の限界を見極めることができる。			
2	他者への関心 共感(2) 共感の成立条件	観察者から当事者に寄り添うだけでは、共感は成立しない。当事者が観察者視点を身に着ける必要性を理解することができる。			
3	他者への関心 共感(3) 賢者の原理と弱さ	他者から称賛されることを目的とするのではなく、他者からの称賛に値することを目指すことが、社会道徳の腐敗を防ぐカギを握ることを把握することができる。			
4	他者への関心 共感(4) 自然の欺瞞と秩序	公平な観察者が供する限りにおける自己利益の追求は、それが人間の心の弱さから発生するものであっても、社会の繁栄に貢献しうるなど市民的徳性に関わること。併せて人間の幸福について思索を深めることができる。			
5	人間存在の本質と他者(1) 愛の諸類型	愛の古典的諸類型の理解を通して、それが快楽や有用性とは区別されること。また人間的愛を築くには相互性が基調になることを理解することができる。			
6	人間存在の本質と他者(2) 愛は'Art'か「感情」か?	愛は感じ取られるだけのものではなく、むしろ本質的にはアーティストや技術者と同じく修練や努力によって磨き上げられるものであることを理解することができる。			
7	人間存在の本質と他者(3) 自己愛と人類愛	「自分自身を愛せない人は他者をも愛せない」という命題の意味を理解すること、また愛は二人の愛が成就するのは、二人の世界に閉じ込もることではなく、世界に開かれた関係であってこそ可能であることについて認識を深めることができる。			
8	公共性と私(1)自由 バーリンと消極的自由	現代自由論の一つの典型を示すバーリンの消極的自由の概念から、個人が他者から干渉されるべきではない領域の意味を理解することができる。			
9	公共性と私(2)自由 アーレント行為の自由	社会生活を送る人間が自由を語る場合、単なる内面、暗がりの自由ではなく、他者と語り合い行為する公共的空間が必要であることについて認識を深めることができる。			
10	公共性と私(3)正義 ロールズ 無知のヴェールの下での正義の原理の選択	「最大多数の最大幸福」を目指すことが正義だと考える功利主義的正義観に潜む問題性、また社会における公正な配分は善行 Beneficence の問題か正義 Distributive Justice の問題かを考えることができる。			
11	公共性と私(4)正義 サンデル 公共性の衰退と正義	優生思想が戦後国際的に断罪されたのは、断種を国家が推奨したことか問題なのか（→個人の選択に委ねれば可?）、優生思想そのものが			

		はらむ問題なのかを把握しうる正義の原理を考えることができる。
12	公共性と私(5)正義 セン 現実指向型対比視点と包括的結果主義	制度の正しさとそれが運用された際に生じる不公正のどちらに焦点を当てるべきか、また不正一般の破棄ではなく、ますより大きな悪を避ける選択がなぜ有効なのか理解を深めることができる。
13	公共性と私(6)正義 マリオン・ヤング 正義の責任	特定の誰かの責任とはいいがたい問題に対して、個々人がその責任においてどう立ち向かうべきか理解を深めることができる。
14	死生観を考える ハイデッガーとサルトル、アーレント	各人が自己固有の死の意味を深く考えることが善き生をもたらすのか、むしろ今ある生の意味を深めることができがよき生と死をもたらすことになるのか対極的な思想を通して理解を深めることができる。
15	まとめ	これまでの講義内容の振り返りをすることで理解を深めることができる。

留意事項（履修条件等）

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習：シラバスの学習課題に目を通し、それぞれの講義で何がテーマとなるか事前にイメージを抱いておくこと。

事後学習：講義の中で提示された諸問題を一人で振り返ってみる時間を確保しよう。そこで培った発想法、思考方法が普段の日常生活や人生の岐路に立った時役立てるために。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

授業時間の前後

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：なし。毎回原則としてプリント資料を配布する。

参考書：『道徳感情論』；アダム・スミス、講談社、1,998 円 (ISBN 978-4-06292-176-3)

『ニコマコス倫理学』；アリストテレス、京都大学学術出版会、5,076 円 (ISBN 978-4-87698-138-0)

『愛するということ』；フロム、紀伊国屋書店、1,363 円 (ISBN 978-4-31400-558-6)

『自由論』；バーリン、みすず書房、6,048 円 (ISBN 978-4-62204-974-6)

『過去と未来の間』；アーレント、みすず書房、5,184 円 (ISBN 978-4-62203-648-7)

『正義論』；ロールズ、紀伊国屋書店、8,100 円 (ISBN 978-4-31401-074-0)

『これからのはじめ』；サンデル、早川書房、972 円 (ISBN 978-4-15050-376-5)

『正義のアイデア』；セン、明石書店、4,104 円 (ISBN 978-4-75033-494-3)

『正義への責任』；マリオン・ヤング、岩波書店、4,212 円 (ISBN 978-4-00025-963-7)

最終到達目標

既存の価値観を疑い、再構築する勇気と寛容性を涵養する。

評価方法及び評価基準

学期末に実施する教場試験の結果を基本とするが、テーマごとに課すレポートの評価を加点材料とする。合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

大学生活の意義は、これまでの半生の中で自然に身につけてきた価値観や思考法を問い合わせる機会が得られるところにあります。こうした作業が本来の意味の教養の形成ということになります。こうした過程を経ないまま大人になった人は周りの刺激に順応することしかできない、自我の欠けた大人になってしまいます。勢いそうした人たちで満たされた社会は、潤いのない殺伐とした社会となります。そうした社会にあっても人間固有の豊かさと潤いを発信できるような自我を形成するために人は哲学を学ぶのです。

授業コード	ENC1401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○					
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と倫理観						
授業科目名	芸術の世界	選択・必修	選択		知識・技術						
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力						
担当教員	菅春二				探求心	○					
講義目的											
この講義では、みなさんの日常生活の中にある“芸術の世界”に気づき、知り、体験し、話し合うことで、毎日が楽しく（例えばファッショントレンドから友達との会話まで）、心豊かな生活を送るための「ちょっとしたヒント」を修得することとあわせて、コミュニケーション能力を高めることを目指します。											
授業内容											
色が人のこころや体に与える影響、どのような見え方をするのかなどを具体事例により解説しながら、それを体験、修得するため、コマづくり、風景写真撮影、天然の素材（石や鉱物、貝殻ほか）での絵具作り、縄や木を使った古代の模様つくり等を、①知り学ぶ②つくる③みんなで話し合う（検証、自己表現とコミュニケーションのため）という方法で授業を行います。また、声や表情のつくり方の練習を行いながら、プレゼンテーション、会話等の実技体験も行います。											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1	はじめに (色と形、声と顔の表情)	講義の目的、流れを理解し、終了時の達成目標が確認できる。声と表情による印象の変化に気づく。									
2	私の好きな色Ⅰ「知る」	色と人間・色の好み等色が人に及ぼす影響や選択の心理が理解できる。									
3	私の好きな色Ⅱ「作る」	「ベンハムのコマ」つくり等、人間の色の見え方の理論が体験できる。									
4	私の好きな色Ⅲ「話す」	これまでの講義内容を他人に伝えることで、コミュニケーション能力の必要性、難しさを認識できる。									
5	物はどう見えるⅠ	物体、陰影、色の重なりや線がもたらす錯覚や遠近法について理解できる									
6	物はどう見えるⅡ	二次元の世界の表現方法を通じて、古代人の感覚を学ぶことができる									
7	自分の部屋やまちの風景に見られる“芸術の世界”Ⅰ	自分の部屋・まちの風景にある色の影響や遠近法を見つけ、芸術が身近なものであることに気づくことができる。									
8	自分の部屋やまちの風景に見られる“芸術の世界”Ⅱ	身近な題材をテーマに話し合い、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を養うことができる。									
9	色をつくってみようⅠ	自然・天然の素材から、簡単な色づくりを学ぶことができる。									
10	色をつくってみようⅡ 自然がつくった色で絵具作り	絵具作りをとおして、ものづくりの理論やその簡単な構造を体験、学習することができる。									
11	色をつくってみようⅢ ラピスラズリ（青い宝石）の不思議な魅力	ラピスラズリを例に、人間が太古から現代まで築いてきた、色と人とのかかわりを学ぶことができる。									
12	色をつくってみようⅣ	第9～11回の内容、成果を話し合い、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を養うことができる。									
13	模様を考えるⅠ 1万年前の模様	模様の起こりや始まり、作り方を体感することができる。									
14	模様を考えるⅡ	コミュニケーション・プレゼンテーション能力が向上したことに気づくことができる。									

15	まとめ	目標の達成度を確認し、確認受講後の生活への活用方法を見つけることができる。						
留意事項（履修条件等）								
<p>授業中の私語、携帯電話、スマートフォン（タブレット等も含む）の使用や飲食は禁止します。</p> <p>トイレの際は講師に申し出てください。</p> <p>意欲的、積極的に授業に参加してください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>								
授業時間外の学修（事前・事後学習）								
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習：テキストとして配布する資料はよく目を通してください。 次回授業までに課題を確認してください。</p> <p>事後学習：事業で学んだ事を良く復習してください。 適宜小テストなどで確認します。</p>								
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）								
授業時間の前後								
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）								
<p>教科書：適宜資料は用意し、配布します。</p>								
最終到達目標								
<p>太古より人間が深くかかわってきた“色や模様”“二次元や遠近法”等「芸術の世界」をヒントに、自分の身近なところから、ライフスタイルの変化や豊かな心を養うために必要な知識、手法を習得するとともに、コミュニケーション能力を養うことを目標とします。</p>								
評価方法及び評価基準								
<p>レポート 50% 試験 30% 受講態度 20% など配点得点を合計 100 点満点として評価する。</p> <table border="1" data-bbox="198 1325 1333 1560"> <tr> <td>成績評価基準（学則第34条）</td> </tr> <tr> <td>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			成績評価基準（学則第34条）	S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下)：C のレベルに達していない (Failure)
成績評価基準（学則第34条）								
S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)								
A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)								
B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)								
C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)								
D(59点以下)：C のレベルに達していない (Failure)								
学生へのメッセージ								
<p>コミュニケーションを深め、新しい発見や喜び、感動を一緒に見つけていきましょう。</p>								

授業コード	ENC1501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○				
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と倫理観					
授業科目名	日本の歴史と文化	選択・必修	選択		知識・技術					
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力					
担当教員	山内 謙				探求心					
講義目的										
大学生として必要な歴史的教養を身に付けるとともに、社会的諸問題を歴史的に考察する力を養う。										
授業内容										
近現代史上の諸問題を取り上げ、世界の動きと関連させながら、明治・大正・昭和の各時代はそれぞれどのような歴史的特質を持っていたのか、また現代社会はどのようにして出来上がったのか、などについて考察する。										
授業計画及び学習課題										
回	標 題	学習課題								
1	ペリー来航と開国	ペリー来航の目的、新しく締結された条約の内容、開国による社会の混乱などについて理解することができる。								
2	坂本龍馬とは何者か	幕末期の政治的変動の推移を、この時期のキーパーソンともいるべき坂本龍馬の動きと関連させて理解することができる。								
3	明治維新とはどのような変革か	明治維新という社会的変革の特質を、世界のできごとと関連させながら理解することができる。								
4	立憲国家の成立	大日本国憲法の内容や歴史的意義を、明治期の社会の動きの中で理解することができる。								
5	日清・日露戦争	日清・日露戦争の原因や経過について、中国・朝鮮・ロシアの動きと関連付けて理解することができる。								
6	第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦と日本のかかわりや戦後の社会の変化について理解することができる。								
7	大正デモクラシーと市民文化	政党内閣の成立や大正デモクラシーの新しい社会的風潮、その中で生まれた市民文化の様相について理解できる。								
8	軍部の台頭	経済の破綻などによって、軍国主義が台頭し、二・二六事件などによって社会のあり方が変わっていく状況について理解できる。								
9	第二次世界大戦の始まり	ファシズムの台頭によって第二次世界大戦が始まり、日独伊三国同盟などによって日本が戦争に向かっていく状況について理解できる。								
10	太平洋戦争と国民生活	日米交渉の決裂による太平洋戦争の始まり、悲惨な戦争の経過、それによる国民生活の崩壊などについて理解できる。								
11	占領と改革	太平洋戦争の終結によって占領が始まり、社会的混乱の中で、様々な民主的改革が行われることを理解できる。								
12	冷戦と講和	東西両陣営による冷戦が始まり、その影響を受けて占領政策が転換し、講和条約の締結によって独立が回復される過程について理解できる。								

13	高度成長と社会の変貌	朝鮮戦争の特需によって経済復興がなされ、高度経済成長によって国民生活の様相が大きく変化することを理解できる。					
14	世界の中の日本	どのようにすれば戦争や大規模災害を防ぐことができるか、また、今後国際社会の中でどのように生きていくべきか、などについて考えることができる。					
15	まとめ	講義内容を振り返り、学習内容について総合的に考察することができる。					
留意事項（履修条件等）							
<p>現代社会との関連を考えながら、歴史の大きな流れをつかむように学習してください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>							
授業時間外の学修（事前・事後学習）							
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習：前時の学習プリントの確認（10 分？）</p> <p>事後学習：紹介した参考文献の活用（20 分？）</p>							
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）							
授業時間の前後							
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）							
<p>教科書：</p> <p>毎時間学習プリントを配布する。</p>							
<p>参考書：</p> <p>必要に応じて参考図書を紹介する。</p>							
最終到達目標							
<p>1 各時代の特質や社会の移り変わりについて正しく理解することができる。</p> <p>2 社会的諸問題を時間の流れの中で考える歴史的思考力が身に付く。</p>							
評価方法及び評価基準							
<p>基礎的事項が身についているかどうかを確認するミニレポート 20%、歴史の流れが理解できているかどうかを見る試験 70%、平常の受講態度 10%などを総合的に勘案して評価する。</p>							
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)							
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)							
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)							
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)							
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)							
学生へのメッセージ							
<p>毎時間配布する学習プリントの内容をよく確認し、歴史の流れをつかんでおくこと。</p>							

授業コード	ENC1601			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	基礎科目—人間と生活の理解				広い視野と 倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	経営学の基礎	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	森賀盾雄				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
<p>1. 大学生のキャリア教育の基礎いわば社会人としての必須教養として、広く社会経済への関心を促すとともに、企業・産業と経済の問題について考える力を涵養することを意図し、経営学の入門的知識を修得させる。</p> <p>2. アップトゥデイトな話題を紹介しつつ、企業論的視点から、企業行動に関する基礎知識を修得させるとともに、経済主体の一つである企業行動の影響を理解させ、産業の動向や日本経済の実際を広く理解させるよう展開していく。</p>							
授業内容							
<p>今日の企業経営・NPO運営にとって「マネジメント」「イノベーション」「マーケティング」は必要不可欠な理論であることから、この三つの基礎理論と関連性について具体的適用事例を含めて学ぶ。</p> <p>具体的には、マネジメントの発明者であるドラッカーの発明に至る背景から今日的広がり、営利・非営利の組織等におけるマネジメントの共通性と違い、イノベーション理論、今日的マーケティング論の世界、我が国経営学者が生み出した知識経営論、ボディケア・ライフケアのユニ・チャームの経営、チーム医療におけるマネジメントの基礎的理論を学ぶ。</p>							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	マネジメントの誕生	ドラッカーのマネジメント論誕生の背景と目的を考察することによりマネジメントの今日的重要性が理解できる。					
2	マネジメントの広がり	営利・非営利のあらゆる分野へのマネジメントの広がりを考察することにより、マネジメントなくして生きていけない時代が理解できる。					
3	企業マネジメントと地域マネジメント	営利を目的にする企業マネジメントと非営利を目的とする地域マネジメントの違いと共通点を考察することにより、マネジメントがより深く理解できる。					
4	イノベーションとは	「ビジネスにはマーケティングとイノベーションを通した顧客創造が大事」とドラッカーは指摘している。マネジメントとの関連でイノベーションの重要性を考察することにより事業経営の基礎的フレームが理解できる。					
5	マーケティング論Ⅰ	「市場志向の戦略づくり」を考察することにより今日的マーケティングの狙いが理解できる。					
6	マーケティング論Ⅱ	「戦略志向の組織体制づくり」を考察することにより今日的マーケティングの組織の在り方が理解できる。					
7	マーケティング論Ⅲ	「顧客との接点のマネジメント」を考察することにより今日的マーケティングの顧客第一主義が理解できる。					
8	マーケティング論Ⅳ	「組織の情報リテラシーを確立する」を考察することにより、今日的マーケティングの情報活用が理解できる。					
9	知識経営Ⅰ	日本の経営論の到達点である「知識経営論」が生み出された哲学が理解できる。					
10	知識経営Ⅱ	日本の経営論の到達点である「知識経営論」の基本的内容を理解できる。					
11	知識経営Ⅲ	日本の経営論の到達点である「知識経営論」の適用事例を考察することにより知識経営論の真髄が理解できる。					

12	ユニ・チャームの経営	我が国マーケティング最優良企業であるユニ・チャームの経営を創業から発展経過を考察することにより、企業経営の具体例を通して経営の在り方が理解できる。
13	看護イノベーションⅠ	ナイチンゲール・ドラッカー・クリスティンセンに学ぶ組織を生き生きとさせるイノベーションが理解できる。
14	看護イノベーションⅡ	ナイチンゲール・ドラッカー・クリスティンセンに学ぶ組織を生き生きとさせるイノベーションが理解できる。
15	チーム医療と経営	医者・看護師・療法士・栄養士等の専門職連携によるチーム医療のマネジメントの在り方を考察することによりキュア・ケアの連携について理解することができる。

留意事項（履修条件等）

授業中に発表を求めます。授業中は飲食・スマホ・私語厳禁。

分からぬことがあれば積極的に質問すること。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：授業開始までに事前学習の心構えと内容をお知らせします。テキストの予習必要部分を適宜示しますので読んでおくこと。さらに授業の展開過程で課題レポートの提出を求めますからレポートを仕上げてくること。

事後学習：毎回の授業の終了時までに事後学習の内容を提示します。授業で習ったことを考察しながら復讐すること。事後学習が出来ているかを確認するため適宜小テストを行います。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

授業時間の前後

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：『マーケティングを学ぶ』；石井淳蔵著、筑摩書房、2010 年、(ISBN 978-4-48006-530-8)

参考書：『ドラッカーマネジメント』NHK「100 分 de 名著」ブックス；上田惇生著、NHK 出版、2012 年、(ISBN 978-4-14-081520-5)

最終到達目標

看護の専門職として組織や地域を経営的視点で活躍するための基礎的能力を獲得する。

評価方法及び評価基準

試験 50%、レポート 30%、受講態度 20%など配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

見て矢を射ることこそよけれ、届かずとも、屋根よりは、高からん(志を高くもてということです。)

授業コード	END0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性							
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能				広い視野と倫理観							
授業科目名	解剖生理学 IA	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	昆 和典				探求心	○						
講義目的												
生命の基本単位である細胞の構造と細胞を取り囲む内部環境の恒常性を理解し、身体の活動を行うための情報伝達を担う神経系について理解を深める。												
授業内容												
細胞を取り囲む内部環境では特に浸透圧、pHについて述べる。神経系については、生体の内外から到達する刺激に対して、情報処理センターである中枢神経系の対応と指令を全身の各部に伝える末梢神経の働きについて述べる。												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	細胞の構造と機能	生体を形づくる細胞が、最小の生命単位として機能していることを理解できる。										
2	組織の種類と機能 人体各器官の機能概説	細胞の集合体である組織の種類とその機能について理解できる。人体各器官の機能などについて理解できる。										
3	内部環境の恒常性の維持-1	細胞の生命維持に必要な内部環境の条件(浸透圧、pH、電解質組成など)について理解できる。										
4	内部環境の恒常性の維持-2	細胞の生命維持に必要な内部環境の条件(浸透圧、pH、電解質組成など)について理解できる。										
5	内部環境の恒常性の維持-3	細胞の生命維持に必要な内部環境の条件(浸透圧、pH、電解質組成など)について理解できる。										
6	内部環境の恒常性の維持-4	細胞の生命維持に必要な内部環境の条件(浸透圧、pH、電解質組成など)について理解できる。										
7	興奮性細胞の生理	活動電位、シナプスによる興奮伝達などについて理解できる。										
8	筋の種類と機能	筋の種類とそれぞれの機能について理解できる。										
9	筋収縮の仕組み	筋収縮の仕組みについて理解できる。										
10	神経系の分類と中枢神経系の成り立ち	神経系の分類と中枢神経系の成り立ちについて理解できる。										
11	中枢神経系の機能	中枢神経系の機能について理解できる。										
12	末梢神経系の成り立ち	末梢神経系の成り立ちについて理解できる。										
13	末梢神経系の機能	末梢神経系の機能について理解できる。										
14	神経系による運動調節	神経系による運動機能の調節について理解できる。										
15	神経系による内蔵機能調節	神経系による内蔵機能について理解できる。										
留意事項（履修条件等）												
当日の講義内容に基づいた小テストを7回ほど実施。												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。

毎回配布するプリントに必要事項を書き込むこと。

事前学習：前の授業での復習

事後学習：プリントに書き込んだ事項の整理

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業時間の前後

教材

教科書:「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 第4版」林正 健二 (メディカ出版)

ISBN : 978-4-8404-5374-5

最終到達目標

講義は配布したプリントを中心に行う。後に教科書で自習する際、教科書に記述されている内容が理解できる。

評価方法及び評価基準

定期試験 90%、確認テスト（小テスト）10%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している(Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある(Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている(Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない(Failure)

学生へのメッセージ

授業で説明していることを配布したプリントに書き入れることを心掛けてください。

授業コード	END0201			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性						
科目区分	専門基礎科目—人体の構造と機能				広い視野と 倫理観						
授業科目名	解剖生理学Ⅱ A	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	○					
担当教員	本田和男				探求心	○					
講義目的											
生体を構成する各臓器について、その構造と働きに関する基礎的な知識を習得する。 臓器の正常の構造と機能を正しく理解することにより、機能障害や疾病と関連づけて、臨床で必要とされる基本的な知識を習得する。											
授業内容											
循環器（心臓、血管系、リンパ系）、血液、生体防御（免疫）系、呼吸器（上気道、気管、肺）について、各々の構造と機能について学習する。それぞれの臓器について、臨床的に頻度の高い代表的な疾患の病態と関連付けながら、正常な働きと機能不全状態のちがいを理解する。											
授業計画及び学習課題											
回	標 題	学習課題									
1	心臓の構造と機能	心臓の仕組みと働きを理解することができる。 心電図の原理を知ることができる。									
2	動脈系	動脈の構造と機能を知ることができます。 主要な動脈の名前を言える。									
3	静脈系と門脈系	静脈と門脈のちがいを理解することができます。 消化器から肝臓への血流を理解することができます。									
4	リンパ系	リンパ管とリンパ節の働きを知ることができます。 胸管について理解することができます。									
5	血液の機能と成分	血液を構成する成分を知ることができます。 生体内での物質輸送の重要性を理解することができます。									
6	赤血球と白血球	赤血球の重要な働きを理解することができます。 白血球の種類とそれぞれの機能を理解することができます。									
7	血小板と凝固因子	血液凝固のメカニズムを学習することができます。 線溶系の仕組みを理解することができます。									
8	免疫系のしくみ	生体防御のメカニズムを知ることができます。									
9	獲得免疫系	抗原に対する生体の反応を理解することができます。 液性免疫と細胞性免疫について学ぶことができます。									
10	自然免疫系	自然免疫系の働きを理解することができます。 獲得免疫との関係を学習することができます。									
11	感染症・アレルギー・自己免疫疾患	感染症での免疫の役割を学習することができます。 アレルギーや自己免疫疾患の病態を理解することができます。									
12	上気道、気管、気管支	気道の構造を理解することができます。 誤嚥のメカニズムを知ることができます。									
13	肺	肺の構造と働きを理解することができます。 肺胞でのガス交換を学ぶことができます。									
14	呼吸の生理学	酸素・炭酸ガス交換を細胞レベルから理解することができます。									

		換気のメカニズムを学ぶことができる。
15	呼吸の調節	呼吸中枢のはたらきを知ることができる。 呼吸による体液の酸塩基平衡調節の重要性を知ることができます。
留意事項（履修条件等）		
解剖生理学は医学知識を学ぶ上で基礎となる科目で非常に重要です。 病気を理解するためには、あらかじめ正常な体の仕組みと働きを知識として身につけておくことが必要です。 科目の単位を修得するにあたり、授業時間以外の自主的な学習が必要です。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。 事前学習：あらかじめ講義内容に該当する教材に目を通しておき、読めない専門用語や疑問点、よく理解できない部分を整理しておくこと。 事後学習：講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。 確認テストの前に必ず講義内容を復習すること。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
火曜日 3時限 場所：研究室704		
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）		
教科書：「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 第4版」；林正健二、メディカ出版、 ISBN：978-4-8404-5374-5		
参考書：「人体の構造と機能 第4版」；内田さえ、佐伯由香、原田玲子編 医歯薬出版、 ISBN：978-4-263-23595-9 「看護機能形態学 生活行動からみるからだ 第4版」；菱沼典子、日本看護協会出版会、 ISBN：978-4-8180-2061-0		
最終到達目標		
各々の臓器の構造とはたらきを説明できる。 代表的な疾病と関連づけて、臓器の正常なはたらきと機能不全の状態を理解する。		
評価方法及び評価基準		
期末試験、関連分野の講義数回終了毎に行う確認試験（ミニテスト）、出席率と受講態度、必要に応じてレポート提出など配点得点を合計100点満点として総合評価する。		
成績評価基準（学則第34条） <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)</p>		
学生へのメッセージ		
医学を学ぶ上で、すべての基本となる重要な科目です。 患者さんの病気を理解するためには、まず正常な臓器の構造とそのはたらきを知っていなければなりません。 正常なからだのしくみとはたらきのどこかに異常がおきた状態が病気なのです。 1年生のうちに、この基本的な知識をしっかり身につける必要があります。		

授業コード	END0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性								
科目区分	専門基礎科目—人体の構造と機能				広い視野と倫理観								
授業科目名	解剖生理学ⅠB	選択・必修	必修		知識・技術	○							
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○							
担当教員	本田和男				探求心	○							
講義目的													
生体を構成する各臓器について、その構造と働きに関する基礎的な知識を習得する。臓器の正常の構造と機能を正しく理解することにより、機能障害や疾病と関連づけて、臨床で必要とされる基本的な知識を習得する。													
授業内容できる													
消化器（口腔、食道、胃、小腸、大腸、肝臓・胆嚢・脾臓）、泌尿器（腎臓、尿管、膀胱、尿道）、内分泌系（脳、甲状腺、脾臓、副腎）、生殖器について、各々の構造と機能について学習する。それぞれの臓器について、臨床的に頻度の高い代表的な疾患の病態と関連付けながら、正常な働きと機能不全状態のちがいを理解する。													
授業計画及び学習課題													
回	標 題	学習課題											
1	咀嚼と嚥下	咽頭・喉頭の構造を理解し、咀嚼・嚥下運動の重要性を知ることができる。											
2	消化（胃・小腸）	胃と小腸の構造を知り、食物消化にはたす役割を理解する。胃酸の分泌調節について学ぶことができる。											
3	消化（肝胆脾）	肝臓と胆嚢の構造と働きを理解する。外分泌器官としての脾臓の役割を知ることができる。											
4	吸収	糖質・脂肪・タンパク質・ビタミン・水の吸収のメカニズムを学ぶことができる。											
5	排泄	小腸と大腸の構造と機能のちがいを知ることができる。排便のメカニズムを理解することができる。											
6	腎臓の構造と機能	尿として老廃物を排出するしくみを理解することができる。体液の調節の仕組みを学ぶことができる。											
7	尿管・膀胱・尿道	尿路系の構造と機能を知ることができる。											
8	排尿の生理	排尿の神経支配を理解することができる。失禁、排尿困難などの病態を理解することができる。											
9	脳の内分泌機能	視床下部・下垂体・松果体の機能を知ることができる。ホルモン分泌量の調節の仕組みを学ぶことができる。											
10	甲状腺と副甲状腺	甲状腺ホルモンの働きと調節を学ぶことができる。血中カルシウム濃度調節での副甲状腺の役割を知ることができる。											
11	脾臓・副腎・生殖腺	脾臓、副腎皮質、副腎髄質のホルモンについて学ぶことができる。性ホルモンの分泌メカニズムを知ることができます。											
12	女性生殖器の構造と乳腺	卵巣・子宮・膣の構造とはたらきを知ることができます。乳腺の構造を知ることができます。											
13	性周期と妊娠・出産	妊娠に伴うホルモン環境の変化を知ることができます。受精から出産までの過程を学ぶことができます。											

14	男性生殖器の構造	睾丸・前立腺・陰茎の構造とはたらきを知ることができます。
15	男性生殖器の機能と年齢変化	生殖機能の成長と老化の過程を理解することができます。

留意事項（履修条件等）

解剖生理学は医学知識を学ぶ上での基礎となる科目で非常に重要です。
病気を理解するためには、あらかじめ正常な体の仕組みと働きを知識として身につけておくことが必要です。
科目的単位を修得するにあたり、授業時間以外の自主的な学習が必要です。
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。

事前学習：あらかじめ講義内容に該当する教材に目を通しておき、読めない専門用語や疑問点、よく理解できない部分を整理しておくこと。

事後学習：講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。
確認テストの前に必ず講義内容を復習すること。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

火曜日 3 時限

場所：研究室 704

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 第4版」；林正健二、メディカ出版、
ISBN：978-4-8404-5374-5

参考書：「人体の構造と機能 第4版」；内田さえ、佐伯由香、原田玲子編 医歯薬出版、
ISBN：978-4-263-23595-9）
「看護機能形態学 生活行動からみるからだ 第4版」；菱沼典子、日本看護協会出版会、
ISBN：978-4-8180-2061-0）

最終到達目標

各々の臓器の構造とはたらきを説明できる。

代表的な疾病と関連づけて、臓器の正常なはたらきと機能不全の状態を理解する。

評価方法及び評価基準

講義終了後の筆記試験（70%）。関連分野の講義数回終了時に実施する確認試験（ミニテスト）（30%）など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。必要に応じてレポート提出。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59 点以下)：C のレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

医学を学ぶ上で、すべての基本となる重要な科目です。

患者さんの病気を理解するためには、まず正常な臓器の構造とそのはたらきを知っていなければなりません。
正常なからだのしくみとはたらきのどこかに異常がおきた状態が病気なのです。

1年生のうちに、この基本的な知識をしっかりと身につける必要があります。

授業コード	END0401	ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能		広い視野と倫理観	
授業科目名	解剖生理学ⅡB		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/後期		判断力	○
担当教員	昆 和典		探求心	○

講義目的

骨、筋、神経の分布と名称について理解する。体性感覚ならびに視覚などの特殊感覚については、それぞれの感覚が持っている独自に発達した情報処理機能について理解する。さらに、数々の生命現象の日内リズム、体温調節について理解する。

授業内容

全身の骨、筋、神経の分布と名称について述べる。生体の内外からの刺激を感知する感覚系について、それぞれの刺激に反応する受容器の分布とは働きに焦点をあてて述べる。生体のリズムでは、神経系、内分泌系でその働きに日内変動のある例を述べるとともに睡眠についても触れる。体温調節では、体温を一定温度に保つための機構について述べる。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	骨・関節の構造と機能-1	骨・関節の構造と機能について理解できる。
2	骨・関節の構造と機能-2	骨成長、骨代謝について理解できる。
3	全身の骨格	全身の主たる骨の名称と機能について理解できる。
4	全身の骨格	全身の主たる骨の名称と機能について理解できる。
5	全身の筋	全身の主たる筋の名称と機能について理解できる。
6	全身の筋	全身の主たる筋の名称と機能について理解できる。
7	全身の神経	全身の主たる神経の名称と機能について理解できる。
8	全身の神経	全身の主たる神経の名称と機能について理解できる。
9	骨、筋、神経のまとめ	骨、筋、神経の相互関係について理解できる。
10	体性感覚と内臓感覚	皮膚感覚、内臓感覚、痛覚などについて理解できる。
11	聴覚と平衡感	耳の構造、平衡器官の構造、聴覚、平衡感覚について理解できる。
12	視覚-1	眼球の構造、眼球運動、眼球反射などについて理解できる。
13	視覚-2 味覚と嗅覚	網膜の構造と機能、視覚伝導路などについて理解する。味覚、嗅覚について理解できる。
14	エネルギー代謝と体温調節	熱の产生、放散の調節について理解できる。
15	生体のリズム	神経系、内分泌系、睡眠・覚醒の日内リズムについて理解できる。

留意事項 (履修条件等)

当日の講義内容に基づいた小テストを毎回実施。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修(事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。

毎回配布するプリントに必要事項を書き込むこと

事前学習：前の授業の復習

事後学習：授業で配布したプリントに書き込んだ事項の整理

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)

授業時間の前後

教材

教科書：「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 第4版」林正 健二 (メディカ出版)

ISBN:978-4-8404-5374-5

最終到達目標

講義は配布したプリントを中心に行う。後に教科書で自習する際、教科書に記述されている内容が理解できる。

評価方法及び評価基準

定期試験 90%、確認テスト（小テスト）10など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent)

A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している(Very Good)

B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある(Good)

C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている(Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない(Failure)

学生へのメッセージ

授業で説明していることを配布したプリントに書き入れることを心掛けてください。

授業コード	END0501			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性				
科目区分	専門基礎科目—人体の構造と機能				広い視野と 倫理観				
授業科目名	微生物学	選択・必修	必修		知識・技術	○			
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○			
担当教員	加納 誠				探求心	○			
講義目的									
人間に感染症を起こす目に見えない小さな生き物について、微生物学を学ぶことで理性の目・学問の力を養い、敵を知ることが目的となります。微生物学を学ぶことで医学・生物学の理解を深めて、その知識を医療の現場でいかすことが出来るようになることを目指す。									
授業内容									
病原微生物と感染症について学び、感染症の治療及び予防のための基本的知識の習得を目指す。病原微生物として細菌、ウイルス、真菌ならびに原虫の性質を説明した後に、肺炎、尿路感染症など各種感染症のメカニズムと発病、それに伴う生体の反応について理解できる。さらに、感染症の検査、感染防止対策、滅菌・消毒方法等を学ぶ。また、微生物による感染から生体を守り異物の侵入に対して特異的に反応する力である免疫について理解できる。									
授業計画及び学習課題									
回	標 題	学習課題							
1	微生物の性質 微生物学の歩み	微生物の種類と特徴を理解できる。 微生物の病原性と近代微生物学の歴史を理解できる。							
2	細菌の性質 真菌の性質	細菌の形態と特徴を理解できる。 真菌と細菌の相異、真菌の形態と特徴を理解できる。							
3	原虫の性質 ウイルスの性質	原虫の形態と特徴を理解できる。 ウイルスの形態と特徴を理解できる。							
4	感染と感染症	各々の微生物の感染機構と特徴を理解できる。							
5	感染に対する生体防御機構	自然免疫と獲得免疫の生体防御における役割を理解できる。ワクチンについて理解できる。							
6	感染経路からみた感染症 滅菌と消毒	微生物の自然界での分布と感染源、感染経路を理解できる。 滅菌消毒の重要性と方法を理解できる。							
7	感染症の検査と診断 化学療法薬	病原体の検出と遺伝学的検査、血清学的検査、診断を理解できる。 化学療法薬の種類、作用メカニズム、副作用、薬剤耐性などを理解できる。							
8	感染症の現状と対策	新興・再興感染症、院内感染とその対策を理解できる。 世界と我が国の感染症監視体制について理解できる。							
9	病原細菌と細菌感染症-1	細菌の形態、染色性、酸素要求性と感染症について理解できる。グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性通性桿菌。							
10	病原細菌と細菌感染症-2	細菌の形態、染色性、酸素要求性と感染症について理解できる。グラム陽性桿菌、抗酸菌、嫌気性菌。							
11	病原細菌と細菌感染症-3	細菌の形態、染色性、酸素要求性と感染症について理解できる。スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチャ、クラミジア。							
12	真菌感染症 原虫感染症	真菌感染症を部位別に分類し理解できる。 原虫感染症を感染症法の対象疾患を中心に理解できる。							

13	ウイルス感染症-1 (DNA ウィルス)	DNA ウィルス感染症の感染経路、症状、特徴について理解できる。
14	ウイルス感染症-2 (RNA ウィルス)	RNA ウィルス感染症の感染経路、症状、特徴について理解できる。
15	肝炎ウイルス プリオンとプリオント病	肝炎ウイルスの A~E 型の特徴を理解できる。 プリオントの病原性と消毒、プリオント病について理解できる。

留意事項（履修条件等）

高校で学習した生物学の復習と当該科目教材の復習と課題をノートにまとめてください。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：講義内容のポイントとなる事項をまとめた小テストを事前に配布するので教科書を読んで鉛筆で記入し予習しておくこと。

事後学習：自分が記入した答えが間違っていた場合赤字で訂正し正確な知識を身につける。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

mkanoh@kochi-u.ac.jp

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：『系統看護学講座 専門分野⑦ 微生物学 第13版』；南嶋洋一・吉田眞一・永淵正法著、医学書院、(ISBN 978-42600-18272)

参考書：

最終到達目標

微生物学の基礎を把握し、実際の看護を行ううえで役立っていく。微生物とはどのようなものか、我々にどのような病気を起こすのか、それらに対してどのように対処すべきか、という3つの側面から学びっていく。

評価方法評価基準

前期の本試験により合否を判定する。小テストは合否の判定に使用する場合がある。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

自分が理解しやすいように要点をノートにとり、講義の予習・復習を行う。

授業コード	END0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性						
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能				広い視野と倫理観						
授業科目名	生化学	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○					
担当教員	東山繁樹				探求心	○					
講義目的											
人体の普遍的かつ多様な生命現象に対して、個々の細胞やそれを構成する様々な分子がどのように関わっているかを理解する。そのために、組織ごとにみられる特異的で多様な代謝経路を学び、各生体分子や酵素、細胞器官がどのように機能しているのかを理解する。さらに、様々な細胞外刺激に対して細胞がいかに反応するのかを分子レベルで説明でき、それらの異常および機能不全が、結果としてさまざまな病態を生む分子機構を理解することを目的とする。											
授業内容											
1 : 細胞の構造と機能											
1-1: 細胞の構造を理解し、細胞内各小器官の役割を理解し、説明できる。 1-2: 細胞外刺激外貨に細胞の中で処理され、それに的確に応答するかを理解し、説明できる。 1-3: 細胞の分化と特性変化、組織形成、器官形成について理解し、説明できる。											
2 : 生体構成成分とその代謝											
2-1: 生体の4大構成成分（タンパク質、糖質、脂質、核酸）を理解し、説明できる。 2-2: 各4大構成成分の機能を理解し、説明できる。 2-3: 各成分の異化と同化（酵素反応）の様式を理解し、体内での物質の流れを説明できる。 2-4: 各成分代謝間のつながりを理解し、説明できる。 2-5: 代謝異常と疾患の関連を理解し、説明できる。											
3: 遺伝子異常と疾患											
3-1: 遺伝子発現について転写、翻訳およびその調節の分子機構を理解し、説明できる。 3-2: 遺伝子異常と機能変換、および疾患との関連について理解し、説明できる。 3-3: DNA検出、構造決定、PCR法などの遺伝子解析や操作の原理と方法を理解し、説明できる。 3-4: 遺伝子診断の原理と方法を理解し、疾患診断への利用について説明できる。											
4 : 生体微量成分の機能											
4-1: ビタミンや無機物質などの生体微量成分の機能について理解し、説明できる。											
5 : 生体成分分析と疾患診断											
5-1. 生体成分の分析法について理解し、説明できる。 5-2. 疾患診断マーカーについて理解し、説明できる。											
授業計画及び学習課題											
回	標 題	学習課題									
1	生体の化学反応と恒常性の維持	生体の化学反応の破綻が疾患に繋がることを事例を通して理解できる。									
2	細胞の構造と機能	細胞の構造を理解し、分化による特性変化を理解できる。									
3	生体の構成成分－タンパク質	タンパク質の生体における役割を理解できる。									
4	生体の構成成分－糖質	糖質の生体における役割を理解できる。									
5	生体の構成成分－脂質	脂質の生体における役割を理解できる。									
6	生体の構成成分－核酸	核酸の生体における役割を理解できる。									
7	各生体分子の代謝 I	生体分子の代謝のつながりを理解し、物質の異化と同化の意味を理解できる。									
8	各生体分子の代謝 II	生体分子の代謝のつながりを理解し、物質の異化と同化の意味を理解できる。									

9	生体分子の代謝異常と疾患	代謝異常の事例を通し、疾患との関連性を理解できる。
10	遺伝子異常と疾患 I	遺伝子解析法を理解するとともに、遺伝子変異と機能変換について理解できる。
11	遺伝子異常と疾患 II	遺伝子診断について理解できる。
12	生体微量成分の役割	ビタミンやミネラル等の生体微量成分の役割について理解できる。
13	生体成分の分析と疾患診断への応用 I	生体成分の分析法を理解するとともに、疾患との関連性について理解できる。
14	生体成分の分析と疾患診断への応用 II	血清診断と尿成分診断について理解できる。
15	生化学のまとめ	講義内容の振り返りをすることで、系統的・総合的に考察できる。

留意事項（履修条件等）

当該科目の学習課題を積極的に予習・復習してください。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：授業内容については、事前にテキストをよく読んで授業に臨むこと。

事後学習：ノートを復習しておくこと。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

授業時間の前後

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：『わかりやすい 生化学 第5版』；石黒伊三雄 編、ヌーヴェルヒロカワ、2,300円
(ISBN 978-4-86174-069-5)

最終到達目標

生体成分を理解し、その代謝とその異常による疾患発症の機序を理解する。

評価方法及び評価基準

筆記試験 (90%)、出席および授業への参加度 (10%) の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

自分自身の体の様々な反応に照らし合わせて学ぶと、とても面白いと思います。

授業コード	END0701	定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能		広い視野と倫理観		
授業科目名	栄養学		知識・技術 <input checked="" type="radio"/>		
配当学年/学期	2年/前期		判断力 <input checked="" type="radio"/>		
担当教員	藤井文子		探求心 <input checked="" type="radio"/>		
講義目的	<p>医療における栄養の意義を理解する。チーム医療について学習し栄養管理における看護分野の役割を理解する。</p> <p>栄養素の働きを学習し、栄養不足や栄養過多で発症する疾患について理解し、看護に生かすことができる。</p> <p>現代社会で多発する生活習慣病や高齢者の低栄養、ライフステージ別の食の問題点について学習し、看護に生かすことができ、患者の自己実現や医療に貢献できる栄養管理の基本を学ぶことを目的とする。</p>				
授業内容	<p>栄養素の種類や働きを解説し、消化吸收を科学的に学習する。ライフステージ別の栄養の必要性を理解し、食と健康との関りを考える。さらに糖尿病など生活習慣病や栄養管理に関する深い疾患について解説し、看護に生かすことができる内容とする。超高齢社会における低栄養の問題などを解説し、食と免疫の関係について考え、食や栄養が家庭生活や疾患治療に及ぼす影響について学習する。</p>				
授業計画及び学習課題					
回	標題	学習課題			
1	医療における栄養の意義・チーム医療	<p>医療における栄養の意義についてチーム医療を通して学ぶことができる。</p> <p>栄養管理計画・実施における看護師の役割、栄養管理と栄養補給法や食事提供の概要を理できる。</p>			
2	栄養素の種類と働き、消化と吸收	<p>5大栄養素（炭水化物、たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラル）の働きについて理解できる。必要量、欠乏症、過剰症について理解する。栄養素の消化と吸收について理解できる。</p>			
3	栄養状態の評価 ライフステージ別栄養管理	<p>栄養管理計画に参画するために必要な知識である栄養状態の評価について理解できる。</p> <p>幼児から高齢者、妊娠中などの栄養管理について理解できる。</p>			
4	生活習慣病の栄養管理1	<p>生活習慣病の代表的疾患である糖尿病、メタボリックシンドローム（代謝疾患）などの栄養管理について理解できる。</p>			
5	生活習慣病の栄養管理2	<p>生活習慣病のうち高血圧、心疾患（循環器疾患）や腎疾患などに関する栄養管理について理解できる。</p>			
6	低栄養1	<p>高齢者の低栄養の栄養管理について理解する。</p>			
7	低栄養2	<p>がん、COPDなどの疾患による低栄養の栄養管理について理解できる。</p> <p>免疫と栄養の関係や健康や治療に及ぼす影響について理解できる。</p>			
8	その他の主だった疾患の栄養管理 まとめ	<p>消化器疾患、肝疾患などの栄養管理について理解できる。</p> <p>今までの学習を総括できる。</p>			
留意事項（履修条件等）					
<p>医療における栄養管理の重要性を学ぶことが大切である。多職種で栄養管理に関ることを理解し、看護に生かし、患者の回復や医療に貢献する意味を理解して授業に臨む。</p>					
<p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>					
授業時間外の学修（事前・事後学習）					
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（事前学習・事後学習に示されている内容の学修）が必要である。</p> <p>事前学習： 教科書に目を通し、予習をしておく。</p> <p>事後学習： 講義を受けたことを復習し、理解を深める。課題が出された場合は、自己学習をして講義に臨む。</p>					

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
授業時間の前後
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：コンパクト栄養学 [改定第4版] 南江堂 (ISBN 978-4-524-25945-8)
最終到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における栄養の意義を理解し、説明できる。 2. 主だった疾患の栄養管理について看護師の立場から説明できる。
評価方法及び評価基準
期末試験 60% 小テスト課題レポート 20% 授業参加態度 20% など配点得点を合計 100 点満点として評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
超高齢社会を迎えた日本では、元気で長生きするために栄養問題の解決が重要です。病気になっても重症化を予防し、早期回復を目指すには栄養が重要なポイントになります。医療の現場では多職種協働のチーム医療で栄養管理を実施し、早期回復につなげることが常識となっていました。看護師を目指す皆さんも栄養に興味を持ち、理解を深め、看護の現場で役立てることができるよう学習していきましょう。

授業コード	ENE0101			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性						
科目区分	専門基礎科目—疾病の治療と回復促進				広い視野と倫理観						
授業科目名	病理学	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○					
担当教員	本田和男				探求心	○					
講義目的											
さまざまな疾病の原因を科学的に理解し、疾病の発症の機序を学ぶ。 その結果として、人体にどのような影響が現れ臨床症状を呈するかを学習する。 病的状態での、生体を構成する器官の組織学的形態や機能に現れる異常を理解する。											
授業内容											
臨床病理学の方法論と、さまざまな疾患の組織を検査することにより確定診断に至る過程を学ぶ。 それぞれの臓器について、臨床的に頻度の高い代表的な疾患における病理学的变化を、症状や病態と関連付けて理解する。											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1	病理学の概要	疾病の概要を理解できる。 臨床病理診断の方法と役割を知ることができる。									
2	細胞・組織の障害	細胞・組織の構造と障害・再生の機序を理解できる。 アポトーシスを理解できる。									
3	循環障害	出血、凝固異常、塞栓症を知ることができる。 高血圧症、ショックについて学ぶことができる。									
4	炎症	炎症のメカニズムと生体における意義を知ることができる。 急性炎症と慢性炎症について学ぶことができる。									
5	免疫とアレルギー	免疫系の仕組みを理解できる。 アレルギーの病態を知ることができる。									
6	感染症	病原微生物の種類、感染と生体防御の仕組みを知ることができる。 抗菌薬、予防接種、院内感染対策について学ぶことができる。									
7	代謝異常と老化	糖質の代謝異常の病理と臨床を知ることができる。 脂質・核酸代謝異常、生活習慣病を理解できる。									
8	新生児の病理と先天異常	新生児特有の病理を理解できる。 さまざまな先天異常について学ぶことができる。									
9	腫瘍と重篤疾患	腫瘍の発生と進展について学ぶことができる。 重篤化するさまざまな病態を知ることができる。									
10	循環器系と呼吸器系	心臓血管の疾患について学ぶことができる。 呼吸器のさまざまな疾患について学ぶことができる。									
11	消化器系	消化管の疾患について学ぶことができる。 肝臓・胆嚢・脾臓疾患について学習することができる。									
12	内分泌系と造血系	さまざまな内分泌疾患について学ぶことができる。 造血器の主要な疾患について学習することができる。									
13	腎・泌尿器系と生殖器・乳腺	腎臓・尿路・膀胱・生殖器の疾患について学ぶことができる。 乳癌について学ぶことができる。									
14	脳神経系	脳血管障害について学習することができる。 神経のさまざまな疾患を知ることができます。									

15	運動器系と感覚器系	骨・関節・筋肉の疾患を学ぶことができる。 眼・耳・皮膚の疾患を知ることができる。
留意事項（履修条件等）		
病気を理解するためには、あらかじめ正常な体の仕組みと働きを知識として身につけておくことが必要です。病理学の学習と同時に、解剖生理学の復習をすることが大切です。		
確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目的単位を取得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外学修（事前事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。		
事前学習：あらかじめ講義内容に該当する教材に目を通しておき、読めない専門用語や疑問点、よく理解できない部分を整理しておくこと。		
事後学習：講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。 確認テストの前に必ず講義内容を復習すること。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
火曜日 3 時限(研究室番号：704)		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
教科書：「カラーで学べる病理学 第4版」；渡辺照男、ヌーヴェルヒロカワ、ISBN：978-4-86174-062-6		
最終到達目標		
病気の原因となる体内のメカニズムを理解する。 各々の臓器の代表的な疾病における病理学的变化を、臨床症状と関連づけて理解する。		
評価方法及び評価基準		
期末試験成績 70%、出席や授業態度など 30%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。		
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)</p>		
学生へのメッセージ		
関連分野の解剖生理学の教科書をもう一度復習することが大切です。		

授業コード	ENE0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目—疾病の治療と回復促進				広い視野と倫理観		
授業科目名	疾病・治療論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	本田和男 檜垣實男				探求心	○	
講義目的							
1. 生体（臓器）の形態や機能についての知識をベースとして、疾病と症状の関係を理解する。 2. 症状と関連した検査項目の重要性やデータの解釈・評価法を学ぶ。 3. 疾患の症状・進行度に応じた代表的な治療法を学習する。 4. 循環器疾患と呼吸器疾患について、その病因、病態を理解し、症状と症候から診断までのプロセスを理解できるようにする。 5. 治療に関しても理解を深め、チーム医療の一員として、適切な看護が行えるようにする。 6. ベッドサイドで汎用される胸部レントゲンや心電図、血液ガスなどの基本的な検査データに関しては、即時に患者の状態を判断できる能力を身につける。							
授業内容							
疾患（脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態について理解し、症状や検査データに基づいた適切な対応と、標準的な治療法について講義する。 外科的治療の適応疾患については、手術術式、麻酔法、人工換気療法を含めた集学的治療について解説する。 循環器と呼吸器の疾患について、解剖、病因、病態、症状、症候、診断、治療について講義を行う。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	救急・麻酔法 (本田)	救急蘇生法の基本を学ぶことができる。 局所麻酔、全身麻酔、人工換気法を理解することができる。					
2	消化管（症候・検査法・治療法） (本田)	消化管の解剖を復習し、特有の症状を学び検査法と治療法について学習することができる。					
3	消化管（主な疾患） (本田)	食道、胃・十二指腸、大腸、肛門について、それぞれに頻度の高い疾患について学習することができる。					
4	肝臓・胆嚢・脾臓 (本田)	肝胆脾疾患の症候と検査法治療法について学び代表的な疾患について学習することができる。					
5	代謝・栄養（生理と症候、検査法） (本田)	生理学について復習し、特有の症候、検査法、治療について学ぶことができる。					
6	代謝・栄養（主な疾患） (本田)	糖尿病、低血糖、肥満、脂質異常、痛風、ビタミン欠乏症、骨粗鬆症について学習することができる。					
7	内分泌（症候と検査・治療） (本田)	内分泌の生理について復習し、代表的な症候、検査・治療について学ぶことができる。					
8	内分泌（主な疾患） (本田)	視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎の疾患について学習することができる。					
9	腎臓・泌尿器（症候と検査・治療） (本田)	解剖生理を復習し、症候と検査法・治療法について学習することができる。					
10	腎臓・泌尿器（主な疾患） (本田)	主な腎疾患、尿路系感染症、尿路結石症、腎癌、前立腺癌、腎不全について学ぶことができる。					
11	脳神経（症候と検査治療） (本田)	神経疾患特有の症候について学び、検査法と治療について学習することができる。					
12	脳神経（主な疾患） (本田)	脳血管少額、神経変性疾患、末梢神経疾患、腫瘍について学習することができる。					

13	血液（症候と検査・治療） (本田)	血液疾患の代表的な症候と検査法・治療法について学習することができる。
14	血液（主な疾患） (本田)	赤血球の疾患、白血球の疾患、血液凝固疾患について学ぶことができる。
15	免疫疾患とアレルギー（症候・検査・治療） (本田)	代表的な症候と検査法、治療法について学習することができる。
16	免疫疾患とアレルギー（主な疾患） (本田)	関節リューマチ、全身性エリテマトーデスなどの膠原病について学ぶことができる。アレルギー性疾患について学習することができる。
17	感染症（症候・検査と治療） (本田)	さまざまな感染の様式と症候、検査法、治療法について学習することができる。
18	感染症（主な疾患） (本田)	細菌性疾患と真菌性疾患、ウイルス性疾患について代表的な病態を学ぶことができる。
19	運動器（解剖と生理、症候・検査と治療） (本田)	種々の計測、検査法、保存的治療、手術治療について学習することができる。
20	運動器（主な疾患） (本田)	外傷、骨折、脱臼、捻挫、脊椎疾患、上肢の疾患、下肢の疾患、運動器腫瘍、末梢神経疾患について学ぶことができる。
21	循環器病の症状と診断 (檜垣)	循環器の形態と機能の関係を理解し、循環器病の症状から診断に至るプロセスを理解する。
22	虚血性心疾患（狭心症と心筋梗塞） (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解することができる。
23	心筋疾患（心筋症と心筋炎） (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解することができる。
24	弁膜症と不整脈 (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解することができる。
25	動脈疾患・高血圧 (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解することができる。
26	心不全とその管理 (檜垣)	心不全の病態について理解し、チームの一員として適切に患者の看護ができるようとする。
27	呼吸器病の症状と診断 (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解することができる。
28	慢性閉塞性肺疾患と気管支喘息 (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解することができる。
29	肺炎と肺がん (檜垣)	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解することができる。
30	呼吸不全と呼吸管理 (檜垣)	呼吸不全の病態について理解し、チームの一員として適切に患者の看護ができるようとする。

留意事項（履修条件等）

あらかじめ講義の内容に該当する教材に目を通しておき、疑問点や理解できない部分を整理しておくこと。また、講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。出席点と試験成績などを総合的に判断して習得度の判定を行う。
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要となる。

事前学習：あらかじめ講義内容に該当する教材に目を通しておき、読めない専門用語や疑問点、よく理解できない部分を整理しておくこと。

事後学習：講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。 講義に出てきた項目について、解剖生理学の教科書を復習すること。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
本田 火曜日 3 時限（研究室 704）
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：「看護のための臨床病態学 改訂 3 版」； 南山堂、浅野嘉延、2014 年、9,504 円 (ISBN : 978-4-52550-512-7)
最終到達目標
それぞれの臓器に関連する代表的な疾病の症状と診断法、治療法を説明することができる。
評価方法及び評価基準
期末試験成績 70%、出席や授業態度など 30%など配点得点を合計 100 点満点として総合的評価する。
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
新しく学んだ個々の疾患と関連付けて、解剖生理学の教科書を復習しておくことが大切です。

授業コード	ENE0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野と倫理観		
授業科目名	疾病・治療論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	高田清式、武内八郎				探求心	○	
講義目的							
1. 高齢者の総合的な健康問題の特徴について理解できる。 2. 高齢者の循環器、呼吸器疾患の特徴について理解できる。 3. 高齢者の内分泌、代謝および血液疾患の特徴について理解できる。 4. 高齢者の消化器疾患の特徴について理解できる。 5. 高齢者の四肢運動器疾患および感染症の特徴について理解できる。 6. 眼科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。 7. 皮膚科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。 8. 耳鼻咽喉科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。 9～15. 精神医学の代表的な疾患の原因、症状や治療法について理解できる。							
授業内容	<p>この科目では、看護師が知っておくべき精神医学、老年医学、皮膚科、眼科、耳鼻科の基礎的な知識を得る。精神医学では、代表的な精神疾患、統合失調症、気分障害、摂食障害、てんかん、不安障害などの病因、症状、治療法について理解できる。老年医学では、高齢者の健康問題の特徴と高齢者がかかりやすい疾患やその予防、治療法について理解できる。耳鼻科、眼科、皮膚科の代表的な疾患の病因、症状と治療法についてその基本が理解できることを目的とする。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	高齢者の特徴・総論（高田）	高齢者の総合的な健康問題の特徴について理解できる。					
2	高齢者の特徴・各論 循環器、呼吸器（高田）	高齢者の 循環器、呼吸器疾患の特徴について理解できる。					
3	高齢者の特徴・各論 内分泌、代謝、血液（高田）	高齢者の内分泌、代謝および血液疾患の特徴について理解できる。					
4	高齢者の特徴・各論 消化器（高田）	高齢者の消化器疾患の特徴について理解できる。					
5	高齢者の特徴・各論 四肢運動器、感染症（高田）	高齢者の四肢運動器疾患および感染症の特徴について理解できる。					
6	眼科学総論（高田）	眼科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。					
7	皮膚科学総論（高田）	皮膚科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。					
8	耳鼻咽喉科学総論（高田）	耳鼻咽喉科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。					
9	精神科疾患の総論（武内）	種々の精神科疾患の種類や概要について説明できる。					
10	統合失調症 1（武内）	統合失調症について理解を深め説明できる。					
11	統合失調症 2（武内）	統合失調症について理解を深め説明できる。					
12	気分障害、ストレス関連障害 1（武内）	気分障害、ストレス関連障害について理解を深め説明できる。					
13	気分障害、ストレス関連障害 2（武内）	気分障害、ストレス関連障害について理解を深め説明できる。					
14	認知症 1（武内）	認知症について理解を深め説明できる。					
15	認知症 2（武内） その他の精神疾患	認知症及びその他の精神疾患について理解を深め説明できる。					

留意事項（履修条件等）					
1年次に修得した基礎的な科目的復習と当該科目的学習課題を積極的に予習してください。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。					
授業時間外の学修（事前・事後学習）					
1年次に修得した基礎的な科目的復習と当該科目的学習課題を積極的に予習してください。 科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。 事前学習：当該学習標題に関して、成書などで可能な範囲で自主的に事前学習を行ってください。 事後学習：授業での配布資料をもとに、事後学習を行ってください。					
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）					
文書質疑で可能な範囲の内容については、高田(takada@m.ehime-u.ac.jp)、武内(hachirou201@gmail.com)に連絡願います。 なお、面会には、089-960-5098（愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター）に連絡し日時を決めてもらってください。→（高田）					
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）					
教科書：授業中にレジュメを配布 「老年看護学技術（改訂第2版） 最後までその人らしく生きることを支援する 看護学テキストNiCE」 ：真田弘美/正木治恵 著、南江堂、2016年、3,456円（ISBN 978-4-52425-902-1）					
最終到達目標					
看護の技術を適切に習得するための、精神医学、老年医学、皮膚科、眼科、耳鼻科の基礎的な知識を得る。					
評価方法及び評価基準					
期末試験100%（出席点を含む）とし、総合評価する。不合格の場合、再試験またはレポート課題を課す。					
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
授業内容については、事前にテキストをよく読んで授業に臨むこと。					

授業コード	ENE0401			ディプロマポリシーに定める 養成する能力	豊かな人間性					
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野					
授業科目名	疾病・治療論Ⅲ	選択・必修	必修		知識・技術 <input checked="" type="radio"/>					
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>					
担当教員	石井栄一（檜垣高史、竹本幸司、太田雅明、永井功造、越智史博、元木崇裕、中野直子） 杉山隆（松原圭一、宇佐美知香、内倉友香、安岡稔晃、高木香津子）				探求心 <input checked="" type="radio"/>					
講義目的										
<ol style="list-style-type: none"> 胎児から始まる小児期の各疾患の病態生理、診断、治療について知るとともに、その疾患が小児の成長・発達に与える影響を理解し、より良いQOLを目指す医療について学習する。 多くの成人疾患の根本的な原因が小児期に始まることを知り、その予防についても学習する。 妊娠や分娩の経過等については、母性看護学概論で終了しているが、不妊症を取り扱う生殖医学や妊娠に伴う異常や基礎疾患有する女性の妊娠に関する周産期学、さらに女性生殖器の腫瘍学など臨床の現場の問題点を統合する。代表的疾患を学習することにより、病態と関連付けた理解ができる、治療方法を学び、援助方法に結びつけたアセスメントができるように学習する。 										
授業内容										
<ol style="list-style-type: none"> 小児科学は小児の発育・発達および栄養と心身発育を理解するとともに、以下の小児疾患の病態と疾患の診断、治療の基本を理解する。未熟児・新生児疾患、感染症、免疫不全、アレルギー、内分泌・代謝、循環器、血液・腫瘍、神経・筋疾患、腎。 産婦人科学は、出生前から胎児、新生児、幼少期、思春期、性成熟期、更年期、老年期までまさに“ゆりかご前から墓場まで”女性の健康を支援する学問である。また母子保健は母と子のみならず家族を支援につながる大切な領域である。これら女性のライフステージ別に種々の疾患が生じ得るので、各種疾患の理解を深めるために以下の内容で授業を進める。 具体的には、不妊症、妊娠時の異常のみならず基礎疾患有する女性の妊娠、更年期障害や女性生殖器特有の良性および悪性腫瘍に関する授業を行う。これらの授業を通して、産婦人科領域の疾患の理解を深め、患者支援に役立てることを期待する。 										
授業計画及び学習課題										
回	標 題	学習課題								
1	小児保健・栄養 (石井)	発育・発達、予防接種、学校保健について理解できる。								
2	未熟児・新生児 (太田)	胎児、新生児、未熟児の疾患について理解できる。								
3	神経疾患 (元木)	神経、筋疾患について理解できる。								
4	循環器疾患 (檜垣)	先天性心臓病、不整脈、川崎病について理解できる。								
5	感染症 (越智)	ウイルス感染、細菌感染について理解できる。								
6	アレルギー・腎・膠原病 (中野)	アトピー性皮膚炎、喘息、腎疾患、リウマチ性疾患について理解できる。								
7	内分泌・代謝 (竹本)	内分泌疾患、先天代謝異常、糖尿病について理解できる。								
8	血液・腫瘍・免疫不全 (永井)	血液疾患・小児がん・先天性免疫不全について理解できる。								
9	女性生殖器の構造・機能と異常、妊娠の成立、更年期障害 (高木)	女性生殖機能の理解と妊娠についての理解。生理的な機能と更年期障害について理解できる。								
10	分娩の進行と異常、児の発育と異常、胎児機能不全、不妊症 (杉山)	分娩の3要素と実際の分娩時の異常との関連の理解。胎児の生理や異常、不妊症について理解できる。								
11	異常妊娠：妊娠合併症（異所性妊娠、切迫流・早産、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離） (松原)	妊娠中に生じる合併症、特に妊娠によって起こるものについて理解し、看護を理解できる。								

12	異常妊娠：合併症妊娠（糖尿病、妊娠糖尿病、甲状腺機能異常、自己免疫疾患、血液疾患） (杉山)	妊娠前より何らかの合併症を有する女性の場合の基礎疾患が妊娠に及ぼす影響、妊娠が基礎疾患に及ぼす影響を理解することができる。
13	母子感染、性感染症、双胎妊娠 (内倉)	若年世代で増加傾向にある性感染症の理解と母子感染に関すること、双胎妊娠について理解することができる。
14	女性生殖器の良性疾患 (安岡)	子宮筋腫や子宮内膜症、子宮腺筋症に対する理解を深めることができる。
15	女性生殖器の悪性腫瘍 (宇佐美)	女性生殖器の主要3部位におけるがん（子宮頸部癌、子宮体部癌、卵巣癌）に関する学習を深めることができる。

留意事項（履修条件等）

健康に問題がある子どもと家族について学びながら必要な看護方法を考えていく科目です。「小児看護学概論」で学んだ各小児期の成長・発達の特徴や生活援助の基本的知識を復習した上で講義に臨んでください。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。

事前学習：教科書に目を通し、概要を把握してください。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んでください。講義によるフィードバックと疑問点は質問してください。

事後学習：講義とそのプリント内容を理解してください。教科書を復習し、知識を整理してください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

毎回準備されるプリント

教科書：1～8回「看護学入門12 母子看護」第5版、メデカルフレンド社、ISBN:978-4-8392-2248-2
9～15回「系統看護学講座 専門分野II 女性生殖器 成人看護学⑨」：末岡浩、医学書院、2016年、
ISBN:978-4-260-02184-5

最終到達目標

1. 小児の基本的病態と代表的疾患の診断と治療を理解する。
2. 女性特有の病気について説明できる。
3. 女性および小児のライフステージ別の疾患の把握、治療法について説明できる。

評価方法及び評価基準

成績評価は筆記試験を行うが、授業中に行われる出欠は成績評価に組み入れることがある。

期末試験：80%、学習態度など：20%など配点得点を合計100点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

教官も講義の準備を頑張って準備して臨みますので、学生の皆も頑張って講義を聞いてください。疑問があれば、遠慮せず積極的に質問してください。

授業コード	ENE0501	ディプロマポリシーに 定める養成する能力	○		
科目区分	専門基礎科目-疾病の治療と回復促進		○		
授業科目名	老年疾病治療論		○		
配当学年/学期	3年/前期		○		
担当教員	小原克彦		○		
講義目的	老年に特有の疾患の特徴、病因、経過、治療の特徴を理解できる。特に、認知症の種類を学び、種類によって看護に違いがあることをエビデンスとともに理解できるようにする。看護に活かせるコミュニケーションの取り方や、総合的な機能評価も含めた講義を行い、高齢者への関わり方の基礎が修得できるようにする。				
授業内容	老年者の診療、疾患、治療について学ぶ。 健康長寿診療ハンドブックに準拠した授業を行う。				
授業計画及び学習課題					
回	標 題	学習課題			
1	高齢者のみかた	高齢者の特徴を理解できる。			
2	高齢者の総合機能評価と多職種連携	高齢者診療の基本となる総合機能評価法と臨床応用、評価に基づいた看護計画の立案を学習できる。			
3	認知、行動障害 総説	認知症診療の基礎となる認知機能評価法、行動異常評価法を学ぶことができる。			
4	アルツハイマー病の診療	アルツハイマー病の病因、病態、症状、治療につき学ぶことができる。			
5	その他の認知症の診療	血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症の病因、病態、症状、治療につき学ぶことができる。			
6	うつ病とせん妄	認知症と鑑別すべき、うつ病とせん妄の病因、病態、症状、治療につき学ぶことができる。			
7	転倒と骨折	骨折、転倒のリスク因子、診断、予防を学ぶことができる。			
8	高齢者で重視すべき慢性疾患の要点	高齢者の高血圧、糖尿病、脂質異常症に対するアプローチを学ぶことができる。			
留意事項（履修条件等）					
基礎科目の理解を前提とする。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。					
授業時間外の学修（事前・事後学習）					
科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要。 事前学習：健康長寿ハンドブックの該当箇所を読み、授業の内容を把握しておく。 事後学習：授業内容を振り返り、重要なポイントを復習する。老年病疾患に関連するニュースや情報を収集する。					
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）					
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）					
教科書：『健康長寿ハンドブック』日本老年医学会のホームページよりダウンロード可能（無償）					
最終到達目標					
認知症を中心とした高齢者に特有な病態を理解し、治療・看護計画を立案できる。					

評価方法及び評価基準

筆記試験(60%)、出席および授業への参加度(40%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

6 割以上の授業出席が必須。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

高齢者の一般的疾患とその特性の理解を深め、老年看護の医学的知識を学びます。

授業コード	ENE0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性						
科目区分	専門基礎科目—疾病の治療と回復促進				広い視野と倫理観	○					
授業科目名	薬理学	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○					
担当教員	吉村裕之				探求心	○					
講義目的											
臨床各科で薬を使わない科ではなく、広範な薬物が疾患の予防・治療に処方されている。薬理学は、薬物療法の科学的根拠、薬効の発現機序、作用特性、有害作用などを系統的に学び、理解することに主眼を置く。看護職が、処方目的、服用方法、服薬前及び服薬後の患者に対する留意点などを知ることは、適切な看護計画と看護ケアを実践する必須の知識であることを学ぶ。											
授業内容											
総論は、薬物の概念と用語の定義、基礎理論、法的規制、薬物動態の基礎を講義する。各論は、系統的に自律神経系作用薬、循環器作用薬、体性神経系作用薬、循環器系作用薬、高血圧症治療薬、鎮痛薬、麻酔薬、脳神経系作用薬、抗生物質などを学習する。その際に、代表的薬物名、作用部位と作用機序、臨床適応、有害作用に焦点を絞り、看護過程や看護計画に役立つよう授業展開する。解剖生理学の基礎的知識を習得していることが前提であり、統合的な取り組みが必要となる。											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1	薬物の概念と専門用語の定義	薬物とは何か、専門用語の定義、薬物療法と看護職の役割などを理解し、説明できること。									
2	基礎理論と薬物の法的規制	薬物受容体、用量作用曲線、効果と効力の差、法的規制と取締法、などを理解し、説明できること。									
3	薬物の適用方法と体内動態	経口と注射の利点・欠点、薬物の生体内動態などを理解し、説明できること。									
4	自律神経系作用薬（副交感神経系）	副交感神経系に作用するコリン作動薬、抗コリン薬、酵素阻害薬を理解し、説明できること。									
5	自律神経系作用薬（交感神経系）	交感神経系に作用する交感神経作動薬、 α -あるいは β -遮断薬、酵素阻害薬を理解し、説明できること。									
6	体性神経系作用薬、消化器系作用薬	骨格筋あるいは平滑筋に作用する薬物について理解し、説明できること。									
7	循環器系作用薬（強心薬、虚血性心疾患治療薬）	うつ血性心不全と虚血性心疾患整脈などの治療薬について理解し、説明できること。									
8	高血圧症治療薬	高血圧症に対する非薬物療法と薬物療法、作用機序による分類などを理解し、説明できること。									
9	麻薬性鎮痛薬	麻薬や合成麻薬など深部痛、骨折、ガン疼痛などに有効な薬物を理解し、説明できること。									
10	解熱鎮痛薬	体性痛に有効な鎮痛薬を分類して、その作用機序を理解し、説明できること。									
11	局所麻酔薬と全身麻酔薬	神経細胞の興奮性膜を安定化し痛覚を麻痺させる薬物を理解し、説明できること。									
12	脳神経系作用薬（抗不安薬、抗うつ薬）	臨床各科で使われている精神活動に影響を与える抗不安薬と抗うつ薬を理解し、説明できること。									
13	脳神経系作用薬（抗精神病薬、催眠薬）	統合失調症の治療薬および不眠症の治療薬を理解し、説明できること。									
14	抗生物質概論（作用機序と有害作用）	病原菌に対する抗生物質の作用機序による分類と有害作用を理解し、説明できること。									

15	総括（学習した知識の整理）	第1回から第14回までの講義内容について教材との整合性と理解の深度を問い合わせ、不明点は討議を通じて解決する。
留意事項（履修条件等）		
各論は、毎回の内容項目ごとに、代表的薬物名、作用部位と作用機序、主作用・副作用・有害作用、臨床適応に分けて整理し、看護過程や看護計画に役立つよう授業を展開する。解剖学と生理学の基礎的知識が土台となるので、統合的な取り組みが必要となります。確認テストや課題レポートのフィードバックは適時講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。		
事前学習：薬物は生理機能に影響を及ぼす物質であり、各学習課題を必ず講義前に把握し、その学習課題に必要な解剖生理学の事項を復習して、末梢神経、脳、骨格筋、平滑筋、内臓、分泌腺などの構造と機能についての基礎的知識を振り返り、整理しておくと理解しやすくなります。		
事後学習：各学習課題で学んだ代表的薬物が、どこに作用し、どのような機序で処方目的（薬効）を発現するのか、医療職は何に留意せねばならないのか、有害作用はなぜ起こるのか、これらを整理するとともに、薬物を服用前に患者から如何なる情報を聞いておかねばならないのか、自問自答することが理解を深めます。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
講義の翌日、午後12時半から1時までと、午後4時から5時までの間とします。		
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）		
標題ごとに学習課題について、板書によるノート講義を行うが、指定した教材を各自が通読して、復習すること。		
教科書：「系統看護学講座 薬理学」吉岡充弘著、医学書院、ISBN：978-4-260-03184-4		
最終到達目標		
医師の処方により患者が服用する薬物の薬理作用（副作用や有害作用を含めて）を理解しているか否かは、看護師の立場からも極めて重要であり、看護過程・看護計画に欠かせず、患者の容態の変化を予測・評価・対処できることが目標となる。		
評価方法及び評価基準		
期末試験の成績を基本とするが、範囲が広いので、小テストを随時実施する。その比率は、期末試験成績（70%）、小テスト（20%）、発表を含む学習態度（10%）など配点得点を合計100点満点として総合評価する。		
成績評価基準（学則第34条） S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)		
学生へのメッセージ		
① とくに、解剖生理学の教科書、ノート、配布資料などを熟読して、理解しておくこと。 ② 標題と学習課題を講義の前に読んでおくこと。 ③ 代表的な薬物の名称（一般名）、作用部位・作用機序、薬物効果、有害作用、臨床用途について論理的に理解すること。 ④ 総論の専門的用語の意味は、薬理学全般に用いられますから、理解しておくこと。		

授業コード	ENF0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性		
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	統計学	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	吉村裕之				探求心	○	
講義目的							
統計学は、数学や数理論ではなく、社会学や心理学から状況や状態を論理的に解析するために発達してきた。数学は嫌いという苦手意識を払拭し、看護研究を行う際に必要な実践的な統計学の基礎と手法を習得させることを目的とする。倫理的にも、効率的な研究方法を計画しなければ、問題となり得る。観察した「事実」に、普遍性・信頼性・再現性を付加して保証するためには、統計学的に検証しなければ「真実」とはならない。							
授業内容							
総論では、対象に対する倫理的配慮、統計学用語の意味、有意差検定法の原理、尺度水準の重要性、図表作成上の規則などを説明する。各論では、医療現場で遭遇する具体的な例を示し、どのような統計検定法が適切かを考え、統計処理の手続きに沿って、関数電卓を用いて各自が計算し、統計結果からどのように結論できるか、個々人が実践できるよう授業展開する。医療現場では、正規分布する数値だけでなく、出現度数、段階的な改善度、少数の標本集団、などを扱う場合も多くあり、パラメトリック法のみならずノンパラメトリック法も学習する。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	総論：対象に対する倫理的配慮と倫理規定	研究には科学的合理性と倫理的妥当性が求められることを理解し、看護学部の倫理規定を説明できること。					
2	総論：統計用語の解説と意味	無作為化、代表値と散布度（中央値と平均値）、独立変数と従属変数、四つの尺度水準などを説明できること。					
3	総論：研究計画と検定法	倫理的・効率的な研究計画とは何か、検定方法を選択するにはどうすれば良いのか、独立型と関連型、片側検定と両側検定などを理解し、説明できること。					
4	総論：有意差検定法の原理	仮説の設定、統計量、計算方法、判定、という共通した流れを理解し、実施できること。					
5	独立2群の有意差検定（パラメトリック法）	仮説の設定、統計量、Students t-test、t分布表の見方を説明でき、例題を解けること。					
6	独立2群の有意差検定（ノンパラメトリック法）	仮説の設定、統計量、Mann-Whitney U-test、U表の見方を説明でき、例題を解けること。					
7	関連2試行の有意差検定（パラメトリック法）	仮説の設定、統計量、paired t-test を説明でき、例題を解けること。					
8	関連2試行の有意差検定（ノンパラメトリック法）	仮説の設定、統計量、Wilcoxon matched-pairs signed-ranks test を説明でき、例題を解けること。					
9	出現度数・比率の有意差検定（独立試料）	出現度数（比率）の取り扱い方、カイ自乗検定とは何かを説明でき、例題を解けること。					
10	出現度数・比率の有意差検定（関連試料）	服薬前と服薬後など関連型に適用できる McNemar の検定が説明でき、例題を解けること。					
11	独立変数と従属変数との関連	独立変数と従属変数の間にどのような関連があるのか、ピアソン積率相関係数を用いて例題を解けること。					
12	独立多群の有意差検定	3群以上の場合には、一元配置分散分析法あるいは Kruskal-Wallis test が適用できることを理解し、説明できる。					
13	関連多試料の有意差検定（パラメトリック法）	関連3試料以上の場合には、二元配置分散分析を適用すべきことを理解し、説明できる。					

14	関連多試料の有意差検定（ノンパラメトリック法）	関連3試料以上の場合には、Friedman test が適用できることを理解し、説明できる。
15	総括（学習した知識の整理）	第1回から第14回までの講義内容について、どのような場合に、如何なる統計方法を適用できるのか、実践的な統計処理について総括するとともに、不明点について全体の討議を通じて解決する。

留意事項（履修条件等）

数理論ではなく、実践的な統計手法の習得と統計用語の理解を目指しており、微分積分などを用いず、四則演算（+、-、÷、×）のみで解けるように配慮している。関数電卓の基本操作だけは（スマホより簡単）、講義前にマニュアルに沿って慣れておく必要があります。科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（演習問題の予習・復習）が必要です。演習問題の解答や問題解決などのフィードバックは、講義時間内に行いますが、算数が苦手と思い込んでいる学生に対する個別の対応は、時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている学修）が必要です。

事前学習：統計学を数学と捉えないこと、四則演算が正確にできれば大丈夫と心得ること。指定した関数電卓は、統計用機種ですが、マニュアルを読みながら慣れておく必要があります。

事後学習：時間の制約上、演習問題は各自で解く必要があります。講義中は分かったつもりでも、いざ自分自身で解いてゆくと必ず壁に阻まれます。どこまでを理解し、どこが分からなのか、これを明らかにしておいてください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

講義当日、もやもや感をすっきりさせたい方は、午後12時半から1時までに訪問してください。

しばらく自分自身あるいは友人と話してもすっきりしない方は、当日の午後4時から5時までの間とします。

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

統計学の基本的な部分を学生に理解しやすく記述した成書が少ないので、板書によるノート講義を中心に行うが、必要な統計表および理解度を確認するための演習問題は、配布する。

参考書：「ナースのためのデータ処理」；技術評論社、ISBN 978-4-7741-4532-7

最終到達目標

医療現場で観察した事実を、信頼性・再現性・普遍性を備えた真実に近づける統計学の論理的方法を学習して、問題解決のための手順・技術を習得する。看護研究の実施計画を立案し、実施して、得られた資料の正しい統計解析と判定までを個々の学生が関数電卓さえあればできること。

評価方法及び評価基準

期末試験を基本とするが、講義の際に提示する演習問題を解き、発表して正解であれば、加算する。

筆記試験（70%）、演習問題の解答（20%）および発表態度（10%）など配点得点を合計100点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

- ① 総論は、各論に進むためには極めて重要です。必ず受講するようにすること。
- ② 関数電卓のマニュアル（とくに「統計計算」の箇所）は必ず通読しておくこと。
- ③ 各標題の講義を行った後に、演習問題を個々の学生に解いてもらい、発表してもらいますから、自分自身で解けるように心がけること。
- ④ 期末試験になると、必ず配布資料の紛失や関数電卓のマニュアルを紛失した学生がいますので、名前と学籍番号を書き込み、保管しておくように。

授業コード	ENF0201	定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性					
科目区分	専門基礎科目一健康と生活支援		広い視野と倫理観 <input checked="" type="radio"/>					
授業科目名	疫学		知識・技術					
配当学年/学期	2年/後期		判断力 <input checked="" type="radio"/>					
担当教員	中村 哲		探求心 <input checked="" type="radio"/>					
講義目的	保健師並びに看護師としての活動の中で、特に地域保健並びに地域看護実践の中で疫学的思考に基づく保健並びに看護活動の展開の重要性が理解できるようになる。							
授業内容	疫学の概念と定義また曝露の概念と疾病リスクについて理解する。さらに統計学の知識を基礎として疫学で扱う母集団を通じたリスク把握に必要なコホート研究法や症例対照研究法、介入研究法などの基本的な分析方法や偏りと交絡の概念について講義を通じて学修する。集団の疾病予防の方策としての疾患スクリーニング、サーベイランスと疾病登録の種類について理解する。そして疫学の倫理的側面を理解した上で、感染症や非感染症の世界的動向について理解を深めることで看護や保健師としての職務が果たせる内容とする。							
授業計画及び学習課題								
回	標 題	学習課題						
1	疫学とは？ 疫学の定義とその歴史	教科書第1章 疫学の定義と暴露について理解できる						
2	疫学指標 ①頻度の指標	有病率と罹患(死亡)率、致死率の違いを理解できる						
3	疫学指標 ②曝露効果の指標	相対頻度、相対リスク、寄与リスクの区別ができる						
4	疫学調査法 対象集団の選定とデータ収集概観	母集団と標本調査についての理解ができる						
5	疫学研究方法 ①分析と統計資料の活用	統計資料の種類と活用法について基礎的理解ができる						
6	疫学研究方法 ②コホート研究	コホートとその研究法の有用性と限界が理解できる						
7	疫学研究方法 ③症例対照研究	症例対照研究の有用性とその限界について理解できる						
8	疫学研究方法 ④介入研究	介入研究とその有用性と研究倫理について理解できる						
9	偏りと交絡 データの偏りと交絡の概念	交絡の制御法について理解できる						
10	因果関係 相関関係と因果関係	相関と因果関係の成立条件について理解できる						
11	疾患スクリーニング 概念と方式	スクリーニング目的と要件、評価法について理解できる						
12	サーベイランスと疾病登録 がんと脳卒中の事例	疾病監視・登録の種類と法制度について理解できる						
13	臨床疫学と倫理 グループによる能動学習	人を対象とした研究倫理指針の内容が理解できる						
14	主要な疾患の疫学 I. 感染症	世界の感染症の頻度と分布、危険因子が理解できる						
15	主要な疾患の疫学 II. 非感染症	世界の非感染症の頻度と分布、危険因子が理解できる						
留意事項(履修条件等)								
講義の中でアクティブ・ラーニングとして感染症や非感染症の予防に関わる問題を課す。その学習成果を講義時間の一部を活用してグループあるいは個人単位で発表する。活発な討議を期待したい。								
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。								
授業時間外の学修(事前・事後学習)								
科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。								
事前学習：本講義の理解度を上げるために講義中に小テストを実施する。これは予習程度の評価のためである。また、一部の講義ではアクティブ・ラーニング手法を取り入れた演習(反転授業等)を実施する。								
事後学習：本講義では復習も大切である。特に、上記小テストで重要と考えられる項目およびその関連用語については、1日30分以上復習するつもりで履修する必要がある。								
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)								
教材								
教科書：「基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版」；中村好一、医学書院、2012年、3,240円 (ISBN:978-4-26001-669-8)								
参考書：「初めて学ぶやさしい疫学 第2版」；日本疫学会編、南江堂、2010年、2,160円 (ISBN:978-4-52426-086-7)								
「厚生の指標 増刊 国民衛生の動向 2017/2018」；2,500円 (ISBN:978-4-87511-732-2)								
最終到達目標								

疫学の成立背景と概念を理解し、多くの疫学用語および分析手法の共通理解を通じて、疫学的思考に基づく保健実践活動の展開ができるようになる。

評価方法および評価基準

学期末試験の結果が筆記試験の評価である。必要と判断される場合、これにレポート等の評価を加えて評価とする。筆記試験等(80%)と学習態度(20%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

- S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

「疫学」とは大勢の人に流行っている病気がどのような原因で起きるのか、またはどのような要因で流行するのかを調べるもので、疫学の懐刀とも言われます。聞きなれない用語や定義、計算問題も出ますが、楽しく学習できるように支援します。

授業コード	ENF0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性								
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野と倫理観	○							
授業科目名	保健看護情報学	選択・必修	必修		知識・技術	○							
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○							
担当教員	清水弥生、相原宏紀				探求心	○							
講義目的													
以下の内容が理解でき、その方法を習得できる。													
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上にある情報の収集 ・病院や地域で用いられる情報システムの構成、仕組み、情報の種類 ・電子化に伴うリスク、倫理的配慮、法律 ・看護情報システムを含む病院内情報システムで用いられる機材と全体の構成 ・NANDA 等基準を用いた看護記録の電子化 ・テキストマイニング等基準を抽出しながら行う記録の電子化 ・病院内情報システムからのデータの抽出と処理 ・地域で用いる携帯型電子端末の利用とデータ抽出 ・地域データの GIS 表示 													
授業内容	インターネット、電子カルテなどの情報通信技術（ICT）の仕組み、エビデンスに基づくデータの収集、利用とリスク、倫理、法律について学習する。保健看護領域ではこれらの ICT 技術を用いて、どのような情報がどのような機材や基準を用いて収集されるのかを理解し、データベース、統計解析、データマイニングなどの分析技術を用いて、どのように処理され情報として伝達されるかを学習する。これらの ICT 技術によって保健看護領域や地域保健サービスが変わるかを考える機会を提供する。												
授業計画及び学習課題													
回	標 題	学習課題											
1	保健看護データの検索・抽出（相原）	政府統計データ、自治体が公開しているデータ等、保健看護データの検索・抽出ができる。											
2	データの抽出と整理（相原）	ブログデータなどの検索、ブログからのデータ抽出、データの整理について理解できる。											
3	病院情報システムの器材構成と相互の関連（相原）	会計部門、検査部門、オーダーエントリーシステム、診療録、看護情報システム等の相互の関連が理解できる。											
4	病院情報システムで扱う情報とその性質（相原）	検査結果等の数値情報、尺度化された情報、テキスト情報、画像情報等と情報の性質との関連が理解できる。											
5	看護記録の入力（清水）	看護記録の入力方法について理解できる。											
6	看護記録の閲覧と臨床的重要事項の抽出（清水）	看護記録の閲覧にあたり、臨床的重要事項の抽出を理解することができる。											
7	情報セキュリティの理解とリスク対策（相原）	情報流出のリスク、利用者の制限と特定、情報セキュリティについての理解とリスク対策について理解できる。											
8	情報倫理とプライバシー（相原）	情報倫理、アドボカシーと患者による自己決定、個人情報保護法について理解できる。											
9	電子カルテの保存と保存の義務、運用規定（相原）	電子情報の収集、加工、変換、蓄積について理解できる。											
10	看護データの処理演習（清水）	電子カルテシステムからのデータ抽出と Excel 等のソフトによる処理方法が理解できる。											
11	テキストデータの抽出と検索・処理（清水）	テキストデータの抽出と検索処理ができる。											
12	地域看護における情報システム（清水）	携帯型電子端末等地域看護における情報システムとその利用方法について理解できる。											

13	病院と地域との連携における情報システムの機能（清水）	病院と地域の連携における情報システムの機能について理解できる。
14	地域データの解析と GIS（相原）	地域データの解析と GISについて理解できる。
15	まとめ（清水）	講義内容の振り返りを行うことで、系統的・総合的に考察できる。

留意事項（履修条件等）

コンピュータ基礎・情報処理法は履修済みであること。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学習（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。

事前学習：毎回の授業で課題を提示するので、予習をして授業に臨むこと。

事後学習：授業の進行に合わせて、復習をしておくこと。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教材：「看護・医療系のための情報科学入門」、医学芸術社、ISBN：978-4-90717-609-9

持参物：パソコン（インターネット利用可能な環境のもの）

最終到達目標

情報通信技術（ICT）の仕組み及びシステムについて理解でき、保健看護領域や地域保健サービスの中における ICT の必要性や役割、重要性について理解できる。

評価方法及び評価基準

事前学習とレディネス確認テスト 30%、学習グループテストと討議の参加 30%、期末試験 30%、ピア評価 10% など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59 点以下)：C のレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

この科目では、保健医療・看護の現場で情報がどのように取り扱われているのかを学習します。そして、様々な情報を取り扱う上で、患者の権利を守ることや倫理について一緒に考えてみましょう。

授業コード	ENF0401			める養成する能力 デイプロマポリシーに定	豊かな人間性							
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	公衆衛生学	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	中村 哲				探求心	○						
講義目的												
公衆衛生学の概念と範囲、実社会の中で人々の健康へどのように関わってくるのかを理解し、公衆衛生学の特徴である多視点から、より豊かな保健並びに地域看護活動の実践を目指す。												
授業内容												
公衆衛生活動の地球規模の側面、集団としてのヒトの生存についての生態学的意識を喚起しつつ、その活動の対象である地域生活と健康との関わりを学修する。近年の生物科学の進歩と社会・経済環境の変化にともなう感染症流行の極度の減少や非感染症の増加の背景とそれらの疾病予防に関わる保健管理技法の基本を理解する。公衆衛生学は地域行政と深く関わり、疫学分野が住民個人を取り巻く自然・社会環境内の疾病リスクの認識と制御およびヒト集団の健康維持・増進に深くかかわっていることを理解する。また、公衆衛生活動・研究の対象である母子や老人、産業、精神、国際分野の保健の仕組みについて、それらの動向と現状を解説する。												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	公衆衛生学の概念と歴史	健康とその指標を理解し、公衆衛生学の定義ができる										
2	健康問題と公衆衛生活動	公衆衛生学の範疇と隣接領域が理解できる										
3	公衆衛生と地域社会 地域の健康問題を考える	地域の概念と健康増進法の背景が理解できる										
4	環境保健Ⅰ. 地球と物理・化学的環境	地球の物理・化学環境と健康との関連が理解できる										
5	環境保健Ⅱ. 生物と水環境	生態学と水循環、水質汚染と浄化の仕組みを理解できる										
6	疾病対策と保健管理Ⅰ. 疫学	保健統計手法と疫学方法論の有益性を理解できる										
7	疾病対策と保健管理Ⅱ. 予防医学と公衆衛生	予防の段階説と疾病スクリーニング理論が理解できる										
8	疾病対策と保健管理Ⅲ. 健康教育と健康増進	感染症と非感染症における健康教育手法が理解できる										
9	疾病対策と保健管理Ⅳ. 保健行政制度と法規	健康増進と地域包括保健管理の趣旨が理解できる										
10	母子保健と老人保健福祉	老人保健法および健康増進法の背景が理解できる										
11	産業保健と精神保健	労働安全衛生法と精神保健法の趣旨が理解できる										
12	学校保健と地域保健	保健教育と健康管理、地域連携の要点が理解できる										
13	公衆衛生活動をテーマとしたグループ学習	地域と健康増進に関わる課題発表ができる										
14	国際公衆衛生Ⅰ. 理念と歴史的背景	西欧の保健医療歴史と国際機関を知り役割を理解できる										
15	国際公衆衛生Ⅱ. 世界と日本の動向	国際保健の現状と日本の役割が理解できる										
留意事項（履修条件等）												
確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。												
事前学習：本講義の理解度を上げるために予習・復習が要求される。予習程度と講義内容の理解度を評価するため講義中に小テストを 10 回以上実行する。このテストでの用語のまとめとノート作成も能動的学習に役立つ。												
事後学習：本講義では復習も大切である。特に、上記小テストの結果から自身に必要で重要と考えられる項目およびその関連用語については、1日 30 分以上復習するつもりで履修する必要がある。												

オフィスアワー(常勤教員のみ記入)
教材
教科書：「シンプル衛生公衆衛生学」(最新版)；鈴木庄亮/久道茂監修, 南江堂, ISBN:978-4-524-25553-5 参考書：「厚生の指標 増刊 国民衛生の動向」政府刊行物 ISBN:978-4-87511-732-2
最終到達目標
公衆衛生学の概念、定義並びに範囲を理解し、実社会の中の多種多様な健康問題の存在を認識し、公衆衛生学の特徴である多視点から、健康問題の解決並びに予防のための実践力を獲得する。
評価方法および評価基準
小テストと学期末試験の結果を筆記試験の評価とする。必要と判断される場合、これに課題レポート等の提出物を加えて評価とする。筆記試験等(80%)と学習態度(20%)など配点得点を合計100満点として総合評価する。
<p>成績評価基準(学則第34条)</p> <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent) A(89~80点)：学習目標を相応に達成している(Very Good) B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある(Good) C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている(Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない(Failure)</p>
学生へのメッセージ
皆さん方にとって「公衆衛生学」という言葉は、何か大変な高尚な学問というイメージかも知れません。しかし、それは平たく言うと「みんなのけんこう」をまもること(丸山博)です。健康は人々の生活そのものです。私たちは、よりよく生きるために健康な生活をどのように守るのか、その方策を考え、それを実践することが重要です。

授業コード	ENF0501			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野と倫理観	○					
授業科目名	保健医療福祉行政論	選択・必修	必修		知識・技術						
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○					
担当教員	宮内清子				探求心	○					
講義目的											
保健医療福祉行政論は、地域における保健医療福祉活動の根底をなす概念である。少子・高齢化の進む社会背景のなかで、人々の生活や健康を支える保健医療福祉の仕組みはどのように構築されているか、現行法制度の体系やそのシステムは保健医療福祉計画においてどのように機能しているかを理解し、人々の健康レベルの向上やQOLを高める援助が考えられるようになる。											
授業内容											
保健医療福祉システム構築の意義、保健医療福祉に関する法制度やその内容、地域における保健医療福祉のネットワーク及び地域システムについて学び、利用者の立場に立った看護が提供できる基盤となる保健医療福祉計画を理解できる。更には保健、医療、福祉サービスの連携について理解できる。											
授業計画及び学習課題											
回	標 題	学習課題									
1	保健医療福祉行政の目標 1	保健医療福祉行政の根柢、公衆衛生の定義、保健医療福祉行政の目指すもの、健康な生活とは									
2	保健医療福祉行政の目標 2	Health for All 実現に向けてのキーワード（プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション、ノーマライゼーションなど）									
3	わが国の保健医療福祉制度の変遷と今日的課題	公衆衛生の基盤形成（萌芽期、戦争中の公衆衛生の動向、戦後の公衆衛生の基盤形成、地域保健法の成立） 新たな健康課題の出現と保健医療福祉政策の発展									
4	保健医療福祉行政財政の仕組み	国、都道府県、市区町村の行政の仕組みと役割 保健医療福祉の財政（国、地方財政、保健事業の企画立案事例）									
5	社会保障制度 1：わが国の社会保障制度	社会保障制度の構成、社会保障制度の現状と今後のあり方、社会保障制度改革の方向性									
6	社会保障制度 2：医療提供体制	医療提供体制の概要、医療保障制度、訪問看護制度									
7	社会保障制度 3：介護保険制度	介護保険制度の概要、介護保険サービスの内容、市町村・都道府県・国の役割、制度の実施状況と今後の方向性									
8	社会保障制度 4：社会保障・社会福祉の制度	社会保障・社会福祉の概念、社会保障・社会福祉の法規・行政体系、年金保険の役割・体系・制度の概要									
9	同 上	各種福祉制度（公的扶助・児童家庭福祉・高齢者福祉・障害者福祉等）の沿革・理念・制度の概要									
10	地域保健の体系と保健師活動 1	地域保健の体系、保健所・市町村保健センターの役割と機能 保健医療福祉関係機関との連携									
11	地域保健の体系と保健師活動 2	行政における保健師活動の意義と役割、活動の実際									
12	地域保健の体系と保健師活動 3	地域単位の保健師活動の意義と役割、活動の実際									
13	地域保健の体系と保健師活動 4	健康危機管理の概要と対応の特徴、保健師の役割と対応									
14	保健医療福祉の計画と評価 1	地方公共団体（都道府県・市町村）における保健医療福祉計画の必要性、各種保健医療福祉計画の変遷・現状・今後の方向性									

15	保健医療福祉の計画と評価 2 授業のまとめ	保健計画の策定プロセス、保健計画の推進と評価 第1回から第15回までの学修を振り返り、理解度を確認する					
留意事項（履修条件等）							
基礎科目的社会福祉学、社会保障論、専門基礎科目の公衆衛生学などの関連科目的学習内容と関連づけて学修を深めること。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。							
授業時間外の学修（事前・事後学習）							
法体系や行政制度などは、身近な学問としてのイメージがきににくい科目である。地域保健医療福祉活動の実践事例を素材に演習などを組みこむ予定なので、地域における人々の生活や健康状態などを具体的に想起しながら、わが国の保健医療福祉の仕組みやその適用の実際を、参加学習のなかで自分のものとして習得すること。 科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要となる。 事前学習：「基礎科目一人間と生活の理解」で学修した人々・人々の生活に関わる科目、なかでも「社会保障論」「社会福祉学」、および「専門基礎科目—健康と生活支援」で学修した「公衆衛生学」については、本科目の基盤となる科目であり、関連付けて授業を展開するので復習して授業に臨むこと。上記科目は1年次の履修科目であり、3年次までに時間が経過しているので特に留意する必要がある。 事後学習：授業時間外の学習については、必要に応じて課題を提示するなど学修を深める工夫をするとともに、授業内容の関連性や授業内容全体が俯瞰できることを意図してレポート作成を課す。							
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）							
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）							
教科書：「標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論」；医学書院（最新改訂版）、ISBN:978-4-260-02772-4 参考書：厚生の指標増刊 「国民衛生の動向」「国民の福祉と介護の動向」最新版 厚生労働統計協会 その他授業内容に沿ったプリントを適宜配布							
最終到達目標							
1. 保健医療福祉の一翼を担う専門職として、時代とともに変化する社会背景を踏まえて、地域における保健医療福祉活動について考えることの意義を理解できる。 2. わが国全体及び各地域における、人々の生活や健康を支える保健医療福祉の仕組み、現行の法制度の体系・システム・地方公共団体における保健医療福祉計画について理解し、各分野における看護活動及び保健師活動と関連させて考えることができる。							
評価方法及び評価基準							
授業終了後の筆記試験：70%、課題レポート：30%など配点得点を合計を100点満点として総合評価する							
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)							
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)							
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)							
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)							
D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)							
学生へのメッセージ							
本科目は、講義目的でも記しているように、地域社会で生活するすべての人々が、健康で質の高い生活を送るうえで重要な社会のしくみを理解し、健康的な地域づくり・社会づくりについて考える科目です。 看護職をはじめ保健医療福祉に関わるすべての専門職にとって重要な学修領域ですが、とくに保健師国家試験の受験資格を得ることを目指している学生さんにとって、国家試験の受験科目でもあり、選択科目になっている「地域看護学—公衆衛生看護学分野」の科目とも関連させて理解しておくことが重要です。							

授業コード	ENF0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性							
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	臨床心理学	選択・必修	選択		知識・技術							
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	岩村 聰				探求心	○						
講義目的												
<p>この授業は、3年次前期の「カウンセリング」に続くものとして設計しています。</p> <p>臨床心理学は、主にアメリカにおいて、人格検査の作成、ビネーの知能検査の導入、フロイトの精神分析学の輸入、第2次世界大戦によって心に傷を負った人々のためのカウンセラー配置。それにロジャーズによる純粹に心理学の立場からの援助論の発展。そして、日本では1950年ロジャーズの考え方の紹介が発展の契機となった、などの歴史を持つ学問です。支持的アプローチ、行動療法、認知療法、リラクゼーション法などのさまざまなアプローチや、それぞれの哲学や理論や歴史や、そこから生まれたアセスメント法（心理テスト）などの広がりを持っています。臨床心理学は、実践的な学問であるため、この授業では、より理解を深めるために、ロールプレイなどの体験的な学修を重視します。</p>												
授業内容												
カウンセリング・ロールプレイや、カウンセリング事例などを教材として取り上げます。												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	臨床心理学とは	臨床心理学の歴史や成り立ちについて理解できる。										
2	問題とは何か	心理的に問題となるのはどのような状態か、その視点について理解できる。										
3	心理的問題のアセスメント	心理的問題をどのようにアセスメントするか、その視点について理解できる。										
4	心理的問題への援助①	心理的問題（教育）への具体的支援について理解できる。										
5	心理的問題への援助②	心理的問題（医療・福祉）への具体的支援について理解できる。										
6	心理的問題への援助③	心理的問題（産業）への具体的支援について理解できる。										
7	心理的問題への援助④	心理的問題（自殺問題）への具体的支援について理解できる。										
8	臨床心理学の倫理	臨床心理学の実践、研究における倫理について理解できる。										
留意事項（履修条件等）												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。												
事前学習：毎回のテーマに関する本などを読み、関心を深めておいて下さい。												
事後学習：配布した資料や紹介した書籍などを読み、振り返りを行って下さい。												
オフィスアワー												
授業の前後に質問を受けて対応します。												
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）												
レジュメを配布します。参考図書などは適宜授業内で紹介します。												

最終到達目標
心理的問題に対して、臨床心理学の知見を踏まえ説明することができる。
評価方法及び評価基準
期末試験 60%、小レポートおよび授業への参加状況 40%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
授業のテーマに関して、事前事後学修を通して理解を深めて下さい。

授業コード	ENF0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性							
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	カウンセリング	選択・必修	選択		知識・技術							
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○						
担当教員	岩村 聰				探求心	○						
講義目的												
<p>この授業は、2年次後期の「臨床心理学」に続くものとして設計しています。</p> <p>この授業では、カウンセリング・心理療法理論の基本を学びます。</p> <p>カウンセリングには、精神分析学、分析心理学、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法、家族療法、ナラティブ療法、箱庭療法などのアプローチがあります。この授業ではしかし、ロジャーズが確立したパーソンセンタード・アプローチ（←来談者中心療法）やエンカウンター・グループを主軸として、そして他のアプローチにも少しずつ触れながら、進めて行きます。「カウンセリング」の本質は、「受容」にあります。</p> <p>カウンセリングは、自分も人も受け入れ・大切にして、自分に対しても素直になり、聞き上手になって、人のいいしたことや気持ちを受け止め、理解しようとするこをめざします。カウンセラーや看護師にはもちろん、友達にも恋人にも家族にも、店員にも事務員にも銀行員にも、集団のリーダーや管理者にも、その他の人と接するさまざまな職業などに、つまり、人間誰にとっても役立つ学問といえるでしょう。</p> <p>この授業では、「傾聴・受容力」や「あたたかい集団を育てる力」（そのために必要な「自己開示力」や「発表力」）など、日常の対人関係に役立つ力を伸ばしてもらうとともに、カウンセリングについての基本的理解を持ってもらうことをめざします。</p>												
授業内容												
<p>カウンセリング・ロールプレイの、さらに1歩ステップアップした演習や、カウンセリングを集団に当てはめたグループ・カウンセリングの演習（エンカウンター・グループ実習）や、（大部分、講師自身が行った）カウンセリング事例や、グループ事例などを教材として取り上げます。</p>												
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	カウンセリング・心理療法とは	カウンセリング・心理療法の歴史や成り立ちについて理解できる。										
2	各論①（精神分析）	精神分析の歴史や理論について理解できる。										
3	各論②（精神分析）	精神分析の実践方法について理解できる。										
4	各論③（クライエント中心療法）	クライエント中心療法の歴史や理論について理解できる。										
5	各論④（クライエント中心療法）	クライエント中心療法の実践方法について理解できる。										
6	各論⑤（認知行動療法）	認知行動療法の歴史や理論について理解できる。										
7	各論⑥（認知行動療法）	認知行動療法の実践方法について理解できる。										
8	各論⑦（認知行動療法）	認知行動療法の実践方法について理解できる。										
9	各論⑧（ゲシュタルト療法）	ゲシュタルト療法の歴史・理論・実践方法について理解できる。										
10	各論⑨（表現療法）	表現療法の歴史・理論・実践方法について理解できる。										
11	傾聴技法①（傾聴とは）	傾聴のための姿勢・態度、傾聴により起こる変化について理解できる。										
12	傾聴技法②（関わり行動）	傾聴技法（関わり行動）について学び、体験する。										
13	傾聴技法③（関わり行動）	傾聴技法（関わり行動）について学び、体験する。										
14	傾聴技法④（感情の反映）	傾聴技法（感情の反映）について学び、体験する。										
15	傾聴技法⑤（感情の反映）	傾聴技法（感情の反映）について学び、体験する。										
留意事項（履修条件等）												
<p>「臨床心理学」を履修済みであることが望ましい。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>												

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：毎回のテーマに関する本などを読み、関心を深めておいて下さい。

事後学習：配布した資料や紹介した書籍などを読み、振り返りを行って下さい。

オフィスアワー

授業の前後の時間に対応します。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

レジュメを配布します。参考図書などは適宜授業内で紹介します。

最終到達目標

カウンセリングや心理療法の意義や、それぞれのアプローチの相違点について説明することができる。

評価方法及び評価基準

期末レポート 40%、小レポートおよび授業への参加状況 60%など配点得点を 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

授業のテーマに関して、事前事後学修を通して理解を深めて下さい。

授業コード	ENF0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性								
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と倫理観	○							
授業科目名	チームケア論	選択・必修	必修		知識・技術	○							
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○							
担当教員	小西美智子				探求心								
講義目的													
在宅療養者の療養生活及び介護する者の介護生活を支援するために、医療・保健・福祉職が連携・協働を基に、チームケアを実施する目的・方法について学修する。													
1) 我が国の保健・医療・福祉制度の仕組みとその内容を理解する。 2) 在宅療養を支援する医療・保健・福祉職の専門性とチームケアの理念と実施方法を学修する。													
授業内容													
在宅療養する者及び介護する者の生活ニーズを理解して、保健・医療・福祉サービス及び地域にある社会資源を活用して、これら専門職と連携・協働して、効果的で有効なチームケアを実践する方法について教授する。事例提供・分析については、必要時スペシャルゲストを招く。チームケアを実践する看護職として、事例を通してグループワークを行い、施設内の療養生活と在宅での療養生活の特徴を理解すると共に、事例が持っている課題について、地域の中でどのように療養生活を支援するサービスが行われているか、医療の質及び生活の質を含めて発表・討議を行い、学修を深めていく。													
授業計画及び学習課題													
回	標 題	学習課題											
1	在宅療養を支援する保健・医療・福祉制度のサービス内容と社会的背景との関連性	在宅療養を支援する制度の概要が理解できる											
2	保健・医療・看護・福祉・介護専門職が連携・協働して在宅ケアを展開するためのチームケアの理念と目的及び実施方法	在宅ケアにおけるチームケアの必要性と特徴が理解できる											
3	医療依存度の高い在宅療養者への医師・看護職・介護職とのチームケアによる医療・生活支援の特徴(グループワーク含む)	医療依存度の高い在宅療養者への医師・看護職・介護職間におけるチームケアの進め方が理解できる											
4	医療依存度の高い在宅療養者への医師・看護職・介護職とのチームケアによる質の高いサービス 主に呼吸管理・ターミナルケアについて	呼吸管理が必要な者及び終末期にある者の医師・看護職・介護職間におけるチームケアの進め方が理解できる											
5	疾患や虚弱等により ADL 自立が困難な者への看護・介護・福祉専門職の連携による療養生活の質の向上支援と共に家族介護力の指導・支援	日常的に家族介護者が行う ADL 介助時における危機管理と安全管理への指導が理解できる											
6	看護職として、理学療法士、作業療法士、言語療法士との連携による ADL 及び IADL を支援するリハビリテーションに関するチームケア(グループワークを含む)	ADL 及び IADL の低下予防を目指した理学療法士、作業療法士、言語療法士等のチームケアが理解できる											
7	介護保険制度における介護支援専門員(ケアマネジャー)の役割とチームケアを支える介護計画(ケアプラン)の作成方法	介護計画(ケアプラン)とチームケアの関連性が理解できる											
8	介護計画の作成、実施、評価、修正(PDCA)のためのカンファレンスとチームケア力の向上	チームケアの成果を評価し改善する方法について理解できる											

留意事項（履修条件等）					
看護学実習において受け持った事例の中で、退院支援調整を行う必要があった 1 事例について、チームとして関わった保健・医療・福祉職の専門性を整理しておく。授業中に事前学習課題及び事後課題の報告を受ける。課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。					
授業時間外の学修（事前・事後学習）					
科目的単位を取得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。					
事前学習：授業終了時に国民衛生の動向または国民の福祉と介護の動向について、次回の授業と関連する章とページを指示するので、内容の概要を把握しておくこと					
事後学習：配布するレジメ内容から、理解できなかったことを自己学習すること					
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）					
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）					
教科書： 一般財団法人厚生労働統計協会発行：国民衛生の動向（最新号が望ましい） 一般財団法人厚生労働統計協会発行：国民の福祉と介護の動向（最新号が望ましい）					
最終到達目標					
看護専門職として在宅療養者及び家族を支えるチームケアの目的を理解し、在宅療養者の生活状況とその課題を個別的に把握し、チーム員として倫理的配慮の基に療養生活及び介護生活を支援できる看護職の役割と機能を説明できる。					
評価方法及び評価基準					
授業ごとのミニレポートとグループワークでの学び（10 回×5 点=10 点）と最終レポート（最終到達目標）50 点など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。 提出されたミニレポートとグループワークでの学びと最終レポートの内容評価は、授業の感想ではなく、また資料の転記ではなく、学びのキーワードを基に各自が考えた内容であることを評価します。					
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <table> <tr> <td>S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D (59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D (59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D (59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
授業時に 2 回グループワークを開催しますが、意見交換ができるように講義に加えて看護実習の学びも復習しておいてください。					

授業コード	ENF0901			定める養成する能力 デイプロマポリシーに 豊かな人間性 広い視野と 倫理観 知識・技術 判断力 探求心	
科目区分	専門基礎科目・健康と生活支援				
授業科目名	医療リスクマネジメント論	選択・必修	必修		
配当学年/学期	3年/ 前期	単位数	1		
担当教員	村上早苗				
講義目的	<p>リスクマネジメントとは、損失を生む原因や要因を分析して回避または低減をはかるために組織的に管理（マネジメント）していく過程をいう。医療におけるリスクマネジメントは、医療従事者が正しい知識と的確な技術をもち、的確に実施すること、これらを実現するためのシステムを構築し、安全を保障する方法を考えられることである。看護師を目指す学生として、医療安全を学ぶことの意義を理解し、知っておくべき基本的事柄を学ぶことを目的とする。</p>				
授業内容	<p>わが国の医療安全対策および医療安全に関する法律や理論を概観し、組織的に取り組む安全対策についての概略を理解でき、事故発生のメカニズムと発生防止の考え方や、医療現場および地域におけるリスクマネジメントの考え方を修得できる。さらに事故分析と危険予知の事例演習をとおして自己のリスクマネジメントへの関心を高めることができる。（主な内容 全8回）</p> <p>医療安全の法律や理論、医療現場におけるリスクマネジメントについて、感染管理を含む安全対策、地域におけるリスクマネジメントについて、在宅看護におけるリスク管理、訪問看護ステーションや行政機関との連携についても理解することができる。</p>				
授業計画及び学習課題					
回	標題	学習課題			
1	医療安全の歴史と医療・看護を取り巻く状況 医療事故に対する最近の動向と考え方	わが国で、医療事故への関心が高まったきっかけとなった2つの重大医療事故を知ることができる。また、医療安全に関する厚生労働省や日本医療機能評価機構の取り組みについて知ることができる。看護職が起こしている医療事故の実態を理解できる。			
2	医療安全の概念の導入（人は何故間違いを起こすのか）	医療安全に用いられる基本的な用語（医療事故、医療過誤、医療紛争、ヒヤリハット、インシデント、アクシデント、オカレンスなど）を理解できる。また、ヒューマンエラーの構造、ハイインリッヒの法則、スイスチーズモデルなどから医療事故の考え方を理解できる。			
3	医療事故と看護業務について（組織におけるチームでの取り組み）	保健師助産師看護師法の第5条「看護業務」の、診療の補助と療養上の世話から看護事故を考えることができる。そして、看護事故の構造、看護事故防止の考え方を理解できる。「してはならないことをしない」「するべきことをする（危険の予測）」、事故発生後の患者の傷害拡大の防止について理解できる。安全文化形成に向けて、チームで取り組むことの意義について理解できる。医療機関の取組み、組織における安全対策の実際を理解できる。			
4	ミスを防ぐための対策と事故後の対応について I	診療の補助の事故防止（患者に投与する業務、継続・管理中の危険な医療行為の観察・管理における業務）について理解できる。患者参加の重要性を理解できる。システムとしての事故防止の具体例から防止対策を理解できる。			

5	ミスを防ぐための対策と事故後の対応について Ⅱ	療養上の世話事故（転倒・転落、褥瘡など）および事故防止の考え方、援助上の留意点を理解できる。システムとしての事故防止の具体例から防止対策を理解できる。業務領域を超えて共通する間違いと発生要因、防止対策を理解できる。（患者間違い、タイムプレッシャーと途中中断など）在宅における医療事故と介護上の留意点を理解できる。
6	感染管理 I (感染と感染予防対策の概要)	感染・感染症の成立、スタンダードプリコーション、感染経路別予防策を理解できる。スタンダードプリコーションは、11 の具体策で構成されているため、その内容を理解できる。（手指衛生、個人防護具の使用、呼吸器/咳エチケット、腰椎処置の際の感染予防、安全な注射処置、患者配置、患者に使用した物品の安全な取り扱い、環境への対策、リネン類などの洗濯、職員安全、安全な蘇生処置）
7	感染管理 II (感染制御の実際) (組織におけるチームでの取り組み)	感染源への対策、感染経路への対策、宿主への対策の実際と留意点について理解できる。針刺し・粘膜曝露の防止策と対応について学ぶことができる。医療関連感染管理の実際を学ぶことができる。（地域連携）組織における感染防止対策、その実際を理解できる。
8	医療安全 (感染管理) 臨地実習における医療安全について まとめ	医療安全 (感染管理) における看護師の責務と役割を理解できる。インシデント (ヒヤリハット) レポートの目的を理解し、必要性について理解できる。患者への援助の際に、実習で気を付けるポイントを理解できる。
留意事項 (履修条件等)		
<p>医療安全に関する用語は様々あり、基本的な用語は理解する必要がある。そのため、予習で用語の意味を調べて授業に出席すると理解し易い。予習、復習を行ったうえで講義に出席してほしい。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>		
授業時間外の学修 (事前・事後学習)		
<p>科目的単位を取得するにあたり、およそ 30 時間の時間外の学修 (事前学習・事後学習に示されている内容の学修) が必要。</p> <p>事前学習：授業の導入に関する課題は、自己学習をしてレポートにまとめること。 毎回の授業前に、前授業内容に関する小テストを行う。</p> <p>事後学習：毎回の授業前に、前授業内容に関する小テストを行うため、授業の復習は行うこと。</p>		
オフィスアワー (常勤教員のみ記入)		
水曜日 or 木曜日		
教材 (「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
<p>教科書：川村治子 「系統看護学講座 医療安全」、医学書院、2014 年、ISBN：978-4-260-01914-9</p> <p>参考書：河野龍太郎 「医療におけるヒューマンエラー 第 2 版：なぜ間違える どう防ぐ」 医学書院、2014 年 ISBN：978-4-260-01937-8</p> <p>村上美好 「写真でわかる看護安全管理」、インターメディカ、ISBN-13:978-4899961802</p>		

最終到達目標

1. リスクマネジメントの概念について説明できる。
2. 医療過誤と法的責任について説明できる
3. 看護事故とその防止対策を説明できる
4. 組織的に取り組む医療安全（感染管理）について説明できる。
5. 医療安全の必要性と看護師の役割について説明できる

評価方法及び評価基準

- ・期末試験 70%、課題レポートおよび小テスト 20%、講義（グループワーク）・参加状況と発表 10%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。
- ・課題レポートおよび小テストが期末試験に繋がっていることを説明し、期末テストは看護師国家試験の内容を踏まえて作成する。

成績評価基準（学則第 34 条）

- S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- ・講義に関係する教科書や配布した資料に目を通しておくこと。
- ・課題は、自己学習をしてレポートにまとめて提出し講義に出席すること。（提出期限遵守）

授業コード	ENF1001			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性																												
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援				広い視野と倫理観	○																											
授業科目名	人権擁護と成年後見制度		選択・必修		知識・技術																												
配当学年/学期	3年/ 前期		単位数		判断力	○																											
担当教員	菅野慎二				探求心	○																											
講義目的	<p>障害や疾病を有することで、日常生活の判断能力が不十分なために、自らの生活が不利益を被らないよう、成年後見制度や日常生活自立支援事業を活用し、権利擁護の取り組みを学ぶ。</p> <p>また、高齢者や障害者の虐待への支援を通じ、狭義の権利擁護から広義の権利擁護に視野を広げるとともに、障害者等に対する犯罪から司法領域まで幅を広げた権利擁護を学ぶ。</p>																																
授業内容	<p>成年後見制度設立の背景となった戦後の社会福祉の変遷と権利擁護活動の必要性について理解することを目標とする。特に財産管理や身上監護等権利侵害を中心とした狭義の権利擁護から、エンパワメント、自己決定まで含めた多職種連携による広義の権利擁護の視点を身につける。授業の形態は、映像や教材を中心に講義を進めるとともに事例を基に意見交換や判断根拠を講師とやり取りしながら理解力を高める。また、権利擁護関係者（社会福祉士、社協職員、司法書士等）の実践報告を聞く。</p>																																
授業計画及び学習課題	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 45%;">標 題</th> <th style="width: 50%;">学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代における人権とは何か</td> <td>憲法、権利擁護（アドボカシー）等について理解できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>戦後の社会福祉制度の変遷、権利擁護の関連法規と行政組織と専門職</td> <td>戦後から現在に至るまでの社会福祉制度の変遷の基本的理解と権利擁護関連法規、行政組織、社会福祉士、司法書士、介護支援専門員等の専門職について理解できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>成年後見制度の目的・概要</td> <td>行為能力と成年後見制度の関係について理解し、成年後見制度の意義・目的・概要について理解できる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>成年後見制度の手続き</td> <td>成年後見の対象者、成年後見制度の申立手続きについて理解できる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>成年後見制度活用の事例及び日常生活自立支援事業</td> <td>判断能力の不十分な高齢者、障害者等に対する成年後見制度活用の実際について学ぶことが出来る。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>成年後見制度の課題、未成年後見制度</td> <td>医的侵襲行為や被後見人死後の業務、未成年後見など制度の課題について成年後見制度利用促進法から学ぶことが出来る。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>権利擁護事業に関わるゲスト講師による実践報告</td> <td>現場で活躍する権利擁護関係者（社会福祉士、社協職員、司法書士等）の実践事例を学ぶことが出来る。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめ、総括</td> <td>講義やグループ演習等を振り返り、権利擁護等について系統的、総合的に考察できる。</td> </tr> </tbody> </table>						回	標 題	学習課題	1	現代における人権とは何か	憲法、権利擁護（アドボカシー）等について理解できる。	2	戦後の社会福祉制度の変遷、権利擁護の関連法規と行政組織と専門職	戦後から現在に至るまでの社会福祉制度の変遷の基本的理解と権利擁護関連法規、行政組織、社会福祉士、司法書士、介護支援専門員等の専門職について理解できる。	3	成年後見制度の目的・概要	行為能力と成年後見制度の関係について理解し、成年後見制度の意義・目的・概要について理解できる。	4	成年後見制度の手続き	成年後見の対象者、成年後見制度の申立手続きについて理解できる。	5	成年後見制度活用の事例及び日常生活自立支援事業	判断能力の不十分な高齢者、障害者等に対する成年後見制度活用の実際について学ぶことが出来る。	6	成年後見制度の課題、未成年後見制度	医的侵襲行為や被後見人死後の業務、未成年後見など制度の課題について成年後見制度利用促進法から学ぶことが出来る。	7	権利擁護事業に関わるゲスト講師による実践報告	現場で活躍する権利擁護関係者（社会福祉士、社協職員、司法書士等）の実践事例を学ぶことが出来る。	8	まとめ、総括	講義やグループ演習等を振り返り、権利擁護等について系統的、総合的に考察できる。
回	標 題	学習課題																															
1	現代における人権とは何か	憲法、権利擁護（アドボカシー）等について理解できる。																															
2	戦後の社会福祉制度の変遷、権利擁護の関連法規と行政組織と専門職	戦後から現在に至るまでの社会福祉制度の変遷の基本的理解と権利擁護関連法規、行政組織、社会福祉士、司法書士、介護支援専門員等の専門職について理解できる。																															
3	成年後見制度の目的・概要	行為能力と成年後見制度の関係について理解し、成年後見制度の意義・目的・概要について理解できる。																															
4	成年後見制度の手続き	成年後見の対象者、成年後見制度の申立手続きについて理解できる。																															
5	成年後見制度活用の事例及び日常生活自立支援事業	判断能力の不十分な高齢者、障害者等に対する成年後見制度活用の実際について学ぶことが出来る。																															
6	成年後見制度の課題、未成年後見制度	医的侵襲行為や被後見人死後の業務、未成年後見など制度の課題について成年後見制度利用促進法から学ぶことが出来る。																															
7	権利擁護事業に関わるゲスト講師による実践報告	現場で活躍する権利擁護関係者（社会福祉士、社協職員、司法書士等）の実践事例を学ぶことが出来る。																															
8	まとめ、総括	講義やグループ演習等を振り返り、権利擁護等について系統的、総合的に考察できる。																															
留意事項（履修条件等）	<p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>																																
授業時間外の学修（事前・事後学習）	<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業外の学修（事前・事後の学習）が必要です。</p> <p>事前学習：権利擁護に関連する日本国憲法、社会福祉法などの条文の基本的理解をしておく。 権利擁護に関連する新聞記事などに目を通しておく。</p> <p>事後学習：民法、社会福祉法、介護保険制度、医療関連の法改正について情報を得ておく。 権利擁護に関連する新聞記事等を読み解く。</p>																																
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）																																	

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください） 教科書：「新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度」 第4版 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版(株)、ISBN：978-4-8058-3936-2
最終到達目標 人権とは何かについて理解し、知的障害や認知症等により、日常生活上の支援が必要な人々の権利擁護の理念、法体系、取組について理解できる。
評価方法及び評価基準 期末試験 60%、授業参加やプレゼンテーション 30%、課題の提出 10%などを総合評価して合計 100 点とする。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ 上手に表現できない、しゃべれない方々をはじめ、誰でもいつそうした状況になるかもしれない私たち。看護職を目指されている学生さんだからこそ、誰もが当たり前に普通に暮らし医療を受ける権利について理解し、その人らしい生活とは何なのかまで考えた看護師の基礎知識としてください。

授業コード	ENF1101	ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○		
科目区分	専門基礎科目—健康と生活支援		広い視野と倫理観	○		
授業科目名	医療経営論	選択・必修	知識・技術	○		
配当学年/学期	4年/後期	単位数	判断力			
担当教員	中橋 恒、一井美哉子		探求心	○		
講義目的						
本科目の達成目標						
中橋恒						
1) 看護師として、人をケアする上で看護論の一つとして緩和ケアについて学ぶ。 2) 緩和ケアを理解する上で、患者のみならず家族も含めたケアの視点を学ぶ。 3) 全人的苦痛について学ぶ。 4) 全人的ケアとケアの到達点としてのQOLの向上の意味について学ぶ。						
一井美哉子						
1) 医療・介護を取り巻く社会情勢とそれに対応する政策の動向を学び、保健・医療・福祉制度を理解する。 2) 医療・福祉・介護チームにおける看護の役割を理解し、円滑な連携・協働のあり方を学ぶ。 3) 自分の看護観を育成する一歩となる。						
授業内容						
中橋恒（授業1－4）						
看護の本質はケアにあると考える。疾患に関わるケアは、より専門化された診断・治療をスムーズに安全に進める上で大切な事であるが、疾患を持った人をケアすることが基本であり根本である。人をケアする事を理解するための方法として、緩和ケアを理解することが実践的で理解を容易にするものと考える。緩和ケアの定義に込められた全人的苦痛、QOLの向上、全人的ケアを一つ一つ明確にすることで、ケアの本質的な理解につなげる。実践的なケアの理解として医療法人聖愛会で実践している緩和ケアの在り方を紹介し、理解につなげる。医療・看護・介護が求めるケアは、在宅でのケアの在り方をより鮮明にした方向付けがなされており、後半の講義へつなげてゆく。						
一井美哉子（授業5－8）						
在宅医療をめぐる医療・介護政策の動向を学び、診療報酬改定で明確にされた病床機能の明確化や病院完結型医療から地域完結型医療への移行、退院支援の充実、在宅医療の普及とその考え方を様々な事例から学ぶ。住み慣れた地域で、患者としてではなく一人の人として、最期まで暮らし続ける、そんな当たり前の生き方を支えることができる地域での包括的な支援・サービス提供体制の構築が必要とされる中、創造的で人間愛に満ちた看護の専門職として社会に貢献し、新たな仕組みづくりにもチャレンジできる人材に成長することを期待する。						
授業計画及び学習課題						
回	標 題	学習課題				
1	緩和ケアの位置づけと全体についての概説（中橋）	医療のなかにおける緩和ケアの位置づけと緩和ケアの全体について理解する				
2	QOL、トータルペイン、トータルケアの概説（中橋）	緩和ケアを理解する上で、QOL、トータルペイン、トータルケアについて理解する				
3	スピリチュアルペイン、スピリチュアルケアの概説（中橋）	トータルペインの中で、実存的な存在の意味の理解により、人を見るこの根本的な意味の理解としてスピリチュアルペイン、スピリチュアルケアについて学ぶ				
4	医療法人聖愛会における緩和ケア実践の紹介（中橋）	緩和ケアの総論を学んだ上で、実践的な流れと内容を学び、緩和ケアの理解を深める				
5	在宅医療に関連する医療保険・介護保険制度～マネジメントの質を高めるために～（一井）	近年、国の医療施策は在宅医療に大きく舵を切ってきた。患者に適切な情報提供とマネジメントをするために医療保険と介護保険、障害者総合支援法等各種の制				

		度等の知識が必要であり、それらを理解することで適切なマネジメントにつながることを理解できる。
6	退院支援と退院調整（一井）	病気や障がいを抱えながらも、退院したその日から住み慣れた場所で安心して生活できるように支援することは看護そのものであり、諸制度を理解したうえで退院調整につなげることが重要であると理解できる。
7	在宅医療から学ぶチーム医療と連携（一井）	在宅医療の現場で、他機関・多職種での情報の共有と方針の統一を行う現状と課題を明らかにし、患者本位を貫くカンファレンスのあり方を共に学び合う。
8	総括 訪問看護にかかわる制度と知識の確認（一井）	医療法人ゆうの森の活動を紹介 在宅医療テスト実施

留意事項（履修条件等）

確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。

中橋恒

明確な理由なしの授業欠席は、単位取得の評価に加える。講義は、座学が中心であるが、グループワークを取り入れ、自主的・自発的態度で授業に臨めるよう留意する。

一井美哉子

次の講義内容を事前に予習し授業に臨み、授業で学んだ内容はさらに関連事項を図書などで調べておくこと。在宅医療制度の基礎知識が不可欠となる。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を取得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。

事前学習：（中橋）参考図書のどれか一冊は読んでください。

（一井）最新の在宅医療の動向（厚生労働省医政局指導課 在宅医療推進室資料を参照）。

愛媛、松山の地域性や地域の保健・医療・福祉資源について調べる。

事後学習：（中橋）講義内容を資料と照らし合わせて復習をすること。

（一井）在宅医療、在宅みとりに関する図書を一冊は読んでください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

参考書： 中橋恒： ①「死ぬ瞬間—死とその過程について」エリザベス キューブラー・ロス、中央文庫
ISBN-13: 978-4643980233

②「ホスピス運動の創始者」シリー・ソンダース、若林一美訳、日本看護協会出版社
ISBN: 4818000841

③「病院で死ぬという事」山崎章雄、文春文庫（ISBN-13: 978-4079368360）

一井美哉子：①「たんぽぽ先生の在宅報酬算定マニュアル（第6版）」日経BP社

②「退院支援・退院調整」日本看護協会出版会

最終到達目標

中橋恒

緩和ケアの理解を通してケアの意味を学び、学生一人一人が求める将来の看護師像の一助とする。

一井美哉子

人口動態の変化によって迎える多死社会への対策として、患者の生き方に向き合う終末期医療の在り方を学ぶ。また、病気や障がいなど健康問題を抱えながら自宅あるいはその地域で暮らしている地域住民が相談できる機能を持ち、その人らしさを大切にしながらその方や家族の暮らしを支えるためには、円滑な多職種との連携体制を構築することが重要であり、看護師はその要となる役割を担っていることを理解できる。

在宅医療、訪問看護の概念を理解し、必要性に応じてグループ討議を行う。

評価方法及び評価基準

成績は、試験（100%）を100点満点として評価する。

成績評価基準（学則第34条）

- S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

あなたはどんな看護師になりたいですか？看護の魅力について語り合いましょう！

授業コード	ENG0101	ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学		広い視野と倫理観	○	
授業科目名	看護学概論Ⅰ		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/前期		判断力	○	
担当教員	河野保子		探求心	○	
講義目的	看護の定義・概念から看護とは何かについて学ぶとともに、看護の歴史的発展過程や主な看護理論から看護の対象、看護の役割・機能について理解することを目的とする。また健康と個人・家族・環境とのかかわりについて概観し、保健医療福祉チームにおける看護活動について理解する。さらに看護と法、倫理的側面について理解し、医療従事者と倫理、看護実践と倫理を考察する。				
授業内容	看護の基本概念を踏まえて、看護学の知識体系を把握し、専門職としての看護の役割・機能について考える。看護活動の対象である人間を、成長・発達、ライフサイクル、生活主体としての側面から理解し、ニーズの充足と自立、適応に焦点を当てた看護活動について学ぶ。看護の基本は安全・安楽・自立・その人らしさの保障であり、QOLを追求することにある。生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に看護を展開することの重要性を認識し、看護専門職として看護の対象に向き合うための基本的知識・態度を培う。				
授業計画及び学習課題					
回	標題	学習課題			
1	看護ってなんだろう？	看護という言葉の意味、ケアとキュアの考え方について理解できる。			
2	専門的看護の発展（1）	近代看護の歴史的変遷及び看護の専門職化について学び、看護の定義を理解できる。			
3	専門的看護の発展（2）	わが国の看護改革と職業としての看護について把握し、保健師助産師看護師法との関連について理解できる。			
4	専門的看護の役割・機能	ヘルスケア提供システムを認識し、看護の場及び看護の役割・責任について理解できる。			
5	社会の変化と看護の役割拡大	わが国の保健・医療・福祉の状況を認識し、日本における専門看護師・認定看護師等の必要性、制度について理解できる。			
6	看護の主要概念と看護実践	看護の4つの主要概念－人間、健康、社会（環境）、看護－について把握し、看護実践への適用について理解できる。			
7	看護理論	ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、オランド、ペプロー、キングの各看護理論を概観し、先人の看護に対する考え方が理解できる。			
8	健康とウェルネス	健康の定義・概念を理解し、ウェルネス行動について知識を持つ。疾患、病気、機能障害に対する知識を深めるとともに、国民の健康状態を理解できる。			
9	健康と環境	人間を取り巻く環境（個人、家族、地域社会、自然、文化、生活）について把握し、健康との関連性で考察することができる。			
10	人間のニーズ	人間の欲求と行動、人間の基本的ニーズ、マズローの欲求理論について理解できる。			
11	人間の健康問題	ストレスと対処行動、患者心理について理解できる。			
12	看護援助の一般的概念	生活者としての人間の反応を観察し、看護としての援助が必要になる状況（ニードの未充足状態）を把握し、その生活支援を考えることができる。			
13	看護活動	看護過程、直接看護活動、チーム活動の仲介と調整について理解し、保健師助産師看護師法に基づく法的責任性を把握できる。またサービスとしての看護活動の場について理解できる。			

14	看護倫理と看護実践	看護専門職者としての倫理的態度形成を考えることができる。看護倫理の原則が理解できる。										
15	患者中心の看護と医療の質保障	インフォームドコンセント、自己決定権、守秘義務等について理解することができる。また医療安全について把握できる。										
留意事項（履修条件等）												
専門用語や聞き慣れない言葉が多いため、教科書や資料等を参考に、予習・復習をしてください。配布された資料は必ずファイルしてください。授業は講義形式ですが、質問を多くして学生との意見交換を行います。積極的な意見表明を期待します。												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。												
事前学習：講義において学習課題が十分に理解できるためには、教科書の該当領域を事前に学習してください。 特に 7 回目の看護理論を学ぶときには、図書館に行き看護理論家の著書に目を通しておいてください。												
事後学習：毎回の講義内容を自分自身が理解・納得できるように、教科書・参考書等を参考にしてノートに整理してください。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
火曜日、木曜日の 5 限目（16:30～18:00） 研究室：701												
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）												
教科書： 「系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学①第 16 版」：茂野香おる、医学書院 ISBN：978-4-260-02181-4												
「看護覚え書一看護であること看護でないこと— 改訳第 7 版」：F. ナイチングール著、薄井坦子他訳、現代社 ISBN：978-4874741429												
「看護の基本となるもの 再新装版」：V. ヘンダーソン著、湯槻ます・小玉香津子訳、日本看護協会出版会 ISBN：978-4-8180-1996-6												
参考書：講義の時に提示します。												
最終到達目標												
・社会（環境）の中で、健康問題・課題を持って生活する人間について全人的存在であることが説明できる。 ・看護及び看護学について概観することができ、基本的な看護活動が説明できる。 ・生命の尊重や人間の尊厳について看護倫理として説明できる。												
評価方法及び評価基準												
期末試験 60%、小テスト及び課題レポート 20%、講義参加状況、態度 20%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。												
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100～90 点) :</td> <td>学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89～80 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79～70 点) :</td> <td>学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69～60 点) :</td> <td>学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) :</td> <td>C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100～90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89～80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79～70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69～60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) :	C のレベルに達していない (Failure)
S(100～90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)											
A(89～80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)											
B(79～70 点) :	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)											
C(69～60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)											
D(59 点以下) :	C のレベルに達していない (Failure)											
学生へのメッセージ												
<ul style="list-style-type: none"> ・看護学を探究することの楽しさ、素晴らしさを伝えたいと思います。 ・毎回の講義終了時に、リアクションペーパー (Reaction Paper) を書いていただきます。その内容に関して、クラス全体で共有する必要のあるものは、次回の講義時に報告・説明いたします。また個別指導においても必要時に活用させていただきます。 												

授業コード	ENG0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目—基盤看護学—基礎看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	看護学概論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術		
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力		
担当教員	奥田泰子、門脇千恵、三並めぐる、アダラー・コリンズ慈観、宮崎博子、井上仁美、田中正子、上西孝明				探求心	○	
講義目的	<p>看護の各領域である、母性看護学、小児看護学、成人看護学、高齢者看護学、精神看護学、在宅看護学、そして国際看護学とは、どのような対象への看護であるか、また、どのような特徴があるのかを知ることで、その後に続く各領域看護学の基礎を理解する。さらに、看護職となる上での倫理的な課題についても理解する。</p>						
授業内容	<p>看護の対象である人々のライフサイクルに従い、母性看護学、小児看護学、成人看護学、高齢者看護学の目的、目的や対象の特徴、倫理観などについて学び、その後は広域看護学として、精神看護学、在宅看護学について学ぶ。さらに、国際看護学について学ぶことで、今後の学習の動機付けができる。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	コースオリエンテーション（奥田） 母性看護学の学び（門脇）	<p>看護学概論Ⅱについて、目的、課題、評価について理解できる。</p> <p>子どもを産み育てる対象を理解し、健全かつ安全な出産ができるよう健康課題について理解することができる。</p>					
2	小児看護学の学び（三並）	<p>小児とその家族に関わる看護師に必要な基本的知識や態度を学び、小児看護の理解を深める。</p>					
3	成人看護学の学び（上西）	<p>成人期にある人々を理解し、成人各期の身体的特徴や心理・社会的特徴、健康課題について理解することができる。</p>					
4	高齢者看護学の学び（奥田）	<p>老年期にある人々の多様性を理解し個別性のある看護の必要性や倫理的課題を考察することができる</p>					
5	精神保健看護の役割と今日的課題（井上）	<p>現代社会における精神保健・看護のニーズについて理解し、精神保健看護の世界的な趨勢と日本における今日的課題について学ぶ。こうした状況をふまえながら精神保健看護の基本的な考え方や役割を理解できる。</p>					
6	在宅看護学の学び（田中）	<p>在宅看護における動向や社会的背景に基づくニーズを知り、在宅看護の目的や特徴を理解できる。</p>					
7	地域看護学・公衆衛生看護学の学び（宮崎）	<p>公衆衛生看護の目的・対象・方法と活動の場について理解する。また、公衆衛生看護と臨床看護との相違点について考察する</p>					
8	Introduction and outline of the international nursing. 国際看護学についての紹介と概略（アドラー・コリンズ）	<p>Living action research (LAR) is the method of teaching and learning. Introduction to e-learning and online testing, which are at the core of the academic subjects in the international nursing, will be introduced. We mainly used student centered learning and portfolio building. Understanding what is required in terms of learning skill, action plans, self-assessment and progression mapping will be introduced. Educational learning is assessed by using portfolio and online testing of curriculum content.</p> <p>リビングアクションリサーチ(LAR)を教育および学習の方法とする。国際看護学の講義の中心となるE-ラーニングとオンライン・テストについて紹介する。学生中心の学習とポートフォリオの作成、さらに、4年間の国際看護学の</p>					

	構成要素を概観し、学習技術、活動計画、自己評価、学習の進行図などを説明する。学習の程度は、ポートフォリオとオンライン上でのテストを用いて評価する。					
留意事項（履修条件等）						
<p>看護基礎教育の基本となる科目であり、主体的な学修を期待する。事前学習課題をして授業に臨み、授業後は事後学習によるレポート課題を提出すること。これらはすべて評価の得点となるので忘れないこと。</p> <p>本科目は8回の授業であり、3回欠席すると試験を受けることができず単位修得ができなくなる。単位修得ができない場合、1年次開講の基礎看護学実習Iの履修ができなくなるので注意が必要である。</p>						
授業時間外の学修（事前・事後学習）						
<p>事前学習：授業までに、各回に関連することで、今話題になっている記事を新聞やインターネットで調べ、その中で興味ある記事レポート用紙に書き写して（新聞であれば切抜きでもよい）授業に持参し、授業中に発表できるように準備する。（授業の中で提出を求める）</p> <p>事後学習：事業で学習した内容を、記憶の新しいうちに振り返り、さらに興味・関心を持った内容について調べ、その記事をレポート^{※1)}して提出する（授業の翌週の月曜日13:00までに事務室に提出する）</p>						
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）						
<p>本授業はオムニバスであり、各教員が指定するオフィスアワーに従ってください。</p> <p>非常勤の先生（地域看護学・公衆衛生看護学）は、授業の前後をオフィスアワーとします。質問があればその時にしてください。</p>						
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）						
<p>教科書：指定なし、各授業で必要な資料を配布する。</p> <p>参考書：指定なし、必要時に各授業で紹介する。</p>						
最終到達目標						
本科目すべてを履修することで、各看護領域の看護の対象の特徴を理解し、それぞれの倫理的課題について述べることができる。また、国際看護学を含め、この後に続く各看護学概論や援助方法論への学ぶ意欲が持てる。						
評価方法及び評価基準						
<p>授業の最終評価は、レポート課題70%、国際看護学15%、授業への参加状況（事前・事後学習課題^{※1)}を含む）15%など配点得点を合計100点満点として総合評価する。レポート課題^{※2)}については、授業初回に別紙を配布します。注意事項をよく読み、作成してください。</p>						
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>		S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)						
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)						
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)						
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)						
D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)						
学生へのメッセージ						
<p>本科目は、2年次より開講される看護の専門領域科目の導入になります。この授業を受けることで概略を理解し、専門科目への導入学習としてください。そのためにも、各看護領域の特徴を書物やインターネット等を利用して自分で調べるとさらに興味がわいてきます。現代の医療における話題なども参考にしながら、主体的に学んでください。</p>						

授業コード	ENG0301			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と 倫理観	○						
授業科目名	看護学概論Ⅲ	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	河野保子				探求心	○						
講義目的												
<p>1. 4年間の学びで身につけた看護の知識・理論、技術、倫理的態度等を振り返り、看護の定義・概念、看護実践の特徴、看護の対象、健康の考え方、人間を取り巻く環境について再認識することを目的とする。</p> <p>2. 看護に対する自分の考え方を深め、「看護であるもの、ないもの」を考察して自身の看護観を進化・発展させることを試みる。</p>												
授業内容												
4年間の学修で培った看護の知識・技術・態度、及び倫理観を再認識し、看護の主要概念について、学生間でグループワークを行う。また教員とのディスカッションを通して、看護とは何かについて自身の考え方を深める。看護実践を通して、看護は患者・家族の人権擁護者としてのあり方について考察を深める。これらのことから、看護専門職として社会に貢献するためには、生涯学び続けることの意義・必要性を理解し、生涯学習者としての基盤を強化する。												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	本授業への導入	講義の目的、授業の方法等について理解できる。										
2	看護における教養教育・医学的知識教育の再考	課題によるグループ討議・発表										
3	看護実践の再考	課題によるグループ討議・発表										
4	看護実践と倫理的視点の再考	課題によるグループ討議・発表										
5	看護と健康に関する再考	課題によるグループ討議・発表										
6	看護と人間にに関する再考	課題によるグループ討議・発表										
7	看護と環境に関する再考	課題によるグループ討議・発表										
8	看護専門職と生涯学習、及びキャリア形成	看護の役割拡大や専門職化に関する現状と課題について考察し、自身のキャリアアップにつなげて理解できる。										
留意事項（履修条件等）												
<p>全員参加型の講義を行います。グループ討議、及びグループでの考え方や自身の考え方を踏まえて、アサーティブなプレゼンテーションを期待いたします。予習・復習は勿論のこと、多くの文献提示を行ってください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。												
<p>事前学習：課題への取り組みは、グループ構成員の全員が力を合わせて行います。そのため事前学習として情報収集・提示したいテーマ・発表のための準備等が必要になります。</p> <p>事後学習：課題発表のあと、事後学習として各グループはフロアからの助言や指摘、反省点等を踏まえ、レポートにまとめ提出いたします。また個人としても講義終了後に、参考文献や種々の資料を用いて総括としてのレポートを提出いたします。</p>												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
火曜日、木曜日の5限目（16:30～18:00） 研究室：701												
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）												
教科書：特ない												
参考書：各グループが提示する文献、資料												
教員による資料の提示												

最終到達目標

- ・看護とは何かを自己表現でき、看護であるもの、ないものが説明できる。
- ・看護の主要概念を把握し、環境・人間・健康・看護に関する関係を説明できる。
- ・看護実践と人権擁護について説明できる。

評価方法及び評価基準

期末試験 60%, 課題レポート 20%, 講義参加状況、態度 20%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

- | |
|--|
| S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure) |

学生へのメッセージ

- ・最終学年の後学期科目です。これまで看護学の知識・理論・技術を学び、臨地実習を通してその適用を図ることにより、各自の「看護」が確かなものになったと思います。そのことを再考する科目ですので、自信をもって自身の看護観を論じてください。
- ・毎回の講義終了時にリアクションペーパー (Reaction Paper) を書いていただきます。その内容に関して、クラス全体の共有や個別対応が必要な場合には、次回の講義時にいたします。

授業コード	ENG0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と倫理観		
授業科目名	生活援助方法論	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	中島紀子、坂口京子				探求心	○	
講義目的							
1.	看護技術は人間を対象とした専門技術であることから、看護活動の場において、さまざまな健康レベル、発達段階にある人々の日常生活行動の意義を理解する。						
2.	日常生活行動における基本的な援助技術の知識を修得するとともに、基本的な生活援助技術の実践を探求する能力を養う。						
授業内容							
既習した看護学概論、看護コミュニケーション論などを活用し、人々の健康と深くかかわる日常生活行動の概念、意義を理解し、看護におけるアセスメント視点を養う。また安全、安楽、自立という原理原則を根底に、看護技術のエビデンスに基づいた基本的な生活行動に対する援助方法を探求する。							
具体的には、感染防止、環境調整、活動・休息、清潔援助、食事援助、排泄援助といった生活援助に関する技術を実践するための基礎知識および援助技術の方法を理解する。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	看護技術の概念	看護技術とは何かについて理解し、看護における安全・安楽・自立の原則が理解できる。またクリティカルシンキング、EBN志向の実践の必要性を理解し、看護場面に応用できる思考過程を育てることができる。					
2	感染防止に関する技術 1 ①感染条件 ②感染経路 ③感染予防 ④スタンダードプリコーション	医療における感染防止の重要性や基礎知識を学び、標準予防策について理解できる。 感染経路別予防対策の基礎知識を学び、個人防御用具の取り扱いについて理解することができる。					
3	環境調整に関する技術 ①環境の調整 ②環境に関する測定と評価 ③シーツ交換	生活環境を基盤として、療養者にとって必要な環境について学び、環境を整える技術及び環境の評価について理解することができる。					
4	活動・休息に関する技術 1 ①睡眠 ②ボディメカニクス ③ポジショニング	睡眠と休息のバランスの必要性を学び、睡眠の基礎知識と良好な睡眠を得るための援助技術を理解する。またボディメカニクスの原理を学び、体位の安楽性、動作の経済性について理解することができる。					
5	活動・休息に関する技術 2 ①体位交換 ②移乗・移送	体位変換、移乗や移送の援助技術が理解することができる。また苦痛の緩和や安楽を保持する援助について理解することができる。					
6	清潔援助に関する技術 1 ①入浴・シャワー浴 ②全身清拭・部分清拭	清潔援助の効果と全身への影響を学び、清潔援助の基礎知識と援助技術を理解する。入浴の影響や全身清拭及び部分清拭の援助技術について理解することができる。					
7	清潔援助に関する技術 2 ①衣生活 ②寝衣交換	清潔援助の効果と全身への影響を学び、清潔援助の基礎知識と援助技術を理解する。衣生活や寝衣交換の援助技術について理解することができる。					
8	清潔援助に関する技術 3 ①洗髪	清潔援助の効果と全身への影響を学び、清潔援助の基礎知識と援助技術を理解する。洗髪の援助技術を理解することができる。					
9	清潔援助に関する技術 4 ①手足浴	清潔援助の効果と全身への影響を学び、清潔援助の基礎知識と援助技術を理解する。手足浴、口腔ケアの援助技術について理解することができる。					

10	食事援助に関する技術 ①誤嚥予防 ②食生活変更 ③食事介助 ④口腔ケア	栄養の評価・食事援助の基礎知識を学び、食事摂取の援助技術を理解する。誤嚥予防や食生活変更、食事介助における援助技術及び口腔ケアについて理解することができる。
11	排泄援助に関する技術 1 ①失禁 ②おむつ交換 ③陰部洗浄	失禁のメカニズムを理解するとともに、看護師の基本姿勢について考え、失禁に対する援助技術を理解する。おむつ交換、陰部洗浄の援助技術について理解することができる。
12	排泄援助に関する技術 2 ①自然排尿、自然排便 ②浣腸 ③ポータブル便器 ④床上排泄 ⑤腹部マッサージ	排泄の意義、基礎知識と看護師の基本姿勢について学び、自然排尿、自然排便がスムーズに行われるための援助技術を理解する。ポータブル便器、床上排泄における援助技術について理解することができる。
13	事例検討 (グループワーク)	事例に合わせ必要な援助技術を考えることができる。また実習で使用する用紙に実際に記入することができる。
14	事例への介入 (グループワーク)	事例に合わせ必要な援助技術を考えることができる。
15	まとめ、発表	事例に合わせ必要な援助技術を考えることができる。
留意事項 (履修条件等)		
日常生活行動における基本的な看護技術を、科学的根拠に基づいて探求していく科目です。まずは自己の生活行動を振り返り、セルフケアの重要性に気づくことが大切です。その上で解剖生理学、看護学概論や看護コミュニケーション論など既習した知識を活用し、日常生活援助技術のあり方について学んでください。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修 (事前・事後学習)		
科目の単位を修得するにあたり、約 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。		
事前学習：シラバスで講義内容を確認し、教科書の最後に記載されている QR コードから動画を見てイメージしてきてください。		
事後学習：演習までに講義内容を復習し、演習にのぞんでください。		
オフィスアワー (常勤教員のみ記入)		
<中島> 時間：火曜 5 限、木曜 5 限 場所：716 <坂口> 時間：火曜 5 限、水曜 5 限 場所：717		
教材 (「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書：「系統看護学講座 専門分野① 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 第 17 版」；任和子、医学書院 ISBN：978-4-260-01579-0		
参考書：「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」；任和子、医学書院、2016 年、 ISBN：978-4-260-01928-6		
最終到達目標		
1. 看護技術の概念と日常生活行動の意義が説明できる。 2. 日常生活援助に必要な基礎知識について述べることができ、日常生活行動における基本的な援助技術の方法について説明できる。		
評価方法及び評価基準		
期末試験 60%、小テストおよびレポート 30%、講義参加状況および態度 10%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。		
成績評価基準 (学則第 34 条)		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)		
D (59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)		
学生へのメッセージ		
教科書及び配布資料で復習をして、演習にのぞんでください。		

授業コード	ENG0501			定める養成する能力 デイブロマボリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と倫理観		
授業科目名	生活援助方法演習	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	中島紀子、坂口京子				探求心	○	
講義目的							
1.	看護学概論、看護コミュニケーション論、生活援助方法論など既習の知識を活用し、日常生活行動におけるアセメントの視点が理解できる。						
2.	さまざまな健康レベル、発達段階にある人の看護の基盤となる、基本的な共通援助技術の方法を理解し、実践できる能力を養う。						
3.	リフレクションを通して、安全・安楽・自立性を考えた援助技術のあり方を探求できる。						
授業内容							
人々の健康と深くかかわる日常生活行動の意義を理解し、看護におけるアセメント視点を養う。また安全、安楽、自立という原理原則を根底に、看護技術の根拠（エビデンス）に基づいた援助方法を探求する。							
具体的には、感染防止、環境調整、活動・休息、清潔援助、食事援助、排泄援助といった生活援助に関する技術を実践するための基礎知識および援助技術の方法を理解し実施する。この科目は学習課題に沿って、実際の場面を想定し演習計画に基づいて実施する。またグループダイナミクスを活かし援助技術のあり方を探求する。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	看護技術の概念	実習室の物品の把握、用途について学び、演習に対する姿勢や援助技術の実践について理解できる。看護の対象者を生活者として捉え、対象者の生活行動、生活習慣を把握し、対象者に応じた援助技術を提供する姿勢を養う。					
2	感染防止に関する技術 1 ①スタンダードプリコーション ②衛生的手洗い ③擦式アルコール手指消毒	感染の要因や経路を理解するとともに看護者としての感染予防対策の重要性を認識することができる。「グリッターバグ」を使用することで手指消毒の重要性を説明することができ、正確な手洗いの実施をすることができる。					
3	感染防止に関する技術 2 ①個人防御用具とは	個人防御用具の取り扱いの援助技術を実施することができる。					
4	感染防止に関する技術 3 ①マスクの付け方 ②ガウンの着脱 ③処置用手袋の着脱	医療現場における感染予防対策の必要性及び方法を理解し、必要に応じて実施することができる。 感染性廃棄物の取り扱いの援助技術を実施することができる。					
5	環境調整に関する技術 1 ①療養者の環境 ②室温、湿度、換気、照度調整 ③環境整備	療養者の環境を調整し整えることができる。					
6	環境調整に関する技術 2 ①ベッドメイキング ②臥床患者のシーツ交換	療養者の環境のあり方を踏まえ、シーツ交換の方法を理解し、安全、安楽であり快適な療養環境を提供することができる。					
7	苦痛緩和・安楽確保に関する技術 1 ①ボディメカニクス	基本的活動の援助と安楽確保のための援助技術を実施することができる。					
8	苦痛緩和・安楽確保に関する技術 2 ①良肢位の保持 ②体位交換 ③ポジショニング	基本姿勢や基本体位を理解し、苦痛緩和や安楽確保のための援助技術を実施することができる。					
9	活動・休息に関する技術 1 ①運動と休息 ②良質な睡眠	基本的活動及び安楽確保のため活動と休息のバランスを調整することができる。苦痛の緩和や良好な睡眠に対する援助技術を実施することができる。					

10	活動・休息に関する技術 2 ①車椅子移乗 ②ストレッチャーへの移送	安全で安楽な移送・移乗の援助技術を実施することができる。
11	清潔援助に関する技術 1 ①全身清拭 ②寝衣交換	湯温清拭時の湯の温度の実験などを通して、エビデンスに基づいた臥床患者の全身清拭及び寝衣交換の援助技術を実施することができる。
12	清潔援助に関する技術 2 ①全身清拭 ②寝衣交換	湯温清拭時の湯の温度の実験などを通して、エビデンスに基づいた臥床患者の全身清拭及び寝衣交換の援助技術を実施することができる。
13	清潔援助に関する技術 3 ①全身清拭 ②寝衣交換	湯温清拭時の湯の温度の実験などを通して、エビデンスに基づいた臥床患者の全身清拭及び寝衣交換の援助技術を実施することができる。
14	清潔援助に関する技術 4 ①全身清拭 ②寝衣交換	湯温清拭時の湯の温度の実験などを通して、エビデンスに基づいた臥床患者の全身清拭及び寝衣交換の援助技術を実施することができる。
15	清潔援助に関する技術 5 【技術試験】	輸液ラインの入っていない臥床患者の全身清拭、整容、寝衣交換の援助技術を実施できる。
16	清潔援助に関する技術 6 【技術試験】	輸液ラインの入っていない臥床患者の全身清拭、整容、寝衣交換の援助技術を実施することができる。
17	清潔援助に関する技術 7 ①洗髪車 ②ケリーパッド ③洗髪台	患者の状態に合わせて適切な方法で、洗髪の援助技術を実施することができる。
18	清潔援助に関する技術 8 ①洗髪車 ②ケリーパッド ③洗髪台	患者の状態に合わせて適切な方法で、洗髪の援助技術を実施することができる。
19	清潔援助に関する技術 9 ①洗髪車 ②ケリーパッド ③洗髪台	患者の状態に合わせて適切な方法で、洗髪の援助技術を実施することができる。
20	清潔援助に関する技術 10 ①洗髪車 ②ケリーパッド ③洗髪台	患者の状態に合わせて適切な方法で、洗髪の援助技術を実施することができる。
21	清潔援助に関する技術 11 ①臥床患者の手浴 ②臥床患者の足浴	患者の状態に合わせた手浴・足浴の援助技術を実施することができる。
22	清潔援助に関する技術 12 ①臥床患者の手浴 ②臥床患者の足浴	患者の状態に合わせた手浴・足浴の援助技術を実施することができる。
23	食事援助に関する技術 1 ①口腔ケア	意識障がいのない患者の口腔ケアの援助技術について理解し、口腔ケアの方法の実際を検討することができる。
24	食事援助に関する技術 2 ①嚥下テスト ②嚥下訓練 ③食事介助	視力障がい・麻痺がある人の食事摂取における援助技術を実施することができる。
25	排泄援助の技術 1 ①自然排尿・排便 ②床上排泄	自然排尿、自然排便がスムーズに行われるための援助技術を実施することができる。患者に合わせた便器、尿器の選択及び失禁に対する援助技術を実施することができる。
26	排泄援助の技術 2 ①自然排尿・排便 ②床上排泄	排泄行動を他人に委ねなければならない心理状況を理解し、対象者のかかわり方について説明し、床上での便器、尿器の当方の援助技術を実施することができる。
27	排泄援助の技術 3 ①おむつ交換 ②陰部洗浄	排泄困難な患者に対しての援助技術を実施することができる。陰部洗浄の援助技術を実施することができる。
28	排泄援助の技術 4 ①オムツ交換 ②陰部洗浄	排泄困難な患者に対しての援助技術を実施することができる。陰部洗浄の援助技術を実施することができる。
29	技術試験	事例に合わせた援助技術を実施することができる。
30	技術試験	事例に合わせた援助技術を実施することができる。

留意事項（履修条件等）
人間の日常生活行動における基本的な看護技術を、科学的根拠に基づいて探求していく科目です。看護概論、看護コミュニケーション論、生活方法援助論で学んだ事項を復習するとともに、各単元の予習を行うこと。またテキストの後ろのページにある各技術の動画を見て、イメージトレーニングをしてきてください。 また看護の対象に対し安全、安楽、自立性を基本とした援助技術のあり方を探求してください。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。
授業時間外の学修（事前・事後学習）
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習：生活援助方法論の講義内容を復習し、援助技術をイメージしてください。 事後学習：援助技術は授業時間外の時間も使って積極的に練習してください。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
<中島> 時間：火曜 5 限、木曜 5 限 場所：研究室 <坂口> 時間：火曜 5 限、水曜 5 限 場所：研究室
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：「系統的看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③」；任和子、医学書院、2016 年、 ISBN：978-4-260-01579-0 参考書：「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」；任和子、医学書院、2016 年、 ISBN：978-4-260-01928-6
最終到達目標
1. 看護技術の概念と日常生活行動の意義が説明できる。 2. 日常生活援助に必要な基礎知識について述べることができ、日常生活行動における基本的な看護技術の方法について説明及び実施できる。
評価方法及び評価基準
技術試験 70%、小テストおよび講義レポート 20%、講義参加状況および態度 10%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。
成績評価基準（学則第 34 条） S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)
学生へのメッセージ
演習はグループで行いますので、リーダーシップやメンバーシップを發揮し、お互いに高めあいましょう。また実習室は、実際の病院の病棟内と想定して行いますので、演習時の態度に気をつけて下さい。演習に臨む姿勢は、常に看護の対象者の心理状態を考えながら看護の介入をしていきましょう。

授業コード	ENG0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○					
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と倫理観						
授業科目名	診療援助方法論	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○					
担当教員	中島紀子、坂口京子				探求心	○					
講義目的											
<ol style="list-style-type: none"> 患者が安全・安楽に治療を受け、最大限の治療効果が得られるよう援助するために、援助技術の原理原則を理解することができる。 治療を受ける人々のニーズを理解し、援助できる実践能力を養うことができる。 看護専門職者として、看護実践における倫理的姿勢と態度を身につけることができる。 											
授業内容											
<p>1年次に学んだ知識や技術を基盤とし、看護活動の場において様々な健康レベル・発達段階にある人々の診療援助に関わる看護技術とその根拠（エビデンス）を学修する。</p> <p>具体的には「生命の兆候を観察する技術」「感染予防に関する技術」「検査・処置の介助技術」「与薬の技術」「呼吸・循環を整える技術」「体温調整の技術」「食事・栄養摂取の技術」「排泄の援助技術」「創傷管理の技術」「安全確保の技術」といったことを実践するための基礎知識及び援助技術の方法を理解する。</p>											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1	診療援助方法論への導入、診療援助とは、記録とは	診療援助とは何かについて理解できる。またそれに伴う記録の重要性について理解できる。									
2	生命の兆候を観察する技術 ①バイタルサイン ②一般状態の観察 ③記録	患者の状態を把握することの重要性を学び、基礎技術を理解することができる。									
3	感染予防に関する技術 ①滅菌と消毒 ②無菌操作	医療における感染防止の重要性を学び、滅菌と消毒及び無菌操作について理解することができる。									
4	検査・処置の介助技術 1 ①検査とは ②身体計測 ③検査の方法	検査・処置について基礎知識を学び、介助方法について理解することができる。									
5	検査・処置の介助技術 2 ①静脈血採取 ②検体採取	静脈血採取の必要性及び方法を学び、検体採取の取り扱いについて理解することができる。									
6	与薬の技術 1 ①法的根拠 ②基礎知識 ③経口・経皮・直腸 ④静脈内注射 ⑤高カロリー輸液	与薬技術について基礎知識を学び、与薬方法について理解することができる。									
7	与薬の技術 2 ①皮内・皮下・筋肉 ②輸血	与薬の基礎知識を踏まえた上で、輸液及び注射の方法について理解することができる。また輸血についての合併症と観察について理解することができる。									
8	呼吸・循環を整える技術 1 ①アセスメント ②肺理学療法 ③酸素吸入	呼吸循環に関するアセスメントを学び、肺理学療法及び酸素吸入の基礎知識を理解することができる。									
9	呼吸・循環を整える技術 2 ①口腔・鼻腔内吸引 ②気管内吸引	口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引の必要性を学び、援助方法を理解することができる。									
10	食事・栄養摂取の技術 ①栄養状態のアセスメント ②経管栄養法 ③中心静脈栄養	栄養状態及び食欲・摂食能力のアセスメントを学び、栄養摂取技術の基礎知識及び方法を理解することができる。									
11	体温調節の技術・中間テスト ①体温の恒常性 ②罫法 ③9回までの範囲の中間テスト	体温調整の必要性を理解し、援助技術について理解することができる。									
12	排泄の援助技術 ①排泄障害 ②自然排泄を促す技術	排泄援助の必要性を学び、基礎知識及び援助方法について理解することができる。									

	③導尿	
13	創傷管理の技術 ①創傷の治癒過程 ②創傷管理 ③創傷ケア	創傷の治癒過程を学び、創傷管理の技術について基礎知識及び方法を理解することができる。
14	安全確保の技術 ①誤薬防止 ②チューブ類の抜去防止 ③患者誤認防止 ④転倒転落防止 ⑤薬剤・放射線曝露防止	医療事故、医療過誤についての基礎知識を学び、安全確保のための援助技術を理解することができる。
15	死の看取りの援助技術 ①死にゆく人々と周囲の人々のケア ②死後の処置	死にゆく人々と家族の心理を理解し、どのようなケアが必要か理解できる。また死後の処置の基本的技術を理解することができる。
留意事項（履修条件等）		
<p>看護専門領域の基礎となる科目です。既習の知識・技術を活用し、診療援助方法について学んでください。</p> <p>また、1年次に学んだ解剖生理学、基礎看護学概論、生活援助方法論等を復習し、生活援助方法論と照らし合わせ、対象に合わせた必要な援助方法を探求してください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
<p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習：シラバスで講義内容を確認し、教科書の最後に記載されている QR コードから動画を見てイメージしてきてください。</p> <p>事後学習：演習までに講義内容を復習し、演習に臨んでください。</p>		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
<p>＜中島＞ 時間：火曜5限、木曜5限 場所：716</p> <p>＜坂口＞ 時間：火曜5限、水曜5限 場所：717</p>		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
<p>教科書：「系統的看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③」；任和子、医学書院、2016, ISBN : 978-4-260-01579-0</p>		
最終到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 診療援助の技術の必要性、重要性について説明することができる。 診療援助の技術に必要な基礎知識について述べることができ、基本的な援助技術の方法について理解し説明することができる。 		
評価方法及び評価基準		
<p>試験 70%、小テスト及び講義レポート 20%、講義参加状況及び態度 10%など配点得点を 100 点満点として総合評価する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</p> </div>		
学生へのメッセージ		
教科書及び配布資料で復習をして、演習に臨んでください。		

授業コード	ENG0701			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	診療援助方法演習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	中島紀子 坂口京子				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
1.	患者が安全・安楽に治療を受けることができ、最大限の治療効果が得られるよう援助するために、援助技術の原理原則を理解した上で援助技術を修得することができる。						
2.	治療を受ける人々のニーズを理解し、援助できる知識技術を修得することができる。						
3.	看護専門職者として、看護実践における倫理的姿勢と態度を身につけることができる。						
授業内容							
1	1年次に学んだ知識や技術を基盤とし、看護活動の場において様々な健康レベル・発達段階にある人々の診療援助に関わる看護技術とその根拠（エビデンス）を学修する。 具体的には「生命の兆候を観察する技術」「感染予防に関する技術」「検査・処置の介助技術」「与薬の技術」「呼吸・循環を整える技術」「食事・栄養摂取の技術」「体温調整の技術」「排泄の援助技術」「創傷管理の技術」といった援助技術の方法を理解し実施することができる。						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	生命の兆候を観察する技術 1 ①一般状態の観察・記録 ②バイタルサイン	患者の状態を把握することの重要性を学び、バイタルサインの方法を理解し実施することができる。					
2	生命の兆候を観察する技術 2 ①一般状態の観察・記録 ②バイタルサイン	患者の状態を把握することの重要性を学び、バイタルサインの方法を理解し実施することができる。					
3	生命の兆候を観察する技術 3 ①血圧測定	血圧測定の意義を理解し、正確に血圧を測定することができる。					
4	生命の兆候を観察する技術 4 ①血圧測定	血圧測定の意義を理解し、正確に血圧を測定することができる。					
5	感染予防に関する技術 1 ①滅菌手袋の装着 ②無菌操作	医療における感染防止の重要性を理解し、滅菌手袋の装着、無菌操作を実施することができる。					
6	感染予防に関する技術 2 ①滅菌手袋の装着 ②無菌操作	医療における感染防止の重要性を理解し、滅菌手袋の装着、無菌操作を実施することができる。					
7	技術試験 <血圧測定>	患者に対し血圧測定前後の声かけや援助がスムーズにでき、正確に血圧を測定することができる。					
8	技術試験 <血圧測定>	患者に対し血圧測定前後の声かけや援助がスムーズにでき、正確に血圧を測定することができる。					
9	検査・処置の介助技術 1 ①静脈内採血	静脈内採血の基礎知識を理解し、安全な静脈内採血を実施することができる。					
10	検査・処置の介助技術 2 ①静脈内採血	静脈内採血の基礎知識を理解し、安全な静脈内採血を実施することができる。					
11	与薬の技術 1 ①点滴静脈内注射 ②輸液	静脈内注射の基礎知識を理解し、安全な静脈内注射を実施することができる。					
12	与薬の技術 2 ①点滴静脈内注射 ②輸液	静脈内注射の基礎知識を理解し、安全な静脈内注射を実施することができる。					
13	与薬の技術 3 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉注射	皮下注射、皮内注射、筋肉注射の基礎知識を理解し、安全に実施することができる。					
14	与薬の技術 4 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉注射	皮下注射、皮内注射、筋肉注射の基礎知識を理解し、安全に実施することができる。					
15	与薬の技術 5 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉注射	皮下注射、皮内注射、筋肉注射の基礎知識を理解し、安全に実施することができる。					

16	与薬の技術 6 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉注射	皮下注射、皮内注射、筋肉注射の基礎知識を理解し、安全に実施することができる。
17	呼吸・循環を整える技術 1 ①酸素ボンベの取り扱い	酸素ボンベの取り扱いを理解し、安全に酸素ボンベを取り扱うことができる。
18	呼吸・循環を整える技術 2 ① 口腔・鼻腔内吸引 ②気管内吸引	吸引の必要性及び基礎知識を理解し、安全な口腔・鼻腔吸引及び気管内吸引を実施することができる。
19	技術試験 <採血・注射>	採血・注射の基礎知識を理解し、根拠に基づき安全に実施することができる。
20	技術試験 <採血・注射>	採血・注射の基礎知識を理解し、根拠に基づき安全に実施することができる。
21	体温調整の技術 1 ①冷罨法 ②温罨法	体温調整の必要性を理解し、効果的な冷罨法及び温罨法を実施することができる。
22	体温調整の技術 2 ①冷罨法 ②温罨法	体温調整の必要性を理解し、効果的な冷罨法及び温罨法を実施することができる。
23	排泄の援助技術 1 ①導尿	導尿の必要性及び基礎知識を理解し、安全に無菌操作で導尿を実施することができる。
24	排泄の援助技術 2 ①導尿	導尿の必要性及び基礎知識を理解し、安全に無菌操作で導尿を実施することができる。
25	創傷管理の技術 1 ①創傷処置 褥瘡処置	創傷処置の基礎知識を理解し、効果的な創傷処置を実施することができる。
26	創傷管理の技術 2 ①包帯法	包帯法の基礎知識を理解し、効果的な包帯法を実施することができる。
27	まとめ	これまでの援助技術を振り返り、安全で正確な援助技術を理解することができる。
28	まとめ	これまでの援助技術を振り返り、安全で正確な援助技術を理解することができる。
29	技術試験	事例に合わせた援助技術を安全で正確に実施することができる。
30	技術試験	事例に合わせた援助技術を安全で正確に実施することができる。

留意事項（履修条件等）

看護専門領域の基礎となる科目です。1年次に学んだ解剖生理学、基礎看護学概論、生活援助方法論等で学んだ事項を復習するとともに、各単元の予習を行うこと。またテキストの後ろのページにある各技術の動画を見て、イメージトレーニングをしてきてください。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。

事前学習：診療援助方法論の講義内容を復習し、援助技術をイメージしてください。

事後学習：援助技術は授業時間外の時間も使って積極的に練習してください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

<中島> 時間：火曜5限、木曜5限 場所：716

<坂口> 時間：火曜5限、水曜5限 場所：717

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

教科書：「系統的看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③」；任和子、医学書院、2016,
ISBN：978-4-260-01579-0

最終到達目標

1. 診療援助の技術の必要性、重要性について説明することができる。
2. 診療援助の技術に必要な基礎知識について述べることができ、基本的な援助技術の方法を実施することができる。

評価方法及び評価基準

技術試験 70%、レポート 20%、参加状況及び態度 10%など配点得点を 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

- S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

既習の知識・技術を活用し、診療援助方法の技術を修得してください。演習はグループで行いますので、リーダーシップやメンバーシップを發揮し、お互いに高めあいましょう。また実習室は病棟内を想定して行いますので、演習時の態度に気をつけて下さい。演習に臨む姿勢は常に看護の対象者の心理状態を考え、技術演習をしていきましょう。

授業コード	ENG0801			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>	
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	看護コミュニケーション論	選択・必修	必修		知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	中島 紀子				探求心	<input type="radio"/>	
講義目的							
1.	看護専門職者として、なぜコミュニケーションが求められるかを理解し、良好なコミュニケーションに必要な技法について学ぶ。						
2.	看護の対象を生物心理社会的モデルでとらえるための面接技法を、グループワークやロールプレイを通じて理解する。						
3.	これらの学習を通して、患者中心の看護に必要な患者自身の解釈モデルを聞くことの重要性を学び、看護師に求められる基本的な態度を培うことを目的とする。						
授業内容							
看護コミュニケーション論の学習は、【看護専門職者としての対人関係を築くために必要なコミュニケーション技法】【看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法】から構成される。							
これらのコミュニケーション技法・面接技法や、患者自身の解釈モデルを聞くことの重要性を学習するため、講義だけではなくグループワークやロールプレイを通して看護師に求められる態度を培う。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションとは何かを理解し、看護コミュニケーションを学ぶ必要性について考 える事ができる。					
2	コミュニケーションの種類と影響するもの	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの違いを説明できる。					
3	医療におけるコミュニケーション	看護におけるコミュニケーション場面を述べることができ、看護面接とはどのような過程か述べ ることができる。					
4	良好なコミュニケーションに必要な技法 <質問技法>	良好なコミュニケーションの中で聞くための技法として質問技法を述べることができる。					
5	良好なコミュニケーションに必要な技法 <積極的傾聴と共感>	良好なコミュニケーションの中で積極的傾聴と共感について説明することができる。					
6	良好なコミュニケーションに必要な技法 <関係構築技法>	良好なコミュニケーションのために関係構築が必要な理由を述べることができる。					
7	看護面接のプロセスの13STEP グループワーク	看護面接の13STEPを理解することができる。					
8	プロセスレコードとは	プロセスレコードとは何か説明することができる。					
9	プロセスレコードの実際	プロセスレコードを理解し記述することができる。					
10	演習1	設定された状況をふまえ、環境や状況に応じたコミュニケーションに必要なことは何か考 えることができる。					
11	演習2 小テスト	これまで学んだ内容を振り返り理解することができる。					
12	高度なコミュニケーション	コミュニケーションが困難な場合における対応を考え 事ができる。					
13	良好な患者-看護師関係を構築するための看 護コミュニケーション	ネガティブな患者の事例に対してどのような対応が必要 か考 える事ができる。					
14	看護コミュニケーション技法	提示された事例について看護面接の方法を検討し、ロー ルプレイの準備をする。					
15	看護コミュニケーション技法	ロールプレイの振り返りをすることでコミュニケーション技法を理解する ことができる。					

留意事項（履修条件等）					
看護専門領域の基礎となる科目です。基礎看護学実習、生活援助方法論、生活援助方法演習などの科目と直結する科目になります。またグループワークやロールプレイなどの演習も含まれているので、積極的に受講することが条件となります。					
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。					
授業時間外の学修（事前・事後学習）					
科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。					
事前学習：日々の会話の中でも看護コミュニケーションにつながるヒントを見つけてください。					
事後学習：講義内で提示された課題についてはしっかりと事後学習をして、期限内に必ず提出するようにしてください。					
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）					
時間：火曜 5 限、木曜 5 限					
場所：716					
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）					
講義内でレジュメ配布					
参考書：「看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング」；篠崎恵美子・藤井徹也、医学書院、2016 年、ISBN：978-4-260-02063-3					
最終到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 看護コミュニケーションの必要性、重要性について説明することができる。 良好な患者一看護師関係を考えることができ、様々な場面におけるコミュニケーションの取り方について考え方理解することができる。 					
評価方法及び評価基準					
試験 50%、確認テスト 25%、レポート 15%、演習の参加状況 10%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。					
成績評価基準（学則第 34 条） <table border="0"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
自己の日常生活におけるコミュニケーションと照らし合わせながら、看護コミュニケーションについて考え方理解を深めてください。演習やグループワークには積極的に参加してください。					

授業コード	ENG0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○												
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野と倫理観	○												
授業科目名	看護倫理	選択・必修	必修		知識・技術	○												
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○												
担当教員	河野保子				探求心													
講義目的	看護は生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に展開しなければならない。看護を実践するうえにおいて、看護専門職として必要な倫理的視点を考察するとともに、医療倫理の原則や看護者の倫理綱領について把握し、看護実践への適用方法を理解することを目的とする。																	
授業内容	医療における患者の人権について認識するとともに、患者主体の医療について学ぶ。患者の権利をめぐる歴史的変遷や権利擁護の重要性、医療従事者・看護者と倫理について理解し、看護専門職としての倫理的責務を認識する。さらに倫理的視点と看護実践、法的・倫理的ジレンマ、医療事故と医療過誤についても学修する。広く社会的あるいは医療上問題となる倫理的諸課題に対して事例をもとに検討し、倫理的認識を深める。																	
授業計画及び学習課題																		
回	標題	学習課題																
1	医療はだれのものか。	医療における患者の主体性や医師・看護師の対応についてグループ別に討議を行い、倫理的問題や諸課題について医療従事者としての行動を分析できる。																
2	患者の権利をめぐる歴史的変遷	人権の現代的意義と課題等について理解するとともに、患者の権利獲得の状況をニュールンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言から学ぶことができる。																
3	医療従事者と倫理	倫理とは、倫理原則とは、生命倫理・医療倫理とは、について理解できる。またインフォームドコンセント、自己決定権、守秘義務等の概念について理解できる。																
4	看護倫理	看護実践と倫理、看護師と倫理、職業倫理の原則等、看護行為を支える倫理規範について理解できる。																
5	倫理的視点と看護実践	患者・家族との信頼関係、説明と同意、患者の権利擁護等の倫理原則を適用し、患者中心・主体的看護の重要性が理解できる。																
6	看護師の責務	法的な責任（医療法、保助看法）、倫理的な責任（専門職集団がもつ倫理綱領）等が把握できる。																
7	法的・倫理的ジレンマ	看護の現場で起こりうる価値観の対立について、事例をもとにグループ討議を行い、倫理的関心を培う。																
8	医療事故と医療過誤	医療事故、医療過誤について認識し、看護実践の場で起こりうるリスクの把握と医療事故防止のための対応が理解できる。																
留意事項（履修条件等）																		
専門用語や聞き慣れない言葉が多いため、教科書や資料等を参考に復習に力を入れてください。この講義を通して、自分と異なる価値観に触れながら、自身の倫理的価値観を省察してください。																		
配布された資料は、ファイルにとじてください。																		
グループ討議では積極的な意見表明を期待します。																		
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。																		
授業時間外の学修（事前・事後学習）																		
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。																		
事前学習：講義において学習課題を十分に理解するためには、教科書の該当領域を事前に学習してください。																		

<p>特に 7 回目のグループ演習においては、グループメンバーの事前学習が重要になりますので各自、倫理原則を十分に理解して討議に臨んでください。</p> <p>事後学習：毎回の講義内容を理解するために、教科書・資料等を活用してノートを整理してください。</p>
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
火曜日、木曜日の 5 限目（16:30～18:00） 研究室：701
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：「看護倫理を考える・学ぶ」；小西恵美子訳、日本看護協会出版会、2009 年、 ISBN：978-4-8180-1373-5
参考書：プリントは講義時に配布いたします。参考書は適宜紹介いたします。
最終到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊重や人間の尊厳について、知識の習得のみならず、価値観としての倫理的対応について認識を深めることができる。 ・倫理的原則が理解でき、専門職看護者としての倫理的行動規範が認識できる。
評価方法及び評価基準
期末テスト 60%、課題レポート 20%、講義参加状況・態度 20%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass） D(59 点以下)：C のレベルに達していない（Failure）</p>
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・各講義終了時に、リアクションペーパー（Reaction Paper）を書いていただきます。その内容に関してクラス全体で共有したいことがあれば、次回の講義時に報告・説明いたします。また個別指導においても活用させていただきます。 ・看護倫理は看護実践のベースになるものです。看護師は患者の権利擁護者であることを自覚・行動できることを期待いたします。

授業コード	ENH0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目—基盤看護学—看護管理学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	看護管理学	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	武海 栄				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
講義目的	保健医療提供システムの中で効果的・効率的に看護を行うために必要な看護管理の概念を理解し、良質な看護を提供するためには、管理者のみならずすべての看護職が関わっていることを認識し、組織の中における看護職の役割、特に看護管理者の役割・機能を理解できる。											
授業内容	看護管理の概念と機能、看護部門のマネジメント、医療・看護の質、看護政策などについて学ぶとともに、実習施設における看護部門のマネジメントの実際から看護管理の必要性が理解できる。											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	看護管理とは	看護管理の概念と歴史的背景、看護管理の機能などを理解できる。										
2	看護組織論について	組織の構造、病院組織、看護組織、看護提供システムなどを理解できる。										
3	看護部門のマネジメント	労務管理、看護業務管理、時間管理など看護部門の役割を理解できる。										
4	看護人材マネジメント	専門職とキャリア開発、動機づけ理論、キャリア発達、リーダーシップとマネジメント、プリセプターやメンターシップなどを理解できる。										
5	医療・看護の質保証について	医療・看護の質評価など、また看護情報活用論としての病院情報システムと看護情報、保健医療サービスと看護情報、情報の標準化などを具体的に理解できる。										
6	病院の経営について	看護部の役割、看護と診療報酬、財務管理、経営指標など関連付けて理解できる。										
7	看護政策について	病院内の政策決定プロセス、看護職員の需給、看護職人材確保政策などを理解できる。										
8	まとめ、総括	看護管理について小グループでの討議と発表、講義内容の振り返りにおいて系統的・総合的に考察できる。										
留意事項（履修条件等）												
次回の講義内容を事前に予習し、授業に臨むこと。授業で学んだ内容は、さらに関連事項を図書などで調べておくこと。												
確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。												
事前学習：次回の授業内容の予習を行う。												
事後学習：講義中に指示した課題についてレポートの提出を行う。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
火曜日 5 限目、木曜日 1 限目												
研究室 711												

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：

「系統看護学講座統合分野看護の統合と実践 [1] 看護管理」：上泉和子他、医学書院、2018年、

ISBN: 978-4-260-03182-0

参考書：

「Basic & Practice 看護学テキスト 統合と実践—看護管理」：小林美亞（編集）、学研メディカル秀潤社、2013年、ISBN: 978-4-7809-1102-2

最終到達目標

保健医療システムの中における看護管理の概念が理解でき、患者中心の良質な看護を提供するためには、組織の中の看護職の役割・機能が重要であることを理解できる。

評価方法及び評価基準

期末試験 80%、グループ討議の参加態度やプレゼンテーション 10%、課題の提出 10%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

医療、看護は、組織で実践するものなので、そこには管理が不可欠です。看護管理は、管理者だけが行うものではなく、入職したその日から自分も関わることになります。講義を受ける前の看護管理についての考え方をまとめておきましょう。

授業コード	ENH0201			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	○												
科目区分	専門科目—基盤看護学—看護管理学				広い視野と 倫理観	○												
授業科目名	組織とリーダーシップ論		選択・必修		知識・技術	○												
配当学年/学期	4年/後期		単位数		判断力	○												
担当教員	武海 栄				探求心	○												
講義目的	看護職のキャリア形成や組織におけるリーダーシップについての考え方を理解する。病院などの組織で意欲的に継続的に働くための行動科学の諸理論を理解する。実際の病院看護部の役割を理解し、効果的なリーダーシップの役割行動や看護師のキャリア開発に必要な教育計画などを理解できる。																	
授業内容	組織集団の概念、集団の力動的機能、人間行動学的理論について学ぶとともに、リーダーシップの定義、集団の活性化、状況対応リーダーシップ、フォロワーへのアプローチについて理解できる。さらに看護師のキャリア開発、医療機関における看護職のキャリア開発の仕組み、組織変革のアプローチについて理解を深める。																	
授業計画及び学習課題																		
回	標 題	学習課題																
1	リーダーシップの本質とは、看護業務における組織と個の関係、アシストできる能力の必要性	有機的ヒエラルキーの模式図、看護職者の自覚と組織・個の関係について理解できる。																
2	状況の構造的把握と問題意識、コミュニケーション能力	個を取り巻く組織・社会、各レベルに必要なマネジメント能力、体験的・記載的・分類的方法の各プロセスについて理解できる。																
3	看護管理者のリーダーシップの重要性、看護管理者の置かれる時代・環境の変化	看護管理者にとってのリーダーシップ、サービス業としての医療、ヒューマン・サービス関連活動について理解できる。																
4	看護管理者とマネジメント、リーダーシップ・マネジメント論の変化	マネジリアル・グリッド、リーダーシップPM4類型について理解できる。																
5	マネジメント論の変化	フィードラー・モデルのまとめ、適切なリーダーシップ・スタイルの決定について理解できる。																
6	リーダーの役割、リーダーの資質と能力	成功したリーダーによくある特性とスキル、影響あるリーダーシップ特性について理解できる。																
7	看護職のキャリア開発	サービス・プロフィット・チェーン、キャリア志向と適合認知度のスコアの平均値・標準偏差および人数・構成比、女性の年齢階級別労働率、個人別キャリア形成のための条件設定、キャリア開発モデルの一例について理解できる。																
8	まとめ、総括	組織におけるリーダーシップについて小グループでの討議と発表、講義内容の振り返りにおいて系統的・総合的に考察できる。																
留意事項（履修条件等）																		
次回の講義内容を事前に予習し、授業に臨むこと。授業で学んだ内容は、さらに関連事項を図書などで調べておくこと。1学年時に描いた「なりたい私像」を読み返しておくこと。																		
確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。																		
授業時間外の学修（事前・事後学習）																		
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。																		
事前学習：次回の授業内容の予習を行う。																		
事後学習：講義中に指示した課題についてレポートの提出を行う。																		

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
火曜日 5 限目、木曜日 1 限目
研究室 711
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書： 「系統看護学講座統合分野看護の統合と実践 [1] 看護管理」：上泉和子他、医学書院、2018 年、 ISBN：978-4-260-03182-0
参考書： 「看護管理学習テキスト第 2 版第 1 卷看護管理概説」：井部俊子他、日本看護協会出版会、2016 年、 ISBN：978-4-8180-2041-2 「看護管理学習テキスト第 2 版第 4 卷看護における人的資源活用論」：井部俊子他、日本看護協会出版会、2016 年、 ISBN：978-4-8180-2044-3
最終到達目標
リーダーシップ論や行動科学の諸理論について理解し、組織の中で自分のキャリアをどのように形成していくべきよいか述べることができる。
評価方法及び評価基準
期末試験 80%、グループ討議の参加態度やプレゼンテーション 10%、課題の提出 10%など配点得点を合計 100 円満点として総合評価する。
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
リーダーシップは、才能や資質によるもので、自分にはリーダーシップがないと考えていませんか。リーダーシップは先天的なものではなく、後天的に身に付けることができるものです。講義を受ける前のリーダーシップについての考え方をまとめておきましょう。

授業コード	ENI0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目—発達看護学—小児看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	小児看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	三並めぐる				探求心	○	
講義目的	<p>1. 子どもは、日々、成長・発達をしていく存在である。小児看護学概論では、小児看護の理念や特徴を学び、各小児期における子どもの成長・発達過程を理解し、子どもの人権を考えた小児看護について修得する。</p> <p>2. 子どもを取り巻く生活環境や家族とのかかわりを学び、健康障害が子どもとその家族に及ぼす影響について理解し、小児看護の対象者への援助および小児看護の役割についての基本を修得する。</p>						
授業内容	<p>小児と家族がおかかれている状況について、諸統計資料や小児看護の変遷などから概観し、小児の権利擁護の視点から小児看護の目標や役割、課題について学ぶ。小児の成長・発達の基本的知識を理解し、あらゆる健康レベルや発達段階に応じた小児と家族への援助について理解できる。また、小児がひとりの人間として尊重され、その子らしく生活できるような援助のあり方について思考し、小児看護への関心意欲を高められる内容とする。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	小児看護学概論オリエンテーション 小児看護の理念と特徴 小児看護の歴史と意義	小児看護の対象、小児看護の目的、子どもの最善の利益を目指した小児看護師の役割、小児看護の歴史と動向、課題を理解し、説明できる。					
2	小児看護における倫理・子どもの権利と看護	子どもの権利条約、現代社会と子どもの権利、小児医療の中の子どもの権利と倫理的配慮を理解し、説明できる。					
3	小児看護と法律・施策	母子保健の指標と母子保健施策など小児保健に関する歴史や諸統計資料を学ぶとともに、子どもと家族を取り巻く環境の変化について理解し、説明できる。					
4	子どもの成長と発達	成長・発達の一般的原則、成長・発達に影響する因子、成長・発達の評価について理解できる。					
5	子どもの栄養	発達段階における子どもの栄養の特徴と支援について理解し、説明できる。					
6	成長・発達の特徴と生活援助 ①新生児期	新生児期の形態的・身体生理的な特徴を学び、日常生活の援助について理解し、説明できる。					
7	成長・発達の特徴と生活援助 ②乳児期	乳児期の形態的・身体生理的な特徴を学び、日常生活の援助について理解し、説明できる。					
8	成長・発達の特徴と生活援助 ③幼児期	幼児期の形態的・身体生理的な特徴を学び、日常生活の援助について理解し、説明できる。遊びや基本的生活行動の獲得の重要性を理解し、説明できる。					
9	成長・発達の特徴と生活援助 ④学童期	学童期の形態的・身体生理的な特徴を学ぶとともに、家庭、学校、地域における子どもの安全と健康への支援を理解し、説明できる。					
10	成長・発達の特徴と生活援助 ⑤思春期・青年期	思春期の形態的・身体生理的な特徴を学ぶ。また、思春期に特徴的な第2次性徴の進行、アイデンティティの確立、思春期に起こりやすい健康問題について理解し、説明できる。					
11	子どもの健康増進と疾病予防	子どもが健やかに生まれ、その成長を支えるための児童福祉・母子保健施策・予防接種を理解し、説明できる。					
12	小児の健康増進と家族への支援	子どもにとっての家族の役割や望ましい家族関係について					

		て学ぶ。また、子どもの虐待とその予防、早期発見に向けた支援について理解し、説明できる。
13	災害を受けた子どもと家族への看護	災害を受けた子どもの心と体の影響と災害時の子どもと家族への看護について理解し、説明できる。
14	小児に起こりやすい事故とその予防	日常的に遭遇しやすい子どもの不慮の事故とその予防、事故が起こったときの対処方法を理解し、説明できる。
15	小児看護の役割と課題	これまでの講義を通して、現代社会の小児の最前の利益を守るための小児看護の役割について考察する。
留意事項（履修条件等）		
<p>小児看護学に関する初めての科目であり、小児看護学を学ぶ上で基盤となる重要な内容を取り上げます。子どもを理解するために、できるだけ子どもに関する文献や報道等に注目し情報収集を行うなど、主体的に学ぶことを求めます。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。事前に提示する課題（予習・復習）について、自己学習をして講義に臨んでください。</p> <p>事前学習：（毎回 2 時間）教科書を読み、事前に提示された学習課題を行って授業に臨んでください。</p> <p>事後学習：（毎回 2 時間）教科書を読み返すとともに授業中に配付された資料等で授業内容を復習し、授業内容の問題を作成してください。指定された形式を守って期日までにメール送信をしてください。</p>		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
<p>時間：水曜日の昼休みと 3 限</p> <p>場所：研究室 708</p>		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
<p>教科書：『ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 第5版』中野綾美編、メディカ出版 ISBN:978-4-8404-4918-2</p>		
最終到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 子どもと家族をとりまく環境を理解し、小児看護の理念を説明できる。 各小児期の成長・発達の特徴と適切な日常生活への援助について説明できる。 小児と家族への支援・アプローチの基本を理解することができる。 		
評価方法及び評価基準		
<p>期末試験 60% 確認テストおよび課題レポート 30% 講義参加態度 10% で総合的に評価する。</p>		
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</p>		
学生へのメッセージ		
<p>子どもは本来愛され、成長・発達する存在です。子どもは皆さんの元気と笑顔を待っています。子どもと家族の人権と個別性を考えながら根拠に基づいた小児看護学の学びを深めてください。</p>		

授業コード	ENI0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目—発達看護学—小児看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	小児看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	○						
講義目的	<p>子どもは常に成長・発達過程にあることをふまえ、さまざまな健康問題や疾病経過が、子どもとその家族に及ぼす影響について理解する。さらに、健康に問題がある子どもと家族に対する、最善の利益を守るために必要な看護の基本的知識や方法を学ぶことを目的とする。</p>											
授業内容	<p>子どもの心身の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響について考え、健康に問題がある子どもの欲求に応じた、適切な看護の方法について理解する。具体的には、病気・障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響を理解し、療養環境や疾病の経過における子どもと家族への看護について基礎的な知識を修得できるようにする。さらに、子どもが主体的に治療・処置・検査に取り組むことができるような看護師の関わり方について理解する。</p>											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	健康障害のある子どもと家族の理解と看護	子どもの健康障害、それに伴う治療や療養環境の変化が子どもや家族に及ぼす影響を理解するとともに、発達段階に応じた看護を理解し、説明できる。										
2	療養環境にある子どもと家族への看護	さまざまな状況（入院、外来、在宅、災害時）における子どもと家族への看護について理解し、説明できる。										
3	疾病の経過による子どもと家族への看護（急性期）Ⅰ	急性期にある子どもの特徴を学び、子どもと家族に必要な看護を理解する。特に、急性期によくみられる症状（発熱、脱水、けいれんなど）とその看護を理解し、説明できる。										
4	疾病の経過による子どもと家族への看護（急性期）Ⅱ	急性期にある子どもの特徴を学び、子どもと家族に必要な看護を理解する。特に、生命の危機的な状況（呼吸困難、嘔吐・下痢など）と捉えられる症状とその看護を理解し、説明できる。										
5	疾病の経過による子どもと家族への看護（慢性期）	慢性期にある子どもの特徴を学び、子どもと家族に必要な看護を理解する。特に、慢性疾患および慢性的な症状がある子どもと家族への看護・支援について理解し、説明できる。										
6	疾病の経過による子どもと家族への看護（終末期）	子どもの終末期の特徴、生命や死についての捉え方を学び、子どもと家族への看護を理解し、説明できる。										
7	治療や検査、処置を受ける子どもと家族への看護、プレパレーション	子どもにとっての治療、検査・処置の意味を学び、成長・発達段階に応じた適切な看護を理解し、説明できる。										
8	疾病の経過による子どもと家族への看護（周手術期）	手術を受ける子どもの特徴を学び、子どもと家族に必要な看護を理解できるようにする。また、手術による身体的・精神的影響やプレパレーションの重要性、苦痛の軽減や合併症の予防など適切な看護を理解し、説明できる。										
留意事項（履修条件等）												
<p>健康に問題がある子どもと家族について学びながら必要な看護方法を考えていく科目です。「小児看護学概論」で学んだ各小児期の成長・発達の特徴や生活援助の基本的知識が不可欠となりますので、復習した上で講義に臨んでください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>												

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学修課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。

事前学習：講義内容を確認して教科書の該当項目を予習し、疑問点をまとめておく。

事後学習：教科書・講義資料を振り返って復習すると共に、予習で抽出した疑問点が解決できたかを確認する。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

場所：各研究室（三並研究室 708、羽藤研究室 709）

曜日・時間：毎週水曜日 12:30～14:30

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

教科書：『小児の発達と看護』メディカ出版、ISBN:978-4-8404-4918-2

参考書：『発達段階からみた小児看護過程+病態関連図』医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0

最終到達目標

- 病気や入院が子どもや家族に及ぼす影響を説明できる。
- さまざまな療養環境や疾病の経過における子どもと家族に対する適切な看護の方法について説明ができる。
- 子どもが主体的に治療・処置・検査に取り組むことができる看護師の関わり方を修得することができる。

評価方法及び評価基準

期末試験：60%、確認テストおよび課題レポートの提出状況と内容：20%、講義参加状況および態度：20%で総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

あらかじめ教科書に目を通し、概要を把握して参加してください。また、事前に提示された課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んでください。

授業コード	ENI0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性		
科目区分	専門科目—発達看護学—小児看護学				広い視野と倫理観		
授業科目名	小児看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	○	
講義目的							
<p>本科目ではさまざまな健康障害がある子どもと家族に対する健康状況を的確にアセスメントする。また、適切な看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を養うとともに、事例に基づいた看護過程の展開を学修することを目的とする。</p>							
授業内容	<p>子どもの健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を考え、子どもの健康状態を的確にアセスメントすることができる。さらに、病気や入院中であっても子どもの成長・発達を促し、子どもが主体的に治療・処置に取り組むことができるよう看護方法を選択し、実践するための知識と基本的技術を修得する。小児期にみられる疾患についての看護過程の展開を通して、子どもと家族の健康レベルに応じた看護援助方法について学ぶ。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	オリエンテーション（小児看護援助論Ⅱの概要） 既習した小児疾患とその看護についての試験 小児看護技術の特徴の理解（1）（コミュニケーション、プレパレーション、家族へのかかわり方など）	15回で学習する講義・演習の内容について理解できる。小児看護技術の特徴を理解するとともに、子どものアセスメントにおける基本的技術であるコミュニケーションや遊びの援助の重要性を学ぶ。また、成長・発達過程を踏まえた身体的アセスメントの技術を理解し、説明できる。					
2	小児看護技術（2）日常生活援助技術・症状や生体機能の管理技術 1. 環境整備 2. 危険防止（転落・転倒防止等） 3. バイタルサイン測定	成長発達段階を考慮した環境調整を行うことで、入院生活の安全を保障するとともに、その子らしい生活が送れるような援助方法を考えることができる。小児におけるバイタルサイン測定の特徴を理解し、説明できる。					
3	小児看護技術（3）日常生活援助技術・症状や生体機能の管理技術 1. 環境整備 2. 危険防止（転落・転倒防止等） 3. バイタルサイン測定	成長発達段階を考慮した環境調整を行うことができる。小児におけるバイタルサイン測定の特徴を考慮し、子どもの状態を客観的かつ適切にアセスメントすることができる。					
4	小児看護技術（4）日常生活援助技術 4. 清潔（全身清拭・臀部浴・陰部洗浄など） 5. 更衣 6. 排泄（おむつ交換）	子どもの成長・発達に応じた清潔・排泄に関する基礎知識を理解し、説明できる。					
5	小児看護技術（5）日常生活援助技術 4. 清潔（全身清拭・臀部浴・陰部洗浄など） 5. 更衣 6. 排泄（おむつ交換）	子どもの成長・発達に応じた清潔・排泄に関する基礎的な技術を習得することができる。					
6	小児看護技術（6）コミュニケーション技術（プレパレーション・ディストラクション・遊び）	子ども自身が治療や処置について理解でき、検査・処置に対する「心の準備」ができるよう、必要なコミュニケーション技術を理解し、説明できる。					
7	小児看護技術（7）治療援助技術 1. 固定・抑制	処置・検査・治療などを安全に行うための身体の一部または全身の運動制限（固定・抑制）に必要な基礎的					

	2. 酸素療法・吸入 3. 吸引	知識を理解する。子どもの状況に適した方法で呼吸・循環を整える基礎的知識を理解し、説明できる。
8	小児看護技術 (8) 治療援助技術 1. 固定・抑制 2. 酸素療法・吸入 3. 吸引	処置・検査・治療などを安全に行うために、身体の一部または全身の運動制限（固定・抑制）に必要な基礎的技術を習得できる。子どもの状況に適した方法で呼吸・循環を整える基礎的技術を習得できる。
9	小児看護技術 (9) 治療援助技術 4. 与薬（経口・坐薬） 5. 与薬（点滴静脈注射）	成長・発達段階に応じた安全な与薬の基礎的知識を理解し、子どもが与薬に協力・参加するための技術を説明することができる。
10	小児看護技術 (10) 治療援助技術 4. 与薬（経口・坐薬） 5. 与薬（点滴静脈注射）	成長・発達段階に応じた安全な与薬の基礎的技術を習得できる。また、子どもが与薬に協力・参加するための技術を習得することができる。
11	小児看護技術 (11) 技術のまとめ	1~10回目までの基礎的な小児看護技術をグループで振り返ることができる。
12	小児の看護過程 (1) 総論	小児期にみられる疾患の事例を提示し、子どもとその家族の健康レベルに応じた看護援助を実践するための看護過程の展開方法を学ぶことができる。
13	小児の看護過程 (2) 事例のアセスメント・関連図	小児の発達段階における特徴を踏まえながら、疾患及び各種のデータの把握とその理解をし、情報収集から分析・アセスメントを実施する。
14	小児の看護過程 (3) 看護診断・看護計画の立案	事例のアセスメント内容から、患児の側面を関連図に起こしていくとともに、看護診断を行う。また、看護診断から患児に必要な個別性かつ具体性のある看護計画を立案することができる。
15	小児の看護過程 (4) まとめ	12~14回目までの看護過程の展開をグループで振り返ることができる。

留意事項（履修条件等）

小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰなどの知識が基盤となる。復習した上で講義に臨むこと。
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。

事前学習：講義内容を確認し、教科書の該当項目を予習してください。また、演習を実施するにあたり、手順や根拠をしっかりと理解して臨んでください。これが授業参加の前提となります。

事後学習：教科書・講義資料を復習して、演習に臨んでください。また、演習時間に実施できなかった場合は、放課後の時間を使用して、看護技術を練習してください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

場所：各研究室（三並研究室 708、羽藤研究室 709）

曜日・時間：毎週水曜日 12:30~14:30

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

教科書：「小児看護技術 子どもと家族の力を引き出す技」、南江堂、ISBN: 978-4-524-25983-0

参考書：「小児の発達と看護」、メディカ出版、ISBN: 978-4-8404-4918-2

「根拠と事故防止からみた小児看護技術」、医学書院、ISBN: 978-4-260-02500-3

「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN: 978-4-260-02837-0

最終到達目標

1. 小児特有の看護技術を理解し、発達段階および子どものニーズに応じた援助方法を考える（実施する）ことができる。
2. 健康障害をもつ子どもと家族を包括的に捉えた上でアセスメントし、看護実践の方法を考えることができる。

評価方法及び評価基準

期末試験・課題 60% 、授業への参加姿勢や態度 40%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| S(100~90 点) | ：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） |
| A(89~80 点) | ：学習目標を相応に達成している（Very Good） |
| B(79~70 点) | ：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） |
| C(69~60 点) | ：学習目標の最低限は満たしている（Pass） |
| D(59 点以下) | ：C のレベルに達していない（Failure） |

学生へのメッセージ

子どもは大人のミニチュアではなく、さまざまな援助の在り方も成人とは異なります。小児看護学概論や小児看護援助論 I の内容を理解した上で、臨んでください。

授業コード	ENI0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野と倫理観							
授業科目名	小児看護援助論Ⅲ	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	○						
講義目的	子どもとその家族をより理解するための理論の活用の仕方や、子どもと家族への適切な援助に役立つ知識の統合について学び、小児看護実践能力につなげられることを目的とする。											
授業内容	<p>小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱにおける学修を基盤として、小児と家族をより理解するために必要な理論や文献レビューを活用しながら、適切な看護や教育・指導、他職種協働によるチームアプローチの必要性について理解できるようになる。具体的には、先天性疾患あるいは心身に障害をもちらながら生活している小児と家族や、慢性疾患や障害を抱えながら成人期に移行する小児と家族、こころのケアが必要な小児と家族などに焦点をあてる。</p>											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	小児看護学に関する概念および理論とその活用	成長発達段階にある子どもを理解し看護実践する上で重要な諸理論について理解することができる。(ピアジェ、ボウルビィ、エリクソンなど)										
2	小児の家族を理解するための理論とその活用	子どもを取り巻く家族を理解し看護実践する上で重要な諸理論について理解することができる。 (家族発達理論、セルフケア理論、ストレスコーピング理論など)										
3	先天的な疾患や障害を抱えながら生活する子どもと家族への支援	先天的な健康問題をもつ子どもと家族への看護に必要な基礎知識を理解する。(ハイリスク新生児、NICU に入院する児、先天性障害など)										
4	心身障害のある子どもと家族への支援	心身に障害をもつ子どもと家族への看護に必要な基礎知識を理解する。 (脳性麻痺、発達障害、重症心身障害など)										
5	慢性疾患を抱えながら成人期に移行する子どもと家族への支援	成人への移行期にある健康障害のある子どもと家族への看護に必要な基礎知識を理解する。(糖尿病、気管支喘息など)										
6	こころのケアが必要な子どもと家族への支援	虐待が子どもに与える影響を学び、被虐待児およびその家族への看護について学修する。 災害を受けた子どもの心と身体への影響を学び、災害時の子どもと家族への看護について学修する。										
7	小児と家族への教育・指導（小児科外来・在宅支援における看護など）	外来看護師の果たす役割、外来看護の現状や課題を理解する。 在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴を学び、必要な看護を学修する。										
8	小児看護を支えるチームアプローチ・他職種との協働	子どもとその家族を継続的にケアするためのチームアプローチ・他職種との連携について学修する。										
留意事項（履修条件等）												
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習を履修し単位を取得していることが条件となります。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについて は講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												

授業時間外の学修（事前・事後学習）
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修が必要です。
事前学習：講義内容を確認し、教科書の該当項目を予習し、疑問点をまとめておいてください。
事後学習：教科書・講義資料を振り返り、復習するとともに、予習時に抱いた疑問点が解決できたかを確認する。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
場所：各研究室（三並研究室 708、羽藤研究室 709）
曜日・時間：毎週水曜日 12:30~14:30
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：「小児の発達と看護」、メディカ出版、ISBN:978-4-8404-4918-2
参考書：「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0
その他、適宜資料を提示・配布する。
最終到達目標
1. 小児と家族をより理解するための理論や既習の知識を活用することができる。 2. 既存の知識を統合して、長期的・潜在的健康問題を抱えている小児と家族への看護を考えることができる。 3. 小児と家族への支援のための他職種協働によるアプローチを学ぶ。
評価方法及び評価基準
グループワークの参加状況 30%、プレゼンテーション 20%、期末試験 40%、課題 10%で総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
教科書や配布資料に目を通して内容を把握し、必要に応じて文献学習をしてください。また、授業時間外の学習が必要となりますので、グループワーク開始までに個人で進める必要がある課題を行った上で、グループワークに参加してください。

授業コード	ENI0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野と倫理観							
授業科目名	小児看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	○						
講義目的												
さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族を的確にアセスメントしたうえで、対象にあった看護を提供するために必要な技術を身につけることを目的とする。												
授業内容	<p>小児看護援助論Ⅱでの学修を基盤として、さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族に対し、必要な看護を提供できるための技術を身につける。そのために、小児の解剖生理学的特徴をふまえた正しい知識をもとに、発達段階や健康状態にあわせた用具を選択し、子どもや家族にわかりやすく、納得を得る説明方法を考え、子どもの反応を確認しながら実施するための技術を修得する。また、子どもの家族の思いに沿った適切なコミュニケーションのあり方についても学ぶ。</p> <p>小児看護で必要な技術（輸液管理、経管栄養、浣腸、救急蘇生など）について演習を通して技術を修得する。</p>											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	オリエンテーション、演習準備	さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族の事例に対して的確なアセスメントをし、必要な看護援助方法を考えることができる。										
2	技術演習(1)【例：輸液管理、経管栄養、浣腸】	子どもの健康レベルや発達段階に応じ、必要な看護援助技術（例：輸液管理、経管栄養、浣腸など）の根拠をふまえながら計画・実施・評価することができる。										
3	技術演習(1)【例：輸液管理、経管栄養、浣腸】	子どもの健康レベルや発達段階に応じ、必要な看護援助技術（例：輸液管理、経管栄養、浣腸など）の根拠をふまえながら計画・実施・評価することができる。										
4	技術演習(2)【例：子ども・家族とのコミュニケーション、ロールプレイ等】	治療・処置・検査場面などの事例から、子どもの健康レベルや発達段階、家族の状況に応じた説明内容および方法について考えることができる。さらに、ロールプレイを実施し、それに対する反応から評価することができる。										
5	技術演習(2)【例：子ども・家族とのコミュニケーション、ロールプレイ等】	治療・処置・検査場面などの事例から、子どもの健康レベルや発達段階、家族の状況に応じた説明内容および方法について考えることができる。さらに、ロールプレイを実施し、それに対する反応から評価することができる。										
6	技術演習(3)【例：救急蘇生】	子どもの身体の構造的・生理的特徴を考慮した救急蘇生法に関する基礎知識と技術を理解できる。										
7	技術演習(3)【例：救急蘇生】	子どもによくみられる、外傷や急病に対する応急処置についての基礎知識と技術を理解できる。										
8	演習の評価のまとめ	1～7回目までの技術演習の振り返りを行う。										
留意事項（履修条件等）												
<p>小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習を履修し単位を取得していることが条件である。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>												

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修が必要です。

事前学習：講義内容を確認し、教科書の該当項目を予習した上で授業に臨んでください。また、演習を実施するにあたり、手順や根拠をしっかりと理解して臨んでください。

事後学習：教科書・講義資料をふりかえり復習して、演習に臨んでください。また、演習時間に実施できなかった場合は、放課後の時間を使用して、看護技術を復習すること。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

場所：各研究室（三並研究室 708、羽藤研究室 709）

曜日・時間：毎週水曜日 12:30～14:30

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

教科書：「小児の発達と看護」、メディカ出版、ISBN:978-4-8404-4918-2（小児看護援助論Ⅲで使用）

「小児看護技術 子どもと家族の力を引き出す技」、南江堂、ISBN: 978-4-524-25983-0

参考書：「根拠と事故防止からみた小児看護技術」、医学書院、ISBN:978-4-260-02500-3

「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0

最終到達目標

1. 小児と家族の状況にあった適切な看護を提供するための技術を修得することができる。
2. 小児の解剖生理学的特徴や健康状態にあわせた技術の提供方法を考えることができる。
3. 検査・処置を受ける小児の発達段階に応じた説明や、子どもの主体性を促す関わりについて考えることができる。
4. 子どもの親との関係構築の基本を理解することができる。

評価方法及び評価基準

期末試験 60%、小テストおよび課題レポートの提出状況と内容 20%、講義・演習の参加状況および態度 20%で総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

教科書に目を通し、概要を把握してきてください。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義・演習に臨んでください。

授業コード	ENI0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性													
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野と倫理観													
授業科目名	小児看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	○												
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○												
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	○												
講義目的	小児看護に関連するさまざまな機関・施設の見学を通して、子どもの療養環境の実際や、母子保健を支える社会資源について現状を把握し、質の高い小児看護を提供するための組織・環境について学ぶことを目的とする。																	
授業内容	小児看護に関連する機関・施設の見学や、そこで働く職員および療養する子どもや家族へのインタビュー、観察などを通して、子どもの療養環境や健康増進、療養に必要な社会資源の現状と課題について情報を整理する。そこから、既存の知識に照らして子どもの望ましい療養環境や母子保健を支える社会資源、ネットワークの活用について理解することができる。																	
授業計画及び学習課題																		
回	標題	学習課題																
1	子どもの療養に必要な社会資源について	子どもの療養に必要な社会資源の現状を知り、小児医療の特徴や役割を理解し、説明できる。																
2	母子保健を支える社会資源について	母子保健を支える社会資源の現状を知り、ネットワークの活用について理解し、説明できる。																
3	グループワーク1【学外演習の計画立案】	施設の見学訪問に向けて、グループメンバーで演習計画および看護ケアを立案する。																
4	関連機関見学：療育センターなど	療養する子どもの観察やインタビュー、施設の見学を通して、子どもの療養環境を理解し、課題について考える。																
5	関連機関見学																	
6	関連機関見学																	
7	グループワーク2【施設見学後の振り返り】	4～6回目の学びを振り返り、現状と課題を分析する。																
8	小児の療養環境と社会資源の現状と課題について：発表	ディスカッションした内容をグループごとに発表し、学びを共有する。																
留意事項（履修条件等）																		
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習を履修し単位を取得し、かつ、小児看護強化プログラム選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。																		
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。																		
授業時間外の学修（事前・事後学習）																		
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修が必要です。																		
事前学習（1～2時間）：	講義や演習について、主体的に情報収集や予習を行ったうえで、授業やグループワークに参加してください。																	
事後学習（1～2時間）：	学習課題を達成できるよう、個人およびグループで協力し、ディスカッションを深めてください。																	

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）					
場所：各研究室（三並研究室 708、羽藤研究室 709） 曜日・時間：毎週水曜日 12:30～14:30					
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）					
教科書：「小児の発達と看護」、メディカ出版、ISBN:978-4-8404-4918-2 参考書：「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0 必要に応じて資料を配布する。					
最終到達目標					
1. 小児看護に関連する機関・施設の見学を通して、小児の療養環境や社会資源の現状を把握することができる。 2. 小児の望ましい療養環境や母子保健を支える社会資源の活用について課題を明確にすることができます。					
評価方法及び評価基準					
講義およびグループワークの参加状況 40%、プレゼンテーション 20%、課題レポート 40%で総合的に評価する。					
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <table> <tr> <td>S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
教科書や事前に配布する資料に目を通し、自己学習をして目標をもってその目標が達成されるように万全な準備をして学外演習に臨んでください。					

授業コード	ENI0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野と倫理観		
授業科目名	小児看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	○	
講義目的	<p>小児看護学援助論・小児看護学技術論・学外演習等で学んだ知識・技術の内容をもとに、小児看護実習で担当した患者事例を用いた看護実践を振り返り、関心のある小児疾患の事例検討を学ぶことで、よりより小児看護ケアに必要な知識と技術の統合をはかる。</p>						
授業内容	<p>小児看護学の講義・演習・実習で学んだ基礎的知識・基本技術を基盤とし、いかなる状況においても小児の成長・発達を促し、小児と家族の最善の利益を守りながら、健康問題における優先性を判断することのできる能力を養う。その判断や予測に基づいて適切な看護を提供するための応用的な看護実践能力の習得を目指す。さらに、このことを通じて、学生から専門職業人への移行に伴う責任の自覚をもち、小児看護における自己の課題を明確にすることができます。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	小児と家族の健康問題に応じた看護（1） 事例紹介・事例検討	4～5事例をグループに分かれ、事例検討する。 子どもの成長・発達段階に応じた形態的・身体的生理の特徴を理解した上で、子どもと家族の状況をアセスメントする。					
2	小児と家族の健康問題に応じた看護（2） 情報収集・情報の分析	事例について、データ収集、データの整理・分析を繰り返し、問題の明確化をする。					
3	小児と家族の健康問題に応じた看護（3） 計画立案	事例について、看護計画を立案する。（目標の設定、具体的なケア計画）					
4	小児と家族の健康問題に応じた看護（4） 演習準備	事例について、看護計画を実施（演習）するために必要なケア内容の選択・決定をし、準備する。					
5	小児と家族の健康問題に応じた看護（5） 演習発表・討議	事例について、グループごとに発表し討議する。					
6	小児と家族の健康問題に応じた看護（6） 演習発表・討議	事例について、グループごとに発表し討議する。					
7	小児と家族の健康問題に応じた看護（7） 演習発表・討議	事例について、グループごとに発表し討議する。					
8	小児と家族の健康問題に応じた看護のまとめ	様々な事例を通し小児と家族の健康問題に応じた看護について学びを深め、小児看護における自己の課題を明確にする。					
留意事項（履修条件等）	<p>小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習を履修し単位を取得し、かつ、小児看護強化プログラム選抜試験に合格すること。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>						

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修が必要です。

事前学習（1～2時間）：講義内容を確認し、教科書の該当項目を予習し、疑問点をまとめておいてください。

事後学習（1～2時間）：教科書・講義資料を振り返って復習するとともに、予習で書き出した疑問点が解決できたかを確認する。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

場所：各研究室（三並研究室 708、羽藤研究室 709）

曜日・時間：毎週水曜日 12:30～14:30

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

教科書：「小児の発達と看護」、メディカ出版、ISBN:978-4-8404-4918-2

参考書：「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN:978-4-260-02837-0

最終到達目標

- 既習の理論、知識と技術を統合し、小児看護実践への応用が考えられる。
- 学部小児看護の学修の集大成として、専門職業人への移行に伴う責任を自覚し、小児看護における自己の課題を明確にことができる。

評価方法及び評価基準

期末試験 60%、小テストおよび課題レポートの提出状況と内容 20%、講義参加状況および態度 20%で総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

教科書や配布資料に目を通して内容を把握し、必要に応じて文献学習をしてください。また、授業時間外の学習が必要となりますので、グループワーク開始までに個人で進める必要がある課題を行った上で、グループワークに参加してください。

授業コード	ENJ0101	ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目—発達看護学—母性看護学		広い視野と倫理観 <input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	母性看護学概論		知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2年/前期		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	門脇千恵		探求心 <input checked="" type="radio"/>	
講義目的				
<p>1. 子どもを産み育てるについて理解し、母性を取り巻く生活環境や家族とのかかわりについて考えながら学習する。</p> <p>2. 生殖期間の妊娠・分娩・産褥・新生児を中心に基盤と健康問題のアセスメント・看護計画・実施・評価を wellness 型思考で理解して述べられるよう学習する。</p> <p>3. 妊婦の日常生活ケアの必要性がクリティカルに理解できるようグループ討議を行う。また、対象の社会的変遷と国際化社会での国際化社会での看護のあり方がクリティカルに理解できるよう学習する。</p>				
授業内容				
<p>母性看護学の導入として、母性看護の基盤となる概念について理解する。次いで母性看護の対象者に対する理解を深めるために、人間の性と生殖、母性の特性や健康問題について考えることができる。さらに母性看護の対象者を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。また、妊娠の成立と生理および分娩の概要について理解できる。また、適時資料・メディア教材を活用する。</p>				
授業計画及び学習課題				
回	標題	学習課題		
1	オリエンテーション 母性看護の概念：親になること、母子関係、母子相互作用と家族発達、リプロダクティブルス	母性看護学概論Ⅱについて、目的、課題、評価について理解できる。 母性看護学の基盤となる概念を理解することができる。		
2	母性の発達・成熟・継承：セクシュアリティー、母親になることの発達危機の問題、愛着理論	人間の性と生殖、母性の特性やライフサイクルに応じた健康問題について理解することができる。		
3	母性看護の対象と取り巻く社会の変遷：歴史、環境	母性看護の対象者を取り巻く社会的変遷と現状、法令等を述べることができる。		
4	母性看護における生命倫理：妊娠中絶、不妊治療、胎児の擁護（グループワーク）	グループワーク学習によりヒューマンケアについて学ぶことにより今後の母性看護のあり方を検討することができる。		
5	母性看護の組織と法律：母子保健統計の動向	母子保健に関する歴史や諸統計を学ぶことにより今後の母性看護のあり方を検討することができる。		
6	国際化時代の多様なお産文化	国際社会のお産の文化を学び、日本におけるお産のあり方について考えることができる。		
7	女性ホルモンの特徴と変化 生殖器の働きと月経周期	女性ホルモンの特徴と変化 生殖器の働きと月経周期		
8	女性のライフステージ：思春期、成熟期、更年期、老年期における看護	女性のライフステージそれぞれの身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し健康問題を考えることができる。		
9	母性看護学の特徴について (中間テスト)	これまでの講義をとおして現代社会の母性の最善の利益を守るために母性看護の役割について、自己の考えを明確にする。		
10	妊娠の生理的変化とホルモン変化の理解	妊娠の成立と生理と心理・社会的特性について理解することができる。		
11	妊娠期における看護①： 妊娠と胎児のアセスメント 妊娠の診断、健康診査	妊娠と胎児の発育についてアセスメントをることができる。また、妊娠健康診査の必要性について考えることができる。		

12	妊娠期における看護② 妊娠の日常生活のケア	妊娠の日常生活について、マイナートラブルなどを理解し支援の方法について考えることができる。
13	分娩期の看護① 分娩の三要素、分娩の機序	分娩の三要素や分娩の機序が理解できる。
14	分娩期の看護② 分娩開始の兆候、分娩経過	分娩開始の兆候、分娩経過について理解できる。
15	分娩期の看護③ 分娩による胎児に及ぼす影響、産婦の心理・社会的変化	分娩が胎児に及ぼす影響、産婦の心理・社会的変化について理解できる。

留意事項（履修条件等）

グループワークでは、積極的に参加し、意見を述べることができる。

授業中に配布したプリント（レジュメ）は、授業担当者は保管しないので、出席者からコピーをさせてもらうこと。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。

事前学習：1. 教科書に目を通し、概要を把握する。また事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。

2. メディア教材などをを利用して学習を深めて下さい。

事後学習：1. 講義で説明した内容をまとめて、個別でフィードバックして下さい。

2. 各グループのメンバーで、相互的に学習内容を共有し、意識化し、協働学習を実践して下さい。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

火曜日（12 時 30 分～13 時 10 分）707 研究室に来てください。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：

「系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学① 第 13 版」、医学書院、ISBN : 978-4260021883

「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 第 13 版」、医学書院、ISBN : 978-4260021791

最終到達目標

1. 母性看護の基本概念を習得して、対象の社会的変遷と看護のあり方を理解することができる。
2. 人間のライフサイクルとホルモンの多様性を考えることをことができる。
3. 妊娠期の看護について理解できる。
4. 分娩期の看護について理解できる。

評価方法及び評価基準

1. 期末テスト 60%、2. 課題レポート 20%、3. グループワーク参加状況および態度 20% で総合的に評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

1. 教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。

2. メディア教材などをを利用して学習を深めて下さい。

授業コード	ENJ0201			定める養成する能力 デイブロマポリシーに	豊かな人間性																											
科目区分	専門科目—発達看護学—母性看護学				広い視野と倫理観	○																										
授業科目名	母性看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○																										
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○																										
担当教員	門脇千恵、武海栄				探求心	○																										
講義目的	<p>対象の健康レベルを <i>wellness</i> な視点でアセスメントを行い、健康ニーズを充足する援助能力を身につけ、周産期の女性および胎児・新生児の心身の健康現象（生理的変化と病態生理・心理社会的変化）を理解できる。</p> <p>対象の健康レベルのアセスメント能力と看護実践を支える基本技術と日常生活適応促進の援助技法、ハイリスク状況時の適切な援助に向け妊娠期・分娩期の女性にクリティカルな援助技法を理解できる。</p>																															
授業内容	<p>講義は、デモンストレーションや PBL 学習など学生間でも討議する。学生が内在化する母性観・父性観を確認し、対象を共感的に理解する視点を培う。演習は臨床看護実践に必要な基本的技術の習得に個別指導を導入し、シミュレーションモデル人形、メディア教材、保健指導媒体を用いて学習し、理解を深める。</p>																															
授業計画及び学習課題	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>標 題</th><th>学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>妊娠期の異常(1) (門脇) ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、多胎妊娠</td><td>母性看護学概論で学んだ正常な妊娠について復習し、正常妊娠、異常妊娠の違いについて理解できる。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>妊娠期の異常(2) (門脇) 流早産、妊娠高血圧症候群</td><td>妊娠中の日常生活を検討し、異常の予防について考えることができる。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>分娩期の異常① (武海) 分娩の進行を妨げる要因</td><td>分娩の三要素や分娩の経過を踏まえて、分娩を妨げる要因が理解できる。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>分娩期における看護③ (武海) 分娩の異常、異常のある産婦の看護</td><td>正常な分娩について復習し、分娩期の正常と異常を理解できる。ハイリスク産婦の看護を学ぶ。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>分娩期における看護② (武海) 産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際</td><td>産婦・胎児、家族のアセスメントを行い、胎児を含めた産婦と家族への看護について考えることができる。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>妊娠ケア技術演習① (門脇、武海) 子宮底測定法・レオポルド触診法をモデル人形使用により実施</td><td>子宮底測定やレオポルド触診法の意義を理解し、モデル人形を使用しながら実際の技術を習得する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>妊娠ケア技術演習② (門脇、武海) 胎児心音聴取・CTG 装着法をモデル人形使用により実施</td><td>胎児心音聴取や CTG 装着の意義を理解し、モデル人形を使用しながら実際の技術を習得する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>妊娠ケア技術演習③ (門脇、武海) 妊娠体験 (妊娠体験ジャケットを使用)・妊娠体操・呼吸法 (ラマーズ法・リード法)</td><td>妊娠体験ジャケットを装着し、実際の妊娠体験することによって妊娠の日常生活を理解することができる。 また、安全・安楽な分娩ができるための妊娠体操の意義が理解できる。</td></tr> </tbody> </table>					回	標 題	学習課題	1	妊娠期の異常(1) (門脇) ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、多胎妊娠	母性看護学概論で学んだ正常な妊娠について復習し、正常妊娠、異常妊娠の違いについて理解できる。	2	妊娠期の異常(2) (門脇) 流早産、妊娠高血圧症候群	妊娠中の日常生活を検討し、異常の予防について考えることができる。	3	分娩期の異常① (武海) 分娩の進行を妨げる要因	分娩の三要素や分娩の経過を踏まえて、分娩を妨げる要因が理解できる。	4	分娩期における看護③ (武海) 分娩の異常、異常のある産婦の看護	正常な分娩について復習し、分娩期の正常と異常を理解できる。ハイリスク産婦の看護を学ぶ。	5	分娩期における看護② (武海) 産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際	産婦・胎児、家族のアセスメントを行い、胎児を含めた産婦と家族への看護について考えることができる。	6	妊娠ケア技術演習① (門脇、武海) 子宮底測定法・レオポルド触診法をモデル人形使用により実施	子宮底測定やレオポルド触診法の意義を理解し、モデル人形を使用しながら実際の技術を習得する。	7	妊娠ケア技術演習② (門脇、武海) 胎児心音聴取・CTG 装着法をモデル人形使用により実施	胎児心音聴取や CTG 装着の意義を理解し、モデル人形を使用しながら実際の技術を習得する。	8	妊娠ケア技術演習③ (門脇、武海) 妊娠体験 (妊娠体験ジャケットを使用)・妊娠体操・呼吸法 (ラマーズ法・リード法)	妊娠体験ジャケットを装着し、実際の妊娠体験することによって妊娠の日常生活を理解することができる。 また、安全・安楽な分娩ができるための妊娠体操の意義が理解できる。
回	標 題	学習課題																														
1	妊娠期の異常(1) (門脇) ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、多胎妊娠	母性看護学概論で学んだ正常な妊娠について復習し、正常妊娠、異常妊娠の違いについて理解できる。																														
2	妊娠期の異常(2) (門脇) 流早産、妊娠高血圧症候群	妊娠中の日常生活を検討し、異常の予防について考えることができる。																														
3	分娩期の異常① (武海) 分娩の進行を妨げる要因	分娩の三要素や分娩の経過を踏まえて、分娩を妨げる要因が理解できる。																														
4	分娩期における看護③ (武海) 分娩の異常、異常のある産婦の看護	正常な分娩について復習し、分娩期の正常と異常を理解できる。ハイリスク産婦の看護を学ぶ。																														
5	分娩期における看護② (武海) 産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際	産婦・胎児、家族のアセスメントを行い、胎児を含めた産婦と家族への看護について考えることができる。																														
6	妊娠ケア技術演習① (門脇、武海) 子宮底測定法・レオポルド触診法をモデル人形使用により実施	子宮底測定やレオポルド触診法の意義を理解し、モデル人形を使用しながら実際の技術を習得する。																														
7	妊娠ケア技術演習② (門脇、武海) 胎児心音聴取・CTG 装着法をモデル人形使用により実施	胎児心音聴取や CTG 装着の意義を理解し、モデル人形を使用しながら実際の技術を習得する。																														
8	妊娠ケア技術演習③ (門脇、武海) 妊娠体験 (妊娠体験ジャケットを使用)・妊娠体操・呼吸法 (ラマーズ法・リード法)	妊娠体験ジャケットを装着し、実際の妊娠体験することによって妊娠の日常生活を理解することができる。 また、安全・安楽な分娩ができるための妊娠体操の意義が理解できる。																														
留意事項（履修条件等）	<p>限られた時間のなかで授業内容は多岐に亘ります。1回1回の授業を大切に可能な限り授業の復習に取り組んでください。2年後期に開講される疾病・治療論Ⅲを参考にしてください。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>																															

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です

事前学習：

1. 教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。
2. メディア教材などをを利用して学習を深めて下さい。

事後学習：

1. 講義で説明した内容をまとめて、個別でフィードバックして下さい。
2. 各グループのメンバーで、相互的に学習内容を共有し、意識化し、協働学習を実践して下さい。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

門脇 毎週火曜日：12 時 30 分～13 時 10 分 場所：研究室 707

武海 火曜日 5 限目、木曜日 1 限目 場所：研究室 711

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：

「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学②」、医学書院、ISBN：978-4260021791（母性看護学概論で使用）

最終到達目標

1. 妊娠の正常・異常について理解が深まる。
2. 分娩期の正常・異常について理解ができる。
3. モデル人形を使用し、実際の技術を習得する。

評価方法及び評価基準

1. 期末テスト 60%、2. 課題レポート 20%、3. 授業および演習の参加状況および態度 20% で総合的に評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

1. 教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。

2. メディア教材などをを利用して学習を深めて下さい。

授業コード	ENJ0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目—発達看護学—母性看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	母性看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	門脇千恵、武海栄				探求心	○	
講義目的	<p>女性のライフサイクルの中で、周産期の母子とそのパートナーを中心とした家族の健康に焦点を当て、対象の生理的、心理的、社会的变化と生活への適応、健康逸脱時のケアなどについて学習する。母性看護援助論Ⅱでは、産褥期、新生児期の対象理解とケアに焦点を当てて学習する。</p>						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 産褥期・新生児期にある母子の対象特性を理解するための基本的な知識を得る。 褥婦および新生児の健康診査など必要な看護技術をモデル人形の使用により実際の技術を習得する。 事例を用いた看護過程の演習：母性看護援助論Ⅰ領域で学んだ内容と併せて、事例ケースのアセスメントから対象者の全体像を把握し、必要な看護計画の立案に取り組むことで、関連するデータの基礎的知識、情報収集とアセスメント能力の向上、対象者の複合的理解、優先順位を考慮した看護目標と具体案作成を目指す。 						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	オリエンテーション（門脇・武海）	産褥期・新生児期の看護の役割と目標について説明することができる。					
2	産褥期の経過と健康支援について①（武海）	産褥期の正常な経過と予防的ケアについて説明することができる。					
3	産褥期の経過と健康支援について②（武海）	産褥期の経過について特徴的な健康逸脱と看護について説明することができる。					
4	新生児期の経過と健康支援について①（門脇）	新生児期の正常な経過と予防的なケアについて説明することができる。					
5	新生児期の経過と健康支援について②（門脇）	新生児期の経過について特徴的な健康逸脱と看護について理解でき説明することができる。					
6	褥婦ケア技術演習①（門脇・武海） 子宮底測定法、収縮状態のアセスメント方法をモデル人形使用により実施	産褥期の復古を促す意義を理解し、モデル人形を使用しながら実際の技術を習得する。					
7	褥婦ケア技術演習②（門脇・武海） 母乳栄養確立のための援助方法をモデル人形使用により実施（乳房マッサージなど）	母乳栄養を確立するための方法を理解し、モデル人形を使用することにより実際の技術を習得する。					
8	新生児ケア技術演習①（門脇・武海） 新生児の観察、抱き方など育児技術をモデル人形使用により実施	新生児のバイタルサインの測定や黄疸測定などモデル人形を使用しアセスメントに必要な技術を習得する。併せて育児技術を習得する。					
9	新生児ケア技術演習②（門脇・武海） 新生児の沐浴をモデル人形使用により実施	実際の沐浴実施体験をすることによって、身体清潔の技術を習得する。					
10	母性看護援助論Ⅰ領域における看護過程の考え方について（門脇・武海）	アセスメントガイド、記録用紙の使い方、事例の説明について理解し、次回からの講義に生かすことができる。					
11	母子の看護について事例を用いての演習（門脇・武海）	グループワークにより学生間討議を導入し、学習を深めることができる。					
12	母子の生活と健康支援①（門脇・武海）	自宅での生活、母子の安全について説明することができる。また、地域における子育て支援についても説明することができる。					

13	母子の全体像の把握とケアの方向性(事例) (門脇・武海)	事例による母子の全体像の把握とケアの方向性を考え、看護計画の立案、作成をする事ができる。
14	特別な配慮が必要な母子への援助 (門脇・武海) ① NICU/GCU に入院している児と家族への看護 ② 社会的に支援が必要な母子とその家族への看護	NICU/GCU に入院している児と家族への援助ケアを考えることができる。また、社会的に支援が必要な母子とその家族への援助ケアを考えることができる。
15	母子の看護計画の立案 (門脇・武海)	ペーパーシュミレーションを用いて、グループワークにより事例の看護計画を立案する事ができる(グループワーク)。

留意事項 (履修条件等)

2年次後期に開講された母性看護援助論Ⅰ、疾病・治療論で学んだ妊娠期・分娩期の理解は、産褥・新生児期の看護を学ぶ上で重要なので、復習をして講義に臨んで下さい。また、講義資料は適宜配布しますが、ファイルを行い毎回講義時に持って来てください。復習にも活用して下さい。

この科目は、3年後期に行う母性看護学実習の履修条件となっています。母性看護援助論Ⅰとの関連科目です。妊娠・分娩・産褥・新生児期を一連の過程としてとらえることが重要となります。授業中に配布したプリント(レジュメ)は、授業担当者は保管しないので、出席者からコピーをさせてもらうこと。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修 (事前・事後学習)

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題; 事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習: 1. 教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。

2. メディア教材などをを利用して学習を深めて下さい。

事後学習: 1. 講義で説明した内容をまとめて、個別でフィードバックして下さい。

2. 各グループのメンバーで、相互的に学習内容を共有し、意識化し、協働学習を実践して下さい。

オフィスアワー (常勤教員のみ記入)

門脇: 火曜日 12 時 30 分～13 時 10 分、研究室 707、 武海: 火曜日 5 限目、木曜日 1 限目、研究室 711

教材 (「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)

教科書: 「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学②」、医学書院、ISBN: 978-4260021791

(母性看護学概論で使用)

参考書: 「母性看護技術第 2 版看護実践のための根拠がわかる」、メディカルフレンド社、ISBN: 978-4839215941

参考資料・図書は隨時紹介する。

最終到達目標

- 産褥期の正常・異常について理解が深まる。
- 新生児期の正常・異常について理解ができる。
- モデル人形を使用し、実際の技術を習得する。
- 事例を用いた看護過程の演習(事例ケースのアセスメントから対象者の全体像を把握し、必要な看護計画の立案に取り組むことで看護の展開方法を習得する)。

評価方法及び評価基準

- 期末テスト 50%、2. 課題レポート 20%、3. 授業および演習の参加状況および態度(看護過程の学習課題を含む) 30%で総合的に評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。メディア教材などをを利用して学習を深めて下さい。

授業コード	ENK0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	成人看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	大西ゆかり, 上西孝明				探求心	○	
講義目的							
1.	成人各期の発達段階を理解し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴を理解できる。						
2.	日本の成人保健の動向を理解し、成人各期に関連する急性期疾患とヘルスプロモーションを理解できる。						
3.	急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、急性期にある患者の看護援助に必要な概念を理解できる。						
4.	慢性的な病気をもつ患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、慢性的期にある患者の看護援助に必要な概念や理論を理解できる。						
5.	慢性的な病気をもつ人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護を提供することの意義とその方法を考察することができる。						
6.	成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解できる。						
授業内容							
成人各期の発達段階を解説し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を学習する。日本の成人保健の動向を知り、成人各期に関連する急性期疾患とヘルスプロモーションを理解できる。急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を、基礎理論（生体侵襲理論、危機理論等）を用いて習得する。急性期にある患者の看護援助に必要な概念（権利擁護など）および日本の救急医療の歴史・体制および救急患者の特徴を理解できる。							
慢性的な病気をもつ患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、看護援助に必要な概念や理論（ヘルスプロモーション、アンドラゴジー、自己効力理論、変化のステージモデル等）について学習する。また、慢性的な病気をもつ人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護について理解し、その意義や方法について考察できる。さらに、成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解できる。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	授業のオリエンテーション 成人期にある人々の理解1	成人保健としての人口静態・人口動態が理解できる。 成人の健康状態と受療状況が理解できる。					
2	成人期にある人々の理解2	成人各期の身体的、心理・社会的特徴が理解できる。 ライフサイクルから見た成人の特徴が理解できる。 成人の健康課題が理解できる。					
3	ヘルスプロモーション（健康信念モデル、プリシード・プロシードモデル）	ヘルスプロモーションで重要な理論・概念が理解できる。					
4	急性期（ストレス理論、ストレスコーピング、危機理論）	急性期にある人の身体的、心理・社会的特徴が理解できる。 急性期看護で重要な概念・理論が理解できる。					
5	周術期（生体侵襲理論）	周術期にある人の身体的、心理・社会的特徴が理解できる。 周術期にある人への看護が理解できる。					
6	リハビリテーション（適応理論、エンパワーメント）	リハビリテーション期にある人の身体的、心理・社会的特徴が理解できる。 回復過程にある人への看護が理解できる。					
7	慢性期（セルフケア、不確かさ、病みの軌跡）	慢性疾患を持つ人の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 慢性期看護で重要な概念・理論が理解できる。					
8	がん（健康モデル、代替・相補療法）	がんに罹患した人の身体的、心理・社会的特徴が理解できる。 がん看護で重要な概念・理論が理解できる。					

9	終末期（家族看護理論、悲哀・悲嘆、死の受容過程理論）	終末期を迎える人の身体的、心理・社会的特徴が理解できる。 終末期看護で重要な概念・理論が理解できる。
10	患者教育（アンドラゴジー、自己効力理論、変化のステージモデル、アドヒアラנס）、継続看護	患者教育で重要な概念・理論が理解できる。 チーム医療、外来看護、退院調整、社会資源について理解できる。
11	成人看護における倫理	成人看護における倫理的課題について理解できる。
12	成人期の特徴を捉えた看護過程1	NANDAの概要が理解できる。 事例に基づき、情報を分類することができる。
13	成人期の特徴を捉えた看護過程2	ドメインごとに事例のアセスメントを行い、検討することができる。
14	成人期の特徴を捉えた看護過程3	事例の統合的アセスメントを行い、看護上の問題点と看護の方向性を検討することができる。
15	成人看護学概論のまとめ	成人期にある人々の健康課題について説明できる。 成人期にある人々への看護について説明できる。

留意事項（履修条件等）

- 主体的に学ぶ姿勢が大切です。事前課題を行い、発表やディスカッションに積極的に参加してください。
- 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（学修課題；事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。

- 事前学習：毎回の授業で予習課題を提示するので、その課題をしてくること。課題は授業でディスカッションや発表に活用するだけでなく、授業終了後に提出すること。
- 事後学習：前回の授業内容からミニテストを実施するので、授業内容を復習しておくこと。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

大西：木曜日の5限、研究室719、 上西：月曜日の5限、火曜日の5限、研究室718

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

教科書：「成人看護学概論 第2版」、ヌーベルヒロカワ、ISBN：978-4-86174-021-3

最終到達目標

- 成人期にある人々の特徴について説明することができる。
- 疾患が成人の生活に及ぼす影響について説明することができる。
- 疾患と共に生きる成人への看護について説明することができる。

評価方法及び評価基準

筆記試験(35%)、ミニテスト(30%)、予習課題(20%)、授業での発表とディスカッションへの参加度(10%)、シャトルカード(5%)の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

- | |
|---|
| S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure) |

学生へのメッセージ

- 2回目以降の授業開始時にミニテストを実施しますので、遅刻・欠席しないよう体調・時間管理をしてください。授業中の飲食・私語を禁止します。携帯電話は電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまってください。
- 毎回の授業終了時にシャトルカードを取り、出席確認の代用かつ評価の対象とします。

授業コード	ENK0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性							
科目区分	専門科目—成人・高齢者看護学—成人看護学				広い視野と倫理観							
授業科目名	急性期看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	本田和男, 大坪かなえ, 上西孝明				探求心	○						
講義目的												
1. 急性期、特に周手術期にある患者とその家族の理解と基本的看護を修得する。												
2. 各手術における基本的看護について知識及びアセスメント・問題解決能力を修得する。												
授業内容												
周手術期及びクリティカルな状態にある成人期患者の特徴と身体的・精神的・社会的側面を学修し、術前から術後にかけての看護、生命維持、二次障害予防、全身状態改善、退院後の生活、QOL向上に関する急性期・周手術期看護について理解する。具体的には、周手術過程に応じた看護、術後合併症と予防のための看護技術、術後の継続看護、また急性呼吸機能障害、急性循環機能障害、急性脳・神経機能障害、呼吸不全及び多臓器不全患者への看護について学修する。												
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	周手術期看護① 概論 術前の看護	急性期・周手術期看護について理解する。 術前にある患者の身体・心理状態から術前の準備について理解する。										
2	周手術期看護② 術中の看護	手術室看護とその具体的援助、及び手術や麻酔による身体侵襲について理解する。										
3	周手術期看護③ 術直後の看護	手術直後における、術後合併症と合併症予防のための看護について理解する。										
4	周手術期看護④ 術後回復期の看護	手術後の早期回復に向けた看護について理解する。										
5	急性期患者への看護① 呼吸機能障害	急性の呼吸機能障害のある患者への的確なアセスメントについて理解する。										
6	急性期患者への看護② 循環機能障害	急性の循環機能障害のある患者への的確なアセスメントについて理解する。										
7	急性期患者への看護③ 脳・神経障害	急性の脳・神経障害のある患者への的確なアセスメントについて理解する。										
8	急性期患者への看護④ 栄養摂取・消化機能障害	急性の栄養摂取・消化機能障害のある患者への的確なアセスメントについて理解する。										
留意事項（履修条件等）												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。												
事前学習：解剖生理学や疾病治療論で学んだ各臓器の仕組みや働き、病態生理などの振り返りをしておくこと。												
事後学習：各講義でテーマとなった状況、及び代表疾患について、内容を整理しておくこと。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
本田：火曜日の3限 研究室704 上西：月曜日の5限、火曜日の5限 研究室718												

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書： 「看護学テキスト NiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護」、南江堂、ISBN：978-4-524-26136-9
最終到達目標
急性期、特に周手術期にある人とその家族についての理解を深め、看護実践を展開していく際に必要な知識と思考過程を身につけ、臨地実習に活用できる。
評価方法及び評価基準
① 筆記試験 60%、②課題レポート 30%、③授業態度 10%で総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
課題については第1回講義時に説明します。課題は必ず提出して下さい。(未提出の場合、筆記試験は受験不可)

授業コード	ENK0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目—成人・高齢者看護学—成人看護学				広い視野と倫理観		
授業科目名	急性期看護援助論Ⅱ		選択・必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期		単位数		判断力	○	
担当教員	本田和男, 大坪かなえ, 上西孝明				探求心	○	
講義目的							
1. 成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者について、事例を用いて看護過程を展開し、技術演習を通して対象者の健康問題に関する問題解決能力を修得できる。							
2. 成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者への実践的知識と技術を習得できる。							
授業内容							
周手術期及びクリティカルな状態にある患者について、紙上事例を用いてアセスメントから計画立案、実施、評価までの看護診断過程を展開する。周手術期患者への実践的知識と技術として、術前検査（肺機能・心電図）、術後酸素療法（経鼻・マスク法など）、術後早期離床及び退院指導を学修する。またクリティカルな状態にある患者への実践的知識と技術として、気管挿管、心肺蘇生、自動式体外除細動器の使用を学修する。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	授業ガイダンス、成人における看護技術	成人看護学領域の治療に伴う看護技術について概要を学ぶ。					
2	看護過程の展開① 事例の紹介	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。					
3	クリティカルな状態にある患者への看護	クリティカルな状態にある患者の身体的・心理的特徴をふまえた看護の役割について学ぶ。					
4	クリティカルな状態にある患者への看護	気管挿管・心肺蘇生・自動式体外除細動器を用いた一時救命処置法を学ぶ。					
5、6	脳神経系疾患の周手術期看護	脳神経系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。					
7	看護過程の展開② アセスメント（事前レポート提出）	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。					
8	看護過程の展開② アセスメント	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。					
9、10	呼吸器・循環器系疾患の周手術期看護	呼吸器・循環器系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。					
11、12	周手術期患者への看護	呼吸機能検査・十二誘導心電図検査時の対応について学ぶ。					
13	看護過程の展開③ 看護診断（事前レポート提出）	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。					
14	看護過程の展開③ 看護診断	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。					
15、16	消化器系疾患の周手術期看護	消化器系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。					
17、18	整形外科系疾患の周手術期看護	整形外科系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。					
19	看護過程の展開④ 計画立案（事前レポート提出）	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。					
20	看護過程の展開④ 計画立案	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。					

21、22	周手術期患者への看護（早期離床）	早期離床の援助技術について学ぶ。					
23、24	周手術期患者への看護（指導媒体の作成）	事例に沿った退院時指導について学修し、指導媒体の作成を行う。					
25、26	周手術期患者への看護（退院指導）	事例に沿った退院時指導について、グループでディスカッションを行う。					
27、28	看護過程の展開⑤ 発表の準備（資料作成）	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、グループで看護過程の資料を作成する。					
29、30	看護過程の展開⑥ 発表	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、プレゼンテーションを行う。					
留意事項（履修条件等）							
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。							
授業時間外の学修（事前・事後学習）							
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題・予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。							
事前学習：解剖生理学や疾病治療論で学んだ各臓器の仕組みや働き、病態生理、また急性期看護援助論Iの学習ノートを参考に振り返りをしておくこと。							
事後学習：各講義でテーマとなった状況、及び代表疾患について、内容を整理しておくこと。							
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）							
本田：火曜日の3限 研究室704							
上西：月曜日の5限、火曜日の5限 研究室718							
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）							
成人看護学概論、急性期看護援助論Iで使用したテキスト、参考書等							
最終到達目標							
周手術期にある人や、生命の危機状態にある人に必要な看護援助について理解できる。また、適切な時期に援助ができるよう、事例を用いた演習を通して看護技術を修得できる。							
評価方法及び評価基準							
① 筆記試験30%、②事例展開・演習60%、③授業態度10%で総合的に評価する。							
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)							
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)							
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)							
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)							
D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)							
学生へのメッセージ							
課題については第1回講義時に説明します。課題は必ず提出して下さい。（未提出の場合、筆記試験は受験不可）							

授業コード	ENK0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と倫理観							
授業科目名	慢性期看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	大西ゆかり、村上早苗、山本千恵美				探求心	○						
講義目的												
1.	慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴や看護について学ぶ。											
2.	代表的な疾患をもつ患者の特徴や看護について理解する。											
授業内容	慢性の呼吸機能障害、循環機能障害、脳・神経機能障害、栄養摂取・消化機能障害、代謝機能障害、内部環境調節障害に分けて、患者の特徴や看護に必要な情報やアセスメントの視点、看護について理解する。											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	授業のオリエンテーション 慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴や看護の役割	慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴及び看護の役割について理解する。										
2	呼吸機能障害をもつ患者への看護	呼吸器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。										
3	循環機能障害をもつ患者への看護	循環器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。										
4	脳・神経機能障害をもつ患者への看護	脳・神経系の機能障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。										
5	栄養摂取・消化機能障害をもつ患者への看護	栄養摂取・消化器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。										
6	代謝機能障害をもつ患者への看護	代謝機能の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。										
7	内部環境調節障害をもつ患者への看護	腎・泌尿器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。										
8	造血機能障害をもつ患者への看護	造血機能の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。										
留意事項（履修条件等）												
● この授業には、疾病・治療論、成人看護学概論で学習した知識が必要です。												
● 事前課題を行い、様々な機能障害が成人にもたらす影響について理解しておきましょう。												
● 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学修課題；事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。												
● 事前学習：毎回の授業で予習課題を提示するので、その課題をしてくること。課題は授業でディスカッションや発表に活用するだけでなく、授業終了後に提出すること。												
● 事後学習：前回の授業内容からミニテストを実施するので、授業内容を復習すること。ただし8回目のミニテストは授業時間内に実施します。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
時間：木曜日の5限												
場所：研究室719												

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：「慢性期看護論 第3版」、ヌーヴェルヒロカワ、ISBN：978-4-86174-061-9
最終到達目標
慢性疾患に伴う機能障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴について説明できる。 慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者に対する看護の役割について説明できる。
評価方法及び評価基準
筆記試験（35%）、ミニテスト（30%）、予習課題（20%）、授業での発表とディスカッションへの参加度（10%）、シャトルカード（5%）の総合得点を100点とし、総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass） D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）</p>
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none">2回目以降の授業開始時にミニテストを実施しますので、遅刻・欠席しないよう体調・時間管理をしてください。授業中の飲食・私語を禁止します。また、携帯電話は電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまってください。毎回の授業終了時にシャトルカードを取り、出席確認の代用かつ評価の対象とします。

授業コード	ENK0501			定める養成する能力 デイブロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	慢性期看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○						
担当教員	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美				探求心	○						
講義目的												
1. 慢性疾患をもつ人を理解し、援助するために理論・概念を学び患者の全体像を理解する。 2. 慢性疾患をもつ人を理解するための看護アセスメント枠組みを理解し、看護過程を展開する。 3. 患者とその家族が、生活にあったセルフケアを継続できるよう支援するための方策を検討する。												
授業内容												
慢性疾患をもつ患者の事例を用いて、NANDA の枠組みで看護過程を展開する。 5つの事例の病態生理、一般的な経過、看護について理解する。												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	授業のオリエンテーション NANDA の看護アセスメントの枠組み	NANDA の看護アセスメント枠組みの概要を理解できる。										
2～5	呼吸機能障害をもつ患者への看護	病態生理、一般的な経過をふまえ、看護過程を展開する。										
6	看護過程の展開（看護問題・看護計画の発表）	グループで立案した看護計画の発表を通して事例の学びを深めることができる。										
7～10	代謝機能障害をもつ患者への看護	病態生理、一般的な経過をふまえ、看護過程を展開する。										
11	看護過程の展開（看護問題・看護計画の発表）	グループで立案した看護計画の発表を通して事例の学びを深めることができる。										
12～15	循環機能障害をもつ患者への看護	病態生理、一般的な経過をふまえ、看護過程を展開する。										
16	看護過程の展開（看護問題・看護計画の発表）	グループで立案した看護計画の発表を通して事例の学びを深めることができる。										
17～20	内部環境調節障害をもつ患者への看護	病態生理、一般的な経過をふまえ、看護過程を展開する。										
21	看護過程の展開（看護問題・看護計画の発表）	グループで立案した看護計画の発表を通して事例の学びを深めることができる。										
22	セルフマネジメントを高める支援	代謝機能障害をもつ患者に対して、セルフマネジメントを高める支援を検討できる。										
23	エンパワーメントアプローチ	エンパワーメントアプローチについて理解できる。										
24	患者教育のための指導案作成	代謝機能障害をもつ患者への指導案を作成できる。										
25	自己血糖測定・インスリン自己注射	自己血糖測定とインスリン自己注射について理解できる。										
26～29	造血機能障害をもつ患者への看護	病態生理、一般的な経過をふまえ、看護過程を展開する。										
30	看護過程の展開（看護問題・看護計画の発表）	グループで立案した看護計画の発表を通して事例の学びを深めることができる。										
留意事項（履修条件等）												
<ul style="list-style-type: none"> 事例展開するには、疾病・治療論、成人看護学概論、慢性期看護援助論Ⅰで学習した知識が必要です。 個人のワークが遅れると、グループワークに支障をきたします。メンバーシップを発揮できるよう計画的に取り組んでください。 5つの事例としっかり向き合い、後期の慢性期看護実習に備えましょう。 												

- 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学修課題；事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。

- 事前学習：毎回の授業で予習課題を提示するので、その課題をしてくること。課題は授業でディスカッションや発表に活用するだけでなく、授業終了後に提出すること。5つの事例で取り上げた疾患に関するミニテストを実施するので、病態生理や治療についての学習をすること。
- 事後学習：事例の情報の整理やアセスメントなどは、授業の進行に合わせて自己学習してること。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

時間：木曜日の 5 限

場所：研究室 719

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：「慢性期看護論 第3版」、ヌーヴェルヒロカワ、ISBN：978-4-86174-061-9

（慢性期看護援助論 I で使用）

最終到達目標

事例を用いて慢性疾患をもつ人を理解するための看護アセスメント枠組みを説明できる。

慢性疾患をもつ事例の患者像を説明できる。

患者・家族の生活に合わせたセルフケアを支援するための方策を検討することができる。

評価方法及び評価基準

筆記試験（30%）、5事例のミニテスト（20%）、事例展開（20%）、演習（10%）、ピア評価（10%）、シャトルカード（10%）の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59 点以下)：C のレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

- ミニテストは、第 3、7、12、17、26 回目の授業開始時に実施します。授業中は飲食・私語禁止、携帯電話は電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまってください。
- 毎回の授業終了時にシャトルカードを取り、出席確認の代用かつ評価の対象とします。
- ピア評価は、グループメンバー間で誰がどのくらいグループワークに貢献したかを学生同士で評価して頂きます。

授業コード	ENK0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	がん看護援助論		選択・必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期		単位数		判断力	○						
担当教員	大西ゆかり, アダラー・コリンズ慈観, 山本千恵美				探求心	○						
講義目的	がんと共に生きる人とその家族の QOL の向上を目指した看護を提供するために、全人的な視点からの患者理解と、がんに罹患し治療を受ける患者の看護援助に必要な知識を理解する。											
授業内容	がんの早期発見とその予防についての重要性、がんに代表的な治療法である手術・放射線・化学療法における看護について必要な知識を理解する。がん患者の療養支援について考察を深める。											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	授業のオリエンテーション がん医療の特徴と看護の専門性	がんの疫学、がん医療の特殊性とがん患者の健康問題、がん看護の専門性を理解する。										
2	がん患者と家族を理解するための基礎となる考え方や理論	がんサバイバーシップ、意思決定支援、EBMに基づく看護、がん治療における看護の重要性について理解する。										
3	手術療法を受ける患者への看護	手術療法を受けるがん患者の特徴と看護について理解する。										
4	化学療法を受ける患者への看護	化学療法を受けるがん患者の特徴と看護について理解する。										
5	放射線療法を受ける患者への看護	放射線療法を受けるがん患者の特徴と看護について理解する。										
6	緩和ケアを受ける患者への看護	緩和ケアを受けるがん患者の特徴と看護について理解する。										
7	がん患者の療養支援	がん患者の療養の場に選択肢を知り、療養調整の看護について理解する。										
8	まとめ	がんと共に生きる人とその家族の QOL の向上を目指した看護について検討する。										
留意事項（履修条件等）												
● がん体験者の闘病記を読み、がんと共に生きる人の理解を深めましょう。												
● 主体的に学ぶ姿勢が大切です。ディスカッションには積極的に参加しましょう。												
● 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学修課題；事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。												
● 事前学習：プレゼン担当者は、与えられたテーマについて 30 分でプレゼンできるよう準備してくること。プレゼン担当者以外の学生は、ディスカッションに参加できるようそのテーマについて自分なりに考えをまとめてくること。												
● 事後学習：毎回の授業で学んだことをレポートにまとめ提出する。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
大西：木曜日の 5 限、研究室 719												
アダラー・コリンズ慈観：金曜日を除く平日および月曜日から金曜日は E メールにても対応。週末は、E メールのみ。公式なチュートリアルは、申込みによって。												

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：「系統看護学講座 別巻 がん看護学」、医学書院、ISBN：978-4-260-02763-2
最終到達目標
がん医療の特殊性とがん患者の健康問題について説明できる。 がん治療を受ける患者の特徴と看護について説明できる。
評価方法及び評価基準
期末試験（20%）、授業でのプレゼン（20%）、授業への参加度（20%）、事前学習（20%）、課題レポート（20%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass） D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）</p>
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて学生が調べてきたことをプレゼンし、ディスカッションを通して学びを深めていきます。 プレゼン担当者は事前に教員のチェックを受け、プレゼンの内容が不足している場合は課題を追加します。 プレゼン担当ではない学生も、積極的にディスカッションに参加できるように事前学習して授業にのぞむこと。事前学習した内容は課題レポートと合わせて提出すること。 授業中は飲食・私語を禁止します。また、スマートフォンは電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまっておくこと。

授業コード	ENK0701			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	がん看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美				探求心	○						
講義目的	がんに罹患し治療を受ける患者への理解を深め、治療期にある患者への看護援助において必要な知識と技術を習得する。											
授業内容	がんの治療期にある患者のアセスメントに必要な知識や技術を理解し、具体的な看護援助について検討する。											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	コースガイド 乳がん患者の臨床経過	乳がんの事例を通して、がんの臨床経過を理解する。										
2	がん看護におけるコミュニケーション	がん看護におけるコミュニケーションに必要な知識と技術を理解する。										
3	乳がんの手術療法における看護	手術療法を受ける患者に必要な術前・術後の看護を理解する。										
4	乳がん術後の化学療法における看護	化学療法中の患者への症状マネジメントに必要な知識と技術を理解する。										
5	乳がんの放射線治療における看護	放射線治療を受ける患者への看護に必要な知識と技術を理解する。										
6	乳がん治療後のリンパ浮腫のケア	リンパ浮腫のケアに必要な知識と技術を理解する。										
7	がん患者のアピアランスケア	がん患者の外見の変化に対する支援に必要な知識と技術を理解する。										
8	症状マネジメント	がん治療に伴う様々な症状のマネジメントに必要な知識と技術を理解する。										
留意事項（履修条件等）												
<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ姿勢が大切です。ディスカッションには積極的に参加しましょう。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。 												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学修課題；事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。												
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習：プレゼン担当者は、与えられたテーマについて30分でプレゼンできるよう準備してくること。プレゼン担当者以外の学生は、ディスカッションに参加できるようそのテーマについて自分なりに考えをまとめてくること。 事後学習：毎回の授業で学んだことをレポートにまとめ提出する。 												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
時間：木曜日の5限、場所：研究室719												
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）												
教科書：「系統看護学講座 別巻 がん看護学」、医学書院、ISBN：978-4-260-02763-2 (がん看護援助論で使用)												
最終到達目標												
治療期にあるがん患者のアセスメントに必要な知識や技術を理解できる。												
治療期にあるがん患者への看護援助について説明できる。												

評価方法及び評価基準

授業でのプレゼン (40%)、授業への参加度 (20%)、事前学習 (20%)、課題レポート (20%) の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- 与えられたテーマについて学生が調べてきたことをプレゼンし、ディスカッションを通して学びを深めていきます。
- プrezen担当者は事前に教員のチェックを受け、プレゼンの内容が不足している場合は課題を追加します。
- プrezen担当ではない学生も、積極的にディスカッションに参加できるように事前学習して授業にのぞむこと。事前学習した内容は課題レポートと合わせて提出すること。
- 授業中は飲食・私語を禁止します。また、スマートフォンは電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまっておくこと。

授業コード	ENK0801			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と 倫理観	○						
授業科目名	がん看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	大西ゆかり、アダラー・コリンズ慈觀 村上早苗、山本千恵美				探求心	○						
講義目的	がんに罹患し、治療を受ける患者の看護を提供する際に必要な社会資源について理解する。											
授業内容	がん患者会の活動の見学を通して、患者会の役割や機能について学習する。 がん患者を支援するための部門の見学やがん看護領域の認定看護師、がん看護専門看護師の活動の見学を通して、がん患者への看護の役割について学習する。											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	授業のオリエンテーション がん治療を受ける患者に必要な社会的資源	がん治療を受ける患者に必要な社会的資源の概要について理解できる。										
2	患者会の役割と機能	患者会の役割と機能について理解できる。										
3	がん患者の就労支援や経済的支援の実際	がん患者の就労支援・経済的支援について理解できる。										
4	在宅移行支援	在宅移行支援における社会資源の活用について理解できる。										
5	【施設見学】がん専門病院の機能	がん専門病院の機能を理解できる。										
6	【施設見学】がん看護領域の認定看護師の役割	がん看護領域の認定看護師の役割を理解できる。										
7	【施設見学】がん看護専門看護師の役割	がん看護専門看護師の役割を理解できる。										
8	まとめ	学外演習での学びを意見交換し、がん患者に必要な社会的資源について理解を深める。										
留意事項（履修条件等）												
● 主体的に学ぶ姿勢が大切です。ディスカッションには積極的に参加しましょう。												
● 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学修課題：事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。												
● 事前学習：プレゼン担当者は、与えられたテーマについて30分でプレゼンできるよう準備してくること。プレゼン担当者以外の学生は、ディスカッションに参加できるようそのテーマについて自分なりに考えをまとめてくること。												
● 事後学習：毎回の授業で学んだことをレポートにまとめ提出する。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
大西：木曜日の5限、研究室719 アダラー・コリンズ慈觀：金曜日を除く平日および月曜日から金曜日はEメールにても対応。週末は、Eメールのみ。公式なチュートリアルは、申込みによって。												
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）												
教科書：「系統看護学講座 別巻 がん看護学」、医学書院、ISBN：978-4-260-02763-2 (がん看護援助論で使用)												
最終到達目標												
がん治療を受ける患者に必要な社会的資源について説明できる。 がん看護領域の認定看護師、がん看護専門看護師の役割について説明できる。												

評価方法及び評価基準

授業でのプレゼン (40%)、授業への参加度 (20%)、事前学習 (20%)、課題レポート (20%) の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

- S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- 与えられたテーマについて学生が調べてきたことをプレゼンし、ディスカッションを通して学びを深めていきます。
- プrezen担当者は事前に教員のチェックを受け、プレゼンの内容が不足している場合は課題を追加します。
- プrezen担当ではない学生も、積極的にディスカッションに参加できるように事前学習して授業にのぞむこと。事前学習した内容は課題レポートと合わせて提出すること。
- 授業中は飲食・私語を禁止します。また、スマートフォンは電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまっておくこと。

授業コード	ENK0901			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野と 倫理観	○						
授業科目名	がん看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美				探求心	○						
講義目的	これまで学んだがん看護援助論、がん看護技術論、がん看護学外演習等で習得したがん看護の関連する知識、技術の統合を目指す。											
授業内容	事例を通して、治療期・終末期にあるがん患者と家族のニーズ、がんの経過に合わせた療養支援について検討する。											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	授業のオリエンテーション、事例紹介 がん患者・家族へのケアに有用な考え方・理論	がん患者・家族へのケアに有用な考え方・理論について理解できる。										
2	初期治療を受けるがん患者・家族の課題やニーズのアセスメント	事例のがん患者・家族の課題やニーズのアセスメントについて理解できる。										
3	乳がんの手術を受けた患者への退院指導	乳がんの手術を受けた患者への退院指導について検討することができる。										
4	薬物療法中の有害事象のマネジメント	薬物療法中の有害事象のマネジメントについて理解できる。										
5	再発したがん患者・家族の課題やニーズのアセスメント	再発したがん患者・家族の課題やニーズのアセスメントについて理解できる。										
6	再発したがん患者の療養支援	再発したがん患者の療養支援について検討することができる。										
7	アドバンスケアプランニング	アドバンスケアプランニングについて検討することができる。										
8	まとめ	事例を通しての学びを意見交換し、がん患者・家族へのケアについて理解を深める。										
留意事項（履修条件等）												
● 主体的に学ぶ姿勢が大切です。ディスカッションには積極的に参加しましょう。												
● 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学修課題；事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。												
● 事前学習：プレゼン担当者は、与えられたテーマについて30分でプレゼンできるよう準備してくること。プレゼン担当者以外の学生は、ディスカッションに参加できるようそのテーマについて自分なりに考えをまとめてくること。												
● 事後学習：毎回の授業で学んだことをレポートにまとめ提出する。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
時間：木曜日の5限												
場所：研究室719												
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）												
教科書：「系統看護学講座 別巻 がん看護学」、医学書院、ISBN：978-4-260-02763-2 (がん看護援助論で使用)												

最終到達目標
1. 治療期にあるがん患者・家族への援助方法を検討することができる。
2. 緩和ケアへの移行について検討することができる。
3. 症状マネジメントの方策を検討することができる。
評価方法及び評価基準
授業でのプレゼン(40%)、授業への参加度(20%)、事前学習(20%)、課題レポート(20%)の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。
<p>成績評価基準(学則第34条)</p> <p>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて学生が調べてきたことをプレゼンし、ディスカッションを通して学びを深めていきます。 プレゼン担当者は事前に教員のチェックを受け、プレゼンの内容が不足している場合は課題を追加します。 プレゼン担当ではない学生も、積極的にディスカッションに参加できるように事前学習して授業にのぞむこと。事前学習した内容は課題レポートと合わせて提出すること。 授業中は飲食・私語を禁止します。また、スマートフォンは電源を切るかマナーモードにしてカバンにしまっておくこと。

授業コード	ENL0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○																																	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野と倫理観	○																																	
授業科目名	高齢者看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○																																	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○																																	
担当教員	奥田泰子				探求心	○																																	
講義目的	<p>高齢者看護は、高齢者自身からの学びを取り入れつつ、他の学問領域等の成果を活用して、高齢者のQOL向上を目指した看護を実践する必要がある。本講座では、老年期にある人々を身体的・精神（心理）的・社会的側面から総合的に理解する。さらに、わが国の高齢社会の現状と高齢者の健康や生活の現状を理解し、高齢者の生活の維持・向上のための保健・医療・福祉制度を学修する。高齢者へのインタビューやグループディスカッションを通して、学生個々の高齢者観を構築する。</p>																																						
授業内容	<p>高齢期にある人とその家族を環境との関係の中で、発達段階、健康レベル、保健行動の視点から生活者として総合的に理解し、高齢者とその家族を支援する看護活動の基本的概念について学ぶ。また、高齢者のウェルネスとQOLの視点から、高齢者の特徴や個人差、その人らしさについて学びを深め、最適の健康を生きることができる援助のあり方について理解し、高齢者の人権や権利擁護について学ぶ。</p> <p>（主な内容 全15回）</p> <p>老年看護学を理解するための基盤・老年看護の理念と目標と老年看護の対象となる人々の特徴・老年看護に活用できる理論・アプローチ・療養生活への支援・生かし生かされる地域づくり・老年看護学の課題、老年看護学における対象の見方・とらえ方・「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護・療養生活への支援（薬物療法・手術療法・リハビリテーション等を受ける人への看護）尊厳ある介護と看取り・家族介護者の生活支援</p>																																						
授業計画及び学習課題	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>標 題</th> <th>学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高齢者看護学概論の受講ガイダンス ライフサイクルからみた老年期の理解</td> <td>受講上の注意事項や履修要件を理解し、主体的学習姿勢が持てる。 古いの意味を考え、古いに向き合う基本姿勢について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>老年期の理解 老年期とは、加齢（老化）に関する理解</td> <td>老年期にある人々の発達課題を理解する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>高齢者を取り巻く社会制度（1） 高齢人口の推移、高齢者の健康</td> <td>日本の高齢化の現状について統計データをもとに学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>高齢者を取り巻く社会制度（2） 医療制度と介護保険制度</td> <td>社会資源の概要や具体的活用方法について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>高齢者の権利擁護 倫理的課題、高齢者の尊厳と権利擁護</td> <td>高齢者の権利擁護に関する基本を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護</td> <td>高齢者の老いを生きることの意味や高齢者の豊かな生の創出を支援する方法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>高齢者看護の対象となる人々の特徴（1） 対象特性、対象理解</td> <td>高齢者の特性を知り、高齢者を理解する視点を学ぶ。 環境との相互作用を通して高齢者を理解する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>高齢者看護の対象となる人々の特徴（2） からだ、こころ、かかわり</td> <td>高齢者の生理的老化とメカニズムを理解する。 高齢者的心の状態に影響する要因について理解する。 高齢者のかかわりの特徴を理解する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>高齢者看護の対象となる人々の特徴（3） 暮らし、生きがい、家族</td> <td>高齢者の暮らしの特徴、生きがいについて理解する。 家族の役割について理解する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>高齢者観の構築 高齢者のインタビュー</td> <td>高齢者インタビューを通して、自己の高齢者観を明確にする。</td> </tr> </tbody> </table>						回	標 題	学習課題	1	高齢者看護学概論の受講ガイダンス ライフサイクルからみた老年期の理解	受講上の注意事項や履修要件を理解し、主体的学習姿勢が持てる。 古いの意味を考え、古いに向き合う基本姿勢について学ぶ。	2	老年期の理解 老年期とは、加齢（老化）に関する理解	老年期にある人々の発達課題を理解する。	3	高齢者を取り巻く社会制度（1） 高齢人口の推移、高齢者の健康	日本の高齢化の現状について統計データをもとに学ぶ。	4	高齢者を取り巻く社会制度（2） 医療制度と介護保険制度	社会資源の概要や具体的活用方法について学ぶ。	5	高齢者の権利擁護 倫理的課題、高齢者の尊厳と権利擁護	高齢者の権利擁護に関する基本を学ぶ。	6	「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護	高齢者の老いを生きることの意味や高齢者の豊かな生の創出を支援する方法を学ぶ。	7	高齢者看護の対象となる人々の特徴（1） 対象特性、対象理解	高齢者の特性を知り、高齢者を理解する視点を学ぶ。 環境との相互作用を通して高齢者を理解する。	8	高齢者看護の対象となる人々の特徴（2） からだ、こころ、かかわり	高齢者の生理的老化とメカニズムを理解する。 高齢者的心の状態に影響する要因について理解する。 高齢者のかかわりの特徴を理解する。	9	高齢者看護の対象となる人々の特徴（3） 暮らし、生きがい、家族	高齢者の暮らしの特徴、生きがいについて理解する。 家族の役割について理解する。	10	高齢者観の構築 高齢者のインタビュー	高齢者インタビューを通して、自己の高齢者観を明確にする。
回	標 題	学習課題																																					
1	高齢者看護学概論の受講ガイダンス ライフサイクルからみた老年期の理解	受講上の注意事項や履修要件を理解し、主体的学習姿勢が持てる。 古いの意味を考え、古いに向き合う基本姿勢について学ぶ。																																					
2	老年期の理解 老年期とは、加齢（老化）に関する理解	老年期にある人々の発達課題を理解する。																																					
3	高齢者を取り巻く社会制度（1） 高齢人口の推移、高齢者の健康	日本の高齢化の現状について統計データをもとに学ぶ。																																					
4	高齢者を取り巻く社会制度（2） 医療制度と介護保険制度	社会資源の概要や具体的活用方法について学ぶ。																																					
5	高齢者の権利擁護 倫理的課題、高齢者の尊厳と権利擁護	高齢者の権利擁護に関する基本を学ぶ。																																					
6	「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護	高齢者の老いを生きることの意味や高齢者の豊かな生の創出を支援する方法を学ぶ。																																					
7	高齢者看護の対象となる人々の特徴（1） 対象特性、対象理解	高齢者の特性を知り、高齢者を理解する視点を学ぶ。 環境との相互作用を通して高齢者を理解する。																																					
8	高齢者看護の対象となる人々の特徴（2） からだ、こころ、かかわり	高齢者の生理的老化とメカニズムを理解する。 高齢者的心の状態に影響する要因について理解する。 高齢者のかかわりの特徴を理解する。																																					
9	高齢者看護の対象となる人々の特徴（3） 暮らし、生きがい、家族	高齢者の暮らしの特徴、生きがいについて理解する。 家族の役割について理解する。																																					
10	高齢者観の構築 高齢者のインタビュー	高齢者インタビューを通して、自己の高齢者観を明確にする。																																					

11	高齢者看護に活用できる理論・アプローチ	高齢者看護を行う上での様々な理論やアプローチを学ぶ。
12	高齢者の療養生活の支援（1） 薬物療法	加齢に伴う薬物動態と薬力学の特徴を理解する。 薬物療法を受ける高齢者の援助を理解する。
13	高齢者の療養生活の支援（2） 手術療法・リハビリテーション	手術療法を受ける高齢者に対するインフォームドコンセント、術前、術中、術後の看護について理解する。 リハビリテーションの特徴と意義について理解する。
14	高齢者の療養生活の支援（3） 地域連携と退院支援 (地域包括ケアシステム、多職種連携)	地域連携における多職種連携と看護職者の役割について理解する。
15	療養生活の場の特徴と看護 医療施設（病院）と介護施設（介護保険施設、グループホーム、小規模多機能施設）	それぞれの制度と場の特徴を理解する。

留意事項（履修条件等）

本科目は、高齢者看護学の基盤となる科目であり、主体的な学修を求める。

本科目の履修は、高齢者看護援助論Ⅰ、Ⅱを受講する上での基礎となる科目であり、また、本科目を修得できない場合、「在宅高齢者看護学実習」は履修出来なくなります。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題：事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。

事前学習：授業の最初に渡す授業計画に従って事前学習を行ってください。事前学習に関する確認テストを授業開始時に行います。これは成績評価に加えられます。

事後学習：授業終了後の記憶が新しいうちに授業を振り返りましょう。自分でわからなかったことを確認し、自分で調べてみましょう。それでもわからない場合は、次の授業で質問してください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

毎週火曜日の 12:20~14:00 をオフィスアワーとし、研究室（702）で待機しています。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：「看護学テキスト NICE 老年看護学概論 『老いを生きる』を支えることとは」、南江堂、
ISBN：978-4524259014

参考書：授業の中でお知らせします。

最終到達目標

高齢者を全人的に理解し、高齢者が健やかに老い、そしてその人らしい生を全うするための支援について理解する。そのうえで、自己の高齢者観を構築して看護師としての役割を表現することができる。

評価方法及び評価基準

個別確認テスト 30%、グループテスト 20%、提出課題 10%、期末試験 40%で総合して評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59点以下)：C のレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

授業は TBL (Team Based Learning) をもとに改変したアクティブラーニングを行います。各単元で学生の主体的学修を期待して事前学習としての個別確認テストも行います。またグループディスカッションを取り入れた協同学習や、高齢者インタビューを実施します。3年次の高齢者看護学実習の基本となる知識を学んでください。

授業コード	ENL0201			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性																											
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野																											
授業科目名	高齢者看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○																										
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○																										
担当教員	棚崎由紀子、眞鍋瑞穂				探求心	○																										
講義目的	加齢による変化、高齢者特有の生活機能障害や健康障害に対する理解をもとに、高齢者の健康レベルに応じた具体的な評価方法、援助方法などを創造的・実践的に学ぶ。																															
授業内容	<p>高齢者とその家族を生活機能の視点から考え（アセスメント）、高齢者がより“その人らしい生活”を実現できるための基本的な看護技術について学ぶ。すなわち、高齢者に特徴的な感覚機能障害や摂食・嚥下障害などの老年症候群の原因について理解し、それらの障害がどのように高齢者の生活に影響し、さらに高齢者自身のセルフケアの促進や予防を含めた看護について創造的・実践的に理解する。（主な内容 全8回）</p> <p>高齢者の身体機能の特徴と生活への影響、高齢者看護の基本技術、老年症候群、サルコペニア・フレイルの概念、フィジカルアセスメントの技術</p>																															
授業計画及び学習課題	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>標 題</th><th>学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス 高齢者の健康（身体機能の特徴と生活への影響） (棚崎)</td><td>加齢による身体機能の変化と日常生活への影響について学ぶ。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>援助を必要とする高齢者の理解 老年症候群、サルコペニア、フレイル (棚崎)</td><td>高齢者特有の疾患と、高齢者が要介護状態に陥る要因を理解する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>高齢者の生活機能のアセスメント ヘルスアセスメントの特徴と視点 ICF、高齢者総合機能評価、BADL・IADL (棚崎)</td><td>高齢者のヘルスアセスメント及び生活機能のアセスメントの基本視点を理解する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>日常生活のアセスメントと看護（1） 食事（摂食・嚥下障害、低栄養） (眞鍋)</td><td>加齢に伴う食生活の変化とその看護について学ぶ。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>日常生活のアセスメントと看護（2） 排泄（尿失禁、便秘、下痢） (棚崎)</td><td>加齢に伴う排泄機能（排尿・排便）の変化とその看護について学ぶ。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>日常生活のアセスメントと看護（3） 動作と移動（寝たきり） (棚崎)</td><td>加齢に伴う筋・骨格系の機能低下とその看護について学ぶ。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>日常生活のアセスメントと看護（4） 清潔（痒み・老人性皮膚搔痒症） (眞鍋)</td><td>加齢に伴う皮膚の特徴とその看護について学ぶ。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>日常生活のアセスメントと看護（5） コミュニケーション：感覚機能 (視力低下・難聴・言語障害) (眞鍋)</td><td>加齢に伴う感覚機能の変化とその看護について学ぶ。</td></tr> </tbody> </table>					回	標 題	学習課題	1	ガイダンス 高齢者の健康（身体機能の特徴と生活への影響） (棚崎)	加齢による身体機能の変化と日常生活への影響について学ぶ。	2	援助を必要とする高齢者の理解 老年症候群、サルコペニア、フレイル (棚崎)	高齢者特有の疾患と、高齢者が要介護状態に陥る要因を理解する。	3	高齢者の生活機能のアセスメント ヘルスアセスメントの特徴と視点 ICF、高齢者総合機能評価、BADL・IADL (棚崎)	高齢者のヘルスアセスメント及び生活機能のアセスメントの基本視点を理解する。	4	日常生活のアセスメントと看護（1） 食事（摂食・嚥下障害、低栄養） (眞鍋)	加齢に伴う食生活の変化とその看護について学ぶ。	5	日常生活のアセスメントと看護（2） 排泄（尿失禁、便秘、下痢） (棚崎)	加齢に伴う排泄機能（排尿・排便）の変化とその看護について学ぶ。	6	日常生活のアセスメントと看護（3） 動作と移動（寝たきり） (棚崎)	加齢に伴う筋・骨格系の機能低下とその看護について学ぶ。	7	日常生活のアセスメントと看護（4） 清潔（痒み・老人性皮膚搔痒症） (眞鍋)	加齢に伴う皮膚の特徴とその看護について学ぶ。	8	日常生活のアセスメントと看護（5） コミュニケーション：感覚機能 (視力低下・難聴・言語障害) (眞鍋)	加齢に伴う感覚機能の変化とその看護について学ぶ。
回	標 題	学習課題																														
1	ガイダンス 高齢者の健康（身体機能の特徴と生活への影響） (棚崎)	加齢による身体機能の変化と日常生活への影響について学ぶ。																														
2	援助を必要とする高齢者の理解 老年症候群、サルコペニア、フレイル (棚崎)	高齢者特有の疾患と、高齢者が要介護状態に陥る要因を理解する。																														
3	高齢者の生活機能のアセスメント ヘルスアセスメントの特徴と視点 ICF、高齢者総合機能評価、BADL・IADL (棚崎)	高齢者のヘルスアセスメント及び生活機能のアセスメントの基本視点を理解する。																														
4	日常生活のアセスメントと看護（1） 食事（摂食・嚥下障害、低栄養） (眞鍋)	加齢に伴う食生活の変化とその看護について学ぶ。																														
5	日常生活のアセスメントと看護（2） 排泄（尿失禁、便秘、下痢） (棚崎)	加齢に伴う排泄機能（排尿・排便）の変化とその看護について学ぶ。																														
6	日常生活のアセスメントと看護（3） 動作と移動（寝たきり） (棚崎)	加齢に伴う筋・骨格系の機能低下とその看護について学ぶ。																														
7	日常生活のアセスメントと看護（4） 清潔（痒み・老人性皮膚搔痒症） (眞鍋)	加齢に伴う皮膚の特徴とその看護について学ぶ。																														
8	日常生活のアセスメントと看護（5） コミュニケーション：感覚機能 (視力低下・難聴・言語障害) (眞鍋)	加齢に伴う感覚機能の変化とその看護について学ぶ。																														
留意事項（履修条件等）	<p>本科目の履修は、「高齢者看護学概論」及び「在宅高齢者看護学実習」をすでに履修していることが条件であり、受講するには基礎となる「解剖生理学」、「生活援助方法論」の知識が不可欠となります。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>																															

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：

授業の最初に渡す授業計画に従って事前学習を行ってください。事前学習に関する確認テストを授業開始時に行います。これは成績評価に加えられます。

事後学習：

授業終了後の記憶が新しいうちに授業を振り返りましょう。自分でわからなかったことを確認し、自分で調べてみましょう。それでもわからない場合は、次の授業で質問してください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

隔週の金曜日 12:00～14:00 に各教員の研究室にて待機しています。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：

「看護学テキスト NICE 老年看護技術 最後までその人らしく生きることを支援する」、南江堂、
ISBN : 978-4524259021

「看護学テキスト NICE 老年看護学概論 『老いを生きる』を支えることとは」、南江堂、
ISBN : 978-4524259014（「高齢者看護学概論」の指定教科書）

参考書：

「生活機能から見た老年看護過程 第3版」、医学書院、ISBN : 978-4260028363
(「高齢者看護援助論Ⅱ」の指定教科書)

最終到達目標

加齢に伴う身体機能の特徴と日常生活への影響を説明できる。また、それに伴うアセスメント方法、具体的な看護援助方法について説明できる。

評価方法及び評価基準

個別確認テスト 30%、グループテスト 20%、提出課題 10%、定期試験 40%で総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

- S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(59点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

講義は、TBL (Team Based Learning) をもとに改変したアクティブラーニングを行います。学生の主体的な学修を期待して、グループディスカッションを取り入れた協同学習を行います。すでに履修している高齢者看護学概論の知識や在宅高齢者看護学実習の経験が不可欠となります。しっかりと事前学習（課題）に取り組み、高齢者看護の基本的援助技術を学んでください。

授業コード	ENL0301			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野	
授業科目名	高齢者看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	棚崎由紀子, 真鍋瑞穂				探求心 <input checked="" type="radio"/>	
講義目的	高齢者の特徴および倫理的課題をふまえ、健康レベルに応じた生活支援技術（看護実践力）を養う。また、事例を用いた（ペーパーペイントを素材とした）グループ学習による高齢者の個別性を踏まえた看護ケア計画立案の過程を体験する。					
授業内容	<p>高齢者の加齢に伴う変化や疾病・障害を理解し、個性豊かに高齢期を生きる人々の健康のレベルに応じた生活を支援する看護について学ぶ。また、高齢者が生活するさまざまな場の特徴を理解し、それぞれの場に応じ、高齢者とその家族のQOLを高める看護活動について考え、高齢者が最期まで尊厳をもって生活するための支援について学ぶ。（主な内容 全15回）</p> <p>高齢者の健康レベルと生活・療養の場の特徴・高齢者看護と権利擁護・認知機能障害と看護・認知機能障害を持つ高齢者を介護する家族の支援、高齢者のQOLとコミュニケーション・死と終末期の看護・高齢者と緩和ケア、高齢者と急性期の看護・高齢者とリハビリテーション看護、アクティビティケア・看護過程の展開</p>					
授業計画及び学習課題						
回	標題	学習課題				
1	ガイダンス 高齢者の特徴的な症状と看護（1） 脱水 (棚崎)	高齢者の脱水の要因と病態、その看護について理解する。				
2	高齢者の特徴的な症状と看護（2） 起立・歩行障害、転倒・骨折 (棚崎)	高齢者の筋・骨格系の特徴とともに、転倒、骨折の病態、発生要因について理解する。				
3	高齢者の特徴的な症状と看護（3） 起立・歩行障害、転倒・骨折 不眠（睡眠も含む） (棚崎)	高齢者の転倒、骨折の病態、発生要因とその看護について理解する。高齢者の睡眠の特徴とともに、不眠の病態とその看護について理解する。				
4	高齢者の特徴的な症状と看護（4） 感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、肺炎、疥癬など） (真鍋)	高齢者特有の感染症の病態とその看護について理解する。				
5	高齢者の特徴的な症状と看護（5） うつ、せん妄 (真鍋)	加齢に伴う認知機能の変化と生活への影響を理解する。うつ、せん妄の病態とその看護について理解する。				
6	認知症高齢者の支援（1） 認知症の基本理解（認知症の病態生理、症状、社会制度、認知症の予防、家族支援） (棚崎)	認知症の病態生理、症状について理解する。 認知症にかかる介護保険制度について理解する。				
7	認知症高齢者の支援（2） (真鍋) 認知症の看護の基本姿勢 自立支援と介護予防：アクティビティケア	認知症高齢者の看護の基本姿勢について理解する。 高齢者の自立支援と介護予防に基づいたアクティビティケアの必要性とその具体的な内容について説明できる。				
8	高齢者の終末期看護：エンドオブライフケア (棚崎)	高齢者の死の捉え方について自分の考えを述べることができ、終末期、緩和ケアの特徴および関わり方について説明できる。				
9	看護過程の展開（1） 生活機能モデルの理解 (棚崎)	高齢者を対象にした看護過程の生活機能モデルを理解する。				
10	看護過程の展開（2） (棚崎・真鍋) 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血）	脳血管疾患の高齢者の事例を用いて、生活機能モデルによる看護過程を展開できる。				
11	看護過程の展開（3） パーキンソン病 (棚崎・真鍋)	パーキンソン病の高齢者の事例を用いて、生活機能モデルによる看護過程を展開できる。				

12	看護技術演習：生活支援技術（1） 口腔ケア、食事介助 (棚崎・眞鍋)	事例を用いて、高齢者に対する口腔ケア、食事介助の看護技術演習を行う。					
13	看護過程の展開（4） 大腿骨近位端骨折 (棚崎・眞鍋)	大腿骨近位端骨折の高齢者の事例を用いて、生活機能モデルによる看護過程を展開できる。					
14	看護技術演習：生活支援技術（2） オムツ交換、車いす移乗 (棚崎・眞鍋)	事例を用いて、高齢者に対するオムツ交換、車いす移乗の看護技術演習を行う。					
15	看護過程のまとめ 高齢者の倫理的課題 (棚崎)	看護過程の展開した内容を発表する。 高齢者に対する倫理的課題について理解する。					
留意事項（履修条件等）							
本科目の履修は、「高齢者看護学概論」、「在宅高齢者看護学実習」、「高齢者看護援助論Ⅰ」をすでに履修していることが条件となります。また、受講するには基礎となる「解剖生理学」、「生活援助方法論」の知識が不可欠となります。本科目の履修は、高齢者看護援助論Ⅱを受講する上での基礎となる科目であり、また、本科目を修得できない場合、「高齢者看護学実習」は履修出来なくなります。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。							
授業時間外の学修（事前・事後学習）							
科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。							
事前学習：授業の最初に渡す授業計画に従って事前学習を行ってください。事前学習に関する確認テストを授業開始時に行います。これは成績評価に加えられます。							
事後学習：授業終了後の記憶が新しいうちに授業を振り返りましょう。自分でわからなかったことを確認し、自分で調べてみましょう。それでもわからない場合は、次の授業で質問してください。							
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）							
毎週火曜日の 12：20～14：00 までをオフィスアワーとし、各教員の研究室で待機しています。							
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）							
教科書：「生活機能から見た老年看護過程 第3版」、医学書院、ISBN：978-4260028363 「看護学テキスト NICE 老年看護学概論 『老いを生きる』を支えることとは」、南江堂、 ISBN：978-4524259014（「高齢者看護学概論」の使用教科書） 「看護学テキスト NICE 老年看護技術 最後までその人らしく生きることを支援する」、南江堂、 ISBN：978-4524259021（「高齢者看護援助論Ⅰ」の使用教科書）							
参考書：講義内で紹介する							
最終到達目標							
高齢者の社会的背景をふまえた倫理的課題を説明できる。そのうえで健康課題のある高齢者に対する高齢者看護の基本的考え方や看護方法について述べることができる。							
評価方法及び評価基準							
講義前テスト 30%、グループテスト 20%、提出課題 10%、期末試験 40%で総合的に評価する。							
成績評価基準（学則第34条） <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下)：C のレベルに達していない (Failure)
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)							
A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)							
B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)							
C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)							
D(59点以下)：C のレベルに達していない (Failure)							
学生へのメッセージ							
講義はTBL (Team Based Learning) をもとに改変したアクティブラーニングを行います。各単元で学生の主体的学修を期待して事前学習としての確認テストを行います。またグループディスカッションを取り入れた協同学習を行うため、その都度、学習課題を提示します。また、時間内にレスポンスシート等による講義内容のフィードバックを行う。この講義の学びは、3 年後期の高齢者看護学実習において実践することになります。しっかりと身につけておきましょう。							

授業コード	ENL0401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	認知症看護援助論	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	奥田泰子				探求心	○						
講義目的												
高齢化の延伸に伴い看護の対象となる人々に認知症高齢者が増加している現状において、認知症高齢者のQOLの維持、向上ができる看護専門職者として認知症を正しく理解する。そのうえで、家族を含めて質の高い援助ができる視点を養うことを目的とする。												
授業内容												
認知症の代表的な原因疾患とその特徴、及び症状に対応した最新の知識と技術について学ぶ。また、最新の薬物療法と非薬物療法の実際について知り、認知症高齢者とその家族に対する質の高い看護実践ができるための基本的技術について学ぶ。さらに、告知やターミナルケアなどの認知症をめぐる今日的な課題や、諸外国の先駆的な取組について知り、課題を明らかにする。 (主な内容 全8回) 認知症の代表的な原因疾患とその特徴と看護、認知症の中核症状と BPSD の予防・緩和、認知症の薬物療法と非薬物療法、認知症をめぐる今日的課題（告知、若年性認知症と就労、ターミナルケア）、認知症看護における倫理的課題と対応、認知症高齢者の介護家族の特徴と支援の実際、わが国と諸外国の認知症に関わる保健・医療・福祉制度の概要と課題、認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと調整												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	認知症疾患の基本理解（1）	認知症の代表的な原因疾患の特徴とその看護を理解する。 認知症の中核症状を理解する。										
2	認知症疾患の基本理解（2） MCI と認知症予防	MCI と認知症予防について理解する										
3	認知症のBPSDと家族介護負担	中核症状との関連でBPSDを理解し、その発生の予防や発生時の対応を理解する。										
4	認知症の薬物療法	最新の薬物療法を理解する。										
5	認知症の非薬物療法	最新の非薬物療法を理解する。										
6	認知症看護における倫理的課題と対応	認知症患者に対する倫理的課題とその対応について理解する。										
7	急性期治療の場における認知症看護	急性期治療の場（急性期の医療施設）における認知症の看護を理解する。										
8	認知症をめぐる今日の課題 (告知、若年性認知症と就労、ターミナルケア)	認知症をめぐる様々な課題について理解する。										
留意事項（履修条件等）												
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習をすでに履修していることが条件となる。 また、認知症高齢者看護強化プログラムのコースを選択している学生は必ず受講してください。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：

授業の中で指定します。

事後学習：

グループワークや文献検索など、授業外での学習を行ってください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

毎週火曜日の 12:00～14:00 まで、研究室 702 で行います。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：「看護学テキスト NICE 老年看護学概論 『老いを生きる』を支えることとは」、南江堂、
ISBN：978-4524259014 (高齢者看護学概論、高齢者看護援助論 I・II のテキストを使用)

参考書：

授業の中で適宜紹介

最終到達目標

原因疾患別の特徴を理解する。

BPSD の要因から援助方法を考えることができる。

評価方法及び評価基準

個別確認テスト 30%、グループテスト 20%、提出課題 10%、期末試験 40% で総合して評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

認知症高齢者看護の興味関心がある学生を求めます。主体的に授業に参加して学んでください。

今後も高齢者が増加する中で、臨床看護にも、在宅での看護にも非常に役立つ科目です。認知症の看護はまだ確立されていません。一緒に新しい看護を考えてみませんか。

授業コード	ENL0501			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性					
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野					
授業科目名	認知症看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術 <input checked="" type="radio"/>					
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>					
担当教員	棚崎由紀子, 真鍋瑞穂				探求心 <input checked="" type="radio"/>					
講義目的										
認知症高齢者の尊厳ある生活を支援するために必要な基本的援助技術について、具体的な計画・実践を通して理解する。										
授業内容										
認知症高齢者の思いを正しく理解し、認知症高齢者の健康と尊厳ある生活を支援するために必要なコミュニケーション技術、回想法、アクティビティケア、認知リハビリテーション、コンフォートケアなどの基本的な援助技術を取り上げ、その具体的な実践内容と留意点について実践的に学ぶ。 (主な内容 全8回) 認知症高齢者の回想法（個人・小集団）、認知症高齢者の特性をふまえたコミュニケーション・認知症高齢者とのコミュニケーションの実際、アクティビティケア、認知症高齢者に対するコンフォートケア										
授業計画及び学習課題										
回	標 題	学習課題								
1	ガイダンス 認知症高齢者に対するケアの理念 パーソンセンタードケア (棚崎)	認知症高齢者に対するケアの理念を理解する。								
2	認知症高齢者ケアの各種アセスメント BPSDに対するアセスメント（センター方式） (棚崎)	認知症高齢者に対するアセスメントツールについて理解する。								
3	認知症高齢とのコミュニケーション バリデーション (真鍋)	認知症高齢者とのコミュニケーションの方法について理解する。								
4	非薬物療法 (回想法、アニマルセラピー、音楽療法など) (真鍋)	回想法、アニマルセラピー、音楽療法などの非薬物療法について理解する。								
5	非薬物療法の実際 (棚崎)	回想法、アニマルセラピー、音楽療法などの非薬物療法を体験する。								
6	アクティビティケア演習（1） ケア計画の立案 (棚崎・真鍋)	グループメンバーとともに認知症高齢者を対象にしたアクティビティケアを計画する。								
7	アクティビティケア演習（2） ケア計画の立案 (棚崎・真鍋)	グループメンバーとともに認知症高齢者を対象にしたアクティビティケアを計画する。								
8	認知症の事例発表 (棚崎・真鍋)	グループメンバーで立案したアクティビティケアの内容を発表する。								
留意事項（履修条件等）										
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習、認知症看護援助論をすでに履修していることが条件となる。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。										

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：授業の中で指定します。

事後学習：グループワークや文献検索など、授業外での学習を行ってください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

毎週火曜日の 12:00～14:00 まで、各研究室で待機しています。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：

「看護学テキスト NICE 老年看護学概論 『老いを生きる』を支えることとは」、南江堂、ISBN: 978-4524259014
(高齢者看護学概論、高齢者看護援助論 I・II、認知症看護援助論のテキストを使用)

その他、講義の中でも必要な資料を配布する。

参考書：

講義の中で紹介する。

最終到達目標

認知症高齢者の尊厳ある生活を支援するための基本的な援助を実践的に展開することができる。

評価方法及び評価基準

グループワークの参加状況 30%、プレゼンテーション 20%、提出課題およびレポート 50% で総合的に評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

認知症高齢者看護の興味関心がある学生を求めます。主体的に授業に参加して学んでください。

今後も高齢者が増加する中で、臨床看護にも、在宅での看護にも非常に役立つ科目です。認知症の看護はまだ確立されていません。一緒に新しい看護を考えてみませんか。

授業コード	ENL0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	認知症看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	奥田泰子, 棚崎由紀子, 真鍋瑞穂				探求心	○						
講義目的	認知症高齢者の生活の場の特徴をふまえた現状と課題を見出し、今後の認知症ケアのあり方について考察する。											
授業内容	認知症高齢者ケアに必要な社会資源として認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小規模多機能ホーム・ユニット型小規模介護福祉施設等を訪問する。各施設での高齢者や職員とのかかわりを通して、その概要・現状と課題について評価分析し、今後よりよい認知症高齢者ケアの方向性について検討する。(全8回)											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	認知症高齢者の生活の場	認知症高齢者の生活の場(認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小規模多機能ホーム・ユニット型小規模介護福祉施設等)について理解する。										
2	グループワーク(1) 訪問計画の立案	認知症高齢者の社会資源である施設訪問に向けて、グループメンバーで実施内容を計画する。										
3	施設見学	認知症高齢者の生活の場の見学訪問										
4	施設見学	認知症高齢者の生活の場の見学訪問										
5	施設見学	認知症高齢者の生活の場の見学訪問										
6	グループワーク(2) 各施設の現状と課題	施設訪問および事前学習の内容などをもとに、グループメンバーで認知症高齢者の現状と課題について分析する。										
7	グループワーク(3) 各施設の現状と課題と将来展望	施設訪問および事前学習や関連文献などをもとに、グループメンバーで認知症高齢者の現状と課題について分析する。										
8	認知症高齢者の現状と課題:発表会	認知症高齢者に対するケアの方向性や将来展望について、グループディスカッションした内容を発表する。										
留意事項(履修条件等)												
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、認知症看護援助論、認知症看護技術論の単位修得見込みであり、なおかつ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習をすでに履修していることが条件となる。また、認知症高齢者看護強化プログラムのコースを選択している学生は必ず受講してください。												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題:予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。												
事前学習: 授業の中で指定します。												
事後学習: グループワークや文献検索などを行い、授業外での学修を行ってください。												
オフィスアワー(常勤教員のみ記入)												
高齢者看護学領域の教員3名は、火曜日12:00~14:00に各自の研究室で待機しています。												

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：

「看護学テキスト NICE 老年看護学概論 『老いを生きる』を支えることとは」、南江堂、

ISBN : 978-4524259014 (高齢者看護学概論、高齢者看護援助論 I・II、認知症看護援助論で使用したテキスト)

参考書：

授業の中で適宜紹介

最終到達目標

認知症高齢者の生活の場の特徴を理解し、それぞれの現状と課題および将来展望について発表することができる。

評価方法及び評価基準

グループワークの参加状況 30%、プレゼンテーション 20%、提出課題およびレポート 50%を総合的に評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

認知症高齢者看護の興味関心がある学生を求めます。主体的に授業に参加して学んでください。

今後も高齢者が増加する中で、臨床看護にも、在宅での看護にも非常に役立つ科目です。認知症の看護はまだ確立されていません。一緒に新しい看護を考えてみませんか。

授業コード	ENL0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性																												
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野と倫理観																												
授業科目名	認知症看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	○																											
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○																											
担当教員	奥田泰子, 棚崎由紀子, 真鍋瑞穂				探求心	○																											
講義目的	これまでの認知症高齢者ケアに対する学びを多角的に統合し、今後のよりよいケアのあり方について発展的に考察する。																																
授業内容	<p>認知症看護援助論、認知症看護技術論、認知症看護学外演習等で学んだ内容と、統合実習で担当した認知症高齢者の事例を用いて実践した看護を振り返って評価・分析する。不十分であった看護内容については文献を用いて総合的に整理し、よりよい認知症高齢者ケアについて発展的に考察する。(主な内容 全8回)</p> <p>認知症高齢者看護における倫理的課題の概要(事例)、認知症高齢者看護における倫理的課題の実際(事例)、認知症の予防活動、重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア(事例)、生活・療養環境のアセスメントの実際(事例)、生活・療養環境のアセスメントの実際と課題(事例)、認知症高齢者のBPSDのアセスメント(事例)、認知症高齢者のBPSDに対する看護(事例)</p>																																
授業計画及び学習課題	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">回</th> <th style="text-align: center;">標 題</th> <th style="text-align: center;">学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>受講方法のガイダンス 文献検索の方法</td> <td>認知症高齢者看護をテーマにした文献を検索する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>認知症高齢者看護における倫理的課題の実際 (事例)</td> <td>認知症高齢者看護における倫理的課題について事例を通して理解する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>認知症の予防活動(事例)</td> <td>認知症の予防活動について事例を通して理解する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア(事例)</td> <td>重度認知症高齢者の終末期と緩和ケアについて事例を通して理解する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>生活・療養環境のアセスメントの実際と課題 (事例)</td> <td>認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと課題について事例を通して理解する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(1) (事例)</td> <td>認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について事例を通して理解する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(2) (事例)</td> <td>認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について事例を通して理解する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>認知症高齢者ケアの発展的考察</td> <td>これまでの認知症に関連した学びを振り返り、今後の認知症高齢者ケアに対する発展的考察を行う。</td> </tr> </tbody> </table>						回	標 題	学習課題	1	受講方法のガイダンス 文献検索の方法	認知症高齢者看護をテーマにした文献を検索する。	2	認知症高齢者看護における倫理的課題の実際 (事例)	認知症高齢者看護における倫理的課題について事例を通して理解する。	3	認知症の予防活動(事例)	認知症の予防活動について事例を通して理解する。	4	重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア(事例)	重度認知症高齢者の終末期と緩和ケアについて事例を通して理解する。	5	生活・療養環境のアセスメントの実際と課題 (事例)	認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと課題について事例を通して理解する。	6	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(1) (事例)	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について事例を通して理解する。	7	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(2) (事例)	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について事例を通して理解する。	8	認知症高齢者ケアの発展的考察	これまでの認知症に関連した学びを振り返り、今後の認知症高齢者ケアに対する発展的考察を行う。
回	標 題	学習課題																															
1	受講方法のガイダンス 文献検索の方法	認知症高齢者看護をテーマにした文献を検索する。																															
2	認知症高齢者看護における倫理的課題の実際 (事例)	認知症高齢者看護における倫理的課題について事例を通して理解する。																															
3	認知症の予防活動(事例)	認知症の予防活動について事例を通して理解する。																															
4	重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア(事例)	重度認知症高齢者の終末期と緩和ケアについて事例を通して理解する。																															
5	生活・療養環境のアセスメントの実際と課題 (事例)	認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと課題について事例を通して理解する。																															
6	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(1) (事例)	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について事例を通して理解する。																															
7	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(2) (事例)	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について事例を通して理解する。																															
8	認知症高齢者ケアの発展的考察	これまでの認知症に関連した学びを振り返り、今後の認知症高齢者ケアに対する発展的考察を行う。																															
留意事項(履修条件等)	<p>本科目を履修するには、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、認知症看護援助論、認知症看護技術論、認知症看護学外演習の単位修得見込みであり、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習をすでに履修していることが条件となる。認知症高齢者看護強化プログラムのコースを選択している学生は必ず受講してください。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>																																

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：

各単元に関連する事例を文献検索し、興味関心のある論文を読みましょう

事後学習：

授業で学習した事例を振り返りましょう。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

高齢者看護学領域の教員 3 名は、隔週金曜日 12:00~14:00 に各自の研究室で待機しています。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：

「看護学テキスト NICE 老年看護学概論 『老いを生きる』を支えることとは」、南江堂、ISBN: 978-4524259014
(高齢者看護学概論、高齢者看護援助論 I・II のテキストを使用)

参考書：

授業の中で適宜紹介

最終到達目標

認知症高齢者看護を多角的視点で考察し、自己の認知症高齢者看護観を表現することができる。

評価方法及び評価基準

個別確認テスト 30%、グループテスト 20%、提出課題 10%、期末試験 40%を総合して評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

認知症高齢者看護の興味関心がある学生を求めます。主体的に授業に参加して学んでください。

今後も高齢者が増加する中で、臨床看護にも、在宅での看護にも非常に役立つ科目です。認知症の看護はまだ確立していません。一緒に新しい看護を考えてみませんか。

授業コード	ENM0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	在宅看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	田中正子, 永井康徳				探求心	○	
講義目的	<p>在宅療養者とその家族の生活環境及び健康上の課題について理解し、質の高い療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。在宅看護における社会資源の活用及びチームケアと多職種連携の在り方、継続看護、在宅医療等について理解できる。</p>						
授業内容	<p>在宅看護の目的と特性を踏まえた社会動向と在宅看護における保健・医療・福祉制度の理解が出来るよう、諸外国・日本の変遷・社会の現状などをグループや個々での課題学習を交えて授業を展開する。また、在宅看護の対象者の疾患及び療養状況・環境等を捉えた在宅ケアの特徴及びサービス、多職種の連携、マネージメント、介護保険、地域包括ケアシステム、安全性の確保、権利保障、家族の介護力、介護負担等について学修する。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	在宅看護の目的と特徴 在宅看護における看護師の役割と機能	(田中)	該当部分についてテキストを読んでおく (4~17p) 看護師の役割と機能について理解できる。				
2	在宅看護の対象者	(田中)	該当部分についてテキストを読んでおく (21~36p) 在宅療養者と家族の状況について理解できる。				
3	在宅医療について なぜ在宅医療か?	(永井)	在宅医療について調べておく。				
4	在宅ケアを支える制度、 地域包括ケアシステム	(田中)	該当部分についてテキストを読んでおく (44~58p)。 新聞やニュースから社会背景や在宅医療・介護保険の変化や問題について情報収集できる。介護保険・医療保険制度・地域包括ケアシステムについて理解できる。				
5	日本の訪問看護制度の創設と発展経緯及 び世界の訪問看護の動向	(田中)	該当部分についてテキストを読んでおく (40~63p) 日本と世界の訪問看護について理解できる。				
6	在宅医療について 住み慣れた場所での看取り	(永井)	該当部分の参考書を読んでおく。				
7	在宅ケアの連携とマネージメント、 生活支援	(田中)	在宅ケアに関わる職種について調べておく。 訪問看護師が多職種と連携し、マネージメントをして療養者及び家族の健康管理・生活支援をする重要性を理解できる。				
8	対象者の権利保障、尊厳と自己決定	(田中)	該当部分についてテキストを読んでおく (120~129p)。 個人の尊厳と自己決定、虐待について理解できる。 (在宅療養者と家族の講話を聴き、感想文を提出する)				
9	在宅で求められる看護技術の応用	(田中)	該当部分についてテキストを読んでおく (136~190p)。 在宅における観察及びフィジカルアセスメントについて理解できる。				
10	在宅ケアにおける医療技術	(田中)	該当部分についてテキストを読んでおく (191~259p)。 服薬管理、褥瘡、尿道留置カテーテル、ストーマ栄養法、在宅酸素等について理解ができる。				
11	在宅医療について 在宅医療で地域を変える	(永井)	該当部分の参考書を読んでおく。				
12	認知症療養者の在宅看護	(田中)	該当部分についてテキストを読んでおく (293~301p)。 認知症療養者の看護について理解できる。				

13	小児療養者の在宅看護 (田中)	該当部分についてテキストを読んでおく (303~315p)。 小児療養者の看護について理解できる。
14	医療依存度の高い療養者の在宅看護 (田中)	該当部分についてテキストを読んでおく (317~330p)。 人工呼吸器装着療養者の看護について理解できる。
15	在宅看護における安全性の確保 (田中) 在宅ケアの総括	該当部分についてテキストを読んでおく (102~119p)。リスク、 事故防止、感染防止、災害時の看護について理解できる。 今までの講義の振り返りをしておく。
留意事項 (履修条件等)		
<p>1. 授業中の私語をしないこと。携帯を使用しないこと。</p> <p>2. 課題等の提出は期日・時間を厳守すること。</p> <p>3. 課題レポートは永井先生の3回目の講義が終了した後、7/4 (水) の講義が始まる前に提出すること。</p> <p>4. 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについて は講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>		
授業時間外の学修 (事前・事後学習)		
<p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題: 事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。</p> <p>事前学習: 毎回 1~2 時間は、該当部分についてテキスト又は参考書等を読んで予習しておく。</p> <p>事後学習: 毎回 2~3 時間は、講義内容について整理し理解できるように復習する。</p>		
オフィスアワー (常勤教員のみ記入)		
火・木の5限目: 713 研究室		
教材 (「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
<p>教科書: 「系統看護学講座 在宅看護論 第5版」、医学書院、ISBN: 978-4-260-01586-8</p> <p>参考書: 「在宅医療を始めよう! 非がん患者の自宅での看取り」、南山堂、ISBN: 978-4-525-20401-3 「在宅医療を始めよう! 医療を変える、地域を変える、文化を変える」、南山堂、 ISBN: 978-4-525-20741-0 「写真でわかる訪問看護」、インターメディカ、ISBN: 978-4-89996-291-5</p>		
最終到達目標		
<p>1. 在宅看護の目的・意義を説明できる。 2. 病院看護と在宅看護の違いを説明できる。 3. 退院調整を理解し、継続看護の必要性を説明できる。 4. ケアマネジメントの必要性を説明できる。 5. 在宅療養者及び家族の状況について理解できる。 6. 医療処置のある在宅療養者の尊厳と自己決定について理解できる。 7. 在宅看護における看護職の役割が説明できる。 8. 永井医師の講義終了後、講義で習った事等地域包括ケアシステムの現状と課題を視野に入れて、指定された内容についてレポートに記述できる。</p>		
評価方法及び評価基準		
<p>講義、グループワークへの参加及び態度、感想文等 (10%)、レポート (30%)、試験 (60%) で総合的に評価する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 150px;"> <p>成績評価基準 (学則第34条)</p> <p>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</p> </div>		
学生へのメッセージ		
<p>1. 自分の家族及び周囲の環境に興味を持ちましょう。</p> <p>2. 障がい者、小児、高齢者等が利用できる社会資源はどのようなものがあるのか興味を持ちましょう。</p> <p>3. 日頃から心のバリアフリーを意識し、社会的弱者のサポートができるようにしましょう。</p>		

授業コード	ENM0201			定める養成する能力 デイブロマポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野と倫理観						
授業科目名	在宅看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○					
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	○					
講義目的											
在宅における療養者の日常生活支援は、療養者と家族が「生活すること」を支える為に種々の工夫があることを理解できる。また、在宅療養者が安定した生活を送るための在宅看護計画に沿って提供される看護技術が理解できる。介護保険におけるケアプランと訪問看護計画の違いについて理解でき、訪問看護計画を立案することができる。											
授業内容											
日常生活を「生活行為」として家族や環境も含め総合的に捉え、必要な情報を収集し個々に応じた看護計画を立案できるように、机上事例を通してグループ演習を実施する。そして看護計画に沿って提供される看護技術により、多様性のある日常生活援助や医療的処置等が理解できるように授業を進める。また介護保険におけるケアマネージャーが立案するケアプランと訪問看護師が立案する訪問看護計画の違いについて学習する。											
授業計画及び学習課題											
回	標題	学習課題									
1	在宅療養者の日常生活支援 (グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護学概論で学んだ内容について復習しておく。 ・在宅療養における物品の工夫について考えることができる。 									
2	日常生活支援の工夫についてグループ発表	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活支援の工夫についてグループ発表できるようまとめておく。 ・他者の意見を聞くことができ、ディスカッションができる。 									
3	在宅看護過程展開のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p 66~70) ・在宅看護の特徴及び看護過程展開のポイントが理解できる。 									
4	在宅看護過程の展開：情報収集・アセスメント (グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p 70~88) ・収集した情報を整理し、アセスメントができる。 									
5	在宅看護過程の展開：計画立案、評価 (グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p 88~102) ・ニーズに基づき看護計画を立案できる。 									
6	立案した看護計画についてグループ発表	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表出来るように資料を作成しておく。 ・他者の意見を聞くことができ、ディスカッションができる。 									
7	関連図で理解する在宅看護過程 ①身体的側面 ②心理的側面 ③環境・生活側面 ④家族・介護状況側面	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を基盤にした療養者の全体像を捉えることができる。 ・療養者の思いを中心としたアセスメントの4側面について理解できる。 									
8	糖尿病療養者の在宅看護過程：関連図作成 (グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して関連図を作成することができる。 									
9	糖尿病療養者の在宅看護過程：看護過程の展開 (グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例のニーズに基づき在宅看護過程が展開できる。 									
10	立案した看護計画についてグループ発表	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表出来るように資料を作成しておく。 ・他者の意見を聞くことができ、ディスカッションができる。 									

11	介護保険におけるケアプラン： 要支援・要介護度、支給限度額	・支給限度額について調べておく。 ・介護保険におけるケアプランについて理解できる。
12	介護保険におけるケアプラン： 問題点の抽出	・訪問看護計画との違いについて説明できる。 ・アセスメントツールを使用し、ニーズを抽出できる。
13	介護保険におけるケアプラン： ケアプラン作成	・前回の問題点について再度確認しておく。 ・ニーズに基づきケアプランを作成することができる。
14	模擬サービス担当者会議	・模擬サービス担当者会議用の資料を作成しておく。 ・事前に役割分担をし、各自の職種について調べ、質問内容等を考えておく。
15	総括	・今までを振り返り、生活者としての療養者のニーズに合った看護過程を理解し、展開することができる。

留意事項（履修条件等）

- 授業はやむを得ない理由でない限り毎回参加すること
- 課題の提出は期日・時間を厳守すること
- 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについて
は講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。

事前学習：毎回のテーマに関するテキストを読み関心を深めておく。

事後学習：配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習し振り返る。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

田中：火・木 5限目、713 研究室

村岡：火・木 4限目～5限目、共同研究室

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：「在宅看護論 第5版」、医学書院、ISBN：978-4-260-01586-8

参考書：「関連図で理解する在宅看護過程」、メディカルフレンド社、ISBN：978-4-8392-1571-2

最終到達目標

介護保険におけるケアプランと訪問看護計画の違いについて理解でき、訪問看護計画を立案することができる。

評価方法及び評価基準

試験 50%、看護計画立案 30%、出席・グループワーク参加態度 20%等を総合して評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

在宅は病院等とは違い、療養者が主体の場であることを理解し、療養者の思いやニードに沿った支援ができるようにアセスメント力を磨きましょう。

授業コード	ENM0301			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目—広域看護学—在宅看護学				広い視野と倫理観		
授業科目名	在宅看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	○	
講義目的	在宅療養者の日常生活を「生活行為」として総合的に捉えることができ、その為の看護技術方法（日常生活援助、医療技術援助）について理解し、部分的に実施することができる。						
授業内容	在宅で療養している対象者の日常生活援助について、「生活行為」として総合的に学修する。また必要な介助をアクセスメントする能力を養うことができるよう、グループ別にロールプレイ等を実施する。そして在宅看護のイメージ化ができるよう、基本的日常生活や医療処置などその技術について演習する。						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	在宅におけるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p. 137~138) ・在宅におけるコミュニケーションの特徴について理解できる。 					
2	在宅におけるヘルスアセスメント 聴診、打診、触診等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p. 136~182) ・在宅におけるヘルスアセスメントの重要性について理解でき、実施できる。 					
3	初回訪問時のロールプレイ	<ul style="list-style-type: none"> ・配布事例をよく読み、理解しておく。 ・事例を基に訪問時のマナー等を含めロールプレイを通じて、理解を深めることができる。 					
4	食事・嚥下に関する在宅看護技術 口腔ケア、嚥下リハビリ等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p. 147~155) ・在宅療養者の食事における看護技術の特徴、支援、介護者指導、嚥下障害時のポイント等について理解し、実施できる。 					
5	排泄に関する在宅看護技術 排便、陰部洗浄、おむつ交換等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p. 155~160) ・在宅療養者の排泄における看護技術の特徴、支援、介護者指導、便秘時のポイント等について理解でき、実施できる。 					
6	清潔と衣生活に関する在宅看護技術 入浴介助、部分浴、寝衣交換等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p. 170~172) ・在宅療養者の清潔と衣生活における看護技術の特徴、支援、介護者指導、衣生活のポイント等について理解でき、実施できる。 					
7	活動と休息に関する在宅看護技術 移動・移乗、布団で臥床時の仰臥位から座位への体位変換、歩行介助等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p. 160~170) ・在宅療養者の活動・休息における看護技術の特徴、支援、介護者指導などについて理解できる。 					
8	在宅療養を支える医療福祉用具、住宅環境 介護用品等	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養者の住まい・生活環境、整備、留意点、制度の活用等について理解できる。 					
9	在宅医療技術 (1) 中心静脈栄養、経管栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p. 214~232) ・中心静脈栄養、経管栄養の留意点が理解できる。 					
10	在宅医療技術 (2) 在宅酸素療養、人工呼吸器	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p. 232~252) ・在宅酸素療養、人工呼吸器の留意点が理解できる。 					
11	在宅医療技術 (3) 尿道留置カテーテル	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p. 200~206) ・尿道留置カテーテル管理の特徴、問題に対する対応等について理解できる。 					
12	在宅医療技術 (4) ストーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読んでおく (p. 206~214) ・ストーマケアの特徴、種類や支援方法等について理解できる。 					

13	在宅医療技術（5） 腹膜透析	・腹膜透析における看護技術の特徴、支援、社会保障等が理解できる。
14	在宅医療技術（6） 褥瘡の予防とケア	・テキストを読んでおく（p. 191～199） ・在宅における褥瘡ケアの特徴、リスク、予防的ケアと発生後のケア等が理解できる。
15	総括	・今までの内容の振り返りを行っておく。

留意事項（履修条件等）

- 授業中の私語はしないこと。携帯電話はマナーモードに設定し鞄に入れておくこと。
- 演習後の学びを演習ごとに提出すること。
- 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修（学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修）が必要である。

事前学習：毎回のテーマに関するテキストを読み、理解及び関心を深めておく。

事後学習：配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習し振り返ること。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

田中：火・木 5限目、713 研究室

村岡：火・木 4限目～5限目、共同研究室

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：「在宅看護論」、医学書院、ISBN：978-4-260-01586-8

参考書：「在宅看護技術」、メディカルフレンド社、ISBN：978-4-8392-1588-0

最終到達目標

- 在宅における日常生活援助技術について理解することができる。
- 在宅で実施される医療技術の留意点が理解できる。

評価方法及び評価基準

試験 50%、実技演習 20%、出席・授業態度・レポート 30%等を総合して評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D(59 点以下)：C のレベルに達していない（Failure）

学生へのメッセージ

在宅療養生活における様々な工夫等、経済的な視点も意識しながら取り組みましょう。

授業コード	ENM0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目—広域看護学—在宅看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	終末期看護学	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	○						
講義目的	終末期にある人とその家族の特徴及び看護介入方法について概要が理解できる。また、終末期の倫理的配慮に基づく姿勢の育成を理解し、自己の死生観を表現できる。											
授業内容	<p>人の死とは何かを理解することができるよう、終末期ケアの背景、終末期ケアに関わる看護師として倫理的態度を養うことの重要性について学修する。さらに、対象者が経験する疼痛、薬物療法などの緩和ケアを理解するための授業展開の工夫や終末期にある人の身体的、社会的、靈的苦痛にある人の特徴と援助方法、対象者だけでなく家族の心理・介護負担などを考慮した看護、自己の死生観と終末期ケアについて考え方理解し終末期患者への看護を学修する。</p>											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	終末期ケア・緩和ケアの定義及び背景	終末期ケア・緩和ケアの定義及び背景について理解することができる。										
2	終末期患者と家族の在宅療養の特徴	終末期患者と家族の在宅療養の特徴について理解することができる。										
3	生活文化に基づく療養者と家族の意向の尊重、看護師として倫理的態度	住み慣れた自宅及び環境で、療養者と家族の意向を尊重し、人生の最終章を迎えることの意味について考えることができる。										
4	疼痛管理が必要なヘルスアセスメント及び看護	全人的苦痛について理解し、対象者の症状に合った看護について考えることができる。										
5	終末期看護と家族へのケア	終末期状態の療養者とその家族へのケアについて理解することができる。										
6	最後の望みを叶えるチームアプローチ	療養者の最後の望みが実現するために、チームアプローチが有効であることを理解することができる。										
7	その人、その家らしい看取りの物語「家で看取ったあの人のこと」	様々な事例を通して在宅での看取りについて考え、自己の死生観を培うことができる。										
8	総括	今までに学修した内容から、在宅における看取り及び自己の死生観についてレポートに記述することができる。										
留意事項（履修条件等）												
1.	授業中の私語はしないこと。携帯はマナーモードに設定し、鞄に入れておくこと。											
2.	演習後の学びを演習ごとに提出すること。											
3.	確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。											
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。												
事前学習：毎回のテーマに関するテキストを読み理解及び関心を深めておく。												
事後学習：配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習し振り返る。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
田中：火・木5限目、713研究室												
村岡：火・木4限目～5限目、共同研究室												

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：「在宅におけるエンド・オブ・ライフ・ケア実践書 死を迎える人々の人生の質・価値をたかめるために」、ミネルヴァ書房、ISBN：9784623074082
参考書：「在宅看護論 第4版第4刷」、医学書院、ISBN：978-4-260-01586-8
必要時資料配布
最終到達目標
在宅における看取り及び自己の死生観についてレポートに記述することができる。
評価方法及び評価基準
レポート70%、出席・グループワーク参加態度30%等を総合して評価する。
成績評価基準（学則第34条）
S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）
A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）
B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）
C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）
D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）
学生へのメッセージ
死は誰にでも訪れるものです。その人らしい人生の最終章を心穏やかに迎えたいものですね。自己の死生観を育てるようにしましょう。

授業コード	ENM0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目—広域看護学—在宅看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	在宅・終末期看護援助論		選択・必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/前期		単位数		判断力	○						
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	○						
講義目的												
1. 終末期ケアについて、人が加齢や疾患によって終末期に至る経過を一連のものとして理解し、在宅エンド・オブ・ライフ・ケアに関する国内外の終末期ケア制度や背景を理解する。												
2. 終末期に携わる各専門職の連携および訪問看護のケア体制、終末期における倫理的配慮に基づく看護の姿勢を修得する。												
授業内容												
終末期ケアについて、国内外の制度や背景を理解し、日本における終末期ケアの現状と照らして考えるための授業展開を行う。さらに、終末期に携わる専門職の連携を通して人生の終焉について学ぶ。総合的に終末期にある人の身体的・社会的・心理的・霊的苦痛の特徴を理解し、その看護介入を通して、各専門職の連携および訪問看護ステーションのケア体制について理論・知識を統合して学ぶ。												
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	在宅・終末期看護援助論の目的 在宅・終末期における国内外のエンド・オブ・ライフ・ケアシステム	在宅・終末期における国内外のエンド・オブ・ライフ・ケアシステムについて理解できる。										
2	在宅エンド・オブ・ライフにおける訪問看護制度 およびチームケアを含む関連制度	訪問看護制度および関連制度について理解できる。										
3	在宅エンド・オブ・ライフにおける緩和ケア (チーム/地域での活動)	緩和ケア(チーム/地域での活動)について理解できる。										
4	在宅エンド・オブ・ライフの緩和ケアにおける倫理的諸問題	緩和ケアにおける倫理的諸問題について理解できる。										
5	訪問看護による看取りにむけた在宅療養移行支援 (準備期・開始期における看護ケア/安定期・看取りにおける看護ケア)	看取りにむけた在宅療養移行支援について理解できる。										
6	在宅で療養し看取りを迎える人々のエンド・オブ・ライフ・ケアと在宅における終末期の病態	在宅における終末期の病態について理解できる。										
7	在宅エンド・オブ・ライフにおける望む生き方の実現を支える在宅看護ケアマネジメント	在宅看護ケアマネジメントについて理解できる。										
8	まとめ	これまでの講義を振り返り、在宅看護における終末期について理解を深めることができる。										
留意事項(履修条件等)												
1. 授業中の私語はしないこと。携帯はマナーモードに設定し、鞄に入れておくこと。 2. 療養者を自分や家族など生活者として身近にとらえ、考えながら授業に参加すること。 3. 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。												
授業時間外の学修(事前・事後学習)												
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題;事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。												
事前学習:毎回のテーマに関するテキストを読み、理解及び関心を深めておく。												
事後学習:配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習し振り返る。												

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
田中：火・木5限目、713研究室
村岡：火・木4限目～5限目、共同研究室
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）
教科書：「在宅におけるエンド・オブ・ライフ・ケア実践書 死を迎える人々の人生の質・価値をたかめるために」、ミネルヴァ書房、ISBN：9784623074082
参考書：必要時資料配布
最終到達目標
在宅エンド・オブ・ライフにおける病状、苦痛や苦悩、生活背景、生きる価値や希望、他者との関係の築き方等の個別性・多様性の理解を深め、個別ケアを導く学びができる。
評価方法及び評価基準
筆記試験（70%）、レポート（20%）、出席状況・授業態度（10%）を総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass） D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）</p>
学生へのメッセージ
在宅での看取りの在り方、望ましい死の迎え方等一緒に考えましょう。あなたはどんな死の迎え方を望みますか？

授業コード	ENM0601			デイブロマボリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>												
科目区分	専門科目—広域看護学—在宅看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>												
授業科目名	在宅・終末期看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>												
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>												
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	<input checked="" type="radio"/>												
講義目的																		
1. 在宅での看取りの理論と知識を統合して、在宅終末期における「その人がその人らしい生を全うする」ために必要な技術を修得する。																		
2. 在宅エンド・オブ・ライフ・ケアにおける援助の基盤となる考え方、問題に向き合える姿勢を養う。																		
授業内容																		
在宅終末期における全人的苦痛への緩和ケア (Palliative Care)、家族看護も含めた支援方法、多職種の連携方法などを含む在宅終末期ケアの知識・技術・実際を専門的な視点で統合化した看護技術を学ぶ。																		
授業計画及び学習課題																		
回	標 題	学習課題																
1	在宅エンド・オブ・ライフ・ケアにおける症状マネジメント (身体症状とケア方法)	症状のメカニズムの理解とケア方法について理解できる。																
2	在宅エンド・オブ・ライフ・ケアにおけるスピリチュアルケアとコミュニケーション	家族ケア、スピリチュアルケア、コミュニケーションについて理解できる。																
3	自宅でのペインマネジメント、呼吸器・嚥下障害ケア	ペインマネジメント、呼吸器・嚥下障害ケアについて理解できる。																
4	在宅エンド・オブ・ライフにおいて、用いる薬剤と治療ケア	薬剤と治療ケアについて理解できる。																
5	在宅エンド・オブ・ライフに発生しやすいその他の症状の変化	発生しやすいその他の症状の変化について理解できる。																
6	在宅エンド・オブ・ライフにおける心理・精神的ケア	精神・社会・スピリチュアルな問題について理解できる。																
7	精神的障害をもつ事例のエンド・オブ・ライフ・ケア	精神的障害をもつ患者のエンド・オブ・ライフについて理解できる。																
8	子どものエンド・オブ・ライフのニーズとケア	子どものエンド・オブ・ライフについて理解できる。																
留意事項 (履修条件)																		
1. 授業中の私語はしないこと。携帯はマナーモードに設定し、鞄に入れておくこと。																		
2. 課題の提出は期日・時間厳守すること。																		
3. 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。																		
授業時間外の学修 (事前・事後学習)																		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題・事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。																		
事前学習: 毎回のテーマに関するテキストを読み、理解及び関心を深めておく。																		
事後学習: 配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習し振り返る。																		

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
田中：火・木5限目、713研究室
村岡：火・木4限目～5限目、共同研究室
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）
教科書：「在宅におけるエンド・オブ・ライフ・ケア実践書 死を迎える人々の人生の質・価値をたかめるために」、ミネルヴァ書房、ISBN：9784623074082
参考書：必要時資料配布
最終到達目標
在宅エンド・オブ・ライフ・ケアにおける症状マネジメント・コミュニケーション・家族ケアの在り方について、検討し方略について考えることができる。
評価方法及び評価基準
事前事後レポート(30%)、最終レポート(50%)、出席状況・授業態度(20%)を総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
在宅での看取りにおける看護職の果たす役割について考えてみましょう。

授業コード	ENM0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>					
科目区分	専門科目—広域看護学—在宅看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>					
授業科目名	在宅・終末期看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>					
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>					
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	<input checked="" type="radio"/>					
講義目的	<p>本人・家族が安心して在宅で療養するために、在宅に向けた療養移行の対応、指導方法等について学ぶ。そのために医師と看護師の情報共有および連携について説明や見学により、実際の体験から専門性を深め、実践力を養う。</p>										
授業内容	<p>在宅終末期を希望する本人・家族に対して、どのような看護介入が実践されているかを理解するため、豊かに穏やかに最期を迎えるための環境や体制の整備等、総合的な視点で看取りについて学修する。そのために、病院の地域連携室、緩和ケア病棟、在宅ケアに必要な福祉用具、医療機器等の見学や直接専門職の活動の説明を受け、在宅看護、専門看護師または在宅看護のスペシャリストが実際に果たしている役割について学ぶ。そして訪問看護の役割を明確にし、包括的なケア及びマネジメント方法を理解する。</p>										
授業計画及び学習課題											
回	内容		学習課題								
1	終末期ケアの地域連携・準備・社会資源の活用方法		終末期ケアの地域連携・準備・社会資源の活用方法について理解できる。								
2	在宅ケアの包括的視点と具体的な実践方法		在宅ケア包括的視点と具体的な実践方法について理解できる。								
3	病院の地域連携室の見学（1日）		地域連携室の機能や役割について理解できる。								
4	訪問診察医・訪問看護師の連携、緩和ケア病棟の専門看護師からのレクチャー（1日）		専門職の講義を受けることで訪問看護及び緩和ケア病棟についての知見を深めることができる。								
5	社会資源、医療機器（1日）		社会資源や医療機器について理解できる。								
6	愛媛県の在宅システムの現状（専門家によるレクチャー）		愛媛県の在宅システムの現状について理解することができる。								
7	訪問看護事例に基づく終末期看護		実際の訪問看護について、実情を学ぶことができる								
8	まとめ		講義内容を振り返り在宅終末期看護について理解を深めることができる。								
留意事項（履修条件）											
1. 授業中は私語をしないこと。携帯はマナーモードに設定し、鞄に入れておくこと。 2. 課題の提出は期日・時間厳守すること。 3. 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについて は講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。											
授業時間外の学修（事前・事後学習）											
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要である。 事前学習：毎回のテーマに関する書籍、新聞など読んでおく。 事後学習：配布資料や紹介した書籍およびテーマに沿った内容を復習し振り返る。											

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
田中：火・木 5限目、713 研究室
村岡：火・木 4限目～5限目、共同研究室
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
必要時資料配布
最終到達目標
終末期の在宅療養者に必要な社会資源・制度・方法等の知識を、事例に結び付けて考え理解することができる。
評価方法及び評価基準
事前事後レポート(25%)、最終レポート(50%)、出席・授業姿勢と態度(25%)を総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
各領域で学んだ知識・技術や自己学習を生かして、考えながら、積極的に学んでください。 看護学生として、身だしなみや言葉使いなど、良識ある言動がとれるようにしましょう。

授業コード	ENM0801			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目—広域看護学—在宅看護学				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	在宅・終末期看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	○						
講義目的	在宅終末期ケアの理論・知識・技術を通して、終末期の特徴を理解する。また、終末期に発生する症状の緩和ケアおよび基本的ニーズに対する対応方法、家族看護について実際の体験学習を深めるための基礎的な在宅看護技術の修得ができる。											
授業内容	在宅終末期ケアの実践事例を用いた演習において、療養者と家族の意志や生活スタイル、価値観を尊重した看護援助について学ぶ。											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	青年期・壮年期にある人のエンド・オブ・ライフ	死に至る経過、全人的苦痛、インフォームドチョイス、症状コントロール、死の受容、死の徵候、危篤時・臨死時のケア、チームアプローチ、家族の死、喪失、悲嘆について理解できる。										
2	終末期にある患者・家族の生活の援助	ターミナルケア、リラクゼーション、看取り、家族ケア、エンゼルケアについて理解できる。										
3	在宅医療チームの連携および訪問看護ステーションのエンド・オブ・ライフケア (残された家族の再構築への支援)	グリーフケア、家族の危機、家族機能・家族システムの変化、ソーシャルサポートについて理解できる。										
4	緊急時のニーズとケア及び災害に伴う症状悪化とエンド・オブ・ライフケア	緊急時訪問看護、災害時の訪問看護、災害に伴う症状悪化について理解できる。										
5	ケア内容の技術展開 (1) グループワーク	グループワークをとおして、これまでの講義内容を振り返り理解を深めることができる。										
6	ケア内容の技術展開 (2) グループワーク											
7	グループワークの発表	学びを共有することで知見を深めることができる。										
8	まとめ	在宅における終末期の在り方について理解することができる。										
留意事項 (履修条件)												
1.	授業中の私語はしないこと。携帯はマナーモードに設定し、鞄に入れておくこと。											
2.	課題の提出は期日・時間厳守すること。											
3.	確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。											
授業時間外の学修 (事前・事後学習)												
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；事前・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。												
事前学習：今まで配付された資料及び関連するテキストなどを読んでおく。												
事後学習：毎回学んだことを振り返りながら、包括的に理解を深めていく。												
オフィスアワー (常勤教員のみ記入)												
田中：火・木 5限目、713 研究室												
村岡：火・木 4限目～5限目、共同研究室												

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
必要時資料配布
最終到達目標
<p>自分の生の一部としてエンド・オブ・ライフについて考えることができる。そして在宅で看取りを積極的に行っている訪問看護ステーションで演習することにより、アセスメントおよび療養者・家族への直接ケア、倫理的な判断能力を修得できる。</p>
評価方法及び評価基準
<p>事前事後レポート（30%）、最終レポート（50%）、プレゼン・ロールプレイ・グループワークへの参加度（20%）など配点得点を合計 100 点満点として評価する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-left: 20px;"> <p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</p> </div>
学生へのメッセージ
<p>在宅・終末期にある人とその家族について、今までの知識・技術等を統合できるよう真摯な姿勢で臨みましょう。また、同時に死生観を深められるよう自己研鑽しましょう。</p>

授業コード	ENN0101			デ イ イ メ の る 養 成 す る 能 力 イ ン シ ー に 定	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野と 倫理観		
授業科目名	地域看護・公衆衛生看護学概論		選択・必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期		単位数		判断力	○	
担当教員	宮崎博子				探求心	○	
講義目的							

1. 地域での公衆衛生看護活動の対象・目的・方法・活動の場について理解できる。
2. Health for All を基本理念としたプライマリーヘルスケア、及びヘルスプロモーションの戦略が理解できる。
3. 公衆衛生看護活動における倫理的課題に配慮した看護職の役割が理解できる。

授業内容

地域住民全体の健康水準の向上を目的に健康増進、各分野の保健活動（母子、成人、老年、難病、精神、災害、国際等）を保健師は行う。方法として、健康相談、健康教育、家庭訪問、健康診査、機能訓練、地域組織づくり活動等がある。活動分野は行政、産業、学校、国際保健分野等である。これらの活動について概要を学ぶ。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	公衆衛生看護学の理念	公衆衛生を基盤とした看護学として、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目的とする。これらの概念を理解し、説明することが出来る。
2	公衆衛生看護学の歴史	歴史を概観し変遷、特徴を探る。
3	社会環境の変化と健康課題	社会情勢、環境の変化・健康の社会決定要因、課題解決資源等を考察する。
4	公衆衛生看護の基盤となる概念	基盤となる概念、基本的人権の尊重、看護の責任について考える。
5	対象と活動の展開	対象の特徴、生活者としての個人、家族、地域と集団を知り、活動の方法を理解する。
6	活動展開の場	行政、職域（産業）、学校、医療機関、社会福祉施設等の場を考え、具体的活動、役割を学ぶ。
7	行政機関での保健師活動 (1)	住民の健康づくり、母子保健活動等役割を考え、必要性を考察する。
8	行政機関での保健師活動 (2)	住民の成人、老年保健活動、精神、難病保健活動について理解し、保健師の果たす役割を考察する。
9	産業の場での保健師活動	労働者の身体的、精神的健康、保持増進について理解する。
10	学校の場での保健師活動	児童生徒の健康課題と身体、精神的健康を守るために方策を考察する。
11	計画策定と施策化	保健計画策定の必要性と策定プロセス、実施、評価を理解する。
12	公衆衛生看護活動の計画・実施・評価の実際	地域診断の手法・計画・実践・評価の流れを理解する。
13	公衆衛生看護管理	国際保健、感染症等の国際的な対応事例の方法から管理を考察する。
14	健康危機管理	平常時、災害時、災害直後とその後のニーズと対応を理解する。
15	公衆衛生看護活動の実際	公衆衛生看護活動の今後の課題・役割・方向を考察する。

留意事項（履修条件等）					
地域看護、公衆衛生看護活動の基盤となる科目であり、在宅看護学、保健師コースと連動する科目である。種々の情報を集約し具体的な健康課題について、活動の対象、方法を整理し自分の考えをまとめる。その為に新聞、テレビ等メディアや本等で、現在の世界、日本の人々の健康課題に対して自分の言葉で発言する機会を積極的にもつことが重要である。					
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。					
授業時間外の学修（事前・事後学習）					
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(事前学習・事後学習に示されている内容の学修)が必要です。					
事前学習：自己事前学習から課題をつかみ、講義、グループディスカッション等の方法で仲間と協議したり、レポートをまとめる。					
事後学習：地域看護・公衆衛生看護の対象となる個人や家族、集団、そして地域における健康課題の解決のために、行政機関や様々な組織がどのような活動を展開しているのか、リサーチし、理解を深める。					
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）					
授業時間の前後					
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）					
「公衆衛生看護学概論 第4版」：医学書院、2015年、3,240円 (ISBN 978-4-260-02004-6)					
最終到達目標					
地域住民の生活の現状と健康課題の解決について理解し、個人並びに組織の対処行動を看護職として、自分の言葉で語ることができる。					
評価方法及び評価基準					
試験 70%、課題レポート 20%、講義・協議等参加 10% など配点得点を合計 100 点満点として評価する。					
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
公衆衛生学や保健福祉行政論などの関連科目の教科書やノート、配布資料などに目を通しておいてください。					

授業コード	ENN0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目—広域看護学—地域看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅰ	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	宮崎博子、岡多枝子、藤本千里、日川幸江				探求心	○	
講義目的							
<p>公衆衛生看護活動は、地域の人々が自ら健康とその要因をコントロールし、維持・改善できるように援助することが求められる。地域の人々を母子、成人、高齢者、難病、感染症などの対象別に健康問題の特徴を理解し、それに対する健康課題と支援策を学習することを目的とする。</p>							
授業内容	<p>対象ごとに動向と法律などの制度、根拠データ、課題、社会資源、指導方法などを理解する。それに基づいて、グループワークを行い、関心のある課題を取り上げ、地域の中でどのようなサービスや支援が行われているか、実際の状況を調べ、まとめて発表する。こうした中で地域の人々が持つ健康課題と支援策を理解できる。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	母子保健の動向	母子の健康関連指標の動向をしらべ、母子保健施策との関連を理解することができる。					
2	母子保健の課題と保健指導 (1)	母子保健各期の健康課題を調べ具体的な方法を知り、課題に対する保健指導の特徴等を理解することができる。					
3	母子保健の課題と保健指導 (2)						
4	障害児・者の動向	障害の種類、児、者の数の推移から我が国の障害者の動向を知る。また、我が国の障害者に関する捉え方や関係法整備等、対策について経緯等理解することができる。					
5	障害児・者が抱える課題と保健指導 (1)	障害児・者対策の経緯と障害児・者支援に関する関連法との関係を理解することができる。障害児・者に対する保健指導の実際を理解することができる。					
6	障害児・者が抱える課題と保健指導 (2)						
7	母子保健、障害児・者の課題と保健指導の実際 (演習) (1)	提示された事例の健康課題・問題を抽出し保健指導案を検討することができる。					
8	母子保健、障害児・者の課題と保健指導の実際 (演習) (2)						
9	母子保健、障害児・者の課題と保健指導の実際 (発表) (3)	完成した指導案を発表し、全員で討議を重ね理解を深めることができる。					
10	成人保健の動向	成人保健指導について、生活習慣病の概念や対策の変遷を理解することができる。					
11	成人保健の課題と保健指導 (1)	健康日本21や健康増進法の主旨、骨子を調べ理解することができる。特定健診・特定保健指導の特徴と実態を理解することができる。					
12	成人保健の課題と保健指導 (2)						
13	高齢者保健の動向	我が国の高齢化の特徴を年次推移や将来推計から理解することができる。高齢化の進展にともなう保健・福祉施策の変遷について特徴を理解することができる。					
14	高齢者保健の課題と保健指導 (1)	高齢者の健康や生活の特徴から在宅要援護高齢者の生活支援が理解できる。高齢者が抱える課題を家族支援の視点も含め、保健指導の特徴について理解できる。					
15	高齢者保健の課題と保健指導 (2)						

16	成人・高齢者保健の課題と保健指導 (1) (演習)	7~9回同様に、提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討することができる。本演習では、生活習慣が確立し修正が困難な成人期における保健指導の特徴を理解することができる。	
17	成人・高齢者保健の課題と保健指導 (2) (演習)		
18	成人・高齢者保健の課題と保健指導 (3) (発表)		
19	精神保健の動向	精神保健の理念と歴史的変遷を理解することができる。特に措置制度を中心とした対策からノーマライゼーション、共生などの考え方を基にした現代の法整備について理解することができる。	
20	精神保健の課題と保健指導 (1)	精神障害者の生活上の障害を理解し、支援する他職種（精神科医、精神保健福祉士等）との連携や調整も含めた保健師の活動を理解することができる。	
21	精神保健の課題と保健指導 (2) (演習)	提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。ここでは事例への直接的な保健指導よりも連携の相手や方法などを中心に検討し理解を深めることができる。	
22	精神保健の課題と保健指導 (3) (発表)		
23	難病対策の動向	難病対策の理念・歴史的変遷を理解することができる。難病の定義、難病患者に対する医療等に関する法律、目的、基本理念を理解することができる。	
24	難病の課題と保健指導（演習と発表）	難病患者を支援する保健師の活動事例から保健指導を考察することができる。	
25	感染症の動向	感染症対策の歴史的変遷を理解できる。感染者、感染症患者の動向・特徴を考察することができる。	
26	感染症の課題と保健指導 (1)	近年の感染症保健の課題と保健施策の方向、施策等について理解し、考察することができる。	
27	感染症の課題と保健指導 (2)		
28	健康づくり活動の動向	健康づくり対策の変遷と国民健康づくり活動を理解することができる。	
29	健康づくり活動の課題と保健指導 (1)	生活習慣病の特徴とその対策・保健指導を理解することができる。実在する自治体の健康増進計画を用いて理解を深めることができる。	
30	健康づくり活動の課題と保健指導 (2)		
留意事項（履修条件等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師過程選択者のみ受講 ・自分自身も社会の一員という認識で、積極的に参加すること ・確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。 			
授業時間外の学修（事前・事後学習）			
<p>科目の単位を習得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修が必要です。</p> <p>事前学習：対象別の公衆衛生活動について、国民衛生の動向などで主な取り組みの概略をつかむ。予習課題の提示をしてくること。</p> <p>事後学習：講義、グループでの討議、演習、発表等により、健康課題ごとに修得できたことをまとめること。</p>			
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）			
月曜～水曜の昼休憩、岡：714研究室、藤本：706研究室、日川：715研究室			

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書： 『標準保健師講座 第3版 3 対象別公衆衛生看護活動』：医学書院、3,672円 (ISBN 978-4-260-01820-3)
参考書： 『国民衛生の動向 最新版』：厚生労働統計協会、2,500円
最終到達目標
<ul style="list-style-type: none">・地域で生活する各発達段階、健康レベルに応じた個人、家族及び集団の健康状態を評価できる能力を身につける。・住民が主体的に課題解決を出来るように支援する能力を獲得する。
評価方法及び評価基準
試験 80%、課題レポート 10%、授業参加態度 10%で、配点得点を合計 100 点満点として総合的に評価
成績評価基準（学則第34条） S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none">・対象別又は分野別の具体的な公衆衛生活動の学修になり、保健師の実践活動が最も理解できる内容です。保健師についての理解と興味が増す講座です。・授業中の飲食、私語を禁止します。携帯電話は必ず鞄の中に入れ、マナーモード状態にしておくこと。

授業コード	ENN0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目—広域看護学—地域看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅱ	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	岡多枝子, 藤本千里, 日川幸江				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的							
1. 公衆衛生看護の基本的技術として、保健指導、家庭訪問、健康教育、グループ支援と組織化、地域ケアシステムの構築等、活動の方法について理解し、技術の一部を演習により身につける。 2. 各活動を系統的に理解し、政策、施策との関連を理解し、事業企画、立案、評価まで一連の過程を学修する。							
授業内容							
公衆衛生看護の基本的技術として、保健指導、家庭訪問、健康教育、グループ支援と組織化、地域ケアシステムの構築等、活動について基本となる理論について学ぶ。実際の保健指導技術の展開は演習で行い、家庭訪問の展開や健康教育等、実際を想定した企画、立案、実施、評価まで行う。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	保健指導の基本	歴史的変遷、基本姿勢、求められる機能・技術について理解することができる。					
2	保健指導の基盤となる理論	保健行動理論と保健指導で活用できる理論等多方面から考察することができる。					
3	保健指導の展開 (1)	保健指導技術、指導の場、健康相談、健康診査場面における保健師の技術についてロールプレイ等で演習することができる。					
4	保健指導の展開 (2)						
5	保健指導の展開 (3)	健康教育等個別から集団への保健指導の展開、地域での位置づけを理解することができる。					
6	家庭訪問演習 (1)	家庭訪問の目的、機能、プロセス等を修得し具体的な手順、準備、実施、記録、評価等理解することができる。					
7	家庭訪問演習 (2)						
8	健康教育演習 (1)	地域の健康課題から健康教育の企画、技術、教育媒体の作成、実施、評価等一連の演習でグループ協動作業を行い、発表し評価することができる。					
9	健康教育演習 (2)						
10	健康教育演習 (3)						
11	セルフヘルプグループ、地区組織活動の理論	地区組織活動の歴史、係わる概念、保健師の役割について考察することができる。					
12	住民組織の自立支援・活動の実際	組織活動で利用出来る理論、方法論を理解し、自立支援にむけた住民協働の実際を考察することができる。					
13	政策・施策への事業企画・立案と評価	組織活動から波及する政策、施策化への一連の流れを考察することができる。					
14	事業企画・立案と評価 (1)	グループで具体的な事業の企画・立案・実施・評価等事業展開を予測し、グループ、テーマごとに発表することができる。					
15	事業企画・立案と評価 (2)						

留意事項（履修条件等）
グループにおける協働作業に積極的な態度で参加すること。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。
授業時間外の学修（事前・事後学習）
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題・予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。 事前学習：保健指導の概略について事前に調べ、行動変容を促す支援手法についてプレゼンテーション及びディスカッションをし、学びを深める。プレゼンテーションの内容は事前に教員の確認を受け、内容の修正も学びとすること。 事後学習：講義、グループワーク、演習等を通して学んだことをまとめる。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
月曜から水曜の昼休憩、 岡：714 研究室 藤本：706 研究室 日川：715 研究室
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書： 『標準保健師講座 2 地域看護技術』、中村裕美子、医学書院、2016 年、3,456 円、ISBN 978-4-260-02193-7
最終到達目標
地域住民が主体的に問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な接近方法、技術を選択し介入することができる。
評価方法及び評価基準
試験 80%、課題レポート 10%、授業参加態度 10%で配点得点を合計 100 点満点として総合的に評価
成績評価基準（学則第 34 条） <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</p> </div>
学生へのメッセージ
<ol style="list-style-type: none"> 保健師の基本的な技術について学びます。保健師ならではの技術の基礎を学び、実習に繋げることができるよう学びましょう。 授業中の飲食、私語は禁止とします。携帯電話はマナーモードに設定し、鞄の中入れておくこと。

授業コード	ENN0401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅲ	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	宮崎博子, 藤本千里, 日川幸江				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的	公衆衛生看護活動の理論と実際について、保健所と市町村、産業等の場での具体的な展開を理解し、計画、実施、評価することができる。						
授業内容	1~3年生で修得した公衆衛生看護活動の理論と実際を用いて、保健所と市町村、産業の場での具体的な保健師活動の展開を復習するとともに、家庭訪問、健康教育、組織育成等の実際の演習を通して、看護活動が出来るよう統合して学修する。さらに実習地区の健康水準と、保健師活動の計画、実践、評価について、学生各自の実習地区の実態について演習で把握出来るように学ぶ。						
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	公衆衛生看護活動の技術の理解 (1)	個別保健指導を理解することができる。					
2	公衆衛生看護活動の技術の理解 (2)	集団保健指導を理解することができる。					
3	公衆衛生看護活動の技術の理解 (3)	地区組織活動を理解することができる。					
4	公衆衛生看護活動の技術の理解 (4)	地域ケアシステムを理解することができる。					
5	公衆衛生看護活動の技術の理解 (5)	保健福祉計画を理解することができる。					
6	公衆衛生看護活動の技術の理解 (6)	P D C Aサイクルを理解することができる。					
7	実習地区の地域診断 (1)	地域診断について理解することができる。					
8	実習地区の地域診断 (2)	地域診断の進め方について理解できる。					
9	実習地区の地域診断 (3)	実習地の地域診断を発表する準備ができる。					
10	実習地区の地域診断 (4)	実習地の地域診断を発表する。					
11	健康情報の収集と分析 (1)	健康情報について理解することができる。					
12	健康情報の収集と分析 (2)	健康情報の収集ができる。					
13	健康情報の収集と分析 (3)						
14	健康情報の収集と分析 (4)						
15	健康情報の収集と分析 (5)	健康情報の分析について理解することができる。					
16	健康情報の収集と分析 (6)						
17	健康課題の抽出方法 (1)	健康課題の抽出方法が理解できる。					
18	健康課題の抽出方法 (2)	健康課題の抽出ができる。					
19	健康課題の抽出方法 (3)						
20	実習地区での健康課題 (1)	実習地区での健康課題を発表できる。					
21	実習地区での健康課題 (2)						
22	実習地区での健康課題 (3)						
23	健康課題の把握と保健師活動での展開 (1)	健康課題を保健師活動へ展開することが理解できる。					
24	健康課題の把握と保健師活動での展開 (2)						

25	健康課題の把握と保健師活動での展開 (3)	健康課題を保健師活動へ結びつけることが出来る。
26	産業保健における保健師活動の展開 (1)	産業保健における保健師活動の展開について理解することができる。
27	産業保健における保健師活動の展開 (2)	産業保健における保健師活動の展開をすることができる。
28	学校保健活動の展開 (1)	学校保健活動の展開を理解することができる。
29	学校保健活動の展開 (2)	学校保健活動の展開をすることができる。
30	地域住民の健康ニーズと保健師活動展開	全体の活動についてまとめができる。

留意事項（履修条件等）

- ・グループワークには積極的に参加してください。
- ・確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修が必要です。

事前学習：実習先の保健所と市町について、地域住民の健康課題や健康問題についての視点をもちながら、既存の資料を確認する。産業保健実習の企業の業務内容、学校保健実習の学校の教育計画など、各分野の特性について確認をする。プレゼンの内容は教員の確認を受け、必要な場合は修正に応じる。

事後学習：実習に即応した授業であることから、実習における学びと統合しまとめを行う。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

月曜～水曜の昼休憩、藤本：706研究室　日川：715研究室

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

教科書：

『地域看護診断 第2版』：金川克子、東京大学出版会、2011年、3,024円、ISBN 978-4130624084

最終到達目標

公衆衛生看護活動の現場実習で、実習地の健康課題の抽出ができる具体的な支援方法まで考察し、実習地で確認、評価ができる。

評価方法及び評価基準

試験80%、課題レポート10%、授業参加態度10%で、配点得点を合計100点満点として総合的に評価

成績評価基準（学則第34条）

- | |
|---|
| S(100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) |
| A(89～80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) |
| B(79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) |
| C(69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) |
| D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure) |

学生へのメッセージ

- ・実習先の保健所・市町村は、地域住民の健康課題や健康問題の実態に対応した保健活動が行われています。その基盤となる地域診断について、授業と実習を連動させて学びましょう。
- ・授業中の飲食、私語は禁止します。携帯電話はマナーモードに設定して鞄の中に入れること。

授業コード	ENN0501			める養成する能力 デイプロマポリシーに定	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野と倫理観							
授業科目名	公衆衛生看護援助論IV	選択・必修	選択		知識・技術	○						
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	宮崎博子				探求心	○						
講義目的												
公衆衛生看護管理は地域の人々の健康水準の向上を目指して、人、物、金、情報、組織等の資源を効果的、効率的に活用することの理解が出来る。												
授業内容												
公衆衛生看護管理は地域の健康課題解決に向けて、保健福祉計画等の策定と実施、評価を行う。このために行われる情報管理、組織の運営管理、事業・業務管理、予算管理、人事管理、人材育成、地域ケアの質の保証等の活動の必要性について学修する。さらに健康危機管理について平常時からの管理活動と災害時の活動について学ぶ。												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	事業計画と保健師の役割	公衆衛生看護活動における計画の意義と保健師の役割を理解する										
2	計画策定と予算	計画策定で果たす保健師の役割と予算を理解する										
3	公衆衛生看護管理の特色・基本	管理の特色・基本について考察する										
4	情報管理、組織運営管理、事業・業務管理	組織における管理活動の具体的な理解をする										
5	予算・人事管理、人材の育成	組織における管理活動の具体的な理解をする										
6	健康危機管理	健康危機に際して保健師の役割を理解する										
7	自然災害時の保健師活動	地震、津波、台風等自然災害時の活動を考察する										
8	災害発生後から回復期の保健活動	平常時、発生時、発生後、回復期の保健活動全般の考察をする										
留意事項（履修条件等）												
日ごろから社会情勢に关心を持ち、公衆衛生看護活動との関連、活動の展開、継続について身近なニュースから考察すること。												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（事前学習・事後学習に示されている内容の学修）が必要です。												
事前学習：住んでいる地域や社会情勢から健康課題を把握し、講義、グループワーク等の方法で学生同士で協議し、レポートをまとめること。												
事後学習：健康課題の解決に向けて、実際にどのような活動が行われているのか、リサーチし理解を深めること。												
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）												
授業の中で紹介すること。												
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）												
教科書：「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論」：平野かよ子、メジカルフレンド社、2015年、3,240円 (ISBN 978-4-8392-2183-6)												

最終到達目標

社会、地域情勢の中で公衆衛生看護活動が果たす役割について理解し、潜在化している健康問題を組織的に対処することが理解できる。

評価方法及び評価基準

授業への参加状況 10% レポート 10% 試験 80% など配点得点を合計 100 点満点として評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- 1) 関連する科目の教科書とノート、配布資料などに目を通し、概要を把握しておくこと。
- 2) 現在住んでいる地域や出身市町の保健センター・保健所のホームページにて、公衆衛生看護活動について把握しておくこと。

授業コード	ENN0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	学校保健	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	岡多枝子, 矢野美恵子				探求心	○	

講義目的

保健師は養護教諭2種免許が取得できるため、保健師コースの学生には「児童生徒・教職員の健康課題への関わり方」など学校保健の視点が求められる。本講義の目的は、看護師・保健師資格に基づく養護教諭として学校教育の目的を達成する為に、学校保健の理念と歴史、学校保健の制度・対象・活動、学校保健の組織と連携を理解するとともに、アクティブラーニングを通して学校保健の知識・技術を主体的・対話的に深く学び考察することである。

授業内容

- 授業は以下の内容から構成し、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。
1. 学校保健の理念と歴史 (学校保健の意義と目的、学校保健の歴史、学校保健安全法)
 2. 学校保健安全活動 (児童生徒・教職員の健康診断・健康相談・健康教育、疾病予防・救急看護・環境衛生)
 3. 学校保健の組織と連携 (学校保健安全委員会、学校給食、特別支援教育校内外の連携)
 4. アクティブラーニング活動とグループKJ法

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	オリエンテーション: 学校保健の概念と本科目の目的・内容・方法・評価	学校保健の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案できる。
2	学校保健の理念と歴史(1) 学校保健の意義と目的、学校保健の歴史	学校保健の意義と目的・学校保健の歴史に関して教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備ができる。
3	学校保健の理念と歴史(2) 学校保健安全法	学校保健安全法に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備ができる。
4	学校保健の理念と歴史(3) 単元の総括と小テスト①	学校保健の理念と歴史に関するグループ発表と全体討論を行い、養護教諭に求められる学習課題を小テストで確認できる。
5	学校保健安全活動 (1) 児童生徒・教職員の健康診断・健康相談・健康教育	児童生徒・教職員の健康診断・健康相談・健康教育に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて発表準備ができる。
6	学校保健安全活動 (2) 疾病予防・救急看護・環境衛生	疾病予防・救急看護・環境衛生に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備ができる。
7	学校保健安全活動 (3) 単元の総括と小テスト②	学校保健安全活動に関するグループ発表と全体討論を行い、養護教諭に求められる学習課題を小テストで確認ができる。
8	学校保健の組織と連携 (1) 学校保健安全委員会	学校保健安全委員会に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備ができる。
9	学校保健の組織と連携 (2) 学校給食、特別支援教育校内外の連携	学校給食・特別支援教育校内外の連携に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い発表準備ができる。
10	学校保健の組織と連携 (3) 単元の総括と小テスト③	学校保健の組織と連携に関するグループ発表と全体討論を行い、養護教諭に求められる学習課題を小テストで確認ができる。
11	アクティブラーニング活動 (1) 計画の立案と準備	学校保健の理念と歴史、学校保健制度・対象・活動・組織と連携に関するアクティブラーニング活動の準備を行うことができる。
12	アクティブラーニング活動 (2) 計画の実施	学校保健の理念と歴史、学校保健制度・対象・活動・組織と連携に関するアクティブラーニング活動を行うことができる。
13	グループKJ法の実施 (1) 第1段階	学校保健に関する学習成果をもとに、グループで協力して狭義のKJ法(ラベル作成・統合・図解作成)を行うことができる。
14	グループKJ法の実施 (2) 第2段階	学校保健に関する発表資料KJ法図解をもとにグループで叙述化・プレゼンテーションを行い、学習課題の発展と深化を共有する。

15	総括:学校保健の概念整理と本科目の成 果の発表・評価	学内外の学修成果を発表し自己・グループ評価を行い、保健・医療専門職として適切な家族支援のあり方が考えることができる。
留意事項（履修条件等）		
<p>1. 学校保健は保健師コースの選択必修科目であるため、学校保健を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うことができるなど主体的な学修が求められる。</p> <p>2. 確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。</p>		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
<p>科目的単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学修(学習課題：予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。</p> <p>事前学習（毎回 2 時間）：教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、隨時、科目担当教員と相談の上で進める。</p> <p>事後学習（毎回 2 時間）：個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。</p>		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
時間：火・木曜日の昼休みと放課後		
場所：714 研究室		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
教科書： 『改訂 9 版 学校保健マニュアル』後藤衛・岡田加奈子編、南山堂、(ISBN 978-4-525-18469-8) 4500 円+税		
教具： リフレクションシート (400 円) ※この教具は他科目と共通のため 1 冊購入すれば良い（教科書販売と同時）。		
最終到達目標		
<p>看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、学校保健の役割や諸課題を理解した上で、児童生徒・教職員の健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、学校保健に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。</p>		
評価方法及び評価基準		
<p>期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト（3 回）を実施する。評価の比率は、期末試験成績（60%）、小テスト（20%）、発表を含む学習活動（20%）で総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。</p> <p>総合評価は、以下の通り「学則第 34 条」に定められている評価基準で認定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-left: 10px;"> <p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent)</p> <p>A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している(Very Good)</p> <p>B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59 点以下)：C のレベルに達していない(Failure)</p> </div>		
学生へのメッセージ		
<p>1. 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。</p> <p>2. シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。</p> <p>3. リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。</p>		

授業コード	ENN0701			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	養護概説	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	岡 多枝子				探求心	○	
講義目的							
<p>保健師は養護教諭2種免許が取得できるため、保健師コースの学生には児童生徒・教職員の健康課題に関する基礎的知識及び技術の習得が求められる。本講義の目的は、養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割、健康教育とヘルスプロモーション・環境、学校安全、養護教諭活動の展開と評価の基本を理解するとともに、アクティブラーニングを通して学校保健の中核を担う養護教諭活動の実際を主体的・対話的に深く学び考察することである。</p>							
授業内容	<p>授業は以下の内容から構成し、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。</p> <p>1. 養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割（制度の沿革と変遷・養成とOJT・役割） 2. 健康教育とヘルスプロモーション・環境、学校安全（健康教育と保健教育・性教育、危機管理対応） 3. 養護教諭活動の展開と評価（システム化と総合学習、ピアカウンセリング・生活習慣） 4. アクティブラーニング活動とグループKJ法</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	オリエンテーション：養護概説の概念と本目の目的・内容・方法・評価	養護概説の概念や本目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案できる。					
2	養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割 (1) 制度の沿革と変遷	養護の定義・養護教諭制度の沿革と変遷に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
3	養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割 (2) 養成とOJT・役割	養護教諭養成とOJT・役割に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
4	養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割 (3) 単元の総括と小テスト①	養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割に関するグループ発表・全体討論を行い、養護の学習課題を小テストで確認できる。					
5	健康教育とヘルスプロモーション・環境、学校安全 (1) 健康教育と保健教育	健康教育と保健教育に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
6	健康教育とヘルスプロモーション・環境、学校安全 (2) 性教育、危機管理対応	性教育、危機管理対応に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
7	健康教育とヘルスプロモーション・環境、学校安全 (3) 単元の総括と小テスト②	健康教育とHP・環境、学校安全に関するグループ発表と全体討論を行い、養護教諭に求められる学習課題を小テストで確認できる。					
8	養護教諭活動の展開と評価 (1) システム化と総合学習	システム化と総合学習に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
9	養護教諭活動の展開と評価 (2) ピアカウンセリング・生活習慣	ピアカウンセリング・生活習慣に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
10	養護教諭活動の展開と評価 (3) 単元の総括と小テスト③	養護教諭活動の展開と評価に関するグループ発表と全体討論を行い、養護教諭に求められる学習課題を小テストで確認できる。					
11	アクティブラーニング活動 (1) 計画の立案と準備	養護の概念、健康教育と養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割、健康教育とHPに関するAL活動の準備ができる。					
12	アクティブラーニング活動 (2) 計画の実施	養護の概念・養護教諭の資質、健康教育と養護の本質と概念・養護教諭の資質と役割、健康教育とHPに関するAL活動ができる。					
13	グループKJ法の実施 (1) 第1段階	養護概説の学習成果をもとに、グループで協力して狭義のKJ法（ラベル作成・統合・図解作成）を行うことができる。					
14	グループKJ法の実施 (2) 第2段階	養護概説の発表資料KJ法図解をもとにグループで叙述化とプレゼンテーションを行い、全体で学習課題の発展と深化を共有できる。					

15	総括:養護概説の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外での学びの成果を発表し自己評価・グループ評価を行うとともに、養護教諭活動の基本と展開のあり方を考えることができる。
留意事項（履修条件等）		
養護概説は保健師コースの選択必修科目であるため、養護概説を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うなど主体的な学修が求められる。確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目的単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。 事前学習（毎回 2 時間）：教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、随時、科目担当教員と相談の上で進める。 事後学習（毎回 2 時間）：個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
時間：火・木曜日の昼休みと放課後		
場所：714 研究室		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
教科書： 『4訂 養護概説』：三木とみ子、ぎょうせい、2009年、3,600円(税込)、ISBN 978-4-324-08594-3 教具： リフレクションシート（400円） ※この教具は他科目と共通のため1冊購入すれば良い（教科書販売と同時）。		
最終到達目標		
看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、養護概説の定義と諸課題を理解した上で、児童生徒・教職員が抱える生活・健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、養護概説に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。		
評価方法及び評価基準		
期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト（3回）を実施する。評価の比率は、期末試験成績（60%）、小テスト（20%）、発表を含む学習活動（20%）で総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。 総合評価は、以下の通り「学則第34条」に定められている評価基準で認定する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent) A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している(Very Good) B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている(Pass) D(59点以下) : Cのレベルに達していない(Failure) </div>		
学生へのメッセージ		
<ol style="list-style-type: none"> 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。 シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。 リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。 		

授業コード	ENN0801			定める養成する能力 デイブロマポリシーに	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	健康相談活動論	選択・必修	選択		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	岡多枝子, 矢野美恵子				探求心	○	
講義目的							
<p>いじめや不登校・薬物乱用・性的逸脱行動・新たな感染症出現等、児童生徒の健康阻害要因が日々増加している。保健師は養護教諭2種免許が取得できるため、保健師コースの学生には児童生徒と家族への心身の健康相談に関する理解と技術の習得が求められる。本講義の目的は、養護教諭の行う健康相談活動の基本的知識を理解するとともに、アクティブラーニングを通して健康相談活動の実際を主体的・対話的に深く学び考察することである。</p>							
授業内容							
<p>授業は以下の内容から構成し、課題別グループによる学習活動の後、全体で共有・深化させる方法で進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康相談の基本と進め方（保健室の機能と健康相談・発達段階とエンパワーメント） 2. 健康相談に生かせる理論・方法（人格発達、精神医学、社会学、カウンセリング理論） 3. 児童生徒と家族への心身の健康相談（個別面接・グループアプローチ） 4. アクティブラーニング活動とグループKJ法 							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	オリエンテーション 健康相談の概念と本科目の目的・内容・方法・評価	健康相談の概念や本科目の目的を踏まえて自己の学習課題を設定する。課題別にグループ編成を行い、活動計画を立案できる。					
2	健康相談の基本と進め方 (1) 保健室の機能と健康相談	保健室の機能と健康相談に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
3	健康相談の基本と進め方 (2) 発達段階とエンパワーメント	発達段階とエンパワーメントに関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
4	健康相談の基本と進め方 単元の総括と小テスト①	健康相談の基本と進め方にに関するグループ発表と全体討論を行い、学習課題を小テストで確認することができる。					
5	健康相談に生かせる理論・方法 (1) 人格発達、精神医学	人格発達、精神医学に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
6	健康相談に生かせる理論・方法 (2) 社会学、カウンセリング理論	社会学、カウンセリング理論に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
7	健康相談に生かせる理論・方法 (3) 単元の総括と小テスト②	健康相談に生かせる理論・方法に関するグループ発表と全体討論を行い、学習課題を小テストで確認することができる。					
8	児童生徒と家族への心身の健康相談 (1) 個別面接	個別面接に関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
9	児童生徒と家族への心身の健康相談 (2) グループアプローチ	グループアプローチに関して、教科書や図書館の文献資料を調べて話し合い、発表準備を行うことができる。					
10	児童生徒と家族への心身の健康相談 (3) 単元の総括と小テスト③)	児童生徒と家族への心身の健康相談に関するグループ発表と全体討論を行い、学習課題を小テストで確認することができる。					
11	アクティブラーニング活動 (1) 計画の立案と準備	健康相談の基本と展開、理論・方法、児童生徒と家族への健康相談に関するアクティブラーニング活動の準備を行うことができる。					
12	アクティブラーニング活動 (2) 計画の実施	健康相談の基本と展開、理論・方法、児童生徒と家族への健康相談に関するアクティブラーニング活動を行うことができる。					
13	グループKJ法の実施 (1) 第1段階	健康相談の学習成果をもとに、グループで協力して狭義のKJ法(ラベル作成・統合・図解作成)を行うことができる。					
14	グループKJ法の実施 (2) 第2段階	健康相談の発表資料KJ法図解をもとにグループで叙述化とプレゼンテーション、全体で学習課題の発展と深化を共有できる。					

15	総括 健康相談活動の概念整理と本科目の成果の発表・評価	学内外での学びの成果を発表し自己評価・グループ評価を行い、養護教諭として適切な健康相談のあり方を考えることができる。
留意事項（履修条件等）		
1. 健康相談活動論は看護教育を支える基礎科目であり、保健師コースの選択必修科目であるため、健康相談活動を巡る諸課題に関する文献・ニュースから情報収集を行うなど主体的な学修が求められる。 2. 確認テストや課題に関して全体のフィードバックは講義時間内に、個別の質問・相談は時間外に設定する。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目的単位を修得するために、約 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。 事前学習（毎回 2 時間）：教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておく。シラバスに記された学習課題に関して、個人やグループで教科書や図書館の文献資料を調べて課題を明確にして授業に臨むこと。また、アクティブラーニング活動先への事前訪問や依頼文作成は、隨時、科目担当教員と相談の上で進める。 事後学習（毎回 2 時間）：個人やグループによる発表・活動及びリフレクションシートや教科書、配付資料等を用いて授業内容を復習し、発表資料や確認テスト問題を作成し、期日までにメール送信すること。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
時間：火・木曜日の昼休みと放課後		
場所：研究室 714		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）		
教科書： 『養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際』：三木とみ子、徳山美智子(編)、ぎょうせい、2013 年、3,806 円（税込）、ISBN 978-4324-09616-1		
教具： リフレクションシート（400 円） ※この教具は他科目と共通のため 1 冊購入すれば良い（教科書販売と同時）。		
最終到達目標		
看護師を基礎資格とした保健・医療・教育の専門職として、健康相談活動の役割や諸課題を理解した上で、児童生徒・教職員が抱える健康課題に能動的、協働的に関わることができる力を養う。課題別のグループ活動や全体発表を通して、健康相談活動に関するコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。		
評価方法及び評価基準		
期末試験の成績を基本とするが広範囲であるため、授業中の課題テスト（3 回）を実施する。評価の比率は、期末試験成績（60%）、小テスト（20%）、発表を含む学習活動（20%）で総合評価する。小テストへの指導方法は、事前に重要箇所の確認を行い、次週に解答不備な箇所を補足する。期末試験への指導方法は、事前に重要箇所の確認とテスト対策プリントの作成・配布を行い、単位修得をサポートする。		
総合評価は、以下の通り「学則第 34 条」に定められている評価基準で認定する。		
<p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent)</p> <p>A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している(Very Good)</p> <p>B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている(Pass)</p> <p>D(59 点以下)：C のレベルに達していない(Failure)</p>		
学生へのメッセージ		
1. 教科書は購入時に通読して重要箇所や疑問点を拾い出しておくこと。 2. シラバスの該当ページをコピーして教科書に貼付して授業に臨むこと。 3. リフレクションシートは教科書と一緒に持参して活用し、授業終了時に提出すること。		

授業コード	EN00101			デ イ イ メ ラ ム の 養 成 す る 能 力	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野	○	
授業科目名	International Nursing I (国際看護学 I)	選択・必修	必修		知識・技術		
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	Jekan Adler-Collins (アダラー コリンズ 慈観)				探求心	○	

講義目的(Purpose of this subject)

Completion of this course of study will prepare the students to be an informed member of the global profession of nursing. In this course, students will be introduced to the challenges and complexities of culture, politics of health care and help develop the critical thinking skills need to assess and deliver care in a culturally sensitive manner. Students will learn to analyse other ideas and cultures to see how Japanese culture can help, enrich or learn from them.

この授業は、看護の国際的な専門家となるための準備となる。この授業では、ヘルスケアの文化や政治に対する疑問や複雑さについて学び、そして文化的に微妙な場合においても、ケアを評価し実行するのに必要な批評的思考を展開する手助けが得られる。学生達は、どのようにして日本の文化がそれらを助け、向上させ、学ばせるかをわかるよう、他の考え方や文化について分析することを学ぶ。

授業内容(Contents of this subject)

Introduction to international nursing. In the beginning, students will learn about a definition and necessary. Students will learn the situation and characteristic of the health in the world. This course is researched based requiring the student to develop their data collection and analysis skills. Students will learn how the economy, social status, education, environment, gender, a problem of population, the condition of nourishment, labor, child soldiers, trauma, first aid, incident response and control, traditional medicine, refugees, infection, and future global issues such as genetic counselling, vaccination, endemics and population exodus. International Nursing is a student centered, living action research approach to higher education. For each subject, students will complete On line reflective journals to evidence their critical thinking and engagement with the curriculum material, On line self-study tests and evaluate their learning on line. Session evaluation to develop reporting skills. A portfolio of learning will be developed to evidence the process of knowledge assimilation.

国際看護の導入。最初に、学生は定義と必要性について学習する。そして、学生は世界におけるヘルスケアの状況と特徴について学ぶ。この授業では、学生がデータ収集と分析の技術を発達させつつ、調査することが基本となる。また、どのようにして経済や社会的地位、教育、環境、性差、人口問題、食糧問題、労働、子どもの兵士、トラウマ、応急手当、付随反応、制御、伝統医療、難民、感染症、そして、さらに遺伝子カウンセリング、ワクチン接種、風土病、人口爆発など地球規模の課題について学習する。この科目は、学生中心の科目であり、実際の活動にかかわりながらその結果を調査・研究する方法(action research)によってより高度な教育に近づける: 学生の批評的思考とカリキュラム材料への参加の根拠を反映する雑誌、オンライン上で学生自身がテストを行って、学習を評価、報告する技術を発達するための期間評価、知識の融合の根拠となる学習のポートフォリオ(学習帳)などを用いる。

授業計画及び学習課題

回	Contents(内容)	Object(学習課題)
1	History of nursing in the world, Asia, Islam, religious orders and west. 世界、アジア、イスラム世界、西洋における看護の歴史	Models of nursing focus on the Nightingale model as modern history of nursing. International Nursing looks at how politics has shaped what we consider is the truth and offers insights to other historic nursing systems for the students to research. 現代の看護の歴史として、ナイチンゲールモデルに焦点が当てられている。国際看護学では、いかに政治が私達が真実と考えるものに影響を与えていたかを展望し、また学生の研究のために他の歴史上有名な看護の体系的方法についても洞察する。
2	Learning tools and systems; A basic introduction 基本的な導入; 学習の手段とシステム	This section of the course introduces the student to action research, the web and web research. On line testing, portfolios, reflective journals and critical thinking.

		学生に action research、web and webresearch、on line testing、portfolio、reflective journal、critical thinkingなどについて紹介する。
3	Introduction to International Nursing. 1 国際看護学への導入	This section introduces students to the complexity of culture and socialization within a culture. Nationalism, Global citizenship. 文化やひとつの文化内での社会化の複雑性について紹介する。国家主義や地球的市民権など。
4	Medicine and Health in the world. Insurance: Health care or wealth care? discuss 世界における医療と健康 保険:ヘルスケアかウエルスケアか?の討論	Students look at health care as a business, as a policy within the country and research the different political controls in health care. Including drug companies and corporate interest. Who controls health care? 国におけるビジネスとして、あるいは政策としてのヘルスケアについて概観する。また、ヘルスケアの中で異なる国政上の統制について調べる。薬品会社や企業の利害関係も含め、誰がヘルスケアを調節しているのか?
5	Cultural research. 1 Students will in their groups carry out research on selected countries and present their finding to the class for discussion. Students will compare and contrast Japans system with those of their selected country. 文化に関する調査1: 学生は各グループで選んだ国について調べ、どのようなことを見出したか、授業中に討論を行う。日本の制度と各グループで選んだ国とのものを比較する。	Start group portfolio: Students will be in groups and their country to research will be allocated. The following will be researched location, population, Gross National Product. World rating. Political structure, education structure Healthcare systems. Birth rate, industries? グループでポートフォリオを始める。 学生はグループに分かれ、調べる国の位置や人口、国民総生産、世界的な格付け、政治的な構造、教育構造、ヘルスケアシステム、出生率、そして産業を知る。
6	Cultural research. 2 Students will in their groups carry out research on selected countries and present their finding to the class for discussion. Students will compare and contrast Japans system with those of their selected country 文化に関する調査2: 上述と同様の方法で実施	Portfolio building: Education, medical and nurse education. Do they have a national council? What is the system of training Doctors and Nurses? What are the pathways open in their culture to access nurse training? What are the major health issues? World Health Organization listings (Health) ポートフォリオの作成: 教育、医療、そして看護教育について。その国は、国全体の議会があるのか?医師や看護師の教育課程はどのようなものか?その国の文化の中で、看護の教育課程に通じる開かれた道はあるか?健康上の大きな問題は何か?WHO:世界保健機関について。
7	Cultural research. 3 Students will in their groups carry out research on selected countries and present their finding to the class for discussion. Students will compare and contrast Japans system with those of their selected country. 文化に関する調査3: 上述と同様の方法で実施	Period 1. Presentation of findings, peer to peer evaluation. 前半:どのようなことを発見したか、グループの学生同士で評価する。 Period 2. Discussions on presentation and portfolio building 後半:発表とポートフォリオの作成について討論。
8	Human rights and ethics in the world, Terrorism and Health. Sexual slavery and trafficking. 世界における人権と倫理、テロリズムと健康、性的奴隸、人身売買	Period 1. What is a terrorist? How is terrorism effect health, nationally, internationally? What types of terror attacks have been used on health? Sexual slavery and trafficking. 前半:テロリズムとは何か?テロリズムが国家的、あるいは国際的に健康にどのような影響を及ぼすか?健康上の影響を受けたテロ攻撃は、どのような種類のものがあったか?性的奴隸と違法な売買について。

		Period 2. Discussions, Portfolio building. 後半:討論とポートフォリオの作成。
9	Population in the world and family planning, gender issues. A boy baby is better than a girl baby? Discuss. 世界における人口と家族計画、性差別の問題、男の子は女の子より良いか？討論する。	Period 1. Population issues? Birth control, religion, trends. 前半:人口問題は？産児制限や宗教、動向について。 Period 2. Discussions, Portfolio building. 後半:討論とポートフォリオの作成。
10	Nourishment in the world : Malnutrition and obesity. Clean water. 世界の栄養状況: 栄養不良、肥満、汚染されていない水。	Period 1. Famine, hunger, obesity? Clean water. 前半:飢餓や飢え、肥満、汚染されてない水について。 Period 2. Discussions, Portfolio building. 後半:討論とポートフォリオの作成。
11	Mental Health and Health for child labour, child soldiers, trauma and accident. 精神的な健康と小児の労働、奴隸や子ども兵士、トラウマ、事故に対する健康	Period 1. International mental health: war, child soldiers, traumatic stress disorder, natural disasters. 前半:国際的な精神的健康、戦争、子どもの兵士、トラウマ的なストレス、自然災害について。 Period 2. Discussions, Portfolio building. 後半:討論とポートフォリオの作成。
12	Health and Traditional Medicine (CAM) in the world. Healing, magic, mystery or facts? 世界における健康と伝統医療(補完代替医療) 癒し、奇術、ミステリー、あるいは事実か？について討論する。	Period 1. Complementary and alternative medicine, natural healing, Kikou healing, shamanic healing, healing culture and systems. 前半:補完代替医療、自然の癒し、気功による癒し、呪術による癒し、癒しの文化と体系。 Period 2. Discussions, Portfolio building 後半:討論とポートフォリオの作成。
13	Global Health issues.1: Childhood. a.) Infections, measles, mumps, whooping cough, cholera, scarlet fever, jaundice, hepatitis, HIV. MDRTB b.) Environment, malnutrition, rickets etc. c.) Pandemics 地球規模の健康問題1：少年期 a) 感染症、麻疹、流行性耳下腺炎、咳、コレラ、猩紅熱、黄疸、肝炎、エイズ、多剤耐性結核 b) 環境、栄養失調、くる病など c) 世界的流行病	Period 1. Research selected diseases and their etiology. 前半:選んだ病気とその原因について調べる Period 2. Discussion and Portfolio building. 後半:討論とポートフォリオの作成。
14	Global Health issues.2: Adult Pneumonia, diarrhea, malaria, another infection and a vaccination). 地球規模の健康問題2：成人期 結核、下痢、マラリア、他の感染症とワクチン接種	Period 1. Research selected diseases and their etiology. 前半:選んだ病気とその原因について調べる。 Period 2. Discussion and Portfolio building. 後半:討論とポートフォリオの作成。
15	Summry: group portfolio cheking. 授業の総括、グループでのポートフォリオの提出	Course debrief and evaluation. 授業に関する意見交換と評価
履修条件と留意事項(A condition for taking this subject)		
Students may need help with their English skills. Smart phones, translator may be used in all these sessions to assist the student in comprehension. No percentage of marks are awarded for attendance. If you are absent without due reason over 5 times, you will not be able to be awarded any credit. Tutorials are on an open door policy 学生の英語力に対する援助は行います。スマートフォンによる翻訳や通訳者が、学生の理解を補うために手助けします。出席率は、成績評価に加えません。もし何の理由もなく5回以上欠席した場合、単位を取得できなくなります。個別指導に関しても受け入れます。確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度、講義時間内に行いま		

す。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。
授業時間外の学修（事前・事後学習）
科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修が必要です。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
オフィスアワーは金曜日を除く平日および月曜日から金曜日は E メールにても対応。週末は、E メールのみ。公式なチュートリアルは、申込みが必要です。
教材(Text)
Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage. 授業ごとに適切な参考文献を参照するため、ウェブ上の参照ページが学生に示されます。
最終到達目標(Final target)
By the end of this course of study the students will have be introduced to the complexity and challenges that make up the subject of international nursing. They will be familiar with up to date ideas and have experience of research, analyzing data, presenting and discussing international nursing. この授業を終えるまでに、学生は国際看護の授業項目をこなすことによって、国際看護の複雑さや疑惑に触れることができます。また、国際看護についての考えを新たにすることで親しみをもち、国際看護について調査、資料の分析、提示、討論することを経験します。
評価方法及び評価基準
Online self-testing knowledge reviews, 15 times (15%), reflective journal entry in portfolio 15 times (15%), session evaluation 14 times (15 %), interactive world map test (15%), and final examination (40 %) 知識について復習するオンライン上の自己学習テスト15回(15%)、ポートフォリオに記入するリフレクティブジャーナル 15 回(15%)、自己の学習評価 15 回(15%)、双方向の世界マップテスト(15%)、そして期末試験(40%)など配点得点を合計100点満点として総合評価する。
学生へのメッセージ
Let us enjoy the study of international nursing and learn about different cultures, nursing styles and health systems. 国際看護学を通じて、異なった文化、看護のスタイル、健康制度などについて一緒に楽しく学んでいきましょう

授業コード	EN00201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	International Nursing II (国際看護学II)	選択・必修	必修		知識・技術		
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	Jekan Adler-Collins (アダラー コリンズ 慈觀)				探求心	○	

講義目的

Students will develop from practical experience of interviewing subjects and learn to analyses other ideas and cultures to see how Japanese culture can help, enrich or learn from them. This unit develops self-confidence and leadership skills through engagement with the challenging elements of the course.

学生達は、どのように日本の文化が手助けすることが出来るか、向上させることが出来るか、学ぶことが出来るのか、などを知るために他の考え方や文化を分析することを学習する。この授業は、挑戦的な学習項目を通じて、学生の自信と統率力の技術を発達させる。

授業内容

Students will learn identity and base for provide necessary care to the people who has different cultural and social situation such as an emigrant in Japan and an international student, an incoming tourist. Students will carry out field research in the city, interviewing foreigners, analyzing the data and presenting their findings and conclusions to their peers. International nursing is a student centered, living action research approaches to higher education. For each subject, students will complete on line reflective journals to evidence their critical thinking and engagement with the curriculum material, and on line self-study tests to evaluate the degree of their learning. Session evaluation to develop reporting skills. A portfolio of learning will be developed to evidence the process of knowledge assimilation.

学生達は、日本の移民、留学生、外国人旅行者などのように異なった文化や社会状況を持つ人々に、必要なケアを提供する主体性や基礎について学習する。外国人と話したり、資料を分析したり、街中で屋外調査を実施し、発見したことや結論を同級生に発表する。国際看護学は学生を中心とした授業科目であり、生活活動の調査は、より高度な教育に近づける。それぞれの課題に対して、学生たちは彼らの批評的思考とカリキュラム事項への参加を立証するために、オンライン上で何を学んだかを反映させる日誌 (reflective journal) を完成させ、そして彼らの学習の程度を評価するためにオンライン上の自習テストに参加する。授業評価はレポート技術を向上させ、また、学習したことと綴るポートフォリオは、知識の融合の過程を立証するだろう。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	Learning identity, Who am I? アイデンティティ(私は誰か?)についての学習、	Period 1. To understand others you first need to understand yourself. This session exams the make-up of identity, how we identify and mold our self-realization of self. Ego is explored as are the prime human emotions of bias, hatred love, bigotry. 前半:他者を理解するためには、最初に自分自身を理解することが必要である。この授業では、アイデンティティの構成を試みる。どのようにして私達は自分の自己実現を確認するのか。自我は、バイアス、嫌悪、愛情、頑固さなど人間の原始的な感情として探求する。 Period 2. Practical workshop of understanding emotions. 後半:感情を理解するための実践的な勉強会
2	Research Project1: Health and measures for an emigrant in Japan and an international student, an incoming tourist. 調査計画1:日本への移民や留学生、外国人旅行者のための健康と評価	Outlining the reach plan, aim, objective, method, consents, planning and logistics of the research. Developing the instrument (questionnaire) How will it be analysed, what language? Bilingual. 研究計画と目的、課題、方法、内容、計画立案、調査の論理性についての概略。道具(質問紙)の開発。いかにして言語を分析するか、どんな言語化? 二国語使用者。

3	Medical tourism: the situation in Japan and other countries. 医学的な旅:日本や他国の現状	<p>Period 1. Country will be chose. Group work and portfolio building is the method.</p> <p>前半:国を選び、グループワークとポートフォリオを作成する。</p> <p>Period 2. Research the country selected by the group draw.</p> <p>Present back to class findings and collate the whole groups data.</p> <p>後半:グループごとに選んだ国について調査。発見したことを教室に持ち帰り、グループで収集したすべてのデータを発表。</p>
4	Traditional Medicine. 伝統医療	<p>Period 1. Keeping the same country as periods 1-2. Group work and portfolio building is the method.</p> <p>前半:上述と同じ国についてグループワークとポートフォリオ作成。</p> <p>Period 2. Research the country for any systems of healing or alternative Medicine. Present back to class findings and collate the whole groups data.</p> <p>後半:その国の癒しや代替医療のあらゆる体系について調査。そして、発見したことを教室に持ち帰り、グループで収集したすべての資料を発表。</p>
5	Listening to foreigner about their experience. Pain, it experience and its management. 痛みの体験とその対処を外国人から聴取	<p>By groups students will research the following items:</p> <p>a)Types of pain, b)Cultural treatments for pain, c)Cultural conflicts, d)Pain scales, types and usage, e)Discus pain with a foreigner</p> <p>グループ毎に各項目を調査: a)どのような種類の痛みか、b)痛みに対する文化的な治療法、c)文化的な矛盾、d)痛み尺度・種類・取り扱い方、e)痛みについて外国人と討論</p>
6	Communication and assessment tools コミュニケーションと評価道具	<p>Period 1. By groups students will research. the following items:</p> <p>a.)Types of communications that are needed in Nursing, b)Cultural communication, barriers, taboos, c)Cultural conflicts</p> <p>前半:グループ毎に各項目を調査: a)看護に必要なコミュニケーションの種類、b)文化的なコミュニケーションや障壁、タブー、c)文化的な矛盾</p> <p>Period 2. Design an assessment sheet/scale.</p> <p>後半:評価用紙/尺度を設計</p>
7	Experiencing holistic touch, “Kikou” ホリスティックタッチ:気功の体験	<p>Period 1. Introduction of healing theory and methods from different cultures.</p> <p>前半:異なる文化から癒しの理論と方法の紹介</p> <p>Period 2. Practical healing. Japanese kikou exercise. Holistic touch.</p> <p>後半:実践的な癒し、日本の気功の練習、ホリスティックタッチの演習</p>
8	Research Project. 2. Collecting data of foreigners feelings about health in Japan. 調査計画2:日本の健康に対する感想を外国人から聞き取る	<p>Field work:collecting data mini survey in local city. 屋外での作業:地方都市の小さな概観に関する資料の収集</p>
9	Research Project. 3. Writing up and data of foreigners' feelings about health and living in Japan. 調査計画3:日本の健康と生活について外国人から聞き取り資料を記述。	<p>Writing up your research. Presentation methods. Group discussion and Portfolio Building.</p> <p>調査を記述。提示方法。グループでの討論とポートフォリオの作成。</p>
10	Do nurses actually nurse?:Who delivers the care? 看護師は実際に看護を行っているか? 誰がケアを提供しているのか?	<p>Period 1. Advanced countries and developing countries. Who delivers the care? Research into this question. The poverty trap. WHO and World Bank.</p> <p>前半:先進国と途上国について、誰がケアするのか?この問い合わせ</p>

		調べる。貧困の足かせ。世界保健機構と世界銀行。 Period 2. Group discussion and Portfolio Building. 後半:グループ討論とポートフォリオ作成
11	Practice for “Kikou” 気功の演習	Periods 1&2. Lab work and practice. Of Japanese KIKOU, group discussion and portfolio building. 実習室で作業と演習:日本の気功についてグループ討論とポートフォリオの作成。
12	Presentations of research: peer to peer 調査結果を級友に発表	Presentation of student's group research. Group discussion and portfolio building. グループで調べたことを発表する。グループ討論とポートフォリオ作成。
13	Sexual Health: HIV and AIDs. 性に関する健康: HIV とエイズ	Period 1. Group research into HIV and Aids. The human cost of the disease Internationally. 前半:HIV とエイズについてグループごとに調べる。この疾患に罹患することで損なわれる、人間としての価値について国際的観点から考える。 Period 2. Group discussion and Portfolio Building. 後半:グループ討論とポートフォリオ作成。
14	International health promotion and education 国際的な健康推進と教育	Period 1. Health promotion and education are a basic function of all nurses. Groups will research the ideas that make up health promotion and present their findings. 前半:健康推進と教育はすべての看護師の基本的な役割である。健康の促進する考え方を調べ、見出したことを発表する。 Period 2. Group discussion and portfolio building. 後半:グループ討論とポートフォリオ作成
15	Summary. 授業のまとめ	Course evaluation. 本コースについての評価

留意事項（履修条件等）

English is the international language for communication. Students may need help with their English skills by translator. Smart phones and translator may be used in all these sessions to assist the student in comprehension. No percentage of marks are awarded for attendance. If you are absent without due reason over 5 times, you will not be able to be awarded any credit.

Tutorials are on an open door policy

英語はコミュニケーションのための国際言語です。学生の英語力に対する援助のために同時通訳者が講義に出ています。スマートフォンや通訳者は学生の理解を補うために全ての授業で利用可能です。出席しているからといって、成績に評価点は加えません。もし何の理由もなく 5 回以上欠席した場合、単位を取得することが出来なくなります。個別指導も受け入れます。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

オフィスアワーは金曜日を除く平日および月曜日から金曜日は E メールにても対応。週末は、E メールのみ。公式なチュートリアルは、申込みによって。

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage.

授業ごとのウェブリンクは、Google により参考文献を調べたり、Google 上のウェブページも利用できるようになっています。

最終到達目標

By the end of this course of study the students will have be introduced to the complexity and challenges that make up the subject of international nursing. They will be familiar with up to date ideas and have experience of research, analyzing data, presenting and discussing International Nursing.

この授業による学習を終えるまでに、学生らは知識を広げ、国際看護の課題を明らかにする複雑性や疑問を経験することでしょう。また、国際看護についての考え方を更新させ、そして調査と資料の分析、提示、討論するという経験を積みます。

評価方法及び評価基準

Online self-testing knowledge reviews, 15 times (15%), reflective journal entry in portfolio 15 times (15%), session evaluation 15 times (15 %), interactive world map test (15%), and final examination (40 %), and then sum up these items to 100 score.

知識について復習するオンライン上の自己学習テスト 15 回 (15%) 、ポートフォリオに記入する自己作成の日誌 15 回 (15%) 、授業評価 15 回 (15%) 、双向方向の世界マップテスト (15%) と期末試験(40%)など配点得点を 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

- S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

Let us enjoy the study of international nursing and learn about different cultures, nursing styles and health systems.

国際看護学を通して、違った国の文化や、看護のスタイル、健康制度などについて一緒に楽しく学んでいきましょう

授業コード	EN00301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	International Nursing III (国際看護学III)		選択・必修		知識・技術		
配当学年/学期	3年/前期		単位数		判断力	○	
担当教員	Dr.Jekan Adler-Collins (アダラー コリンズ 慈観)				探求心	○	

講義目的

By their 3 years, students will have gained some understanding about nursing as a profession and the kind of work that a nurse is expected to do. This unit expands of the knowledge base of units 1 and 2, introducing in depth study of nursing globally. We focus on the politics and health care challenges of modern nursing and the direction that humanity may take in relationship to genetics. The unit is designed to create an enquiring and reflective mindset in the students extending their research skill and seeking answers to some challenging global situations.

学生は3年生までに、専門職としての看護師について、また、看護師にはどのような仕事が期待されるかについてある程度理解している。「国際看護III」の講義は、「国際看護学I・II」の基礎的な知識を拡大するとともに、さらに地球規模の看護に関する学習を深めてゆく。現代の看護学の制度と健康ケアに関する問題点と、人間性が遺伝と関係するかも知れないという方向とに焦点をあてる。ここでは、地球規模の状況に答えを模索し、調査技術を広げようとする学生たちに、探求的かつ思索的なものの見方をするように配慮している。

授業内容

This unit of study revisits units 1&2, deepening some of the material through focused research of several different countries nurse education system, political and social structures, economics and historical positioning. This unit will examine nursing in north and south America, European Union, Islamic, Chinese, Tibetan, and Africa, comparing in depth with Japan's system of nursing and nurse education. Future educational pathways of nursing will be explored, advanced practitioner, clinical nurse specialists, master and doctors of nursing. Systems of palliative care will be examined and the different cultural religions will be explored to see how they impact nursing care. This unit will also enquire the impact of genetics, identifying disease carry genes and counselling. Global advances of bio technology and cyborg technology presents unique ethical questions and concerns for nurses. The role of the nurse in disaster will be covered along with basic first aid, CPR and AED usage. A small mini practical session will be carried out and used for discussion purposes. A final presentation by the student of their learning in this unit to their peers will conclude this interesting unit.

この授業では、「国際看護学I・II」を再考し、看護師の教育システム、制度的および社会的構造、経済、歴史的位置について、いくつかの異なった国々の調査に焦点を当てることにより、いくつかの題材をより深く学習する。北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパ連合、イスラム教の国、中国、チベット、アフリカなどの看護について、日本の看護体制や看護教育の程度と比較しながら調査する。将来の看護の教育方針、例えば先進的な看護実践者、専門看護師、看護学の修士と博士などを展望する。緩和ケアの制度について調べ、異文化の宗教がいかに看護に強い影響を与えているかを探査する。また、この授業は、遺伝子病やカウンセリングをあきらかにしながら、遺伝の影響力について調査する。バイオテクノロジー(生物工学)やサイボーグ(人工臓器や人工知能)技術の地球規模での進歩は、看護にとって新たな倫理的な問題や関心事となっている。災害における看護師の役割は、基本的な応急手当、心肺蘇生、AEDの使用などであろう。小規模の実践演習を行い、討論を行う。この授業を履修した学生は、仲間にプレゼンテーションをして、この興味深い科目の結びとする。

授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	Introduction to International Nursing 3. 国際看護学IIIへの導入	Period 1: Linking back to units 1 & 2. Period 2: Objectives of the unit Portfolio building, extension of 1&2 units. 前半：国際看護学I およびIIとの関連づけ、講義の目的 後半：ポートフォリオの作成、国際看護学I・IIとの関連付け
2	Nurse in the world 1 : North America & South America	Period1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Discussion and portfolio building.

	世界の看護師 1 : 北アメリカと南アメリカ	前半 : 教育体制、実践、国際法などを調査 後半 : 討論およびポートフォリオの作成。
3	Nurse in the world 2 : European Union 世界の看護師 2 : 欧州連合	Period1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Discussion and portfolio building. 前半 : 教育体制、実践、国際法について調査 後半 : 討論とポートフォリオの作成。
4	Nurse in the world 3 : Islamic Nursing. 世界の看護師 3 : 中東、アジア	Period1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Discussion and portfolio building. 前半: 教育体制、実践、国際法について調べる。 後半 : 討論とポートフォリオの作成。
5	Nurse of the world 4. : China and Tibet 世界の看護師 4 : 中国、チベット	Period1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Discussion and portfolio building. 前半: 教育システムや実践、国際法について調べる。 後半: 討論とポートフォリオの作成。
6	Nurse of the world 5 Africa. 世界の看護師 5 : アフリカ	Period1. Research education systems, practice and international law. Period 2. Discussion and portfolio building. 前半: 教育システムや実践、国際法について調べる。 後半: 討論とポートフォリオの作成。
7	Reviewing the advanced pathways in nursing. 看護における進歩的な道を展望	Period1: Research education systems, practice and international law. Advanced practitioner masters and doctors of nursing. Period 2: Discussion and portfolio building. 前半: 教育体制、実践、国際法。また高度な実践家としての看護学修士や看護学博士について調べる。 後半: 討論とポートフォリオの作成。
8	End of life care in different cultures. 異文化における終末期ケア	Period 1: Research faith systems, practice and international law in end of life care. The right to die, assisted suicide. Where do you stand?? Period 2: Discussion and portfolio building. 前半: 終末期ケアにおける信頼体制、実践、国際法について調べる。死ぬ権利や自殺ほう助。どのような立場か? 後半: 討論とポートフォリオの作成。
9	Genetic nursing and counselling. 遺伝子学的看護とカウンセリング	Human genes and DNA has been fully mapped. How to you assist carriers of genetic diseases? What are the ethical and social issues at stake? Period 1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Role playing. Discussion and portfolio building. 人間の遺伝子およびDNAは完全に解明されている。遺伝子病をもつ人々をどのように援助するか?倫理的並びに社会的な課題にかかわっているものは何か? 前半 : 教育システムや実践、国際法について調べること。 後半 : ロールプレイ、討論、ポートフォリオの作成。
10	Nursing robotics, cyborg, biotechnology . 看護ロボット、サイボーグ、バイオテクノロジー	Modern advances in bio cyborg technology are not science fiction but science fact. What are the ethical considerations of modifying human beings? What is Ok and where must it stop. バイオサイボーグ技術における現代の進歩は、空想科学ではなく、科学的な事実である。人間を作り変えることに関する倫理的問題点は何か?何を良しとして、何を止めなくてはならないか?
11	Disaster Nursing1: Are you ready? 災害看護 1 : あなたは準備ができますか?	Natural and manmade disasters are on the increase as we face an uncertain future with global warming resulting in human migration and weather changes.

		Period 1. Research on the subject? Period 2. What is the nurses' role in this process? Discussion. 人間の移動や気候変化に起因する地球温暖化と共に不確かな未来に直面しており、天災と人災は増加している。 前半：このテーマに関して調べる。 後半：この過程における看護師の役割は何か、討論。
12	Disaster nursing 2: International first aid, basic first aid response in CPR and AED. 災害看護2：国際的な応急手当、心肺蘇生とAEDにおける基本的な応急反応	Period 1: Research education systems, practice and international law in relationship to first aid.. Period 2: Practical session CPR Discussion and portfolio building. 前半：応急手当に関する教育体制、実践、国際的な法について調べること。 後半：CPRの演習 討論とポートフォリオの作成。
13	Disaster Nursing 3: First aid and disaster scenario. Practical field work. 災害看護3：応急手当と災害シナリオ、実践的な屋外研究	How to manage an incident. Simulated disaster scenario. Period 1: Research education systems, practice and international law. Period 2: Discussion and portfolio building. どのようにインシデントに対応するか。 前半：災害シナリオのシミュレーション。教育体制、実践、国際法について調べる。 後半：討論とポートフォリオの作成。
14	Presentation by students: Individual presentation by the student of their learning and knowledge acquisition through the unit. 学生らによる発表：この授業を通して得た学習と知識を個別に発表	Student presentations. 学生による発表。
15	Portfolio hand in and Summary ポートフォリオの提出とまとめ	Portfolio hand in. ポートフォリオの提出
留意事項（履修条件等）		
Compulsorily subject for students who take public health nurse course 保健師コースの学生は必須。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学習（事前・事後学習）		
科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
オフィスアワーは金曜日を除く平日および月曜日から金曜日はEメールに対応。週末は、Eメールのみ。公式なチュートリアルは、申込みによって。		
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）		
Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage. 学生には、授業の初めに、調査に必要な参考文献をグーグルにより、ウェブ上で参照ページを示します。		
最終到達目標		
By the end of this course of study, the students will have extended their knowledge and maturity of the complexity and challenges that make up the subject of international nursing. Practical skillsets that help prepare an international nurse for practice will have been experienced. この授業を終えるまでに、学生は、知識を広げ、国際看護の課題となる複雑さと疑問を成長させる。また、実践のための国際看護師を準備する手助けとなる実践的な技術を経験してゆく。		

評価方法及び評価基準

Self-testing knowledge reviews, 15 times (15%), reflective journal entry in portfolio 15 times (15%), session evaluation 15 times (15 %), final examination (30 %), practical scenario (25%) and then sum up to 100 score.

知識について復習する自己学習テスト 15 回 (15%)、ポートフォリオに記入する調査したことを反映する日誌 15 回 (15%)、授業評価 15 回 (15%)、期末試験 (30%)、実践的なシナリオ (25%) など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

- S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

Let us enjoy the study of international nursing and learn about different cultures, nursing styles and health systems.

国際看護学Ⅲで、異なった文化、看護のスタイル、健康制度などについて一緒に楽しく学んでいきましょう

授業コード	EN00401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	国際看護学IV (International Nursing IV)		選択・必修		知識・技術		
配当学年/学期	4年/後期		単位数		判断力	○	
担当教員	Jekan Adler-Collins (アダラー コリンズ 慈觀)				探求心	○	

講義目的 Purpose of the subject

Grand and final program of international nursing program. This subject is summarizing their understanding of international nursing study about health and nursing, nursing with symbiotic many culture, practice in the world. This unit introduce international organizations, Non Government Organization (NGO), Non Profit Organization (NPO), which will help students to find their future career in global society and to think about international contributions through nursing.

この授業は、これまでに習った国際看護学の総集編です。この授業では、健康と看護に関する国際看護、象徴的な多くの文化と看護、世界における看護実践など学習してきたことを要約します。いくつかの国際機関、非政府の機関、非営利活動について学びます。学生が、地球規模の社会における将来の目標を見出し、看護を通じての国際的な貢献をする手助けとなるでしょう。

授業内容 Contents of the subject

Students will learn the role of Internal and International organizations, NGOs which support international nursing mainly and talented people. Students will also learn the details for participation to International Organization officially.

主に国際看護と特殊技能を持った人々を支援する国内および国際的な機関である NGO について学習します。また、公式に国際機関へ参加するための詳細について学習します。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	Introduction to international organization and internal organizations, NGO in the term of Health. (保健関係の国際機関と国内機関、NGO の導入論)	NGOs can provide useful pathways for volunteers and work in areas that interest the nurse around the world. Research NGO systems and functions. Identify one that interests the student and say why. NGO は世界中の看護師が関心を示す地域でのボランティアや仕事への有用な道となる。 NGO のシステムと機能について調べ、学生が関心を示すものを確認し、それがなぜなのかを示す。
2	The United Nations, organization for health in New York and Geneva, etc. 国連機関、ニューヨークやジュネーブなどの保健に関連する機関	Many international policies from the United Nations, influence national health policies. The student will research the function of the UN. 国際連合の多くの国際的な政策は、国家的な健康政策に影響をおよぼしている。 学生達は、国際連合の機能について調べる。
3	International organization like The United Nations 1: the role 国連のような国際機関:役割	Many international policies from the United Nations, influence national health policies. The student will research the function of the UN. 国際連合の多くの国際的な政策は、国家的な健康政策に影響をおよぼしている。 学生達は、国際連合の機能について調べる。
4	International organization like The World Health Organization: WHO のような国際機関	Many international policies from the WHO, influence national health policies. The student will research the function of the WHO.

		WHO の国際的な政策は、国家的な健康政策に影響を及ぼしている。 学生達は、WHO の機能について調べる。
5	Another organization related to Nursing ICN, the role of ICN and annual conference 看護に関連した他の機関 国際看護師協会、ICN の役割と年次カンファレンス	The ICN, its function and annual conference. Students will be encouraged to see if they can successfully submit an abstract for a paper presentation. ICN の役割と年次カンファレンス。 学生達は、論文発表のための抄録の投稿について学ぶ。
6	Net working and meeting other international nurses. ネットワーキングと他の国際看護師の会合	Students will research the possible ways that networking with International nurses can be developed or existing one evaluated and joined. 学生達は、国際看護師とネットで仕事する方法を調査し、ネットワークの開発や、会合への参加方法について調べる。
7	Presentation by students 学生達による発表	Students will present their 4 year portfolio as evidence of their process of learning. Students will critically evaluate that process identifying its strengths and weaknesses, what worked for them and what did not and offer ways, ideas of improving the course. 学生達は、学習の過程を示す根拠となる 4 年間のポートフォリオを発表する。そして、その強みと弱み、何が学生にとって有用で、何がそうでなかったかを批評的に評価し、この授業科目を改善するための方法やアイデアを提案する。
8	Summary まとめ	本コースに対する総括を行う。
留意事項（履修条件等） Condition for taking this subject		
Compulsory Subject for Students who take Public Health Nurse course. Successfully passed international nursing 1-2-3 and the subject including in fundamental nursing II 保健師コースの学生は必須。 国際看護学 I ・ II ・ III 、および看護学概論 II の「国際看護」を受講していること 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修（事前・事後学習） Study pre and post learning 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入） office hours オフィスアワーは金曜日を除く平日および月曜日から金曜日は E メールに対応。週末は、E メールのみ。公式なチュートリアルは、申込みによって。		
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください） texts online data and document searches オンライン・データと文書検索をします		
最終到達目標 Goal Consolidation of portfolio of evidence showing the students educational growth over the whole span of international nursing programs. エビデンスとしてのポートフォリオの統合は、国際看護学の全期間を通じた学生の教育的成長を示します。		

評価方法及び評価基準

Self-testing knowledge reviews, 5 times (15%), reflective journal entry in portfolio 5 times (15%), session evaluation 5 times (15 %), interactive world map test (15%), final examination (20 %) and mini research project (20%), and then sum it up to 100 score

知識について復習する自主テスト 5 回(15%)、ポートフォリオに記入するリフレクティブジャーナルー 5 回(15%)、授業評価 5 回(15 回)、対話方式の世界マップテスト(15%)、期末試験(20%)、ミニ研究プロジェクト(20%)など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準 (学則第 34 条)

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

Let us finish the final step of your international nursing studies. At the completion of which you will be well grounded in dealing with international patients and knowledgeable about how to address their individual care and health issues.

これであなたの国際看護学の勉強は最終段階を終えることになります。

完了時には、どのように個々人のケアや健康問題に焦点をあてるかに精通し、国際的な患者を扱う基礎が確立されているでしょう。

授業コード	EN00501			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野と 倫理観	○	
授業科目名	国際看護学海外研修		選択・必修		知識・技術		
配当学年/学期	2年/前期		単位数		判断力	○	
担当教員	Jekan Adler-Collins (アダラー コリンズ 慈観)				探求心	○	

Purpose of this subject. 講義目的

To broaden the students' experience of health care systems and cultures outside Japan through tours, training and exchanges at healthcare universities and hospitals. Study abroad offers the student unique opportunities to experience different cultural situations.

学生達は、海外研修をすることによって、ヘルスケアに関係ある大学や病院での研修と意見交換を行い、ヘルスケア体制や文化を体験として深める。国際的な旅行は、学生に異なる文化的な状況を経験する独特の機会を提供する。

Contents of this study: 授業内容

Travel & experiencing different health care systems outside of Japan: 1. Understanding the value of education in the Japanese Health Care System. 2. Having experience of intercultural and different education/ healthcare system. 3. Becoming an international member in a cross-culture focus group. 4. Making friendly relationship with international companions and peers.

海外研修で異なるヘルスケア体制の体験: 1. 日本のヘルスケア体制における教育の価値について理解すること。 2. 異なる文化、教育、ヘルスケア体制を体験すること。 3. 異文化間に焦点を当てたグループの国際的構成員になること。 4. 国際的な友達や仲間との友好的な関係を作ること。

Session Plan & Learning Task: 授業計画及び学習課題

回	標 題	学習課題
1	Study abroad 海外研修	Study Abroad requires students to be flexible about conditions, food, accommodation and travel. All of which are learning experiences. 海外研修では、学生に生活状況、食事、宿泊先、旅行などに柔軟性が求められる。それらは、すべて学習経験になる。
2	Communication skills 交流技術	Learning how to communicate in another language can be challenging and fun. Students will develop their communication skills. どのようにして他の言語で交流するかを学習することは、挑戦であり、かつ楽しみである。学生達は、自らの交流技術を発達させるであろう。
3	Formal curriculum of study provided by hosting nation. 宿泊国で提供される正規授業	4 hours of theory and 4 hours of practice, visit to national hospitals 理論を4時間と演習を4時間、国立病院を訪問
4	Social skills 社会的技術	Students will present Japanese culture to host country. Dance, song or activity. 学生達は、訪問国に日本の踊り、歌、活動を紹介する。
5	Activity diary 活動日誌	Students will keep a reflective diary of what they see, do and learn for presentation to peers on return to Japan. 学生達は、帰国してから級友達に報告発表するために、どのようなことがわかったか、何をしたか、何を学習したかなどがわかるよう日誌をつけておく。

A condition for taking this subject: 留意事項 (履修条件・授業時間外の学修)

1) Students need to have successfully passed international nursing during first year. 2) Have a valid passport 3) Have a valid visa, if necessary 4) Provide Parental release to travel outside of Japan 5) Fully paid all necessary fees

1) 国際看護学 I の単位取得者であること。2) 有効なパスポートを所持すること。3) 必要に応じて有効なビザを受領していること。4) 海外旅行をするにあたり、保護者の許可を得ていること。5) 旅行に必要な料金を支払っていること。課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学習（事前・事後学習）
事前学習(Pre-learning) : Attended a briefing and orientation on the visit 訪問に関するオリエンテーションに出席すること
事後学習(Post Learning) : Students will submit a report, written in English of their active diary, and finally, present to their peers and faculty, in English 学生は英語で活動日誌を書き、レポートを提出すること、最終的に級友や学部に英語で発表すること。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）Office hours
オフィスアワーは金曜日を除く平日および月曜日から金曜日はEメールに対応。週末は、Eメールのみ。公式なチュートリアルは、申込みすること。
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）
Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage.
各授業題目のウェブリンクとグーグルによる調査のための参考文献と参照ページが学生に示されます。
最終到達目標
By the end of this course of study the students will have extended their knowledge and maturity of the complexity and challenges that make up the subject of International Nursing. Practical skillsets that help prepare an international nurse for practice will have been experienced. Practical test only. Oral questioning of understanding in host country. Have greater understanding. Of themselves, their culture and the cultures of others. この授業による学習を終えるまでに、学生は、知識を広げ、国際看護の複雑さと疑問を熟成させる。また、国際的な看護師となる手助けとなる実践的な技術を経験する。実践的なテストだけ。自分自身と自分の文化、そして他の文化について理解すること。
評価方法及び評価基準
Formal written report of the active learning diaries in English (50%) and formal presentations to peers and faculty in English (50%), and then sum it up to 100 score. 英語で書いたアクティブラーニングの日誌の報告（50%）および仲間と学部に英語で発表（50%）など配点得点を合計100点として総合評価する。
成績評価基準（学則第34条） S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
学生へのメッセージ Message to student
Let us enjoy the study of international nursing and travel together to experience and learn about different cultures, nursing styles and health systems. 国際看護学の研究を楽しみ、異なった文化や看護の方法、保険制度などについて学習して、経験し、一緒に旅をしましょう。

授業コード	ENP0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－精神看護学				広い視野と倫理観	
授業科目名	精神保健看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術 ○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力 ○	
担当教員	井上仁美				探求心 ○	

講義目的

精神保健看護学は人間の精神に関わる看護に関する学問であり、対象はすべての看護領域にある人と精神障がいをもつ人である。講義では精神保健看護学を学んでいく上で基本的な知識を修得するとともに、精神看護の基本概念となる心の健康と精神の健康の保持増進と疾病予防、精神保健の歴史的変遷や法律を理解することを目的とする。

精神保健看護に関連する現代社会における課題を、その要因や問題の様相、精神保健看護の側面からの対策について学ぶことを目的とする。

授業内容

精神看護の対象は、精神的に健康な人から、精神疾患をもつ人まで幅広く含む。本講義では、精神障がいをもつ人の生活を整えるために必要な知識と技術だけではなく、精神保健の歴史や法律、精神看護の倫理、精神保健行政、精神保健医療の場で行われる集団活動および精神看護の現状と課題を学ぶ。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	精神看護学の基本的な考え方	精神の健康・不健康や精神障がいとは何か、その定義をふまえながら、精神看護学の基本的な考え方や心構えを理解できる。 また、精神障がいを説明するさまざまなモデルと精神障がいのとらえ方を理解できる。
2	心のはたらきと精神の健康・障がい	人格、気質、自我、感情、認知など人間の心のはたらきについて理解できる。また、こうした精神の諸活動の分析に基づき各種の精神療法が発達してきたことを理解できる。
3	心のしくみと人格の発達	様々なストレスに対処するシステムとしての防衛機制と人格の発達に関する代表的な理論について理解できる。
4	心の危機とストレス	生体システムとしてのストレス反応と恒常性の維持について理解できる。また、ストレスへの対処行動と危機理論、カープランの予防概念を理解できる。
5	精神看護における家族	システムとしての家族と家族病理について理解できる。家族はケアが必要なクライアントであることを理解し、家族をケアする際の看護について理解できる。
6	集団力動論	人間と集団、集団の中の自己について理解できる。グループダイナミクスとリーダーシップについて理解できる。
7	精神障がいと治療・看護の歴史	精神疾患・障がいとその治療・看護の歴史的な流れを理解できる。特に、日本における精神医学・治療の歴史的経緯と地域・文化との結びつきを学び、社会的視点から精神障がいを理解することができる。
8	精神障がいと法制度	精神障がいをもつ人々を対象とする法律の目的と位置付けおよび法制度の変遷について理解できる。また、人権擁護と生活支援の点からの課題について理解できる。
9	地域における精神看護	精神障がいをもつ人の地域での生活と制度について学ぶとともに、地域生活を支える様々なサービスとその基盤となる考え方を理解できる。
10	身体疾患と精神看護	身体疾患と精神症状の関係性について理解できるとともに、リエゾン精神看護の役割と仕事について理解することができる。
11	職場・学校における精神保健上の問題	職場や学校における精神保健問題の概要について理解できるとともに、ハラスメントやいじめが精神および健康面に与える影響とその支援に

		について理解できる。
12	嗜癖の問題	嗜癖の問題が心身および日常生活に及ぼす影響について理解できるとともに、嗜癖問題から回復するための看護の方法が理解できる。
13	看護職のメンタルヘルス	看護職のような対人関係職における感情の変化やメンタル面への影響が、どのように看護職の健康に影響するかを理解できる。また、こうした看護師のストレスマネジメントの方法について理解できる。
14	援助的人間関係を築く	ケアの原則を理解するとともに患者一看護師関係における治療的援助関係のコミュニケーションの技法を理解できる。
15	精神科看護における倫理	「精神科看護倫理綱領」や倫理基準について理解できるとともに、精神看護実践における倫理的課題と求められる倫理について理解できる。

留意事項（履修条件等）

本科目は精神看護学実習の履修条件になっています。この講義の実践の場は精神看護学実習ですが、これから履修する精神看護学援助論ⅠおよびⅡの基礎になりますので、理解した上でしっかりと知識を修得しましょう。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（学習課題）が必要です。毎回の予習および復習をしてから講義に臨むことが必要です。レポート課題については別途指示します。

事前学習：講義内で学習課題を提示します。

事後学習：講義内で学習課題を提示します。講義内容のフィードバックはレスポンスシートなどを用いて講義時間内に行います。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

別途、提示します。

教材

教科書：

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」、医学書院、ISBN：978-4-260-02773-1
(精神保健看護学概論で使用)

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開」、医学書院、ISBN：978-4-260-02774-8
(精神看護援助論Ⅰで使用)

最終到達目標

- 精神保健看護学を学んでいく上で基本的な知識について理解できる
- 精神保健看護に関連する現代社会における課題を、その要因や問題の様相、精神保健看護の側面からの対策から理解できる

評価方法

筆記試験 60%、レポート課題 30%、毎回のふり返りの内容 10%など配点得点を合計 100 点満点として総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

精神疾患は特別な病気ではなく、だれでもがなりうる病気の一つです。人生のそれぞれのステージにおいて人は自分の課題に気づき、その課題に向き合うことでその人らしく生きていくことができます。学生の皆さんも自分や家族などの身近な人に置き換えて、精神障がいがある人を考えしていくことで学ぶことがたくさんあります。精神看護学は他の看護学でも活用できますので、積極的に学ぶ姿勢が大切です。

授業コード	ENP0201			デ イ イ メ る る 養 成 す る 能 力 イ ン シ ー に 定	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－広域看護学－精神看護学				広い視野と倫理観							
授業科目名	精神看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	井上仁美、別宮直子				探求心	○						
講義目的	精神障がいをもつ人の状態のとらえ方とさまざまな精神症状について理解するとともに、それぞれの精神障がいの原因、回復過程と援助方法が理解できる。											
授業内容	精神障がいをもつ人の特徴と症状による生活のしづらさについて学ぶとともに、精神科治療と精神看護の機能と役割を学ぶ。											
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	精神障がいの基礎知識	精神障がいの概念と分類が理解できるとともに、精神障がいによる病的体験の違いと共通点が理解できる。										
2	精神の健康上に問題をもつ人への看護① 統合失調症	統合失調症の発症の原因、状態および回復過程とその治療が理解できるとともに、状態の経過にあわせた看護の方法が理解できる。										
3	精神の健康上に問題をもつ人への看護② 気分障害	気分障害の発症の原因および回復過程とその治療が理解できるとともに、状態の経過にあわせた看護の方法が理解できる。										
4	精神の健康上に問題をもつ人への看護③ 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	不安障害、強迫性障害、適応障害と解離性障害の発症の原因、状態および回復過程とその治療が理解できるとともに、状態の経過にあわせた看護の方法が理解できる。										
5	精神の健康上に問題をもつ人への看護④ 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	摂食障害、性同一性障害、睡眠障害の発症の原因、状態および回復過程とその治療が理解できるとともに、状態の経過にあわせた看護の方法が理解できる。										
6	精神の健康上に問題をもつ人への看護⑤ 精神作用物質使用による精神および行動の障害	アルコール依存症の発症の原因、状態および回復過程とその治療を理解するとともに、状態の経過にあわせた看護の方法が理解できる。										
7	精神の健康上に問題をもつ人への看護⑥ パーソナリティ障害	パーソナリティ障害について、その状態と分類、関わり方について理解できる。										
8	精神の健康上に問題をもつ人への看護⑦ 器質性精神病、てんかん、知的障害、発達障害	てんかんの分類と症状および治療について理解できる。知的障害の概念と分類について理解できる。広汎性発達障害と多動性障害、学習障害の状態について理解できる。										
留意事項（履修条件）												
精神保健看護学概論での学習をふまえていることを前提とする。 主体的に学習に臨むことが必須である。												

授業時間外の学修（事前・事後学習）
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。 事前学習：講義内で学習課題を提示します。 事後学習：講義内で学習課題を提示します。講義内容のフィードバックはレスポンスシートなどを用いて講義時間内に行います。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
別途、提示します。
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」、医学書院、ISBN : 978-4-260-02773-1 (精神保健看護学概論で使用) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開」、医学書院、ISBN : 978-4-260-02774-8 (精神看護援助論 I で使用)
参考書 「薬がみえる Vol. 1 神経系の疾患と薬 循環器系の疾患と薬 腎・泌尿器系の疾患と薬」、 メディックメディア、ISBN : 978-4-89632-549-2
最終到達目標
1. 精神障がいをもつ人の状態のとらえ方とさまざまな精神症状について理解できる。 2. それぞれの精神障がいの原因、回復過程と援助方法を理解する。
評価方法および評価基準
筆記試験 60%、レポート課題 30%、毎回のふり返りの内容 10%など、配点得点を合計 100 点満点として総合的に評価する。
成績評価基準（学則第 34 条） S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
学生へのメッセージ
精神看護学概論および関連科目での知識を修得していることを前提として授業を進めます。 そのため、復習をしっかりしておくことが必要です。

授業コード	ENP0301			デ イ イ メ の る 養 成 す る 能 力	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－広域看護学－精神看護学				広い視野と 倫理観		
授業科目名	精神看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	井上仁美、別宮直子				探求心	○	
講義目的	<p>精神障がいをもつ人のセルフケアを高めるための援助方法について理解するとともに、さまざまな精神障がいをもつ対象者のアセスメントから看護計画までを立案することができる。</p> <p>看護場面の再構成をとおして自己理解・他者理解の方法を理解することができる。</p>						
授業内容	<p>これまでに学習した精神看護学関連の諸知識を統合して対象者を多角的に理解するために、事例を用いてセルフケアレベルに応じた看護実践の方法および看護場面を振り返り、患者一看護師関係を含めた対象者のアセスメントから看護計画立案までを学修する。プロセスレコードの作成をとおして、自己理解・他者理解を深めながらコミュニケーションの実際について振り返る。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	看護場面の再構成 (1)	関係をアセスメントするためのプロセスレコードの方法について理解できる。					
2	看護場面の再構成 (2)	作成したプロセスレコードを振り返ることによって、自己理解・他者理解について理解できる。					
3	精神科における治療・検査と看護 (1) ～薬物療法～	精神疾患に用いられる向精神薬の作用と有害作用、日常生活に薬物療法がどのような影響を及ぼしているかについて理解できるとともに、その看護について理解できる。					
4	精神科における治療・検査と看護 (2) ～心理・社会的療法～	薬物療法以外のさまざまな心理・社会的療法についての理論と技法が理解できるとともに、看護における活用法について理解することができる。 精神科における検査の必要性とその看護について理解することができる。					
5	グループの理論と看護者が関わる グループ	社会生活技能訓練 (SST) や心理教育の理論的背景と看護者の関わりについて理解できるとともに、集団療法の治療的意義について理解できる。					
6	精神科病院におけるリスクマネジメント	単科精神科病院と総合病院の精神科病棟の役割と機能についての違いが理解できるとともに、行動制限や身体合併症の予防など病院におけるリスクとその対処法について理解できる。					
7	セルフケア理論の概要	精神看護で用いられるオレム・アンダーウッドのセルフケア理論について理解できる。					
8	オレム・アンダーウッドのセルフケア 理論による看護過程の実際	事例をとおして看護過程の展開についての方法を理解できる。					
9	看護過程の展開 (1) 事例の背景を理解する	以下の事例について生活歴等の背景や症状を理解し、看護過程の展開を事例ごとにグループに分かれて行うことができる。 事例：統合失調症、双極性障害、アルコール依存症、パーソナリティ障害					
10	看護過程の展開 (2) アセスメント	グループごとに担当する事例について、所定の様式に基づいてアセスメントを行うことができる。					
11	看護過程の展開 (3) 看護計画の立案	グループごとに担当する事例について、所定の様式に基づいて看護計画の立案まで行うことができる。					

12	看護過程の発表 (1)	統合失調症の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開が理解できる。
13	看護過程の発表 (2)	双極性障害の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開が理解できる。
14	看護過程の発表 (3)	アルコール依存症の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開が理解できる。
15	看護過程の発表 (4)	パーソナリティ障害の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開が理解できる。

留意事項（履修条件等）

授業の後半はこれまでに学習したことをふまえて事例展開をグループで行うため、自主的に協力して課題に取り組むことが必要です。事例展開のための様式は精神看護学実習で実際に使用するものと同じですので臨地実習に臨むための重要な学習となることに留意すること。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。

事前学習：講義内で学習課題を提示します。

事後学習：講義内で学習課題を提示します。講義内容のフィードバックはレスポンスシートなどを用いて講義時間内に行います。

オフィスアワー

別途、提示します。

教材

教科書：

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」、医学書院、ISBN : 978-4-260-02773-1
(精神保健看護学概論で使用)

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開」、医学書院、ISBN : 978-4-260-02774-8
(精神看護援助論 I で使用)

参考書：

「薬がみえる Vol. 1 神経系の疾患と薬 循環器系の疾患と薬 腎・泌尿器系の疾患と薬」、
メディックメディア、ISBN : 978-4-89632-549-2

最終到達目標

1. 事例をとおして、各疾患のアセスメントから看護計画立案を行うことができる。
2. プロセスレコードを作成し自己の関わりを振り返ることができる。

評価方法

筆記試験 50%、グループワークの成果内容およびプレゼンテーション 40%、毎回のふり返りの内容 10%など、配点得点を合計 100 点満点として総合的に評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- ・プロセスレコードは実習での対象者との関わりを振り返り、作成することが必要です。
- ・これまでに学修してきたことを統合して、看護過程の展開をグループで行い発表します。
- ・授業時間内に終了できない場合は、時間外に集まり課題を達成することが必要です。

授業コード	ENQ0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性							
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野と倫理観							
授業科目名	家族看護論	選択・必修	必修		知識・技術	○						
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	金子 省子				探求心	○						
講義目的												
社会的背景と共に変化する家族の生活についての理解を深め、家族にかかわる看護者の役割と支援方法について学ぶ。												
<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族研究の動向を知り、今日の多様な家族について理解する。 2. 家族看護の諸理論について理解し、家族看護に関する基礎的な視座を得る。 3. 家族看護の実際と看護者の役割について、事例に基づいて考察することができる。 												
授業内容												
まず、家族に関する諸理論と現代家族について理解し、次に家族看護の諸理論を学び、家族の発達段階に即した支援課題について考察する。これらに基づき、家族看護の実際について事例に即した検討を行う。												
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	家族とは何か	学習者自身の家族観を認識するところを学習の起点とする。史的な変遷をふまえ、家族という私的関係性の多様性について理解することができる。										
2	家族に関する諸理論	家族に関する諸理論について学び、今日の家族を理解する視点を得ることができる。										
3	現代日本の家族の特徴	各種調査などから、今日の日本における家族の形態や機能について理解することができる。										
4	家族看護の理論、家族の発達段階と支援	家族看護に関する諸理論を知り、家族の発達段階に即した支援課題と諸分野からの支援の実態を理解することができる。										
5	家族にかかわる看護者の役割	家族にかかわる基本姿勢とコミュニケーションについて理解することができる。										
6	家族支援とコミュニケーションの実際	家族支援の具体的な方法について、ロールプレイングなどを通し理解することができる。										
7	家族看護の展開	個別性のある家族支援を実施するため、事例に即して、支援の実際について理解することができる。										
8	家族看護の課題と展望	第1回～第7回までの授業を総括し、家族看護の必要性と家族支援のあり方について考察することができる。										
留意事項（履修条件等）												
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体の フィードバックについては講義時間内に行い、個別のフィードバックは時間外に設定します。												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。												
事前学習：授業内容に関連する課題について、予習や情報収集を行い、課題シート等を作成して受講する。												
事後学習：各回の講義内容についての確認テストや課題を提出する。												

オフィスアワー
授業時間の前後に受け付けます。
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
プロジェクトと配布資料を使用します。次の2冊のほか、授業内でも適宜参考図書を紹介します。
参考図書
「家族看護学 改訂第2版 19の臨床場面と8つの実践例から考える（看護学テキストNICE）」： 山崎 あけみ・原 礼子 編著、南江堂、2015年、ISBN：978-4-524-25708-9 「家族看護学 理論と実践 第4版」：鈴木和子・渡辺裕子著、日本看護協会出版会、2017年 ISBN：978-4-8180-1697-2
最終到達目標
多様な家族の生活について理解し、家族にかかわる看護者の役割と支援方法について理解できる。
評価方法及び評価基準
授業への参加姿勢、授業・演習の課題レポート：30%、期末試験：70%など配点得点を合計100点満点として総合評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass） D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）</p>
学生へのメッセージ
受講生同士でロールプレイングやディスカッションなどのグループワークを行って学びを深める。

授業コード	ENQ0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野と倫理観		
授業科目名	看護過程	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	棚崎由紀子, 井上仁美, 中島紀子, 羽藤典子, 上西孝明				探求心	○	
講義目的							
1. 疾患や障害をもつ人々の健康上の問題や生活上のニーズ及び諸問題を明らかにし、解決に向けた援助を提供するための問題解決方法を学ぶことを目的とする。 2. ヘンダーソンの理論を用いて看護過程に必要な知識と技術を活用し、対象に応じた看護上の問題が抽出できるようにクリティカルな思考を培うことを目的とする。							
授業内容							
基礎看護学実習Ⅱの看護過程の実践を目指し、概念と基本的知識について学ぶ。ヘンダーソンの理論を用いたアセスメント、看護上の問題の抽出、看護計画の立案など看護過程のプロセスについて段階的に、グループワークを通して学ぶ。グループメンバーとの意見交換、既習の知識などを集約して、事例対象者の情報を分析・解釈し、対象者の全体像をとらえ、最終的に看護上の問題及び看護計画をグループワークの成果（看護過程の展開）として、根拠とともに発表する。							
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	ガイダンス 看護過程の概念と基本知識（1） 看護過程とは （棚崎）	看護過程の必要性、クリティカルシンキングについて理解することができる。					
2	看護過程の概念と基本知識（2） 看護過程のプロセス （棚崎）	看護過程の各段階について理解することができる。					
3	ヘンダーソンの看護理論を用いた看護過程 事例紹介 （中島）	ヘンダーソンの基本的欲求14項目について理解することができる。					
4	看護過程の展開（1） アセスメント①：情報収集 （羽藤）	情報収集の基本を学び、枠組みを用いた情報収集について理解することができる。					
5	看護過程の展開（2） グループワーク アセスメント②：情報収集 （羽藤・井上・棚崎・中島・上西孝）	事例をもとに、基本的ニードの枠組みを用いて情報収集を行い、情報を整理することができる。					
6	看護過程の展開（3） アセスメント③：データ分析 （羽藤）	アセスメント（情報の解釈・データの分析）の必要性とその方法を理解することができる。					
7	看護過程の展開（4） グループワーク アセスメント④：データ分析 （羽藤・井上・棚崎・中島・上西孝）	事例の整理した情報をアセスメント（情報の解釈・データの分析）することができる。					
8	看護過程の展開（5） グループワーク アセスメント⑤：データ分析 （羽藤・井上・棚崎・中島・上西孝）	事例の整理した情報をアセスメント（情報の解釈・データの分析）することができる。					
9	看護過程の展開（6） 全体像の把握 （上西孝）	事例の全体像の把握や、データの関連性について理解することができる。					
10	看護過程の展開（7） 看護上の問題の抽出 （上西孝）	事例を通して、看護上の問題の抽出方法について理解することができる。					
11	看護過程の展開（8） グループワーク 看護上の問題の抽出 （上西孝・井上・棚崎・中島・羽藤）	事例を展開し看護上の問題を抽出することができる。					

12	看護過程の展開（9） 看護計画の立案、優先順位・看護目標の設定 (井上)	事例のアセスメントと全体像から患者中心の看護計画を立案することができる。
13	看護過程の展開（10） グループワーク 看護計画の立案、優先順位・看護目標の設定 (井上・棚崎・中島・羽藤・上西孝)	事例の成果が測定可能な目標を設定し、優先順位を考慮した看護計画の立案ができる。
14	看護過程の展開（11） グループワークの発表 (中島・上西孝)	グループで検討した事例の看護上の問題および看護計画の根拠を明確にし、まとめることができる。
15	看護過程の展開（12） 実施・評価、まとめ (棚崎)	実施・評価の視点を述べることができる。
留意事項（履修条件等）		
本科目は、基礎看護学実習Ⅱの履修条件になっています。また、この講義の実践の場は、基礎看護学実習Ⅱであり、その後に続く各領域の臨地・臨床実習になりますから、この技術をしっかりと身につけておきましょう。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。		
事前学習：講義内で学習課題を提示します。また、その内容については確認テストやグループワークに等の学習につながるため、しっかりと準備をしておくこと。		
事後学習：講義内容のフィードバックはレスポンスシートなどを用いて講義時間内に行いますが、グループワークについては進行状況に応じて各メンバーで振り返りを行い、計画立てて準備をしましょう。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
本科目は、オムニバス授業です。各教員のオフィスアワーの時間と場所に従ってください。		
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）		
教科書：「しっかり身につく看護過程」：黒田裕子、照林社、ISBN：978-4-7965-2268-7 参考書：必要に応じて講義で紹介します。		
最終到達目標		
1. 事例をアセスメントし、看護上の問題を抽出する思考過程及び方法を理解できる。 2. 事例を全体的視点から把握し、看護援助を提供するための看護計画の立案を体験できる。		
評価方法及び評価基準		
看護過程の記録内容（グループ・個人）60%、小テスト 20%、グループワーク及び発表内容 20%など配点得点を合計100点満点として総合評価する。		
成績評価基準（学則第34条） S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)		
学生へのメッセージ		
基礎看護学実習Ⅱ、その後に続く各領域の臨地・臨床実習では、学修した看護過程を実際の患者で展開します。そのため常に主体的に参加し、問題意識を明確にして講義に出席するようにしてください。また、講義は、TBL (Team-based learning) を基本に改変したアクティブラーニングを行います。グループディスカッションを取り入れた共同学習を行うため、その都度学習課題を提示します。グループメンバーで協力し合い、積極的に課題に取り組んでください。		

授業コード	ENQ0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と倫理観		
授業科目名	ヘルスアセスメントⅠ	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	坂口京子, 大坪かなえ, 上西孝明, 山本千恵美				探求心	○	

講義目的

- さまざまな健康レベルにある人々の健康を客観的に把握し、看護介入の必要性を考えることができる。
- 看護の対象者の身体を査定し、人間がそのひとらしく生きていくように援助する必要性を理解できる。
- 看護上の問題を見出すための、ヘルスアセスメント技術を学修し、臨床的に活用できるようにする。

授業内容

健康レベルを把握するためのフィジカルアセスメントは、単なるモノとしての身体の査定ではなく、その人の精神としての身体の査定であり、看護実践に根柢を与える人々の健康に携わる者としての特権であり、責務と考える。

この科目は、人間の身体的側面、心理的側面、社会的側面の関係を踏まえながら全身状態を系統的に把握するため、必要な情報を収集し、それらの情報の意味を理解し、基本的なヘルスアセスメントができる能力を養う。主な内容は、ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントの目的、フィジカルイグザミネーションスクリーニング、系統的フィジカルアセスメントにおける基本的な知識を理解するように学修する。またフィジカルアセスメントに共通する基本的な技術の演習やシミュレータ、モデル人形による実施などを行い、身体各部のアセスメント能力を養う。

授業計画及び学習課題

回	標題	学習課題
1	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントの目的 フィジカルアセスメントの準備 ①環境の準備 ②物品の準備	ヘルスアセスメントの理論・歴史・ヘルスアセスメントの必要性について理解できる。また看護におけるフィジカルアセスメントとは何か、身体を査定する意味について説明できる。環境の整備・必要物品の準備について理解することができる。
2	フィジカルアセスメントの基本技術とは ①問診・視診・触診・打診・聴診 系統的レビューとは ①系統的な観察 ②健康歴の聴取 ③対象者への対応や配慮	必要物品の用途を理解し、使用できる。さらに問診・視診・触診・打診・聴診の目的、進め方、観察の視点について理解することができる。 系統的な観察の視点や、健康歴の聴取について学び、身体の状態を頭部から足先まで系統的に問診する知識と技術について理解することができる。さらに対象者との関係づくりの必要性について考え、看護介入への第1歩として認識できる。
3	一般状態のアセスメント（1） ①一般状態の観察 ②身体各部の観察ポイント ③バイタル測定	一般状態の観察の意義について理解することができる。さらにバイタルサイン測定技術のスキルアップを図ることができる。
4	一般状態のアセスメント（2） ①身体各部の測定 ②特有な症状の観察 ③アセスメントの方法	測定の技術を用いて、一般状態及び特有な症状の観察ができるとともに、アセスメントの視点を説明することができる。
5	一般状態のアセスメント（3） [演習]	一般状態の観察及びバイタルサインの測定が正しくできる。
6	一般状態のアセスメント（4） [演習]	身体各部の測定が正しくできる。また特有な症状の観察ができるとともに、必要な報告ができる。
7	呼吸器系のアセスメント（1） ①呼吸器の解剖生理学 ②呼吸器の視診・触診・打診・聴診	呼吸器の解剖学的構造や呼吸のメカニズムについて説明できる。また呼吸器の視診・触診・打診・聴診の重要性や方法について理解することができる。
8	呼吸器系のアセスメント（2） ①呼吸音の聴取 ②アセスメント	呼吸音の聴診部位を理解し、呼吸音が正しく聴取できる。また正常音と副雑音について理解することができる。アセスメントの視点を説明することができる。

9	呼吸器系のアセスメント（3） 〔演習〕	呼吸器の視診・触診・打診の技術を経験することができる。
10	呼吸器系のアセスメント（4） 〔演習〕	呼吸音の聴診部位を理解し、呼吸音が正しく聴取できる。また正常音と副雑音の違いについて理解することができる。
11	循環器系（心臓・血管）のアセスメント（1） ①心臓の解剖生理学 ②循環器の観察	心臓の機能と構造を説明できる。また胸部の外観・頸静脈や動脈の拍動の有無、性状についてアセスメントの視点を説明することができる。
12	循環器系（心臓・血管）のアセスメント（2） ①頸静脈・動脈の拍動・視診・聴診	心音の聴診部位を理解し、4つの弁の心音の違いについて説明することができる。心音の聴取の重要性について理解することができる。
13	循環器系（心臓・血管）のアセスメント（3） 〔演習〕	心音の聴診部位を理解し、4つの弁の心音を正しく聴取できる。
14	循環器系（心臓・血管）のアセスメント（4） 〔演習〕	心音の正常音と心雜音を聴取し、その違いについて理解することができる。
15	腹部・消化器系のアセスメント（1） ①腹部の視診・触診・打診・聴診	腹部臓器の解剖学的構造が説明できる。また腹部全体の視診・触診・打診・聴診について説明することができる。
16	腹部・消化器系のアセスメント（2） ①腹部の観察 ②肝臓・脾臓・腎臓の触診 ③腸の蠕動音の聴診	腹部の外観の異常、腹部の圧痛の有無について説明できる。肝臓および脾臓、腎臓の触診の方法について理解し、実施することができる。また腸の蠕動音の聴診ができ、アセスメントの視点を説明することができる。
17	腹部・消化器系のアセスメント（3） 〔演習〕	腹部全体の視診・打診について実施できる。 腹部の外見の観察や圧痛、随伴症状について観察ができる。
18	腹部・消化器系のアセスメント（4） 〔演習〕	腹部全体の触診・聴診について実施できる。特に肝臓および脾臓、腎臓の触診の技術を経験することができる。また腸蠕動音の聴取ができ、正常音と異常音の違いが理解できる。
19	筋・骨格系のアセスメント（1） ①筋・骨格の解剖生理学 ②徒手筋力テスト ③関節可動域測定	筋・骨格の解剖学的構造が説明できる。また徒手筋力テスト、関節可動域測定の方法について理解することができるとともに、アセスメントの視点を説明することができる。
20	筋・骨格系のアセスメント（2） ①徒手筋力テスト ②関節可動域測定	筋力、関節可動域に関するスクリーニングについて学び、評価の意義について説明することができる
21	筋・骨格系のアセスメント（3） 〔演習〕	徒手筋力テスト、関節可動域測定を実施することができる。
22	筋・骨格系のアセスメント（4） 〔演習〕	日常生活動作に関する筋力、関節可動域について測定することができ、筋力や関節可動域の障害による日常生活操作の影響について理解することができる。
23	頸部のアセスメント ①甲状腺、気管の解剖生理学 ②頸部の視診・触診	頸部の可動域、甲状腺、気管などの解剖学的構造が説明できる。また視診・触診を用いて甲状腺の圧痛、腫大、リンパ節の腫脹の有無について観察でき、アセスメントの根拠を説明することができる。
24	乳房のアセスメント	乳房の解剖学的構造が説明できる。また視診、触診を用いて圧痛、しこり、腫大、変形の有無について観察でき、アセスメントの根拠を説明することができる。
25	神経系のアセスメント（1） ①反射の種類 ②膝蓋腱反射 ③アキレス腱反射 ④バ宾スキー反射	神経系統の解剖学的構造が説明できる。また深部反射・表在反射、病的反射について理解することができる。膝蓋腱反射・アキレス腱反射・バ宾スキー反射について実施することができる。また反射の異常についてアセスメントの視点を説明することができる。

26	神経系のアセスメント（2） ①意識レベル ②瞳孔反射 ③バレー徵候	意識レベルや瞳孔反射、バレー徵候について説明できる。また意識レベルや瞳孔反射、バレー徵候の観察ができ、アセスメントの根拠を説明することができる。
27	事例に基づいてアセスメント（1） [グループワーク]	事例を用いて、入院時から問診、視診・触診・打診・聴診の技術を用いて、健康レベルを客観的に把握し、患者の問題を抽出し、看護の介入について考えることができる。
28	事例に基づいてアセスメント（2） [グループワーク]	事例を用いて、入院時から問診、視診・触診・打診・聴診の技術を用いて、健康レベルを客観的に把握し、患者の問題を抽出し、看護の介入について考えることができる。
29	[技術試験]	ヘルスアセスメントのまとめとして技術の確認を行う。
30	[技術試験]	ヘルスアセスメントのまとめとして技術の確認を行う。
留意事項（履修条件等）		
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
授業時間外の学修（事前・事後学習）		
科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。		
事前学習：ヘルスアセスメントは、解剖生理学を正しく理解し、人間の身体機能と関連させ、系統的な観察に基づいて実施することが重要です。そのため各単元で行われる内容を把握し、単元に関連する人体の構造、機能を図説および説明できるように復習しておくこと。また教科書のフィジカルアセスメントに関する動画を見てイメージトレーニングをしておくこと。		
事後学習：演習後は復習を兼ねてフィジカルアセスメントの技術の修得に向けて繰り返し練習をすること。		
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）		
坂口：水曜日の5限、木曜日の5限（研究室717） 上西：月曜日の5限、火曜日の5限（研究室718）		
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）		
教科書：「ヘルスアセスメント 基礎看護学② 第5版」松尾ミヨ子、志白岐康子、城主弘美：メディカ出版 ISBN 978-4-8404-4529-0		
参考書：「フィジカルアセスメント完全ガイド 第3版」藤崎都、学研メディカル秀潤社、2017年、 ISBN 978-4780913019		
解剖生理学IA・IBで使用したテキスト：「ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能（1）第4版」林正健二、メディカ出版、ISBN：978-4-8404-5374-5		
最終到達目標		
1. ヘルスアセスメントの目的・看護におけるフィジカルアセスメントの意義が説明できる。 2. フィジカルアセスメントの基本的な技術について説明できる。 3. フィジカルアセスメントの基本的な技術を用いてアセスメントし、看護介入の必要性を説明できる。		
評価方法及び評価基準		
学科試験：50% 技術試験：30% レポート：10% 授業態度：10%など配点得点を合計100点満点として総合評価する。 成績評価基準（学則34条） S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass） D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）		
学生へのメッセージ		
演習時には更衣が必要です。演習の準備については事前に掲示をすることもありますので、注意してください。		

授業コード	ENQ0401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性		
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と倫理観		
授業科目名	ヘルスアセスメントⅡ		選択・必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	4年/後期		単位数		判断力	○	
担当教員	坂口京子, 大坪かなえ, 上西孝明, 山本千恵美				探求心	○	
講義目的							
1. さまざまな健康レベルにある人々の健康を客観的に把握することができる。							
2. 看護職を目指す者として、既習のヘルスアセスメントの援助技術を強化し、成人看護学、小児看護学、母性看護学、高齢者看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生学における重要なスキルを修得することができる。							
3. ヘルスアセスメントの知識・援助技術を臨床・施設の場で活用できるような実践能力を身につけることができる。							
授業内容							
各専門領域における対象の理解を行うとともに、その特徴や看護の役割を根底とし、重要な症状や状況におけるヘルスアセスメントスキルについて理解できるように学修する。また専門領域実習において経験した看護技術の内容を確認するとともに、未経験項目や不十分な経験項目を補い、技術到達レベルを強化する。							
具体的には、意識障害、腹膜炎、呼吸と循環の初期の観察ができるようにする。加齢の変化に伴うフィジカルアセスメントの特徴や小児、周産期、新生児のフィジカルアセスメントの特徴について、また精神障がいの症状に対するフィジカルアセスメントの特徴や在宅看護におけるフィジカルアセスメントの特徴について説明できるように学修する。これらの各専門領域の特徴に対し、ヘルスアセスメントスキルを用いて看護介入について探求する。							
授業計画及び学習課題							
回	標題	学習課題					
1	大学における看護実践能力の育成の充実に向けて、技術到達度の確認 各専門領域の特徴を活かしたヘルスアセスメントの視点 ①卒業時看護技術到達レベル ②各看護学領域の対象者の特徴と看護の特徴	文部科学省の卒業時における看護技術の到達度について内容と必要性が理解できる。 臨地実習開始から終了までの技術習得レベルの確認を行い、自己評価するとともに課題を見つけることができる。 各専門領域の対象者の特徴を説明でき、看護の重要なポイントを理解することができる。					
2	各専門領域の共通する症状に関するフィジカルアセスメント (1) ①意識障害の初期観察の技術 ②呼吸、循環の初期観察 (高齢者・成人・小児)	各専門領域の共通する症状について説明でき、意識障害及び呼吸困難の程度がアセスメントでき、看護介入について説明することができる。					
3	各専門領域の共通する症状に関するフィジカルアセスメント (2) ①腹膜炎の初期観察の技術 (高齢者・成人)	各専門領域の特徴を踏まえ、腹部の視診・触診・打診・聴診について説明でき、実施することができる。 腹部症状の観察が行え、アセスメントの根拠を説明できる。					
4	発達年齢に応じた一般状態のアセスメント 高齢者・成人・小児のバイタルサイン測定	各発達年齢のバイタルサインの特徴について説明でき、バイタルサインの測定を正確に実施することができる。またアセスメントの根拠及び看護介入について説明することができる。					
5	成人看護学における重要な技術とアセスメント (1) ①消化器のアセスメント ②腹水、疼痛、腫瘍の腫大	成人の主な死亡要因や疾患の特徴について説明できる。 消化系の疾患 (癌) に関連した、問診・視診・触診・打診・聴診について理解でき、実施することができる。					
6	成人看護学における重要な技術とアセスメント (2) ①消化器のアセスメント ②腹水、疼痛、腫瘍の腫大	消化系の疾患 (癌) に関連した、問診・視診・触診・打診・聴診について理解し実施できる。また消化器系疾患のアセスメントの根拠が説明でき、看護介入について考えることができる。					
7	高齢者看護学における重要な技術とアセスメント (1) ①筋・関節系アセスメント ②転倒に対するアセスメント	高齢者の筋・関節の特徴を踏まえ、老年性症候群について観察でき、アセスメントの根拠を説明することができる。また看護介入について考えることができる。					

8	高齢者看護学における重要な技術とアセスメント (2) ①認知症におけるアセスメント	認知症の原因、メカニズムについて説明できる。認知症に対する検査について理解し、アセスメントの根拠を説明することができる。また看護介入について考えることができる。
9	小児看護学における重要な技術とアセスメント ①小児の問診・視診・触診・打診・聴診	保護者を含めた小児看護の特徴を理解できる。小児の特徴的な症状について、視診・触診・打診・聴診の技術を用いてアセスメントする重要性について学ぶことができる。また初期症状の看護介入について考えることができる。
10	母性看護学における重要な技術とアセスメント ①周産期のアセスメント	周産期の特徴について理解し、解剖生理学的变化について説明できる。周産期領域に必要な診断、検査に対してアセスメントの根拠が説明でき、看護介入について説明することができる。
11	精神看護学における重要な技術とアセスメント ①精神疾患の特徴 ②問診・検査・視診	精神疾患患者の特徴を理解でき、精神疾患に特有な症状について説明できる。複雑な精神症状に対し診断されるまでに至る問診、検査、視診について理解し、アセスメントの根拠が説明でき、精神疾患患者の看護介入について考えることができる。
12	在宅看護学における重要な技術とアセスメント ①症状と生活	さまざまな発達段階、健康レベルの人々が在宅で医療・看護の継続ができるか否か評価する重要性について理解できる。主訴、バイタルサイン、食事、呼吸、循環、排泄などその人の生活に影響する状況について、アセスメントの根拠が説明できる。また在宅における看護介入について説明できる。
13	4年間の看護技術のスキルアップ (1) [技術試験を含む]	自己の看護技術経験録に従って、不足箇所を確認するとともに、各看護学の領域の特徴を活かしながら、技術に必要なアセスメントができる。また技術到達のレベルに応じて、技術の修得をすることができる。
14	4年間の看護技術のスキルアップ (2) [技術試験を含む]	各看護学領域において重要な技術に対し、ヘルスアセスメントを活用した援助技術を実施することができる。
15	まとめ 事例を用いて、受診時の問診から視診・打診・聴診を通して患者の持つ問題をアセスメントする [グループワーク]	コミュニケーション技術・ヘルスアセスメント技術など、今まで修得した知識・技術を活用し、事例に対して適切なアセスメントができ、看護介入することができる。

留意事項（履修条件等）

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。対象者がその人らしい生活が送れるように支援するために、ヘルスアセスメントⅡは、卒業前の総仕上げという意味を持ちます。自己の課題に向けて積極的に取り組むこと。

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習課題に示されている内容の学修）が必要です。

事前学習：ヘルスアセスメントⅠおよび各専門領域で既習した知識を活用し、4 年間の臨地実習において経験した技術などを振り返り、自己の看護技術をスキルアップすること。また未経験技術や到達度が低い技術については、到達レベルに達成するようにテキストをまとめることや、演習などをおこなうこと。

事後学習：あらゆる発達段階や健康レベルに応じてフィジカルアセスメントができるように復習し、看護に活かすことができるようとする。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

坂口：水曜日の 5 限、木曜日の 5 限（研究室 717）

上西：月曜日の 5 限、火曜日の 5 限（研究室 718）

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

教科書：

『ヘルスアセスメント 基礎看護学② 第5版』. 松尾ミヨ子, 志白岐康子, 城主弘美：メディカ出版
ISBN : 978-4-8404-4529-0

参考書：

『フィジカルアセスメント完全ガイド 第22版』. 藤崎都, Gakken, ISBN : 05-152110-9
解剖生理学 IA・IBで使用したテキスト
「ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 (1) 第4版」林正健二, メディカ出版, ISBN : 978-4-8404-5374-5

最終到達目標

- 卒業目前にして各専門領域を横断し、看護としてのヘルスアセスメントの意義、目的、方法が説明でき、アセスメント能力を高めることができる。
- さまざまな発達段階、さまざまな健康レベルの人々に対し、基本的なヘルスアセスメントができ、看護介入につなぐことができる。

評価方法及び評価基準

学科試験：50% 技術試験：30% レポート：10% 授業態度：10%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する

成績評価基準（学則第34条）

S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)
D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

演習時には更衣が必要です。演習の準備については事前に掲示をすることもありますので、注意してください。

授業コード	ENQ0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	看護教育論	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	河野保子				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
講義目的												
<p>教育とは何か、ということについて考え、看護教育制度下における「看護基礎教育」について理解することを目的とする。また看護教育活動における基礎的な教育方法や看護基礎教育の現状と課題について考察でき、看護職の学びを生涯学習と捉え、専門職のキャリア開発の必要性について検討する。</p>												
授業内容												
<p>学生自らのこれまでの経験をもとに、「知る」ということ、「理解する」ということ、「できる」ということについて考え、看護基礎教育課程に関する理論教育と実践教育との関係・統合性について学修する。また看護教育の歴史的変遷や看護教育制度について理解し、これからのかの看護及び看護教育の方向性について分析でき、看護教育の向上が看護の質保障に関連することについて学修する。</p>												
授業計画及び学習課題												
回	標題	学習課題										
1	看護教育再考	自身の受けたこれまでの講義・実習を通して、看護基礎教育のあり方についてグループディスカッションを行う。										
2	看護教育の歴史的変遷、看護教育制度	看護職者の教育の成り立ちを体系的に把握し、看護師養成教育と学校教育制度、看護教育制度の多様化について理解できる。										
3	看護学教育課程（1）	看護学の理論教育と実践教育との関連性と重要性が理解できる。										
4	看護学教育課程（2）	看護学のカリキュラムと教育内容について理解できる。										
5	看護学教育課程（3）	看護学実習の持つ意味、看護実習の特質について理解できる。										
6	看護学教育方法	授業設計、教授－学習過程、授業評価について理解できる。										
7	看護継続教育	看護継続教育の意義、看護継続教育機関とその内容について把握できる。										
8	専門職と看護専門職	専門職の定義について理解し、看護の専門職性について論じることができる。										
留意事項（履修条件等）												
<p>本科目は4年次の最終学年に開講されるため、「看護教育」そのものへの関心が深いと考えます。各自の被教育者としての体験を大切にし、看護教育の有るべき像と一緒に考えたいと思っています。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>												
授業時間外の学修（事前・事後学習）												
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（事前・事後の学習に示されている内容の学修）が必要です。</p> <p>事前学習：看護師養成教育と学校教育制度についてしっかり認識するために、事前学習として課題を与えます。また看護学の学問体系がどのようにあればよいかを、学生目線で調べレポートを提出してください。</p> <p>事後学習：専門職の定義を判断基準にして、看護師は専門職でありうるかをレポートとしてまとめ、提出してください。</p>												

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
火曜日、木曜日の5限目（16:30～18:00）：701 河野研究室
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）
教科書：特になし。
参考書： 教材は講義時にプリント等を配布します。参考文献は講義中に紹介いたします。
最終到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・看護学教育の発展過程を把握し、今後の看護教育の方向性を考察できる。 ・看護学教育の教授—学習過程が具体的に理解できる。 ・看護教育が果たす社会的責任及び社会的貢献について把握できる。
評価方法及び評価基準
期末テスト 60%、課題レポート 10%、講義参加状況 30%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている（Failure） D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Withdrawal）</p>
学生へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育の歴史的発展過程をたどり、今後、看護がどのような役割を発揮すればよいのか、また看護学の発展のために後継者はどのような努力をすればよいのか、一緒に考えていきたいと思います。 ・毎回の講義において Reaction Paper（リアクションペーパー）を書いていただき、学習の内容・理解度・感想を把握し、次回の講義に役立てます。

授業コード	ENQ0601			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性																																												
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野と 倫理観																																												
授業科目名	災害看護学	選択・必修	必修		知識・技術 <input checked="" type="radio"/>																																												
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>																																												
担当教員	松井豊、中島紀子				探求心 <input checked="" type="radio"/>																																												
講義目的	<p>「災害直後から支援できる看護の基礎的能力を養う」ことをねらいに、2009年度から看護基礎教育に災害看護が導入された。この授業では、災害が社会や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、さらに災害サイクルにおける被災者の健康や生活ニーズに応じた看護職の果たすべき役割について学び理解することを目的とする。</p>																																																
授業内容	<p>自然災害の種類あるいは防災意識について理解を深め、防災意識の向上及びその対策について考える。また災害が社会や地域の人々の暮らしを密接に関係しながら人々の生活に影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康や生活ニーズに応じた看護職の果たすべき役割について学ぶ。また災害時におけるトリアージ、こころのケアについては学内模擬演習により理解する。さらに東日本大震災における被災者心理、被災者のストレス、悲しみ等について理解する。また、災害時の支援者としてのありよう及び被災から立ち直りまでのプロセス理論について理解する。</p>																																																
授業計画及び学習課題	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>標題</th><th colspan="3">学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>災害看護学の導入：災害及び災害看護に関する基礎的知識 (中島)</td><td colspan="3">災害、災害看護の定義、歴史について理解する。災害サイクルと看護活動について説明できる。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>災害時の被災者の行動 (松井)</td><td colspan="3">広域災害における被災者の心理や行動を説明できる。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>惨事ストレス (松井)</td><td colspan="3">広域災害における災害救援者のストレスについて説明できる。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>被災ストレス・惨事ストレスのケア (松井)</td><td colspan="3">被災によるストレスや惨事ストレスのケアや対策について実習を交え説明できる。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>災害時の社会の制度と看護の役割 (中島)</td><td colspan="3">災害に関する制度や社会の対応仕組みについて理解し、各期の看護活動について説明できる。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>災害時に必要な技術、課題別演習 (中島)</td><td colspan="3">トリアージの概念、方法について理解し説明できる。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>課題別演習（大学の備えや環境、個人の備え、避難所になった時のレイアウト、心のケアと生活援助の工夫、新聞記事に見る災害のとらえ方）(中島)</td><td colspan="3">小グループでの討議により、課題について調べまとめることができる。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>演習成果の発表、まとめ (中島)</td><td colspan="3" rowspan="2">グループワークの発表により、講義内容の振り返りができる、系統的・総合的に考察することができる。</td></tr> </tbody> </table>				回	標題	学習課題			1	災害看護学の導入：災害及び災害看護に関する基礎的知識 (中島)	災害、災害看護の定義、歴史について理解する。災害サイクルと看護活動について説明できる。			2	災害時の被災者の行動 (松井)	広域災害における被災者の心理や行動を説明できる。			3	惨事ストレス (松井)	広域災害における災害救援者のストレスについて説明できる。			4	被災ストレス・惨事ストレスのケア (松井)	被災によるストレスや惨事ストレスのケアや対策について実習を交え説明できる。			5	災害時の社会の制度と看護の役割 (中島)	災害に関する制度や社会の対応仕組みについて理解し、各期の看護活動について説明できる。			6	災害時に必要な技術、課題別演習 (中島)	トリアージの概念、方法について理解し説明できる。			7	課題別演習（大学の備えや環境、個人の備え、避難所になった時のレイアウト、心のケアと生活援助の工夫、新聞記事に見る災害のとらえ方）(中島)	小グループでの討議により、課題について調べまとめることができる。			8	演習成果の発表、まとめ (中島)	グループワークの発表により、講義内容の振り返りができる、系統的・総合的に考察することができる。		
回	標題	学習課題																																															
1	災害看護学の導入：災害及び災害看護に関する基礎的知識 (中島)	災害、災害看護の定義、歴史について理解する。災害サイクルと看護活動について説明できる。																																															
2	災害時の被災者の行動 (松井)	広域災害における被災者の心理や行動を説明できる。																																															
3	惨事ストレス (松井)	広域災害における災害救援者のストレスについて説明できる。																																															
4	被災ストレス・惨事ストレスのケア (松井)	被災によるストレスや惨事ストレスのケアや対策について実習を交え説明できる。																																															
5	災害時の社会の制度と看護の役割 (中島)	災害に関する制度や社会の対応仕組みについて理解し、各期の看護活動について説明できる。																																															
6	災害時に必要な技術、課題別演習 (中島)	トリアージの概念、方法について理解し説明できる。																																															
7	課題別演習（大学の備えや環境、個人の備え、避難所になった時のレイアウト、心のケアと生活援助の工夫、新聞記事に見る災害のとらえ方）(中島)	小グループでの討議により、課題について調べまとめることができる。																																															
8	演習成果の発表、まとめ (中島)	グループワークの発表により、講義内容の振り返りができる、系統的・総合的に考察することができる。																																															
留意事項（履修条件等）	<p>来るべき巨大地震に備え、被災地・被災者及び災害時に活動した看護者から学ぶ真摯な姿勢を持って講義に臨むこと。講義開始前に各自の被災体験の確認を含めたアンケートを実施します。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>																																																

授業時間外の学修（事前・事後学習）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。

事前学習：講義までにシラバスを読み、毎回の講義内容を確認してください。

事後学習：講義内で提示された課題についてはしっかりと学習をして、期限内に必ず提出するようにしてください。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

時間：火曜日 5 限、木曜 5 限

場所：中島…716 研究室

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）

講義内でレジュメ配布、DVD 使用

参考書：『災害看護一看護の専門知識を統合して実践につなげる（看護学テキスト NiCE）』、

酒井明子編、南江堂、2008 年、ISBN：978-4524266883

最終到達目標

災害時における看護職者として在り方を考え、災害に対する知識及び支援全般の理解を深め習得することができる。

評価方法及び評価基準

筆記試験（80%）、グループワーク（10%）、課題の提出（10%）など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）

C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている（Failure）

D(59 点以下)：C のレベルに達していない（Withdrawal）

学生へのメッセージ

災害の実際を学び、グループワークにおいて支援の在り方を実践的に学習しますので、積極的な姿勢で講義にのぞんでください。

授業コード	ENQ0701	ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	○			
科目区分	専門科目一統合看護		広い視野と 倫理観				
授業科目名	緩和ケア・ターミナル看護論		知識・技術	○			
配当学年/学期	4年/後期		判断力				
担当教員	宮脇聰子		探求心	○			
講義目的	<p>がん等、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族の状況への理解を深め、患者・家族が抱える身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛（トータルペイン）の緩和につながる看護の基本的知識や技術を学び、看護者としての態度を見つめる。また、人生の最終段階にある患者の特徴と患者・家族のケアに必要な看護の基本的知識や技術を学ぶ。</p>						
授業内容	<p>生命を脅かす疾患の特徴と疾患とともに生きる患者の特徴と、それを支える家族を理解するために必要なアセスメントや介入等、基本的な知識、技術を学ぶ。緩和ケアやターミナルケアにかかわる看護師としての自分の死生観を見つめ、看護者としての態度や役割について学修する。</p>						
授業計画及び学習課題							
回	標 題	学習課題					
1	緩和ケアの歴史と現状	緩和ケアを必要とする疾患を理解する 緩和ケアの歴史 とわが国での緩和ケアの現状と看護師への緩和ケア教育を理解する					
2	緩和ケアにおける倫理的課題 緩和ケアにおける看護師の役割	緩和ケアにおける倫理的問題を考えることができる 緩和ケア・ターミナルケアにおける看護師の役割を考えることができる					
3	症状マネジメント (1) トータルペインの理解 身体的苦痛緩和のための知識と技術	トータルペインについて理解することができ、主要な身体症状を知ることができる 身体症状の緩和の基礎を理解することができる					
4	症状マネジメント (2) 精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛緩和のための知識と技術	主要な精神症状を知ることができます 精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛の緩和を検討することができる					
5	患者と家族を理解するためのコミュニケーション	患者と医療者のコミュニケーションの特徴を理解し、自分のコミュニケーションの特徴を考えることができます					
6	家族ケア	緩和ケアを受ける患者の家族を理解し、家族を支援するための知識と技術を理解できる グリーフケアについて理解できる					
7	看護師の態度と役割	自身の死生観を考えることができます					
8	チームアプローチ	医療者間のコミュニケーションの特徴を理解し、チームアプローチについて検討することができます					
留意事項（履修条件等）							
<p>生命を脅かす疾患を持つ患者と家族について学びながら必要な知識や技術を学ぶとともに、自分たちの役割について理解を深める科目です。</p> <p>確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>							
授業時間外の学修（事前・事後学習）							
<p>科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習課題に示されている内容の学修)が必要です。</p> <p>事前学習：各授業の学習課題について、教科書等を参考に事前に自己学習を行ってください。</p>							

事後学習：授業時に事後課題を出した場合には取り組んでください。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
授業時間の前後
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書： 「系統看護学講座 別巻7 緩和ケア」、恒藤暁、医学書院、2018年、ISBN：978-4-260-01818-0
最終到達目標
<ul style="list-style-type: none">・生命を脅かす疾患の特徴と疾患とともに生きる患者・家族の特徴を説明できる。・緩和ケアに必要な知識と技術を理解できる。・緩和ケアやターミナルケアにかかわる看護師の態度と役割について考えることができる。
評価方法及び評価基準
筆記試験（70%） 授業への参加及び態度（30%）など配点得点を合計100点満点として総合評価する。
成績評価基準（学則第34条） S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass） D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）
学生へのメッセージ
課題を提示した場合には、自己学習をしておくこと。

授業コード	ENQ0801			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○						
科目区分	専門科目—統合看護				広い視野と倫理観	○						
授業科目名	ストレスマネジメント論	選択・必修	選択		知識・技術							
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○						
担当教員	小西美智子				探求心							
講義目的	<p>看護サービスを実践する場合、保健医療福祉機関等の組織の一員として、看護サービス利用者と信頼関係を構築しながら、良い看護を提供する役割があります。このような役割を果たすために、看護技術・知識の習得に加えて、業務に伴うストレスをマネジメントするセルフマネジメント能力を培うことが必要です。ストレスが過剰にならないように、またストレスへの対処方法について学修します。</p>											
授業内容	<p>軽度のストレスは人間関係や組織の見直しや、看護業務や看護ケア等の改善・工夫のきっかけになるので必要と言われています。しかしストレスが個人の許容範囲を超えて強力・過剰になると、心身に変調を起こし看護業務の遂行や日常生活が困難になります。看護活動には看護サービス提供者として、他者の生命倫理に関わりながらチームスタッフとして看護ケアを遂行する等、多くのストレス発生要因が伴います。その発生要因をマネジメントするためには、看護業務の特徴を理解して、組織人としてアサーティブコミュニケーション力を育成し、人間関係を構築し、自己の生活を管理する能力を培い、さらに社会のサポート資源の活用やストレスコーピング法を学修できるように、講義及び演習（グループ討議）を通して教授します。</p>											
授業計画及び学習課題												
回	標 題	学習課題										
1	職業生活、家族生活、社会生活に伴うストレスの発生要因について	ストレスと生活との関連が理解できる										
2	看護業務に伴うストレス（1） 組織の一員として、ライン構成とスタッフの役割	組織構成員としてのストレス発生要因が理解できる										
3	看護業務に伴うストレス（2） 看護サービス利用者との信頼関係の構築と生命倫理への関わり（グループワークを含む）	他者と信頼関係を構築する時に必要な認知再構成の必要性が理解できる										
4	看護業務に伴うストレス（3） チーム看護・チーム医療とコミュニケーション（グループワークを含む）	看護業務の遂行に伴って発生するストレスが理解できる										
5	ストレスコーピングを目指した生活習慣や生活様式とは	各自の生活とストレスコーピングの関係が理解できる										
6	各自のストレス耐性力を超えた状況になった時の社会的サポート資源及びシステムの活用（グループワークを含む）	職業生活に伴うストレスとその対処方法が理解できる										
7	生活環境の変化に伴うストレス—新卒看護師とストレス発生要因とその対処方法について（グループワークを含む）	新卒看護職として職業生活開始時に予測されるストレス状況について理解できる										
8	各自のストレスマネジメント能力育成方法について	看護職としてストレスマネジメントの必要性について理解できる										
留意事項（履修条件等）												
<p>看護学実習や学生生活においてストレスになった状況とその時の対処した方法について、振り返っておくこと。 授業開始10分間に事前学習課題及び事後課題の報告を受けます。また確認レポートのフィードバックも講義時間内に行います。</p>												

授業時間外の学修（事前・事後学習）
科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修が必要です。 事前学習：それぞれ授業の終了時に次回の授業における課題を提示しますので、それを基に学習すること。 事後学習：授業時に配布する資料を基に理解できていないことを学習すること
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：なし 参考書：「精神対話論」財団法人メンタルケア協会編 慶應義塾大学出版会 2013 年、 ISBN：978-4-7664-2028-9)
最終到達目標
・看護業務とストレスの関係、ストレス軽減方法、ストレス対処方法について説明できる。 ・新卒看護職として職業生活の遂行に向けて対応力を培う準備ができる。
評価方法及び評価基準
グループワークにおける意見交換への参加度：20 点（4 回）、単元ごとのまとめ：40 点（8 回、出席点を含む） 最終まとめレポート：40 点など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
学生生活及び看護実習を通して、強いストレスを感じた事象とその対処方法について振り返っておいて下さい。

授業コード	ENQ0901			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野と倫理観	○					
授業科目名	研究方法論	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○					
担当教員	奥田泰子, 三並めぐる, 井上仁美, 田中正子, 棚崎由紀子, 羽藤典子, 中島紀子				探求心	○					
講義目的											
看護研究の目的や意義、看護研究の方法と論文のまとめ方など看護研究を進める上で必要な基礎的な知識や方法、態度を修得することを目的とする。											
授業内容											
日常おこる現象や、看護実践の場における観察から研究課題を発見する感性を涵養し、課題解決のための根拠を提示するための科学的なアプローチのしかたや分析方法を考え、研究を実践するための研究計画書の作成方法を学ぶ。また文献を活用して自らの研究課題を深めることができる。(オムニバス方式／全15回)											
授業計画及び学習課題											
回	標 題	学習課題									
1	看護研究とは（看護研究の目的と意義、量的研究と質的研究、実験研究と調査研究、文献研究、事例研究）（三並）	研究の目的と意義について理解できる。 研究デザインについて理解できる。									
2	看護研究の進め方（研究の動機と目的、テーマ、研究の概念枠組み、研究協力者、信頼性と妥当性）（三並）	研究の動機と目的について理解できる。 研究テーマについて理解できる。 研究の概念枠組みと研究対象について理解できる。 研究の信頼性と妥当性について理解できる。									
3	研究における倫理（奥田）	看護研究を行う上で必要な倫理的視点について、具体的に理解できる。									
4	文献検討（1）（羽藤）	看護研究における文献検討の意義を学ぶとともに、文献レビューに関する基礎的知識を理解することができる。									
5	文献検討（2）（羽藤）	データベースを使用した文献検索を行い、文献の質を正しく判断するための内容検討および文献整理の方法について理解することができる。									
6	量的研究（1） 質問紙を用いた調査研究（1） (田中、中島)	調査研究のステップを理解するとともに、その特徴を理解することができる。									
7	量的研究（2） 質問紙を用いた調査研究（2） (田中、中島)	調査研究におけるデータ収集法とその分析方法について理解できる。									
8	量的研究（3） 介入研究① (田中、中島)	介入研究のステップを理解するとともに、その特徴を理解することができる。									
9	量的研究（4） 介入研究② (田中、中島)	介入研究におけるデータ収集法とその分析方法について理解できる。									
10	実験研究方法論、対象者の選定 (棚崎)	実験研究の概要と対象者の選定について理解できる。									
11	実験研究における測定機器、倫理的問題 (棚崎)	実験研究の測定機器及び倫理的問題について理解できる。									
12	実験研究の文献検索、抄読演習 (棚崎)	実験研究に関する文献を通して、研究の具体的な進め方を理解できる。									

13	質的研究 (1) ① 質的研究の意義 ② 質的研究方法の種類 ③ 質的研究の特徴	(井上)	質的データを用いた研究のステップを理解するとともに、質的研究の意義、哲学的背景および研究デザインの種類、特徴について理解することができる。
14	質的研究 (2) ① データ収集 ② 分析方法	(井上)	質的研究におけるデータ収集法とその分析方法について理解できる。
15	質的研究 (3) ① 質的研究のクリティーク	(井上)	実際に質的データを用いた研究論文を読み、質的研究の論文の読み方およびクリティークの具体的方法について理解できる。
留意事項 (履修条件等)			
4年次の卒業研究を履修するための必修科目です。看護研究の必要性や、研究の目的や方法等を理解し、看護研究を行うまでのプロセスを学習します。学生個々の興味関心のある研究テーマをもとに学修を進めますので、看護に関する情報に敏感になりましょう。			
授業時間外の学修 (事前・事後学習)			
科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(事前・事後の学習に示されている内容の学修)が必要です。			
事前学習：各単元に関係する内容を、参考書等を活用して調べて授業に参加してください。授業のための課題が出された場合は、授業までに実施して、授業に持参してください。			
事後学習：次回授業までの課題が出ます。授業終了後早いうちに課題を実施しましょう。			
オフィスアワー (常勤教員のみ記入)			
本科目は、オムニバス授業です。各教員のオフィスアワーの時間と場所に従ってください。			
教材 (「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)			
教科書： 授業の中で紹介します。			
参考書： 授業の中で紹介します。			
最終到達目標			
1. 卒業研究に必要な看護研究の目的、意義、研究方法、分析、倫理的配慮について説明できる。 2. 卒業研究に取り組むための準備状態が整う。			
評価方法及び評価基準			
授業への参加状況 30%、提出課題 70%など配点得点を合計 100 点満点として総合評価する。			
成績評価基準 (学則第 34 条) S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)			
学生へのメッセージ			
看護研究は、学生個々の看護実践に関する疑問から始まります。自分自身の関心がある内容について科学的に解決していく方法ですので、日ごろから人々の健康・看護に関する疑問や関心を持ちましょう。2年次の基礎看護学実習Ⅱでの実習で経験したことを大事にしてください。そこに看護研究の第一ステップがあります。			

授業コード	ENQ1001			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性								
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>							
授業科目名	看護研究	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>							
配当学年/学期	4年/通年	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>							
担当教員	専任教員全員				探求心	<input checked="" type="radio"/>							
講義目的													
これまでに修得した各領域における授業や演習、実習を通して、学生個々が関心のある研究テーマを探求し、研究論文を作成することを目的とする。また、看護現象を科学的にとらえ、将来の看護実践の向上につながる研究的思考や倫理観について学修する。													
授業内容													
これまでに修得した様々な看護学実習と看護専門科目ならびに関連領域科目を統合させて志向できる能力を身につける。具体的には看護研究の意義・目的を明確にし、研究テーマの決定方法、文献検索の意義と方法、研究計画書の作成方法などの基礎的知識を学び、学生が個人あるいはグループで研究の過程を実際に体験し、論文の作成を行う。また、このプロセスをたどることによって、将来の看護研究活動への基礎作りをする。													
【看護研究の進め方】													
担当教員と相談しながら研究を実施する。 看護研究方法論で学習した内容を基盤に、小人数のゼミナール形式で文献の抄読、研究テーマに関するディスカッションを行い、研究テーマの明確化、研究計画書を作成する。また、担当教員の指導下に、研究計画書に基づき、データ収集、分析、研究論文作成のプロセスを踏み、看護研究論文を作成する。 個人研究を原則とし、各グループで発表とする。													
授業計画及び学習課題													
回													
1 ～ 3 0	※看護研究実施要項に従う												
留意事項（履修条件等）													
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。													
授業時間外の学修（事前・事後学習）													
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。													
事前学習： 担当教員に指定された事前学習を行って授業に参加する。													
事後学習： 自己の研究課題に対する研究指導を毎回振り返る。													
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）													
各担当教員のオフィスアワーに準じる													

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）					
教科書、参考書： 担当教員より、適宜紹介する。					
最終到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 興味・関心を抱いた看護上の問題や看護現象などから、主体的に研究テーマを明確にできる。 研究の意義を理解し、研究課題を探求するための研究計画書を作成することができる。 研究計画に基づき、研究的な手法を用いてデータ収集・分析し、結果を考察して論理的に記述することができる。 規定の執筆要領に従い、研究論文を作成できる。 <p>これらをとおして研究的思考ならびに態度を養う。</p>					
評価方法及び評価基準					
研究への取り組み姿勢 30%、グループディスカッションへの参加度 20%、提出した研究論文 50%を総合して評価する。					
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <table> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
これまでの授業や演習、実習を通して興味・関心を抱いた看護上の問題などについて明確にして授業に参加してください。主体的に課題解決の努力をしましょう。卒業後の臨床では必ず研究能力を求められます。この授業を受けるまでに、「研究方法論」の講義時に使用した資料を復習することをお勧めします。					

授業コード	ENR0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	<input type="radio"/>	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	基礎看護学実習 I	選択・必修	必修		知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	中島紀子, 坂口京子				探求心	<input type="radio"/>	
実習目的							
<p>基礎看護学実習 I は、保健・医療の患者との関わりの実際を見学し、保健・医療の分野における看護職者の役割と機能を学び、今後の学修への動機づけとすることをねらいとしている。また、看護専門職者に求められる基本的な態度を修得する。この実習での学びは、今後積み重ねていく看護学の基盤としての側面ももつ。</p> <p>具体的な目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 保健・医療の分野における看護職者の役割と看護の機能が理解できる。 患者を取り巻く療養環境を観察し、患者にとって適切な生活環境を理解できる。 看護職者に求められる基本的な態度について述べることができる。 							
実習内容							
<ol style="list-style-type: none"> 実習施設は病院を使用する。実習場所は病院の成人系の病棟とする。 学生を 16 グループ (80 名を 1 グループ 5 名) にわける。 学生 1 人あたりの実習期間は、病院で 4 日、学内を 1 日とする。 実習方法は以下の通りとする。 <ol style="list-style-type: none"> 実習オリエンテーションを実習期間前に実施する。実習目的・目標、実習方法を実習要項にそって説明する。担当教員により、各実習施設のオリエンテーションを実施する。 事前学習として以下の 2 点に取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> 実習施設の特徴 実習に向けての自己の課題 病院実習では以下の内容を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 施設オリエンテーション：実習施設の概要 (病院の特徴・理念、看護部理念、構造、感染予防・安全対策、災害時の対応、看護と多職種の連携等) の説明を受ける。担当は各病院の教育担当者とする。 施設見学：様々な看護活動の場、患者を取り巻く環境として、施設内にどのような関連部門があるか、どのような職種の人々が働いているか、また構造や環境面で患者にどのような配慮や工夫がなされているのかを知る。担当は各病院の教育担当者及び臨地実習指導者とする。 病棟オリエンテーション：各実習病棟で実施する。担当は各病棟の臨地実習指導者とする。 シャドーイング実習：病棟看護師とともに行動 (シャドーイング) し、看護師の行う看護実践を見学する。担当は臨地実習指導者及び病棟看護師とする。 ①～④の活動を通して、学生は看護の対象者をとりまく療養環境について概要を把握し、看護職者の役割及び看護の機能について考察する。 学生振り返り：実習グループごとに病院実習での学びを共有する。担当は臨地実習指導者と教員とする。 実習反省会 最終日に各病棟にてメンバーの体験と自分の体験を照合し、基礎看護学実習 I における自己の体験を多面的・客観的に捉えなおし、今後の課題を見出すことを目的とする。担当は教員及び臨地実習指導者とする。 							
留意事項（履修条件等）							
<p>「看護学概論 I、II」の単位修得見込みであること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習期間、すべての出席を原則とする。 実習時間の 4/5 に満たない場合は、単位認定できない。 実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。 実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。 							

実習計画

実習期間：①平成30年8月6日(月)～10日(金)
②平成30年8月27日(月)～31日(金) * ①②のいずれか1週間

実習場所：愛媛県内10施設

実習計画

	午 前	午 後
月	施設オリエンテーション、施設見学	病棟オリエンテーション 学生振り返り
火	シャドーイング実習、受け持ち実習	受け持ち実習、学生振り返り
水	学内	学内
木	シャドーイング実習、受け持ち実習	シャドーイング実習、学生振り返り
金	受け持ち実習	実習反省会

実習時間外の学修（事前・事後学習）

1 単位につき45時間の学修時間を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。

事前学習：実習施設の特徴を調べる。実習に向けての自己の課題を明確にする。

事後学習：日々の関わりをしっかり振り返り記録に残すようにする。

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）

＜中島＞ 時間：火曜5限、木曜5限 場所：716研究室

＜坂口＞ 時間：火曜5限、水曜5限 場所：717研究室

教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）

教科書：「系統看護学講座 専門分野I 看護学概論 基礎看護学①」、医学書院、ISBN：978-4-260-02181-4
*看護学概論で購入

最終到達目標

1. 患者との関わりを通して、保健・医療の分野における看護職者の役割と機能が理解できる。
2. 看護職者に求められる基本的な態度について述べることができる。

評価方法及び評価基準

実習目標の到達度（記録・態度・カンファレンスの参加状況）：90%，実習レポート：10%で総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

看護学概論で学んだ看護の役割や看護の機能といった内容が、臨地実習につながってくると思います。多くのことを見て感じができるよう、積極的な姿勢で実習にのぞんでください。

また後期から始まる専門科目への動機付けにもなりますので、みなさんの学びがグループ間で共有できるよう多くのことを観察してきてください。

授業コード	ENR0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○					
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	○					
授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○					
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	○					
担当教員	中島紀子、坂口京子				探求心	○					
実習目的											
<p>基礎看護学実習Ⅱは、これまでの講義や演習で学んだ看護過程を構成する基本的要素に関する知識とその応用を、臨床の現場で活用しその記録を作成することで、断片的になりがちな知識と技能を統合することを目的とする。学生は医療施設において看護過程を展開する。</p> <p>具体的な目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション技法等既習の知識と技能を活用し、対象者と良好な人間関係を築くことができる。 2. ヘルスアセスメント技法等既習の知識と技能を活用し、対象者の状態を把握し必要な援助を判断する。 3. 看護過程を展開し、対象者の個別性を考慮した援助計画を立案、実施、評価する。 											
実習内容											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間は2週間とする。 2. 実習施設は病院を使用する。 3. 実習場所は成人・老年期にある入院患者を主とする病棟とする。 4. 学生は12グループ(1グループ5名)で実習する。 5. 実習方法は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を実習要項に沿って説明する。担当は実習担当教員とする。 2) 病棟実習では以下の内容を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①施設オリエンテーション：実習施設の概要(病院の特徴・理念、組織、看護部理念、構造、感染予防・安全対策、災害時の対応、看護と多職種の連携等)の説明を受ける。担当は各実習施設の教育担当者とする。 ②病棟オリエンテーション：実習グループに分かれ実習病棟で実施する。担当は各病棟の臨地実習指導者とする。 ③シャドーイング実習：病棟看護師とともに行動し、看護師の行う看護実践を見学・実施する。担当は臨地実習指導者及び病棟看護師とする。 ④看護過程の展開：1人の患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価の一連の流れを経験する。看護過程の展開における思考過程の指導は教員が実習指導者と連携して行う。 ⑤学生カンファレンス：グループごとに施設実習での学びを報告し共有する。担当は教員と臨地実習指導者とする。 3) 実習全体報告会 学内で異なる実習グループのメンバーの体験と自分の体験を照合し、自己の体験を多面的・客観的に捉えなおし自己の今後の課題を見出すことを目的とする。 											
留意事項（履修条件等）											
<p>「看護学概論Ⅰ・Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅰ」「生活援助方法論」「生活援助法演習」「診療援助方法論」「診療援助方法演習」「看護コミュニケーション論」「看護過程」の単位を修得しており、「ヘルスアセスメントⅠ」の単位修得見込みであること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間、すべての出席を原則とする。 ・実習時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。 ・実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。 ・実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。 											

実習計画					
実習期間 : ①平成 31 年 2 月 18 日(月)～3 月 1 日(金)		実習場所 : 愛媛県内 10 施設			
②平成 31 年 2 月 12 日(火)～22 日(金) * ②は 1 施設のみ					
実習計画 : 詳細は実習要項参照					
1 週 目	午前	午後			
	月 施設オリエンテーション 病棟オリエンテーション	シャドーイング実習 学生カンファレンス			
	火 看護過程の展開、看護ケアの見学	看護過程の展開、看護ケアの見学 学生カンファレンス			
	水 学内	学内			
	木 看護過程の展開、看護ケアの見学・実施	看護過程の展開、看護ケアの見学・実施 学生カンファレンス			
2 週 目	金 看護過程の展開、看護ケアの見学・実施	看護過程の展開、看護ケアの見学・実施 学生カンファレンス			
	月 看護過程展開・看護計画実施・評価・修正	看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 学生カンファレンス			
	火 看護過程展開・看護計画実施・評価・修正	看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 学生カンファレンス			
	水 学内	学内			
	木 看護過程展開・看護計画実施・評価・修正	看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 学生カンファレンス			
金 実習全体報告会		記録のまとめ			
実習時間外の学修（事前・事後学習）					
1 単位につき 45 時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。					
事前学習 : 実習施設の特徴を調べる。実習に向けての自己の課題を明確にする。					
事後学習 : 日々の関わりをしっかりと振り返り記録に残すようにする。					
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）					
<中島> 時間 : 火曜 5 限、木曜 5 限 場所 : 716 研究室					
<坂口> 時間 : 火曜 5 限、水曜 5 限 場所 : 717 研究室					
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）					
教科書 : 「系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学①」、医学書院、ISBN : 978-4-260-02181-4 * 看護学概論で購入					
「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③」、医学書院、 ISBN : 978-4-260-01579-0 * 1 年次に購入					
最終到達目標					
1. コミュニケーション技法や既習の知識と技能を活用し、対象者と良好な人間関係を築くことができる。 2. ヘルスアセスメントや既習の知識や技能を活用し、看護過程の展開の一連の流れを理解できる。 3. 対象者に応じた援助の必要性が理解できる。					
評価方法及び評価基準					
実習目標の到達度（記録・態度・カンファレンスの参加状況） : 90%、実習レポート : 10% で総合的に評価する。					
成績評価基準（学則第 34 条）					
S(100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
1 人の患者を受け持ち、看護過程を展開します。また、看護技術も実施します。これまでに学んだ知識や技術を活用できるようにしっかりと復習し、積極的な姿勢で実習にのぞんでください。					

授業コード	ENR0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	○														
科目区分	専門科目—臨地実習				広い視野と倫理観	○														
授業科目名	小児看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○														
配当学年/学期	3年/後期	単位数	2		判断力	○														
担当教員	三並めぐる 羽藤典子				探求心	○														
実習目的																				
子どもの成長・発達過程における特徴を理解し、各発達段階に応じた援助を学ぶ。また、健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもの成長・発達、健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的知識・技術・態度を修得する。																				
実習内容																				
小児看護学実習は、事前学習、実習オリエンテーション、病院実習、保育所実習、実習成果報告会で構成される。																				
<ol style="list-style-type: none"> 実習場所は、保育所および病院の小児系の病棟とする。 学生は、16グループ（1グループ約5名程度）に分かれる。 実習期間は2週間とし、保育所実習2日間、病棟実習8日間（オリエンテーションを含む）とする。 実習方法は、次のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。担当教員は、実習目的・目標、実習方法を実習要項に沿って説明する。併せて、看護技術の振り返りと各実習施設のオリエンテーションを行う。学生は、オリエンテーションに必要な事前学習を行う。 保育所実習では以下の内容を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 10歳～5歳児クラスの保育に参加する。 子どもとの関わりや観察を通し、成長発達段階を踏まえた児の特徴を知る。 子どもの基本的生活習慣の獲得やその自立の促しに必要な関わりを学ぶ。 子どもとの遊びやコミュニケーションを通して、成長発達段階に適した援助を学ぶ。 日々のカンファレンスにより情報共有を行い、学生同士のディスカッションを通して、学びを深める。 病院実習では以下の内容を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 病棟オリエンテーション：小児病棟の構造や特殊性を学ぶ。 看護過程：1名の患児を受け持ち、子どもや家族とのかかわり、疾患の状態、治療、成長発達過程などを理解し、患児の状態を的確に判断し健康レベルに応じた適切な看護（看護過程の展開）を実施・評価する。 学生カンファレンス：グループごとに実習での学びをし、共有する。担当は教員と臨地実習指導者とする。 実習成果報告会は以下の内容を行う。 学内にて、異なる実習グループのメンバーの体験を共有し、小児看護学実習における自己の学びを振り返り、今後の学習課題を見出す。 																				
実習計画																				
病院実習施設：1) 西条中央病院 2) 市立八幡浜病院 3) 愛媛県立こども療育センター 4) 市立宇和島病院 5) 愛媛大学医学部附属病院 6) なかい小児科																				
保育園実習施設：1) 松山中央乳児保育園 2) 未来保育園 3) 未来夢保育園 4) 愛隣こども園 5) 虹のそら保育園 6) こどものくに保育園 7) ひよこ保育園																				
実習計画：																				
1週目																				
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%; text-align: center;"><実習場所></th> <th style="width: 33%; text-align: center;"><午前></th> <th style="width: 33%; text-align: center;"><午後></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月 保育所</td> <td>①施設オリエンテーション</td> <td>②保育所の日課に参加 ③カンファレンス</td> </tr> <tr> <td>火 保育所</td> <td>①保育所の日課に参加</td> <td>②保育所の日課に参加 ③振り返り会</td> </tr> <tr> <td>水 大学</td> <td>①学内実習</td> <td>②学内実習</td> </tr> <tr> <td>木 病棟実習</td> <td>①病棟オリエンテーション</td> <td>②ケア見学 ③看護過程（情報収集）</td> </tr> </tbody> </table>						<実習場所>	<午前>	<午後>	月 保育所	①施設オリエンテーション	②保育所の日課に参加 ③カンファレンス	火 保育所	①保育所の日課に参加	②保育所の日課に参加 ③振り返り会	水 大学	①学内実習	②学内実習	木 病棟実習	①病棟オリエンテーション	②ケア見学 ③看護過程（情報収集）
<実習場所>	<午前>	<午後>																		
月 保育所	①施設オリエンテーション	②保育所の日課に参加 ③カンファレンス																		
火 保育所	①保育所の日課に参加	②保育所の日課に参加 ③振り返り会																		
水 大学	①学内実習	②学内実習																		
木 病棟実習	①病棟オリエンテーション	②ケア見学 ③看護過程（情報収集）																		

金 病棟実習	①ケア見学 ②看護過程（情報収集）	③看護過程（情報収集/アセスメント） ④中間カンファレンス					
2週目							
	<実習場所>	<午前>					
月 病棟実習	①看護過程（アセスメント/関連図）	②看護過程（看護計画立案）③カンファレンス					
火 病棟実習	①看護過程（看護計画/実施）	②看護過程（看護計画/実施）③カンファレンス					
水 病棟実習	①看護過程（看護計画/実施）	②看護過程（看護計画/実施）③カンファレンス					
木 病棟実習	①看護過程（実施/評価/修正）	②看護過程（実施/評価/修正）③カンファレンス					
金 大学	①個人のまとめ	②実習成果報告					
留意事項（履修条件等）							
(履修条件)							
1. 専門基礎(23 単位)のうち、疾病論1~3(4 単位)を修得し、かつ残り 19 単位のうち 15 単位を修得していること。							
2. 専門科目のうち、小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を修得見込みであること。							
3. 基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。							
・実習期間、すべての出席を原則とする。							
・実習（保育所実習、病院実習、帰学日）時間の 5 分の 4 に満たない場合は、単位認定しない。							
・実習記録物の提出が遅滞した場合は減点対象とし、未提出の場合は、単位認定しない。							
・実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。							
実習時間外の学修（事前・事後）							
1 単位につき 45 時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。							
事前学習：これまでの講義や演習で学んだ内容をしっかりと理解し、看護技術については、自主的に練習をしてから実習に臨んでください。							
事後学習：1 日の実習を振り返り、根拠を示して看護記録をまとめ、翌日の実習に活かしてください。							
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）							
場所：各研究室（三並研究室 708、羽藤研究室 709）曜日・時間：毎週水曜日 12:30~14:30							
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）							
必要に応じて資料を配布							
教科書：「小児看護技術 子どもと家族の力を引き出す技」、南江堂、ISBN: 978-4-524-25983-0							
参考書：「根拠と事故防止からみた小児看護技術」、医学書院、ISBN: 978-4-260-02500-3							
「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」、医学書院、ISBN: 978-4-260-02837-0							
最終到達目標							
1. 子どもの成長発達段階における特徴やその違いを学び、基本的生活習慣の自立を促す援助を理解できる。 2. 子どもとの良好なコミュニケーションを築くことができる。 3. 健康問題のある子どもとその家族の最良の健康状態に向けて、必要な看護を実践できる。							
評価方法及び評価基準							
題の提出状況および内容 40%、実習の参加状況および態度 40%、最終レポート 20% で総合的に評価する。							
成績評価基準（学則第 34 条） <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>			S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)							
A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)							
B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)							
C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)							
D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)							
学生へのメッセージ							
子どもの成長・発達とその援助の重要性、正確な知識と的確で根拠のある看護援助を目指してください。また、子どもとの遊びや学習、心身の健康観察、ディストラクション、プレパレーション力を発揮して、個別性のある看護実践能力を追い求め続けてください。							

授業コード	ENR0401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目—臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	母性看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	3年/後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	門脇千恵、武海栄				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
実習目的							
1. 地域の周産期医療の中核を担う病院における看護職の活動について系統的に学修する。外来での健康診査・保健指導を見学し、妊娠・産褥各期の特徴と看護ケアの実際を学ぶ。							
2. 病棟ではベッドサイドケアを通して、妊娠褥婦および早期新生児を身体的・心理的・社会的側面から理解し、母子の特性を理解した上で必要に応じた看護過程を展開する。							
3. 周産期における母子関係および家族へのサポートの重要性を理解し、援助方法の実際を学ぶ。							
4. 実習の全過程を通して、生命の尊厳と生命を守り育していくことの重要性を考え、学生自身の母性についての理解を深めることを目指す。							
実習内容							
母性看護学実習は、事前学習、実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション、看護過程展開実習、実習成果報告会で構成される。							
1. 実習施設は、病院および助産院で行う。							
2. 病院での実習場所は、産科病棟、新生児室、産科外来とする。							
3. 助産院実習は1施設で行い、見学実習とする。助産院実習は1日を当て、3グループにわかれて行う。							
4. 病院実習では、学生は16グループ(1グループ5名程度)にわかれ、2施設で実習を行う。1施設ごとに、必ず教員が実習指導につく。							
5. 学生1人当たりの実習期間は、2週間の集中実習とする。助産院実習は別に設定する。							
6. 実習方法は、次のとおりとする。							
(1) 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を実習の手引きに沿って説明する。併せて各実習施設のオリエンテーションを行う(担当は教員)。オリエンテーションが終了したら、各自学習課題をみつけ、事前学習を行う。							
(2) 病院実習では以下の内容を行う。							
① 妊産褥婦および新生児を受け持ち、母子への看護を実践する。							
② 妊産褥婦、新生児およびその家族との触れ合いを持つ。							
③ 分娩見学、新生児の観察および沐浴を体験する。							
④ 妊産褥婦の外来健康診査および母親学級等に参加し保健指導の実際を見学する。							
⑤ 学生カンファレンス: グループごとに施設実習での学びを報告し、共有する(担当は教員と臨地実習指導者)。							
(3) 助産院では健康診査・保健指導などを見学する。							
(4) 学習成果報告会は以下の内容を行う。							
学内にて異なる実習グループのメンバーの体験を共有し、母性看護学実習における自己体験を多面的・客観的に捉えなおす。また自己の今後の課題を見出すことを目的に行う(担当は母性看護学教員)。							
実習計画							
実習施設: 西条中央病院、市立宇和島病院、愛媛労災病院、まつやま助産院							
実習計画:							
1週目: <午前>							
月(病院実習) 施設オリエンテーション							
火(病棟実習) 受持ち患者情報収集							
水(病棟実習) 受持ち患者看護に参加							
木(大学) 看護過程展開							
金(病棟実習) 計画に沿って看護実践							
(病棟実習) 受持ち患者選定							
(病棟実習) アセスメント・計画立案							
(病棟実習) 受持ち患者看護に参加							
(大学) 関連図作成							
(病棟実習) 病棟中間カンファレンス							

2週目 :	〈午前〉 月 (病院実習) 計画に沿って看護実践 火 (病棟実習) 計画に沿って看護実践 水 (病棟実習) 計画に沿って看護実践 木 (大学) 実習成果報告会	〈午後〉 (病棟実習) 計画に沿って看護実践 (病棟実習) 計画に沿って看護実践 (病棟実習) 看護実践の評価・カンファレンス (大学) 評価面接
* 助産院実習は、実習施設との調整により行う。		
留意事項 (履修条件等)		
(履修条件)		
1. 専門基礎(23 単位)のうち、疾病論1~3(4 単位)を修得し、かつ残り 19 単位のうち 15 単位を修得していること。 2. 専門科目のうち、母性看護学概論、母性看護援助論 I・II の単位を修得見込みであること。 3. 基礎看護学実習 II の単位を修得していること。		
・実習期間、すべての出席を原則とする。 ・実習 (病院実習、帰学日) 時間の 4/5 に満たない場合は、単位認定はできない。 ・実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。 ・実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。		
実習時間外の学修 (事前・事後学習)		
1 単位につき 45 時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。		
事前学習 : 1. 母性看護学概論、母性看護援助論 I、母性看護学援助論 II の講義内容をまとめておくこと。 2. 事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。 3. メディア教材などをを利用して学習を深めて下さい。		
事後学習 : 1. 毎日の実習終了後、実習記録にまとめておくこと。 2. 各グループのメンバーで、相互的に学習内容を共有し、意識化し、協働学習を実践して下さい。		
オフィスアワー (常勤教員のみ記入)		
(門脇) 火曜日昼休み 場所 : 707 研究室 (武海) 火曜日 5 限 場所 : 711 研究室		
教材 (「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください)		
教科書 : 「系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学各論②」、医学書院、ISBN : 978-4-260-02179-1 参考書 : 「母性看護技術 [第 2 版 看護実践のための根拠がわかる]」、メディカルフレンド社、 ISBN : 978-4-8392-1594-1		
最終到達目標		
1. 受け持ち対象者の個別性をふまえた看護活動を実践できる。 2. 妊産褥婦及び新生児看護に対する看護観を洞察できる。		
評価方法及び評価基準		
実習内容・態度・目標達成度 60%、実習記録・レポート 30%、各種カンファレンスへの参加状況 10% で、総合的に評価する。		
成績評価基準 (学則第 34 条)		
S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)		
学生へのメッセージ		
・事前学習が非常に大切なことで、しっかりまとめておいて下さい。 ・体調管理をしっかりしておいて下さい。		

授業コード	ENR0501			め る 養 成 す る 能 力 デ イ ペ ロ マ ポ リ シ ー に 定	豊かな人間性	○	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	○	
授業科目名	精神看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○	
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	井上仁美、別宮直子				探求心	○	
実習目的	<p>精神障がいをもつ人に対して援助的に人間関係を発展させながら、セルフケア能力に焦点を当てた看護過程を展開し支援する方法について学ぶことを目的とする。また、精神障がいをもつ人やその家族に対する療養生活の支援方法とリハビリテーション活動の実際を知り、多職種間の協働関係における看護者の役割・機能について学ぶことを目的とする。</p>						
実習内容	<p>精神科病院で一人の患者を受け持ち、セルフケアに焦点を当てた看護過程の展開を行い、生活者としての理解を深めながら、その人が望む生活や生き方が実現できるような支援を考え実践する。また、プロセスレコードを用いて援助的人間関係の技法を習得する。地域で生活している精神障がいをもつ人とディケアやグループホームなどでのコミュニケーションをとおして、地域で生活することの重要性およびその方法について学ぶ。</p>						
実習計画	<p>精神看護学臨地実習要項を参照すること</p>						
留意事項（履修条件）	<p>（履修条件）</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門基礎(23単位)のうち、疾病論1～3(4単位)を修得し、かつ残り19単位のうち15単位を修得していること。 専門科目のうち、精神保健看護学概論、精神看護援助方法論Ⅰ・Ⅱの単位を修得見込みであること。 基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。 <p>受け持ち患者についての看護過程の展開については実習要項のとおりに提出期限が定められており、そのつど個別のフィードバックを行います。実習時間内に十分なレベルに達していないと判断された場合は、時間外にも個別のフィードバックを行います。</p> <p>出席が実習時間の4/5に満たない場合は、単位を認定できません。</p>						
実習時間外の学修（事前・事後学習）	<p>1単位につき45時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。</p> <p>事前学習：精神保健看護学概論、精神看護援助方法論Ⅰ・Ⅱおよび疾病論の精神科疾患に関することと向精神薬については全般的な復習が必要です。</p> <p>事前学習として下記について調べ、手書きで書いて提出すること（プリントアウトしたものへの貼り付け、ワープロ入力のものは不可）。提出日時については別途指示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 精神保健福祉法における主な入院形態、精神保健指定医について 患者・看護師関係の発展段階 コミュニケーションの手法について（傾聴・受容・共感・沈黙・距離感など） 統合失調症、単極性障害、双極性障害、アルコール依存症の各疾患についての症状と治療および看護、対応方法について 向精神病薬・抗精神病薬の作用、副作用 入院患者の行動制限、身体拘束、隔離について <p>事後学習：受け持ち患者の理解については毎日復習が必要です。上記の事前学習に追加して個別具体的な学習をしていきます。臨地実習の場においてそのつど指示します。</p>						

オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
別途、提示します。
教材
教科書
「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」（第5版）、医学書院、 ISBN : 978-4-260-02773-1（精神保健看護学概論で使用）
「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開」（第5版）、医学書院、 ISBN : 978-4-260-02774-8（精神看護援助論Ⅰで使用）
参考書
「薬がみえる Vol.1 神経系の疾患と薬 循環器系の疾患と薬 腎・泌尿器系の疾患と薬」、 メディックメディア、ISBN : 978-4-89632-549-2
最終到達目標
1. 精神障がいをもつ人を全人的に理解することができる。 2. 援助的に人間関係を発展させる方法を学ぶ。 3. セルフケア能力に焦点を当てたアセスメントを行い、看護過程を展開する。 4. 精神障がいをもつ人やその家族に対する療養生活の支援方法、リハビリテーション活動の実際を知り、多職種間の協働関係における看護者の役割・機能について自分の考えを述べることができる。
評価方法および評価基準
実習目標の達成度（実習要項に示す実習評価表を参照）40%、実習記録30%、実習態度10%、事前課題提出10%、最終レポート10%で、総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
本科目では実際に病院に出向いて、1名の患者をうけもち展開します。積極的かつ真摯に臨地実習に臨むことが大切です。

授業コード	ENR0601			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input type="radio"/>	
科目区分	専門科目—臨地実習				広い視野と倫理観	<input type="radio"/>	
授業科目名	急性期看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	3年/後期	単位数	3		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	大坪かなえ, 上西孝明				探求心	<input type="radio"/>	
実習目的	急性期にある患者及び家族を理解し、健康回復・維持に向け、患者の状態の変化に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を養う。						
実習内容	これまでの「成人看護学概論」「ヘルスアセスメントⅠ」「看護過程」「急性期看護援助論Ⅰ」「急性期看護援助論Ⅱ」の学びに基づき、成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者の健康問題を理解し、対象者及びその家族に対して専門的援助を実施するための看護実践能力を育成する。また手術室や集中治療室・救急外来の見学を通して、急性期医療における看護の役割と機能を学修する。						
実習計画	<ul style="list-style-type: none"> 別途実習要項を参照。実習前に学内オリエンテーションを行う。 原則として一人の担当患者を受け持ち、看護過程を展開しながら看護援助に当たる。看護過程演習の内容をよく復習しておく。 						
留意事項（履修条件等）	<p>(履修条件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門基礎(23単位)のうち、疾病論1~3(4単位)を修得し、かつ残り19単位のうち15単位を修得していること。 専門科目のうち、成人看護学概論、急性期看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を修得見込みであること。 基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。 <ul style="list-style-type: none"> 出席が実習時間の4/5に満たない場合は、単位を認定できません。 実習のフィードバックはその都度時間内に行います。全体のフィードバックについては実習時間内に行いますが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定します。 						
実習時間外の学修（事前・事後学習）	<p>1単位につき45時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。</p> <p>事前学習：解剖生理、病態学、急性期看護、周手術期看護をはじめ、今までに学んできた知識や看護技術を理解して、主体的に準備学習を進めること。また、看護過程演習の内容をよく復習しておく。</p> <p>事後学習：実習で学習した疾病や、解剖生理等に関するふりかえりを行うこと。</p>						
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）	月曜日の5限、火曜日の5限 718研究室						
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）	成人看護学概論、急性期看護援助論Ⅰ、急性期看護援助論Ⅱで使用したテキスト、参考書等						
最終到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期にある患者の発達課題・健康障害の種類・健康の段階を捉え、病態・治療・症状が、患者の生活や心理状態に及ぼす影響について理解することができる。 患者に必要な看護計画を立案でき、患者の状態に適した観察及び援助が行える。 						

評価方法及び評価基準

①実習内容・態度・目標達成度 60% ②実習記録・レポート 30% ③各種カンファレンスへの参加状況 10%
以上①～③を実習評価基準に沿って総合的に評価する。

成績評価基準（学則第34条）

- S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

- ・実習事前レポート・課題があります。(実習前に掲示板にて連絡)
- ・実習前に技術演習の自主学習時間を設けます。積極的に参加して下さい。

授業コード	ENR0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	慢性期看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	3年/後期	単位数	3		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	大西ゆかり、村上早苗、山本千恵美				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
実習目的												
1.	慢性疾患をもつ人を受け持ち、身体的・心理・社会的側面から対象を総合的に理解し、慢性疾患とともに生活することの理解を深める。											
2.	対象理解をふまえた看護実践を通して、慢性疾患をもつ人への看護の役割を考察する。											
実習内容												
1.	入院中の慢性疾患をもつ人を受け持ち、実習目標に沿って患者の理解を深め、看護過程を展開する。											
2.	病棟で行われている検査・処置・治療の見学を通して、慢性疾患をもつ人への看護の必要性や役割を学ぶ。											
3.	臨床実習指導者、スタッフへの報告・相談、病棟カンファレンスを通して患者理解を深め、患者への看護を検討する。											
4.	学内カンファレンスを通して、慢性期看護実習を振り返り、慢性疾患をもつ人への看護の役割を考察する。											
実習計画												
週	曜日	実習計画										
第1週目	月	実習オリエンテーション、受け持ち患者の自己学習										
	火	病棟オリエンテーション、受け持ち患者の情報収集・アセスメント										
	水	学内日										
	木	受け持ち患者の情報収集・アセスメント										
	金	病棟カンファレンス（患者像・看護上の問題点の発表）										
第2週目	月	受け持ち患者への看護実践										
	火	受け持ち患者への看護実践										
	水	学内日										
	木	受け持ち患者への看護実践										
	金	受け持ち患者への看護実践										
第3週目	月	受け持ち患者への看護実践										
	火	受け持ち患者への看護実践										
	水	学内日										
	木	病棟カンファレンス（病棟実習のまとめ）、評価面接										
	金	午前：学内カンファレンスの準備、午後：学内カンファレンス										
留意事項（履修条件等）												
(履修条件)												
1.	専門基礎(23単位)のうち、疾病論1～3(4単位)を修得し、かつ残り19単位のうち15単位を修得していること。											
2.	専門科目のうち、成人看護学概論、慢性期看護援助方法論Ⅰ・Ⅱの単位を修得見込みであること。											
3.	基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。											
・	出席日数が所定の実習時間の5分の4に満たない場合は、単位認定を受けることができないので、体調管理に気を付けること。											
・	実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。											

実習時間外の学修（事前・事後学習）
1単位につき45時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。
・事前学習：受け持ち患者さんの疾患や治療、看護についてまとめておくこと。 実習病棟で実施されている検査や処置についてまとめておくこと。
・事後学習：実習日誌をはじめ実習記録は、その日のうちに振り返りをして記入すること。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
時間：木曜日の5限
場所：研究室719（大西）
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）
教科書：指定しない
最終到達目標
・受け持ち患者への理解を深め、患者像を説明できる。 ・受け持ち患者への看護過程を展開できる。 ・慢性疾患をもつ人への看護の役割を説明できる。
評価方法及び評価基準
実習目標の到達度・実習記録・実習態度（70%）、学内カンファレンス（10%）、事前課題・実習レポート（20%）の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89~80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass） D(59点以下)：Cのレベルに達していない（Failure）</p>
学生へのメッセージ
・実習における“ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）”を心がけましょう。 ・リーダーシップ、メンバーシップを発揮して、学びの多い実習にしましょう。 ・実習日誌をはじめ実習記録は、期日に間に合うように担当教員に提出すること。

授業コード	ENR0801			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性						
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>					
授業科目名	在宅高齢者看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>					
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力						
担当教員	奥田泰子、棚崎由紀子、眞鍋瑞穂				探求心	<input checked="" type="radio"/>					
実習目的											
高齢者の発達課題・健康に関する概念を踏まえ、加齢による心身機能の低下が高齢者の生活に及ぼす影響について実例から課題を見出し探求する。また、高齢者の施設・在宅など居住環境によるケアの今後の課題を探求する。											
実習内容											
1. 在宅高齢者の支援に必要な各種社会資源や看護活動の場の実際を体験し、高齢者援助の必要性を理解する。 2. 加齢や疾病・障害によって損なわれた諸機能を補完する機器・物品の使用体験を通して、高齢者の自立支援への知識を深める。 3. 介護家族の介護負担軽減を目的とした各種介護・福祉用具の使用方法と留意点を知る。											
実習計画											
高齢者総合福祉施設、在宅生活を支援する高齢者施設、福祉器具製造メーカー、介護保険対応福祉用具の貸与やレンタルについての見学実習を行う。											
※詳細は実習要項参照											
留意事項（履修条件等）											
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の履修には、看護学概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護学概論の単位修得見込みであることが条件となる。 ・履修に当たっては、学外での見学実習になるので、看護学生としての姿勢が求められる。 ・出席が実習時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。 ・実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。 											
実習時間外の学修（事前・事後学習）											
1単位につき45時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。											
事前学習： 加齢に伴う心身の変化を学習し、生活への影響を理解したうえで自立生活支援に向けた援助方法を考える。 介護保険制度の利用方法や各種介護保険サービスの基本を理解し、見学実習に備える。											
事後学習： 見学実習により学んだ内容をもとに、在宅で生活する高齢者の生活上の課題を明確にし、今後の高齢者看護の在り方を創造的に考える。											
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）											
高齢者看護学領域の教員3名は、(火)曜日の12:00～14:00に各自の研究室で待機しています。 (奥田：702研究室 棚崎：712研究室 眞鍋：共同研究室)											
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）											
教科書の指定はない。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。											
最終到達目標											
1. 在宅で生活する援助の必要な高齢者の生活課題が理解できる。 2. 在宅での高齢者及び介護家族を支援するための内容や方法について創造的に考察できる。											

評価方法及び評価基準

事前学習課題 30%、実習記録 30%、実習への参加度 20%、課題レポート 20%を総合して評価します。

成績評価基準（学則第 34 条）

S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(59 点以下) : C のレベルに達していない (Failure)

学生へのメッセージ

見学実習により、施設で働く人々や、施設・福祉機器を利用する高齢者に直接接する機会があります。身だしなみや言動に注意し、看護学生としての自覚を持って見学実習に臨んでください。特に、高齢者への倫理的配慮を忘れないようにしてください。

また、見学に当たっては、積極的な学修姿勢を期待する。見学実習をするときには、皆さんの事前学習がどこまでできているかで学びが異なります。貴重な機会ですのでしっかりと事前学習をし、実習中は貪欲に質問して学習してください。

授業コード	ENR0901			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	高齢者看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	3年/後期	単位数	3		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	奥田泰子、棚崎由紀子、眞鍋瑞穂				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
実習目的	<p>老年期の特徴を理解した上で、介護老人保健施設（その他の高齢者施設を含む）で生活を送っている入所者の特性に応じた統合的なアセスメント、看護援助の計画・実施・評価の過程を学ぶ。また、高齢社会における保健・医療・福祉状況に対応した多職種との連携のあり方と看護活動、その役割について考察する。</p>						
実習内容	<p>介護老人保健施設や医療機関（療養型病床・回復期リハビリテーションなど）、認知症高齢者共同生活介護（グループホーム）において支援を必要とする高齢者を受け持ち、高齢期を生きる人々とその家族を理解するとともに対象者のニーズや生活に必要な看護支援をアセスメントし、高齢者のQOLを高める看護実践能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3週間の実習の中で、2週間は介護老人保健施設又は病院での実習を行う。 そこでは、治療の継続あるいは治療終了後および在宅生活へ復帰するためのリハビリテーションの場の機能と役割を理解するとともに、在宅復帰支援とその課題を明らかにする。また、長期にわたり生活する場において必要な看護支援やアクティビティケア、さらに、他職種と協働して提供される支援や社会資源の活用について学ぶ。 1週間は認知症高齢者共同生活介護（グループホーム）での実習を行い、認知症高齢者への支援について実践的に理解する。 以上の実習を通して、高齢者が尊厳をもって最期まで生活できる看護支援活動と老年看護の役割について考察を深める。 						
実習計画	具体的な内容は実習要項参照						
留意事項（履修条件等）	<p>(履修条件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門基礎(23単位)のうち、疾病論1～3(4単位)を修得し、かつ残り19単位のうち15単位を修得していること。 専門科目のうち、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を修得見込みであること。 基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。 <ul style="list-style-type: none"> 出席が実習時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。 実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定する。 						
実習時間外の学修（事前・事後学習）	<p>1単位につき45時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。</p> <p>事前学習： 実習オリエンテーションで示された事前課題を指定された日までに提出し、実習への学習面及び態度面での準備を整えてください。なお、実習オリエンテーションを欠席した場合や事前課題の未提出者は、高齢者看護学実習の履修ができなくなることがあるので十分に注意してください。 また、実習中は、指定された記録物を指定された日に提出できるように事前に準備してください。</p> <p>事後学習： 実習中は、毎日の各自の実施したことへの振り返りが必須になります。実施した看護を振り返り、考察して次の看護につなげましょう。その他は、実習要項を確認しましょう。</p>						

オフィスアワー（常勤教員のみ記入） 高齢者看護学領域教員 3名は、隔週金曜日の 12:00～14:00、各自の研究室で待機しています。 (奥田：702 研究室 棚崎：712 研究室 真鍋：共同研究室)
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書： 指定しない
参考書： 授業で使用した関連する教科書を参考にしてください。（高齢者看護学で使用した教科書のほか、解剖生理学、疾病論、看護学概論、援助方法論など） 授業で配布した資料も参考にしてください。
最終到達目標 受け持ち高齢者の個別性をふまえた看護活動を実践できる。そのうえで、高齢者看護に対する看護観を考察できる。
評価方法及び評価基準 評価は、実習への取り組み姿勢 20%や記録物 30%、事前課題 30%、最終レポート等 20%を総合して評価する。詳細は実習要項を参照のこと 評価基準は下表に従う。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ 健康問題がある高齢者とのかかわりを通した学習です。皆さんの健康状態が非常に影響しますので、日頃より健康には留意し、特に感染症への罹患に注意しましょう。 実習中は、高齢者への看護実践が安全に実施できるように十分な睡眠と栄養に気を付けましょう。

授業コード	ENR1001			定める養成する能力 デイブロマボリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
科目区分	専門科目—臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>						
授業科目名	在宅看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>						
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>						
担当教員	田中正子、村岡由佳里				探求心	<input checked="" type="radio"/>						
実習目的												
在宅生活をしている療養者およびその家族を統合的に理解し、療養者及びその家族が望んでいる生活や生き方等、自立支援に向けた在宅ケアシステムの概要を学ぶとともに在宅看護に必要な基礎的能力を養う。												
実習内容												
地域における在宅看護が果たす役割と機能や在宅で療養生活を送る療養者及び家族への看護活動及び関連機関・多職種との連携等について、訪問看護師と同伴し実際の訪問看護活動を学ぶ。そして在宅療養者とその家族、及び実習施設関係者等と良好な関わりをすると共に、アドバイスを得ながら受け持ち療養者の看護計画を立案し、実施・評価をする。												
実習計画												
回	午前	午後										
1	学内オリエンテーション	演習（在宅におけるフィジカルアセスメント等）										
2	施設内オリエンテーション	訪問実習（情報収集等） 受け持ち療養者の決定、記録の整理、カンファレンス等										
3	訪問実習（情報収集等）	訪問実習（情報収集等） 記録の整理、カンファレンス等										
4	訪問実習（情報収集等）	訪問実習（情報収集等） 記録の整理、カンファレンス等										
5	訪問実習（情報収集等）	訪問実習（情報収集等） 記録の整理、中間カンファレンス等										
6	学内実習（各グループの施設紹介等）	受け持ち療養者の看護計画立案及び修正										
7	訪問実習（情報収集等）	訪問実習（情報収集等） 看護計画について施設側の意見を聞き修正する カンファレンス等										
8	訪問実習（情報収集等）	訪問実習（情報収集等） 看護計画の実施、評価、カンファレンス等										
9	訪問実習（情報収集等）	訪問実習（情報収集等） 看護計画の実施、評価、最終カンファレンス等										
10	学内実習（各グループの実習について発表）											
留意事項（履修条件）												
1. 本科目の履修条件は、在宅看護学概論、在宅看護援助論Ⅰ、在宅看護援助論Ⅱ、終末期看護学の単位が修得見込みであること。 2. 専門基礎(23単位)のうち、疾病論1～3(4単位)を修得し、かつ残り19単位のうち15単位を修得していること。 3. 基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。 4. 実習時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。 5. 実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。 6. 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについて は講義時間内に行う。個別のフィードバックは時間外に設定する。												

授業時間外の学修（事前・事後学習）						
1単位につき45時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。 事前学習：訪問看護時に必要な事例、実習予定の事例について病態を含め把握しておくこと（実習前に提示）。 事後学習：日々の訪問事例について、その日のうちにまとめて振り返り記録しておくこと。						
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）						
田中：火・木5限目、713研究室 村岡：火・木4限目～5限目、共同研究室						
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）						
教科書：「在宅看護論 第4版第4刷」、医学書院、ISBN：978-4-260-01586-8 参考書：「在宅看護実習ガイド（パーフェクト臨床実習ガイド）」、照林社、ISBN：978-4-796-52232-8						
最終到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における在宅看護が果たす役割と機能について理解できる。 2. 在宅で療養生活を送る療養者及び家族への看護活動について理解できる。 3. 関連機関及び多職種との連携について理解できる。 4. 在宅療養者とその家族、及び実習施設関係者等と良好な関わりができる。 5. 受け持ち療養者の看護計画を立案し、実施・評価をすることができる。 						
評価方法及び評価基準						
事前学習課題30%、実習記録30%、実習への参加度20%、課題レポート20%を総合的に評価する。 評価基準は下表に従う。						
<table border="1"> <tr> <td>成績評価基準（学則第34条）</td> </tr> <tr> <td>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）</td> </tr> <tr> <td>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）</td> </tr> <tr> <td>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）</td> </tr> <tr> <td>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下)：学習目標の最低限を満たしていない（Failure）</td> </tr> </table>	成績評価基準（学則第34条）	S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）	A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）	B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）	C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）	D(59点以下)：学習目標の最低限を満たしていない（Failure）
成績評価基準（学則第34条）						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）						
A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）						
B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）						
C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）						
D(59点以下)：学習目標の最低限を満たしていない（Failure）						
学生へのメッセージ						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各領域で学んだ知識・技術が在宅でどのように継続・実施に結びついているか、統合して考えながら積極的に学び、生活に寄り添うことを実感してください。 2. 看護学生として、身だしなみや言葉使いなど良識ある言動がとれるようにしましょう。 						

授業コード	ENR1101			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>																														
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>																														
授業科目名	公衆衛生看護学実習 I	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>																														
配当学年/学期	4年/前期	単位数	3		判断力	<input checked="" type="radio"/>																														
担当教員	宮崎博子, 藤本千里, 日川幸江				探求心	<input checked="" type="radio"/>																														
実習目的	<p>1. 地域で生活している人々の健康水準の向上と、QOL の向上を目指す公衆衛生看護活動の実際を理解する。</p> <p>2. 人々の健康問題を分析し、その問題解決のために個人と家族及び地域を対象として、ヘルスプロモーションの理念に基づいた保健師活動ができる基礎能力を養う。</p>																																			
実習内容	<p>【目標】 地域の人々の健康や QOL の向上を目指すために、地域の人々の健康課題を明確にし、解決策を考え地域に働きかける実践技術を修得する。</p> <p>1. 保健所及び市町村を 1 つの単位として、地域診断に必要な情報を集約し、地域の健康問題に関するアセスメントを行う。</p> <p>2. 健康教育の企画・立案・実施をするとともに評価を行う。</p> <p>3. 特定の健康課題の解決に向けて、家庭訪問・健康相談・健康教育・健康診断・保健指導・地区組織育成のための保健活動の PDCA サイクルに参加するとともに、地域住民と協働する活動に参画する。</p> <p>地域の健康問題解決のためのネットワーク及びシステムについて理解し、チームの一員として役割が果たせる能力を養う。</p>																																			
実習計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td>保健所概要説明</td></tr> <tr><td>2</td><td>保健所管内地区踏査 (1)</td></tr> <tr><td>3</td><td>保健所管内地区踏査 (2)</td></tr> <tr><td>4</td><td>保健所管内地区踏査 (3)</td></tr> <tr><td>5</td><td>市町村概要説明</td></tr> <tr><td>6</td><td>保健事業見学・体験 (1)</td></tr> <tr><td>7</td><td>保健事業見学・体験 (2)</td></tr> <tr><td>8</td><td>保健事業見学・体験 (3)</td></tr> <tr><td>9</td><td>健康教室対象者把握・計画書作成</td></tr> <tr><td>10</td><td>保健事業見学・体験</td></tr> <tr><td>11</td><td>健康教室実施</td></tr> <tr><td>12</td><td>健康教室反省及び評価</td></tr> <tr><td>13</td><td>大学帰校日</td></tr> <tr><td>14</td><td>公衆衛生看護学実習のまとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td>公衆衛生看護学実習記録</td></tr> </table>						1	保健所概要説明	2	保健所管内地区踏査 (1)	3	保健所管内地区踏査 (2)	4	保健所管内地区踏査 (3)	5	市町村概要説明	6	保健事業見学・体験 (1)	7	保健事業見学・体験 (2)	8	保健事業見学・体験 (3)	9	健康教室対象者把握・計画書作成	10	保健事業見学・体験	11	健康教室実施	12	健康教室反省及び評価	13	大学帰校日	14	公衆衛生看護学実習のまとめ	15	公衆衛生看護学実習記録
1	保健所概要説明																																			
2	保健所管内地区踏査 (1)																																			
3	保健所管内地区踏査 (2)																																			
4	保健所管内地区踏査 (3)																																			
5	市町村概要説明																																			
6	保健事業見学・体験 (1)																																			
7	保健事業見学・体験 (2)																																			
8	保健事業見学・体験 (3)																																			
9	健康教室対象者把握・計画書作成																																			
10	保健事業見学・体験																																			
11	健康教室実施																																			
12	健康教室反省及び評価																																			
13	大学帰校日																																			
14	公衆衛生看護学実習のまとめ																																			
15	公衆衛生看護学実習記録																																			
留意事項（履修条件等）	<p>(履修条件)</p> <p>1. 専門基礎科目および専門科目のうち、必修科目のすべての単位を修得見込みであること。</p> <p>2. 保健師関連科目のうち、公衆衛生看護援助論 I・II・III・IV の単位を修得見込みであること。</p>																																			
実習のフィードバック	<p>実習のフィードバックはその都度時間内に行います。全体のフィードバックについては実習時間内に行いますが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定します。</p>																																			
実習時間外の学修（事前・事後学習）	<p>1 単位につき 45 時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。</p> <p>事前学習：実習施設の組織・機能等について学修する。実習施設で取り組まれている公衆衛生活動について学修する。市町の社会資源の現状や健康指標などから地域診断を行う。実習期間の保健事業法的根拠及</p>																																			

<p>びその活動目的・内容について学修する。</p> <p>事後学習：実習期間を通して得られた情報・体験から地域診断を完成させる。家庭訪問や健康相談、健康教育など実習体験を通して学んだこと、気づいたこと、実習の学びの考察をまとめる。</p>
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
月曜から水曜の昼休憩、藤本 706 研究室 日川 715 研究室
教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）
教科書：公衆衛生看護援助論 I・II・III・IVで使用したものを再学修する。
最終到達目標
保健所及び市町村の役割、機能を理解することができる。また地域で生活する人々の健康ニーズに対して、公衆衛生看護の役割について考える事ができる。地域診断で地域の状況をとらえることができる。
評価方法及び評価基準
実習目標の到達度・実習記録・実習態度(70%)、事前課題・カンファレンス(30%)の総合得点を 100 点満点とし、総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第 34 条）</p> <p>S(100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60 点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(59 点以下)：C のレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
実習施設の保健所や市町で取り組まれている公衆衛生活動について学習し、法的根拠や仕組み、実際の活動から、行政における人々への健康づくり活動の実際について、保健師活動を通して具体的に学びましょう。本学の学生としての自覚を持ち、後輩の目標となる、社会人としてのマナーを考えて臨むこと。

授業コード	ENR1201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ	選択・必修	選択		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4年/後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	宮崎博子, 藤本千里, 日川幸江				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
実習目的							
1.	地域で生活している人々の健康水準の向上と QOL の向上を目指す公衆衛生看護活動の実際を理解する。						
2.	人々の健康問題を分析し、その問題解決のために個人と家族及び地域を対象としてヘルスプロモーションの理念に基づいた保健師活動ができる基礎能力を養う。						
実習内容							
【目標】	公衆衛生看護活動を展開することで、地域で生活している個人・家族の生活背景、家族関係、社会的立場を含めてそれらの人々を理解し、支援するための基本的知識・技術を修得することができる。さらに地域住民の健康水準を理解する実践技術が修得できる。						
1.	母子、成人、高齢者等を対象として、2事例以上の家庭訪問を行うことができる。						
2.	母子、成人、高齢者等を対象とした健康相談を行うことができる。						
3.	地域の健康づくり活動を理解し、必要性を考える事ができる。						
4.	地域の健康問題解決のためのネットワーク及びシステムについて理解し、チームの一員として役割が果たせる能力を養う。						
5.	産業保健分野と学校保健分野における公衆衛生看護活動を理解し、考える事ができる。						
実習計画及び学習課題							
1	家庭訪問対象者の情報収集						
2	家庭訪問実施						
3	家庭訪問記録						
4	家庭訪問中間カンファレンス						
5	家庭訪問の学習まとめ						
6	家庭訪問の学習 グループまとめ						
7	産業保健の概要						
8	産業保健見学・体験						
9	産業保健のまとめ						
10	学校保健見学・体験						
11	学校保健のまとめ						
12	継続訪問の実施						
13	継続訪問のまとめ						
14	健康づくり活動の概要						
15	公衆衛生看護学実習記録						
留意事項 (履修条件等)							
(履修条件)							
1.	専門基礎科目および専門科目のうち、必修科目のすべての単位を修得見込みであること。						
2.	保健師関連科目のうち、公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、公衆衛生看護学実習Ⅰの単位を修得見込みであること。						
実習のフィードバックはその都度時間内に行います。全体のフィードバックについては実習時間内に行いますが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定します。							

実習時間外の学修（事前・事後学習）
1単位につき45時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。
事前学習：実習する学校の規模・沿革等について学修する。関連法律、制度について学修する。実習する企業の特性を理解し、産業保健の役割・機能を学修する。
事後学習：実習期間を通して得られた実習成果、体験したこと等から、実習の学びの考察をまとめる。
個々の学習だけではなくグループでの活動になるため、各課題に対してそれぞれが実践的に学習すること。
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）
月曜から水曜の昼休憩、藤本706研究室　日川715研究室
教材（「題名」、出版社名、ISBN番号を記入してください）
教科書：公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで使用したもので再学修する。
最終到達目標
保健所及び市町村の役割・機能を理解し、地域診断で地域の状況をとらえ、地域で生活する人々の健康ニーズに対して、公衆衛生看護の役割について考える事ができる。産業保健分野・学校保健分野における保健活動の役割を理解することができる。
評価方法及び評価基準
実習目標の到達度・実習記録・実習態度(70%)、事前課題・カンファレンス(30%)の総合得点を100点満点とし、総合的に評価する。
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <p>S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(59点以下)：Cのレベルに達していない (Failure)</p>
学生へのメッセージ
実習施設の各分野で実践の公衆衛生活動について学修し、産業保健や学校保健の分野における法的根拠や仕組み、実際の活動から健康づくり活動の実際を具体的に学ぶ。
本学の学生としての自覚を持ち、後輩の目標となる、社会人としてのマナーを考えて臨むこと。

授業コード	ENR1301			定める養成する能力 デイプロマポリシーに	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野と倫理観	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	統合実習	選択・必修	必修		知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	専任教員全員				探求心	<input checked="" type="radio"/>	
講義目的	<p>既習の知識と技術を統合し、専門職業人としての自覚と倫理観に基づく看護の対象者への看護実践能力を修得することを目的とする。複数の看護の対象者に対し、限られた時間内で、実習病棟のケアプランに則って、必要なケアを判断し提供することや、保険医療福祉チームの中で、安全かつ効率的に看護実践を提供していくための役割遂行、看護管理、他職種との連携・協働について理解する。これらを通して、専門職業人として必要な態度や課題を明確にする。</p>						
実習内容	<p>統合実習は、事前学習、実習オリエンテーション、施設実習、実習成果報告会で構成される。</p> <p>学生個々の課題に基づいて実習計画を立てて実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 実習施設は、病院や福祉施設等とする。 学生を、1グループ5名程度に分け、各機関や施設での実習を行う。 学生1名あたりの実習期間は2週間とする。 実習方法の詳細については、統合実習ガイドブック参照とする。 						
実習計画及び学習課題	<p>実習予定施設（原則として下記施設の中から選択する）</p> <p>1) おおぞら病院、 2) 済生会松山病院、 3) 南松山病院、 4) 松山記念病院 5) 福角病院 6) 道後温泉病院 7) 西条中央病院 8) 市立宇和島病院 9) ベテル病院 10) たんぽぽのおうち</p>						
実習計画	<p>統合実習ガイドブック参照</p>						
留意事項（履修条件等）	<ul style="list-style-type: none"> 本実習を受講するには、各論領域実習全17単位のうち、14単位以上修得見込みであることが条件となる。 実習オリエンテーションに欠席した場合、実習ができない可能性がある。実施日時に十分に注意をすること。 実習期間、すべての出席を原則とする。 実習（病院実習、帰学日）時間の5分の4に満たない場合は、単位認定しない。 実習のフィードバックはその都度時間内に行う。全体のフィードバックについては実習時間内に行うが、個別のフィードバックは実習時間内および時間外に設定します。 						
実習時間外の学修（事前・事後学習）	<p>1単位につき45時間の学習を要する。実習に必要な事前・事後学習を行うこと。</p> <p>事前学習：</p> <p>実習までに、自己の課題を明確にして実習施設（看護領域）を選択する。実習までの期間に実習計画を立案し、各看護領域から出された課題を実習までに提出する。</p> <p>事後学習：</p> <p>実習中は毎日の振り返りを通して実習計画を修正し、次の実習に臨むこと。</p>						
オフィスアワー（常勤教員のみ記入）	<p>各グループ担当教員のオフィスアワー（（時間と場所）に従ってください。</p>						

教材（「題名」、出版社名、ISBN 番号を記入してください）					
教科書：なし					
参考書：今までに使用した教科書や参考書、及び自分のノートなどを参考にしてください。 実習期間を通して、指導教員から指示があります。					
最終到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職としての責任を自覚し、倫理的態度がとれる。 2. 主体的、能動的、問題解決的な学習を実践し、看護実践能力が発揮できる。 3. チーム医療におけるマネジメントの視点から、組織、機能、安全などのあり方を考えることができる。 4. 看護チームおよび他職種との協働の中で、メンバーシップおよびリーダーシップが発揮できる。 5. 専門職業人としての責任を自覚し、自己研鑽に努めることができる。 					
評価方法及び評価基準					
授業や実習への参加度 20%、事前課題提出 20%、実習記録類 20%、課題達成度 20%、最終レポート 20%を総合して評価する。 評価基準は下表に従う。					
<p>成績評価基準（学則第34条）</p> <table border="0"> <tr> <td>S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</td> </tr> <tr> <td>A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</td> </tr> <tr> <td>B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</td> </tr> <tr> <td>C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</td> </tr> <tr> <td>D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)</td> </tr> </table>	S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)	B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)	C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)	D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)					
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D(59点以下) : Cのレベルに達していない (Failure)					
学生へのメッセージ					
統合実習は、4年間の実習の総まとめです。これから臨床現場に出ていく皆さんにとっては、学生として学んだ看護学実習とは異なり、看護専門職者として臨床で働く看護師とともに患者あるいは入所者の人々に看護を提供するようになります。方法を学ぶのではなく、看護の基本を大切にしながら実際の看護提供ができるよう責任のある行動が求められます。					

